

京都大学 大学案内

Kyoto University
Guide Book



知と自由への誘い

Invitation to wisdom
and freedom

2011

INDEX

- 1 総長メッセージ
- 2 対談「京都大学で学ぶ」

京都大学の教育

- 6 京都大学の教育システム
- 8 京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」
- 11 活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して
- 12 ポケット・ゼミ

教育を支える施設

- 18 学術情報メディアセンター
- 20 図書館

さらなる飛躍を支援

- 22 国際交流
- 24 大学院進学
- 27 就職支援
- 30 ベンチャー起業

学生生活サポート

- 32 学生生活を支援する制度や施設
- 38 クラブ・サークル活動

学部紹介

- 42 総合人間学部
- 46 文学部
- 50 教育学部
- 54 法学部
- 58 経済学部
- 62 理学部
- 66 医学部
- 72 薬学部
- 76 工学部
- 80 農学部
- 84 教員の研究テーマ紹介
- 102 Voices

資料請求・お問い合わせ

- 104 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法
- 106 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学について

- 111 京都大学のすがた
- 112 キャンパスマップ・交通案内

京都大学の基本理念（抜粋）

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多面的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

（平成 13 年 12 月 4 日制定）

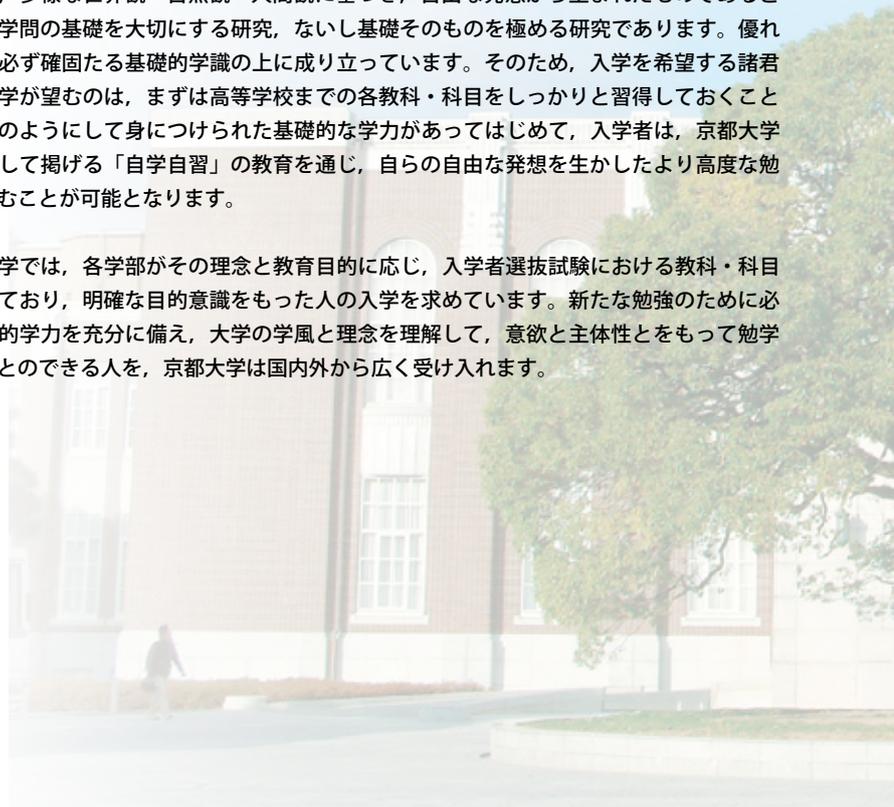
京都大学アドミッション・ポリシー

京都大学は、古都の文化を育んできた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から 1 世紀以上を経た 21 世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教養を育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探索し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切に研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。そのため、入学を希望する諸君に京都大学が望むのは、まずは高等学校までの各教科・科目をしっかりと習得しておくことです。そのようにして身につけられた基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な勉強へと進むことが可能となります。

京都大学では、各学部がその理念と教育目的に応じ、入学者選抜試験における教科・科目を設定しており、明確な目的意識をもった人の入学を求めています。新たな勉強のために必要な基礎的学力を十分に備え、大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を、京都大学は国内外から広く受け入れます。





地球社会の共存に 貢献せんとする 高い志をもつみなさんへ

京都大学総長 松本 紘

本年で創立 113 年を迎える京都大学は日本を代表する総合大学として 10 学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群も擁しています。また、「対話を根幹とする自学自習」を尊重する特色のある世界最高水準の大学教育を提供しています。これまで累計で 185,394 名の卒業生を世に送り出し、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界など様々な分野で大いに活躍しています。

みなさんが京都大学で学ぶことはなにもものにもかえがたい経験となるはずですが。みなさんは行政・政治・経済の中心から一定の距離をおく京都に暮らし、学生生活をおくります。世界都市・京都の内懐に抱かれ、千年以上続いた日本の文化や伝統を肌で感じつつ、それを革新していく姿勢を京都の地で学ぶことになるのです。古典から現代先端技術にいたるまでの幅広い知識を身につけ、大局的にものを見、自由に発想できるようになるためには、旺盛な知識欲を満足させる優れた教育環境と学んだことを我が物とする沈潜の時が必要です。現に各界で活躍する卒業生は、京都大学で学んだからこそ、学問を通じて、学問の源流や本来あるべき人間社会の姿というものに思いをはせつつ、確固たる人生の礎を築くことができたことと異口同音に語っています。

京都大学においては、人文学、社会科学、自然科学の各分野で様々な独創的な研究がなされています。本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、霊長類研究や iPS 細胞研究などはその一端を示すものにすぎません。京都大学においては 1 年生からの少人数ゼミ「ポケットゼミ」を通じ、独創的な研究を行っている研究者から最先端の研究の手ほどきを受けることができます。

人間は地球上の小さな存在ながら、その行いが地球全体の様相を変える可能性を秘めた存在です。その可能性と責任を胸に、将来世界的なリーダーとして地球社会の共存に貢献したいという高い志を持つみなさん。自由で知的刺激にあふれた大学、京都大学はみなさんの未来の飛翔のための翼を与える大学でありたいと総長として願っています。



京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自立性を尊重した教育方針を採用したことでも知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。

対談 「京都大学で学ぶ」

古都京都にあって、自由の学風を育ててきた京都大学。その伝統をふまえ、京都大学で学ぶ意義や可能性とはどんなところにあるのでしょうか。国際的な視点から人間・環境学研究科のベッカー、カール教授、理系の女性研究者という視点から理学研究科の久家准教授をお招きして、教育現場の実情や展望を京都大学理事・西村副学長と共に語っていただきました。

先生方から見た京大生の印象

西村：京都大学の教育と学生担当理事・副学長の西村です。京都大学 学生諸君の現状や将来について、今日のご意見を頂きたいと思えます。まず久家先生から京都大学の学生の印象をお伺いします。

久家：理学研究科地球惑星科学専攻で地震学を研究している久家慶子です。地面の振動の解析や数値シミュレーションを使って、地震がどのように発生しているかを研究しています。京都大学に来て20年近くになりますが、昔に比べると豪快さを感じさせる学生は少なくなりました。優秀な学生が多く、静かでおとなしいという印象が強いです。研究室にも、忍耐強く地道に研究を重ねていく優秀な学生がいます。その一方で、授業についていけない学生、自分から学習することに戸惑う学生、困った時に自分で工夫することができない学生が増えていることも事実です。

ゲスト：

京都大学人間・環境学研究科 教授 ベッカー、カール
京都大学理学研究科 准教授 久家 慶子（くげ けいこ）
司会進行：京都大学理事（教育・学生担当）・副学長
西村 周三（にしむら しゅうぞう）

ベッカー：おそらく最後の部分は京都大学だけに限ったことではないかもしれませんが。私は総合人間学部と大学院の人間・環境学研究科で教えていますが、久家先生の印象とは少し異なります。京大生は自主的に質問をし、共同研究などについても積極的に私にコンタクトを求めてきます。京都大学は、授業にただ出席して丸暗記していればよいというところではありません。立派な図書館も実験設備も自分が使いこなしてこそ活かせるのであって、京都大学で勉強する意義は学生自身の態度次第だと私は言っています。

西村：2年前まで経済学で教鞭を執っていましたが、私も久家先生と同じ印象です。講義中、正しいことを言っている間は黙ってノートを取っているが、間違ったことを言うと即座に顔を上げて指摘する（笑）。つまり京都大学の学生は学力が高く、一見退屈そうに聞き流しているようでもちゃんと聞いているんです。

ベッカー：先生がおとなしく聞いてもらいたいなら普通の講義をし、逆に不確実なことを講義中にたくさん盛り込めば、学生達は絶えず「なぜ?」「どうして?」と顔を上げてどんどん授業に参加していくでしょうね（笑）。なぜこうなるかという根拠を絶えず問い、仮説的に教えることは大切です。例えば読書でも字を追うだけではなく、その本の狙いは何か、根拠や反論についてまで思考を巡らすことが本当の読書です。そういう考え方を育てなければ、ノーベル賞ものにはなりません。

西村：京都大学として総長も強調しているのは「Unlearning」ということです。入学して早い段階で高校まで覚えてきたことを一度白紙に戻し、新たに疑問を呈しながら勉強していく姿勢を提唱しています。ただそれに戸惑う学生がいるのも悩みなのですが。



自由の学風と京大生の目的意識

西村: ある程度基礎を身につける必要がある自然科学系においては、幅広い分野を勉強してから自分の専門を固めていく大学もありますが、京都大学では特に工学部などは機械工学や電子工学など専門的な科目を最初から選択しなければなりません。

ベッカー: 18歳までに専門を決めないのは日本とアメリカぐらいで、イギリスやドイツなどでは15～6歳である程度自分の専門を決めて勉強します。京都大学はさまざまな学問の可能性を提供しますが、自分が専門家になるか、技師か文人かという方向性は早い段階で選択した方がよい。リベラルアーツ的な分野なら後でもよいですが、人文系においては無秩序で制度化されていないところもあります。自分でまとめる能力のある学生にとってはそれが却って効果的で、その能力がない学生には迷う要因になるかもしれません。

久家: 私も似たような考えを持っていて、京都大学は自由に勉強したい学生にとっては非常に恵まれた環境だと思います。履修の縛りがほとんどなく、勉強したければ授業を取りたいだけ取れるので、自由な環境で勉強していくことができる学生にとっては活用度が高いです。が、そうでない学生にとっては実りが少なくなる可能性はあります。

ベッカー: 京都大学では「自学自習」という初代総長の言葉がよく使われますが、同じ総長の言葉でも私は「好学志操」の方が大事だと思っています。自分から好んで学び、志し、操る。つまり自分がやりたい学問があれば必要とする学習も自ずと見えてきます。

西村: 卒業生にアンケートを行ったところ、好きなことを勉強できる学風はなくさないで欲しいという意見が約8割、残りの2割がもう少し大学が方向性を示した方がよいという結果でした。しかし実際に8割もの学生が自由を活用していたかは疑問で、そういう人は確実にいますが昔に比べて減少していて、大学でどのように勉強していけばよいかわからないという学生が増えている印象があります。つまりこのアンケート結果からはギャップを感じます。

ベッカー: 自由を活用できない学生が増えているのは、入試方法に問題があるのではないのでしょうか。偏差値や語学、数学などだけでは学ぶ意欲や好学意識は計れません。本来、京都大学に入るべき学生は学ぶ意欲を持った人であり、入試で高得点を取っても学ぶ意欲のない人は入れるべきではないと思います。そうすれば大学の学風を活かした伸びる学生が入ってきます。

西村: ただそれだと目的が定まっていない学生は来てはいけないということになります。

久家: 京都大学にはいろいろな可能性があり、大学に入ってから、自分で選択しながら自分の専門を作っていくことができます。それが京都大学の良さです。このような良さを踏まえて京都大学へ来たいと思う人に入学してもらいたいと思います。

西村: 最初から目標や好学志操を持っている人は間違いなくいます。しかしそうでない人が来て可能性を広げられる所だと思うのは、私自身が経済学部に入った時、明確な目標はなかったのですが、大学で優秀な友人に出会い議論を交わすうちに経済学にすごく関心を持ちました。ですから京都大学には友人のネットワークなど、入学してからさまざまなきっかけや可能性があります。

久家: 入学した時点では、大学で勉強していくためのある程度の基礎学力や行動力、忍耐力があればいいと思うのですね。その後在学する中で、京都大学が目指す人間像を意識して徐々に近づき、卒業時にそのような人間になっていけばよいのだと思います。



西村 周三 理事（教育・学生担当）・副学長

最初から目標や好学意識がなくとも、京都大学には豊富な友人ネットワークや幅広い学問領域など入学してから可能性を広げるきっかけはたくさんあります。

ベッカー: 全ての高校生に人生目標を設計して欲しいと言いたいです。17～8歳で人生目標を設定することは難しいですが、目標が見つからない、まず自分の気に入くないことに関心を寄せてみることです。教育問題、中東問題、環境、何でもよいので「これだけは許せない、改善したい」と思うところから出発すれば、それが何らかの研究につながっていくと思います。

西村: 最近の学生は平均を取ると言われていますが、学生からよく聞かれるのが「合格するためにはどの程度勉強すればよいですか?」という質問です。そういう発想で入学する学生が圧倒的に増えています。本も読まなくなり、勉強は適当に済ませて人生をエンジョイしたいという若者が増加する中、先生方は学生達にどのような方向づけをされますか?

ベッカー: 最初の日から「110%を目指せ」と厳しく指導します。例えば医師や看護師の国家試験に合格するには8割の正解率でよいでしょうが、実際に医療現場で2割の患者を見捨ててよいわけではありません。会社に入れば契約は文字通り行われ、電車は時刻通りに走るのです。高校生は偏差値や成績だけに囚われて京都大学を目指しているかもしれませんが、問題は高校から京都大学へ入ることではなく、社会に出た時に7～8割という意識では通用しないということです。

久家: 100%努力したからといって100%の結果が返ってくるわけではないのに、80%しか努力しなければそれより下しかないわけです。それが社会であり現実です。はっきり教えていかなければならないことだと思えますね。

女性研究者支援や国際化の取り組み

西村: 京都大学は女子学生が少ない分野も多くありますが、女性研究者として久家先生から女子学生へのメッセージも聞かせて下さい。

久家: 研究の分野は女性が大いに活躍できる舞台です。優秀で、行動力や忍耐力もある女子学生が明らかに増え、活躍しています。だから躊躇なく、希望や夢を叶えるために努力して欲しいと思います。

西村: 京都大学は女性をサポートする体制も整っており、女性だから損をするというようなことはほとんどありません。



久家 慶子 准教授（理学研究科） [写真左]

女性にとっては今がチャンス。京都大学の研究分野は女性が大いに活躍できる舞台なので、多くの女子学生にも目指していただきたい。

ベッカー, カール 教授
（人間・環境学研究科） [写真右]

国際化の下では、さまざまな国の人が対等に議論し合い真理を探究する。つまり共通の尺度を使ってより正しい道を選ぶことができるのです。

久家:ないとは言いませんが（笑）、ある意味女性にとっては今がチャンスなのだと思います。

ベッカー:京都大学は男女差別がない大学だから、能ある鷹は爪を隠す必要がなく・・・

久家:どんどん爪を出していただきたい（笑）。

西村:また京都大学は国際化も進めていますが、ベッカー先生からはその国際化の意味についてメッセージをいただけますか？

ベッカー:多くの外国人を入れることが国際化ではなく、京大生一人ひとりが他国の友人を作ったり他国の言語を操ったり、その上で海外へ行って活動することが真の国際化です。世界の情報の90%以上は日本語で書かれていません。だから世界の舞台で競争するためには、90%以上他言語で書かれた情報を自由に入出入りさせる頭を作らないといけません。私自身も京都大学入学当時は日本語が堪能ではありませんでしたが、努力して日本語を習得すると、図書館では駄菓子屋に入った子供のように、あれもこれも読みたいという喜びでワクワクしました。ですから、横文字だからといって敬遠するのではなく、言語の違いを超えて面白いと思えることを大事にして欲しいものです。

西村:私もアメリカ留学時、自分が知らない事が書かれたペーパーを前にワクワクしたことを今でも忘れません。大学においても知らないことを知る喜びに触れ合えるような教育環境が望ましいですね。

久家:私の専門は自然科学ですが、英語を介して、自然科学という共通の知識と興味をもとにいろいろな国の人と議論できることはとても楽しい。さまざまな人と意見を交換し新しいものを作っていくことは非常に意味があります。

ベッカー:国際化は客観視できることです。国際化は互いの研究を議論し、磨き合うためにあります。つまり国際化の下においては、さまざまな国の人が共通の尺度を使ってより正しい道を選ぶ、ということができるといいですね。

京都大学に入ったら

西村:京都大学では毎年約3000人も学部学生が入学してくるので、教授は遠い存在になりがちです。しかし私は勇気を持って先生の研究室のドアを叩くということを1年生には言いたいんです。

久家:学生から教えて欲しいとやって来られれば、先生は皆喜んで教えたいと思うでしょうし、自分の講義に学生の方から興味を持ってくれば精一杯応えたいと思うはずです。

ベッカー:偉い教授で訪ねにくいなら、本がきっかけを作ってくれます。教授は必ず著書や記事がたくさんあるので、それを読んだ上で先生に質問すれば、喜んで一緒に研究しようとなるでしょう。

西村:入学時はこういうことで迷いやすいですが、一生懸命勉強していれば先生方とのハードルも決して高くないということですね。

久家:学生自身が「おかしな質問かな」と思っても、そのようなところに本質が隠れていたりもします。研究は疑問をもつことから始まるので、私は学生からの質問は大切にしたいと思っています。

ベッカー:自分が疑問に思っていることは、多くの学生も疑問に感じていることかもしれない。勇気を出してそれを投げかけることで次の講義にも広がりが出ます。

西村:それが日本の受験における弊害のひとつで、みんなで相談しながら一緒に勉強することがなかなかできない。だから高校では自分が疑問に思っていることがみんなも疑問に思う大事な質問だったということに気づく機会が少ない。京都大学ではそういう疑問を学生同士がフランクに話せる機会を作る事が大切だと思っています。

ベッカー:高校では毎日同じクラスメイト同士が顔を会わせても、大学では週1回だけ隣同士になるぐらいで友達を作りにくい、という学生もいます。しかし、友人こそ資源となる大学ですから、教授を訪ねるだけでなく、先輩に聞いたり、食堂で一緒になった同級生などに積極的に話しかけて欲しい。京都大学でつきあった仲間は一生の財産になります。私自身の学生生活を振り返っても、当時からつき合っている同級生や先輩方は皆素晴らしい、今でも気軽に話せます。逆に同じ研究室だったのにあまり親しくできなかった人がいたことを後悔するくらいです。

久家:大学は学問を学ぶところですが、人との絆を作っていく場としても大事な所です。知識や技術を身につけることだけに囚われるよりは、もっと長い目で見て、先輩や友達など、一生においての糧となるような人とのつながりを持つことは大切ですね。

京都大学大学院について

西村:京都大学の大学院進学率は平均約60%ですが、高校生にはぜひ大学院についても知っていただきたいと思います。

久家:大学院は、2年あるいは5年間かけて研究する力を身につける場所です。大学では、講義や演習の中である程度わかっている知識を学ぶことが多い。大学院では、自分で研究を行って、誰も知らない知識を発見していくことが求められます。ここが大学とは異なります。

西村:特に大学院の自然科学系では超専門を研究する傾向にあり、関連分野に関してもっと幅広い知識があった方がよいのではないかという意見もあって、大学全体としての課題になっています。

久家:広い分野がよいか、狭い分野がよいかは悩ましいところです。専門分野を突き詰めて学問に挑戦することは重要なことです。習得した知識そのものが完全に活かせなくとも、知と体力を尽くしてとことんまで考え抜きやりとげる経験は、対象が変わっても必ず活かせると思います。だから超専門の研究を完全に止めてしまうことには私はあまり賛成できません。

西村:学部でも「なぜ、こんなに細かい専門的なことをやるのだ」と疑問に思いながら勉強することもあるでしょうが、専門を極めるという点ではこれも重要なことなのですね。

ベッカー:せっかく大学院まで勉強するなら、海外で勉強することも視野に入れて欲しいですね。京都大学は100近くの海外の大学と提携しているので、留学も非常にしやすい環境にあります。他大学や他国で同じ専門を研究する人と共に学ぶことで、予想以上の刺激を受けられます。それも京都大学の強みであり魅力です。

久家:物事をゼロから考えることは難しいですが、発想のための種さえ持っていれば、将来その種を育てることはゼロから始めるよりは簡単だと思います。だからそのような種を在学中にたくさん手に入れて、京都大学を卒業してもらいたいです。

西村:特に工学部などは専門を決めないと受験できないという批判もある一方で、最初から専門を絞ってかなり特殊なことを一生懸命勉強し、その後で振り返るというやり方もあります。人生は長いですから、大学に入った時に決めたことが一生を左右するわけではありません。最近では大学の入試説明会で親御さんが相談に来られることも多く、子供の進路に親が助言を求めるケースが増えています。

ベッカー:そうですね、ちょっと幼児化している気がしますね。

国立大学としての自覚、京都という立地

西村:最後にこれだけは言っておきたいというメッセージがあれば、両先生方お願いいたします。

ベッカー:国立大学が法人化して国からの予算が毎年1%カットされ、近年大学自らが予算を獲得していかなければならなくなりました。オックスフォード大学やハーバード大学などのように兆単位の予算は理想ですが、日本では自分の母校に献金するという伝統も予算をくれる財団も多くはありません。京都大学の教育の大部分は一般の納税者が支えてくれているのです。ですから学生が卒業後好き勝手にお金儲けするのではなく、国に対する恩返しが大前提にあると思うのです。とって国に服従するものではありませんが、基本的に国立大学は国のためにあります。学生の中には卒業後目的意識を持たず安易に進路を決める人もいますが、多くの国民からの税金で勉強したのだから、それ以上のお返しをするということは人生を以て考えなければならないことだと思います。

久家:学生にとっては自分が国のお金で大学へ来ているという感覚は薄い。それはどこで教えるべきなのでしょう。

西村:京都大学では市民社会に生きる人間としての教育も進めていますが、その一環として私達が税金で勉強していることを知る教育も来年度以降ははっきり打ち出す方針です。

ベッカー:アメリカの州立大学はもちろん、ハーバード大学などでも入学した時から、卒業後は大学へ寄付するという教育を徹底してい

ます。日本は新制の大学制度をアメリカに習っていますが、それを支える財源や寄付意識の教育がなされていないので大変です。

久家:世の中の役に立つ仕事をしたいと願う若い人も多くいますから、そういう人に京都大学へ来てもらい、卒業後国に役立つ仕事に就いてもらえばよいですね。学生が卒業する時に京都大学に来てよかったなと感じてもらえ、どのような世界でも強く生き抜いていく力をここで学び取ってもらえたら、私は嬉しいです。そしてぜひ京都という町もエンジョイしていただきたい。

ベッカー:比叡山と御所を結ぶ地点に位置するのが京都大学です。約一千年も前から、日本のみならず世界の歴史を変えるようなノーベル受賞者のみならず、空也、源信、法然、親鸞などがこの地を歩いていたことを思うと京都大学が単なる大学ではなく、歴史を変える場なのだと思います。

平成22年6月3日

京大サロンにて（百周年時計台記念館1階）



京都大学の 教育システム

柔軟な教育システム

京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な形をとっています。入学者は、10の学部のうちいずれかの学部（学科）に属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。あるいは同じ学部にも属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいますが、これはもともと個人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自分で自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できるような柔軟な教育システムを備えています。ここでは、学部教育から大学院教育までを辿りながら、みなさんに京都大学が提供する教育の特徴を概観しておきましょう。

全学共通教育

どの学部に入学者の場合も、まずは全学共通科目を受講しなくてはなりません。全学共通科目とはその名前のとおり、京都大学の全

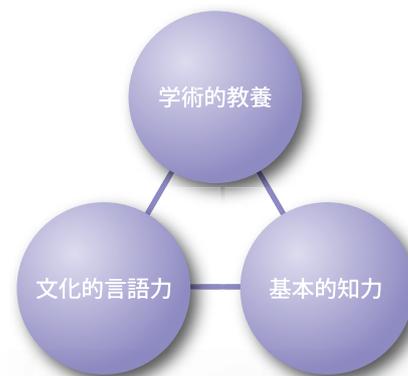
学部の学生が共通して受講する科目群をさします。この科目群は、一言でいえば教養教育をおこなうためのものです。教養教育は、専門の勉強を始める前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く学ぶという形をとりますが、それは単に該博な知識を得るためではありません。京都大学で考える教養教育の目的は、大きく三つに分けられます。

第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢といったものを学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問に対峙することを通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉（言語）で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを他者へ伝え表現していくことを学ぶことです。この場合の言語とは、高度な日本語運用能力はもちろんのこと、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解しようと努め、また協調的関係を築きあげようとするのが重要です。教養教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、

みなさんが社会や学術研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけでなく、見通しのつかない新たな複雑な状況において、適切に課題を分析し解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養教育の3つの目的、すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養を、京都大学では順に、学術的教養、文化的言語力、基礎的知力と名付けています。京都大学の全学共通科目はいずれも、この3つの知を実現するために提供されているものです。

しかし、全学共通教育を履修すればこれら3つが自動的に獲得できるというものではありません。京都大学の提供する全学共通科目は、大変多様な構成となっています。専門教育といってもよいほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や



めの専門職大学院の課程があります。修士課程では、専門家としての第一歩を踏み出すことになります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業生、勤務経験のある社会人も入学してくるので、学部時代よりも学生の年齢層やキャリアが多様となるでしょう。また、分野によっては留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。また、大学院では、自分でテーマを発見し学んでいくことが重要となります。すなわち、良い答えを見つけることばかりでなく、良い問いを発することも重要となるときです。修士課程修了時にも、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験という、ハードルがあります。

修士課程を修了した後、研究型大学である京都大学では博士課程にまで進学する学生が多いのが特徴です。ここでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程に在籍する間には、学会での発表や学術雑誌への論文の投稿なども行うことになり、研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に応募しそれが受給されることもあるかもしれません。このような研究の成果として、博士論文を執筆し審査に合格することで、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。



ます。この意味で京都大学の教養教育は「高度一般教育」とも呼ばれています。また、一定の条件において、専門教育に入っても、他学部の専門科目も履修できる場合が多いことも、京都大学の恵まれた条件としてここに付記しておきます。

学部によって異なりますが、専門教育では、研究室やゼミに属したり、学科や系と呼ばれる学部よりさらに専門分化した集団に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部であれ、卒業前には、各学部での学びの総決算とでもいうべきハードルがあります。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本誌の各学部のページを参照してください。

大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位（修士号、博士号）の取得をめざして大学院に進学する場合もあります。京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。いずれにしても、学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

ここでは、大学院の課程に関して紹介しましょう。まず修士課程では、学部の専門課程よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的技術をもつ実務家養成のた

他分野との関連に重きをおいた基礎論もあります。大学によっては、教養教育に期待される能力の習得をプログラム化して、入学者に一律に履修を課しているところもあります。しかし、京都大学はそのような立場をとりません。京都大学の学生は、入学当初からきわめて専門志向の強いことが、これまでの調査から分かっています。すなわち、自分はどのような専門領域に進みたいか、明確なビジョンを持つ学生が多いのです。したがって京都大学では、教えるべき専門的な内容を薄め技法の習得にのみ特化したような科目を提供するのではなく、最先端の知の生まれてくる現場に触れてもらい、研究者の背中を見て学んでいくことを学生に期待しています。このような教育構成の場合、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求む学問の現場に参与していく態度を身につけることが要求されます。すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。

学部での専門教育

全学共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める履修を完了した後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けるところもあります。学部の教育課程を修めたと見なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づいて決定されています。

専門教育の課程に入ったからといって、教養教育と無縁になるわけではありません。京都大学の全学共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できる構成になっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いてい



京都大学の教養教育を担う 「全学共通科目」

「自由の学風」を尊重しつつ、真に学生の力を発揮できる
教養教育を提供するために

全学共通教育の実施体制と 全学共通科目の特徴

京都大学の全学共通教育（教養教育）は、主として「全学共通科目」によって具現化されています。

全学共通教育は大学院人間・環境学研究科及び大学院理学研究科を実施責任部局、その他の研究科・研究所・センター等を実施協力部局と位置づけ、全学あげて取り組むという、他大学には例のない特徴的な体制で実施しています。全学共通教育の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では各部局から提供される科目について、実施責任部局及び各研究科等の教員が参画する全学共通教育システム委員会のもとに設置された4つの専門委員会と11の科目部会において、カリキュラムの設計や科目審査を行い、基礎から応用、高度な内容まで多様で特色ある科目を提供しています。

A 群科目（人文・社会科学系科目）

A 群科目は、哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学、複合の各系列に区分されています。その授業形態は講義とそれに関する少人数の授業である基礎ゼミナール（講読・実習などを含む）に大別され、科目数も300を超

えるヴァリエティに富んだ内容となっています。これらの科目は、人間の興味・関心は多様であるという前提に基づいて保持されており、京都大学のA群科目の大きな特徴にもなっています。

B 群科目（自然科学系科目）

B 群科目には、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学及び複数領域にわたる応用的な講義・実験・実習科目が提供されています。これらの科目には、理系の基礎科目やより高度な内容の科目のほか、文系学生を対象とする教養科目等があります。

C 群科目（外国語科目）

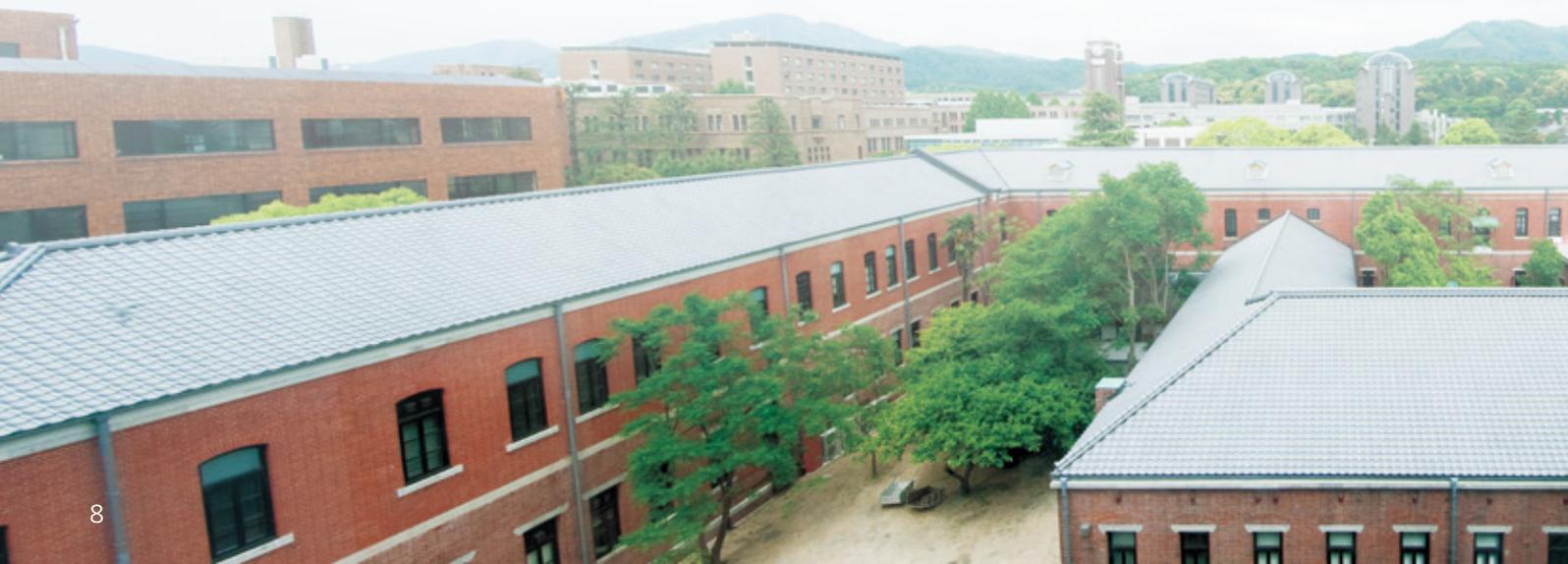
C 群科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語（留学生用）の10ヶ国語があります。外国語教育においては、学術的教養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の養成にも努めています。また、英語では「自律学習型CALL」を活用した授業を大規模に導入しており、今後、他の外国語を含めCALLを活用した授業がさらに充実するよう取り組んでいます。

D 群科目（保健体育科目）

D 群科目は、スポーツ実習と運動や健康に関する講義で構成されています。社会的交流技能の養成、スポーツ動作の技能向上、体力・健康作りを目的とするスポーツ実習では、ソフトボール・サッカー・テニス・バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・フィットネス・二軸動作等を開講しています。講義では、身体や神経科学に関する学術的知識を学び、心身ともに健康で豊かな生涯を送る知恵や教養を身につける内容となっています。

EX 群科目 （大学コンソーシアム京都 単位互換科目）

EX 群科目は、大学コンソーシアム京都に加盟する大学が単位互換科目として提供する科目のうち、「美術」、「芸術」、「芸能」の各分野の中から本学が指定する科目のことをいいます。



全学共通科目（教養科目）

平成 22 年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から 977 科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A 群（哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学等の系列科目）：341 科目

B 群（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目）：376 科目

C 群（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語 [留学生対象]）：100 科目

D 群（スポーツ実習等）：8 科目

複数群：129 科目

EX 群（大学コンソーシアム京都単位互換科目）：23 科目

[全学共通科目について詳しく知るには]

高等教育研究開発推進機構 教育推進部共通教育推進課

<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

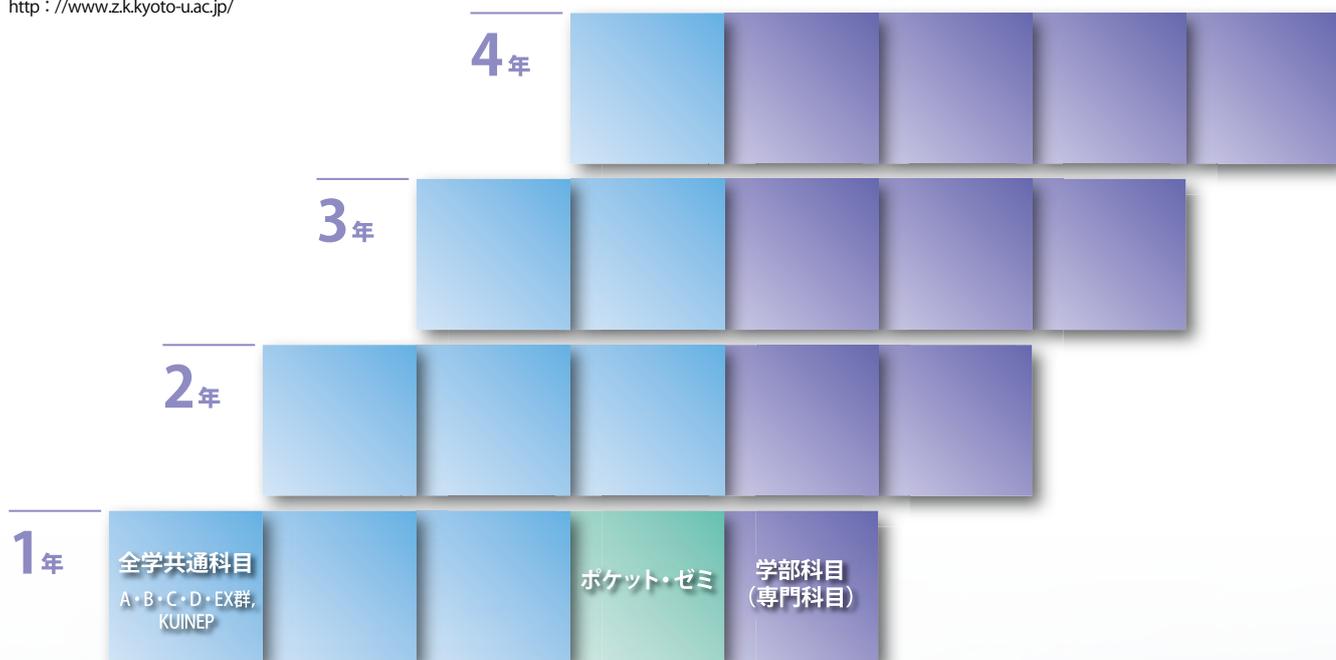
学部科目（専門科目）

学部科目（専門科目）は、各学部の教育方針に基づき、1 年次から学部の専門科目を配当しています。

なお、他学部の専門科目も受講することができます。

* 学部の専門科目については、

学部紹介のページをご覧ください。



特色ある全学共通科目として、次の3種類の科目が開講されています。これらも授業内容によりA~Dの各群に分類されます。

新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ)

新入生向け少人数セミナーは、新入生に学問へのモチベーションを与えることを目的として、1回生時のみ本学専任教員が様々な形態で行う授業です。10名程度の少人数という親密な人間関係の中で教員との対話を重視する授業は、学生と教員の双方から高い評価を得ています。

(平成22年度は、155科目を開講)

各学部の特徴あるポケット・ゼミの内容を、12ページから17ページに紹介しています。

国際教育プログラム (KUINEP)

国際教育プログラムは、京都大学と海外の大学との学生交流協定の一環として、海外の協定校から迎えた留学生と本学の学生を対象に学際的・先端的なテーマを英語で行う授業です。

(平成22年度は、27科目を開講)

国際交流科目

国際交流科目は、海外でのフィールド研修や外国の大学での授業を通じて現地の自然、政治、経済、文化、歴史などを学ぶことを目的としている授業です。これまでにタイ・中国(上海)・韓国・ベトナム等で実施されています。

(平成22年度は、5科目を開講)

全学共通科目の科目選択から単位認定まで (平成22年度前期の例)

原則として、前期・後期ごとに授業を完結するセメスター制を実施しています。



活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して

学生と教職員が一緒になって学び
嬉々として熱中する場 (Field) を提供

新入生向けガイダンスの実施

高等教育研究開発推進機構では、全学部の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個人々の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介します。さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される多様な全学共通(教養)科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行い、学生の自律的な学習を促しています。

KULASIS

KULASIS(クラシス)とは、あらゆる教務情報をWeb化することにより、より早く正確な情報伝達及び学生・教員への支援やサービスの充実を目指し、京都大学で開発・運用しているシステムの名称です。

学生はパソコン・携帯電話から学内外を問わず、教務情報(休講・授業変更・レポート等)の確認・履修登録・採点確認等の機能を利用することができます。ログイン件数は多い日には10,000件を越え、全学共通科目を履修するためには必要不可欠なものとなっています。

Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に設置しています。10時から19時までの開室時間に多くの学生が来室しています。

吉田南構内の学習・教育環境の整備

全学共通教育が主に行われている吉田南構内では、年間約9,000人の学生が授業を受け、1,000人以上の教員が授業を担当しています。高等教育研究開発推進機構では、甲子園の約5.7倍の広さを持つ構内の教育環境整備や安全に配慮した歩行者と車のゾーニングを図るとともに、自習室やリフレッシュコーナーの設置等、学生が自主的に学習でき快適に過ごせる空間を提供しています。また、学生の課外活動へも積極的に支援しています。



【写真】新入生向けガイダンスの様子



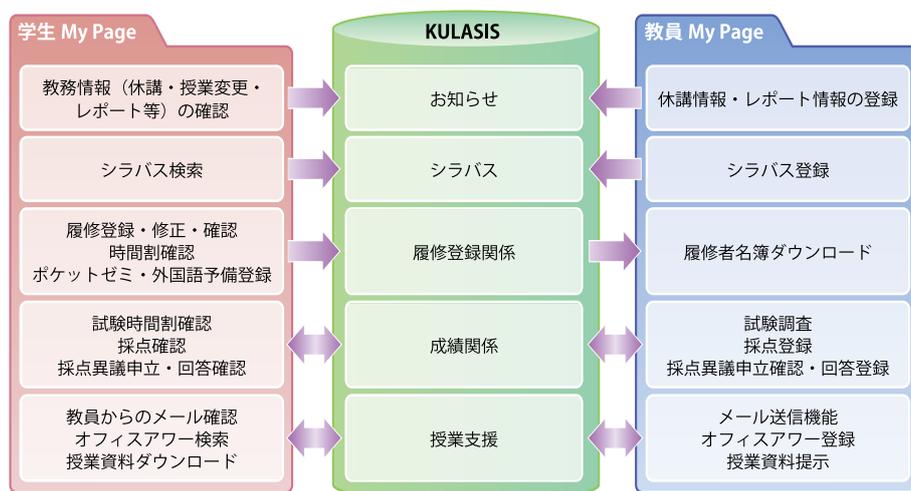
【写真】Student Research Roomの様子



【写真】吉田南総合館 館内



上：KULASISのホーム画面
右：KULASIS(全学共通科目)の概要
(平成22年4月現在)



ポケット・ゼミ

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）という授業科目を開設しています。

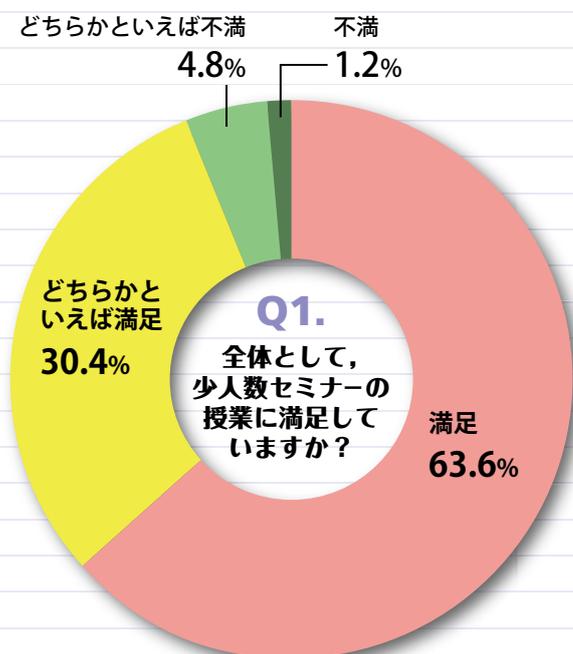
ポケット・ゼミは、入学直後の新入生の希望者を対象に、全学の教員がボランティアとして実施する授業で、原則として10人程度の少人数単位で実施され、大学とはどういふところか、学問をすることはどういふことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接に学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都大学そのものへの入門」の授業として機能しています。最近では150余りの科目が提供され、1,500人を超える学生（全新入生の約50%）が受講しています。

ポケット・ゼミは本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少人数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。

右のページでポケット・ゼミの内容の一部を紹介しています。

受講学生アンケート調査の結果

〔「新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）の現状と課題—平成20年度アンケート調査報告—」, 京都大学高等教育研究開発推進機構, 平成21年3月発行より抜粋〕



Q2. 自由記述の意見

- 大学の研究室の雰囲気を実感でき、とても有意義でした。
- 学部の枠を越えて、様々な人たちが集まっているのが、魅力の1つ。
- 講義形式ではなく、同じ目線で教授の話のを伺い、討論できとても良かった。
- 受け身でなく、自分の頭で考える、ということがしっかりできました。
- 新入生が先端的な研究に触れるという点で、良いものだったと思った。
- プレゼンテーションという貴重な体験をさせていただき、感謝しています。
- もっと受講科目を増やしてほしい。
- 前後期とも開講してくださったら嬉しいです。
- 生き生きとした実地経験や直接体験ができて良かったです。

Pocket Seminar



総合人間学部

「古代シルクロード文献学入門

ートカラ語の未解読文書にチャレンジしよう！

人間・環境学研究所

齋藤 治之 教授

専門分野：歴史・比較言語学

トカラ語とは

トカラ語は現在の中国新疆ウイグル自治区でかつて使用されていた言語で、系統的にはインド・ヨーロッパ語族に属し、しかも多くの点で西方のケルト語やラテン語との類似性を示す。トカラ語の言語資料は西暦6世紀から8世紀頃にかけて書かれた仏教の經典の翻訳を主とし、それらの文書は20世紀初頭ドイツ、フランス等の国々が派遣した中央アジア探検隊の発掘調査によりもたらされた。その出土地はシルクロード天山北路に沿った東からトルファン、カラシャール、クチャ等のオアシス諸都市で、東トカラ語（トカラ語A）と西トカラ語（トカラ語B）の2つの方言に区別される。トカラ語は早い時期にインド・ヨーロッパ祖語から分離し、西ヨーロッパから中央アジアまで移動したと考えられており、同系の他の諸言語には見られない、しかも古い幾多の言語的特徴を保持している。

トカラ語の写本

各国の発掘調査隊によりヨーロッパや日本にもたらされたトカラ語の文書はベルリン写本、パリ写本、レニングラード写本のようにその保管地により命名されているが、中でもベルリン写本は分量においても研究の歴史においても他に類を見ないものである。ベルリン写本の解読を手がけたのはドイツ人のサンスクリット研究者であるSieg および弟子のSieglingの二人の学者で、彼らはトカラ語Aの文書を表裏467葉、トカラ語Bの文書を表裏633葉、合計1100葉をローマ字に転写して出版した。現在フランクフルト大学比較言語学学科では、TITUS Projektによりインド・ヨーロッパ諸語の電子ファイル化を行い、ネット上に公開しているが、ここではSieg および弟子のSieglingの出版したテキストを通し番号で、THT1からTHT633までがトカラ語B、THT634からTHT1100までがトカラ語A、という具合に分類している。TITUSはさらに未解読の文書THT1200からTHT4000までを公開しており、これら未解読文書はその多くが断片であるとはいえ、従来指摘されていない語形や新語が現れており、今後のトカラ語研究の進展に不可欠な資料と言える。さらに、これらの未解読文書からはオアシス都市における従来知られていなかった農耕や祭祀の様子が浮かび上がってくる。

授業の内容

すでに解読済のテキストと内容的に同じ種類に属する未解読テキストを対比することにより、後者のテキストの解読を試みる。テキストは次のジャンルに分けて解読を行う：

1. Jātaka（ジャータカ）
2. Prātimoksha（戒律）
3. Buddhastotra（讃仏詩）
4. 実用書
5. 通商文書
6. その他



未解読箇所（THT13126）：

1～2行にかけてガンジス河の美しい描写が見られる。



文学部

「日本語語彙の歴史」

文学研究科

大槻 信 准教授

専攻分野：国語学

知っているようで、知らない日本語

あなたは、トマトやポストのような色の乳幼児がベビーカーの中で笑っているのを見たことがあるだろうか。あるいは、新緑のような色の子どもが新生児室ですやすや眠っているのは？

ベビーには少なくとも二つの色がある。口を除き表面の殆どが赤色でないのに「赤ちゃん」といい、どこも緑色でないのに「みどりご」という。髪や肌の色をとって「黒ちゃん」「はだご」などは、普通、言わない。なぜか。かつてこの国の子どもはレッドやグリーンだったのか。日本人はずっと「赤ちゃん」「みどりご」と言い続けてきたのか。またどの土地でもそう呼ぶのか。

「あか」を例にとると、例えば身の回りには実に多くの「あか」が存在する。「あかぎれ」「あかだな」「あかつち」「あかつぱじ」「あかはだ」「あかはだか」「あかむけ」「あからさま」…これらはみな「赤」の仲間だろうか？あるいは「垢」「鬨伽」「明」や他の何かだろうか？また夜半過ぎから夜明け近くの暗い時間帯を「あかつき」といい、夜明け方、東の空に輝く金星を「あけのみようじょう」という。この「あか」と「あけ」は赤の他人だろうか？

「知」と「自由」のよろこび

日頃何気なく使っている母国語も、ふと立ち止まってみれば分からないことばかりである。分かっているつもりが、実は何も分かってなどいない。そう気づくことが、学問の発端の一つである。そこから広く深く、認識を進めていく。この過程及び成果が「知る」ということだ。

なんらのテキストも選択肢も与えられず、出席者は未知の世界に飛び立って行く。初めから答えが存在しないのは勿論、問いすら与えられない。おそらく「問い」と「正答」に慣れきっているであろう体に、この自由は少々応えるかもしれない。しかし、時には手探りで、時には先人達の偉大な研究成果の恩恵に与り、調査と考察を繰り返しながら、何かをつかみ取る。周囲の意見によって視界が開けることもある。この面白さは体験したものにしか分からないだろう。

何を使い、何をするか

幸い我が国には、多くの言語資料がある。例えば各時代の文字や言葉を取り扱った字書・辞典からは当時の理解を知ることができる。膨大な量の和歌や散文も貴重な資料である。三十一文字は心情の吐露や情景描写に大いに役立ってきたし、学問を生み出した。散文には宮廷生活や数々の戦の有様が、あるいは民間伝承が文字によって記されている。また寺や博士家では漢籍に文字や記号が刻まれた。これらの中には一次資料（同時代資料）として扱えるものもある。批判的な態度で接しさえすれば、大いに助けとなるだろう。

言葉はひとりでに変わるのではない。人間が変えてゆくのだ。資料の細部と全体を照らし合わせ、一つ一つを丹念に丹念に調べることで、言葉の変化の歴史が浮かび上がってくる。

（文責：TA 光田香住）



教育学部

「教育方法学入門」

教育学研究科

西岡 加名恵 准教授

専門分野：カリキュラム論・評価論

大学には、大きく二種類の授業があります。講義では、担当教員が学問の成果を伝えます。一方、ゼミナール（演習）では、受講している学生たち自身が、学問を創出する作業に参画することとなります。ポケット・ゼミは、1回生の皆さんに、初めてのゼミを体験してもらおう機会となります。

さて、教育とは、子どもの発達を助けるために行われる意図的な働きかけの営みです。教育方法学は、そのような働きかけをどうすれば効果的にできるのかを探究する学問です。

このゼミでは、教育目標、教材・教具、指導過程と学習形態、教育評価といった教育方法学の基礎的な概念について説明するとともに、基本的な論点をいくつか取り上げ、それに関する教育実践の事例を検討しています。具体的には、「荒れたクラスをどう立て直すか」、「楽しくて力のつく授業をどう作るか」、「魅力的な学校をどう作るか」といった論点に関して、小西健二郎、吉本均、今泉博、安井俊夫、玉田泰太郎、鳥山敏子といった著名な実践家や、浜之郷小学校、きのくに子どもの村学園といったユニークな学校について検討していきます。

共通必読文献としては、田中耕治編著『時代を開いた教師たちII』（日本標準、2009年）を指定しています。各回に2～3人の報告者を決め、テキストを手掛かりにさらに内容を深める文献調査をしております。受講者は、図書館での本の探し方やレジュメの書き方についても、徐々にマスターしていくこととなります。

テキストの執筆者たちはそれぞれ独自の視点で実践家や学校を紹介していますが、紹介されている実践家自身が書いた本を受講者が直接読んでみると、テキストでは読み取りきれなかったような工夫を発見したり、場合によってはテキストの執筆者とは異なる解釈や評価に到達できたりします。私自身も学生時代に初めて類似のゼミに参加した時には、一冊の本の裏側にどれだけ奥深い世界が広がっているのかを実感して、驚いたことを思い出します。受講者の皆さんには、そのような新しい本の読み方を学んでほしい、と思っています。

ゼミのもう一つの魅力は、受講者同士で意見を交換できることです。現在、このゼミは文学部から2名、教育学部から1名、法学部から6名、工学部から2名の計11名が受講してくれていますが、それぞれが多彩な学校生活を送ってきた経験をもっており、理想の教育像も様々です。同じ実践をめぐる、「素晴らしい」という意見もあれば、「これでは問題だ」という反論も出されます。自分とは異なる視点との出会いは、思考を深める上で不可欠です。このゼミを通して新入生のフレッシュな視点と出会い、教育方法学の新たな展開のヒントを得たいと、私も毎回、楽しみに参加しています。



法学部

「政治指導者論」

法学研究科

奈良岡 聡智 准教授

専門分野：日本政治外交史

大学で学ぶ学問の目的は、多くの専門的知識を獲得することではなく、自分で考える能力を身につけることにあります。いささか図式的に言えば、高校までの「勉強」が、「問題」に対する「解答」をいかに出すかに関心を向けるのに対し、大学の「学問」は、「問題」自体を探し出すことを目的としています。物事を根本から疑い、批判的に考えることは、時に苦痛や困難を伴いますが、非常にスリリングで、楽しいことでもあります。また、物事を根本から考えるという能力は、文系・理系を問わず、分野を越えて全ての大学生に最終的に求められているものだと思います。ポケットゼミは、このような学問の面白さを、大学に入学したばかりの1回生に対して伝えることを主目的としています。受講生も、あらゆる学部の学生を対象にしています。

私は法学部に所属し、日本政治外交史という分野を専攻しています。この分野は、日本の政治・外交を歴史的視点から考察するもので、近現代日本の政治、外交に関すること全てが研究対象となります。高校の日本史の近現代分野を発展させたものというイメージしやすいかもしれませんが、単にそれを詳しくしたものではありません。この分野は政治学の一領域を形成しており、憲法、国際法、法制史などの知識が不可欠です。また、この分野は歴史学の一分野でもあり、西洋史、東洋史にも通じ、できれば複数の外国語を習得することが求められます。私自身は、「大正デモクラシー」という言葉で知られる大正～昭和初期の政党政治、幕末から第二次大戦期ぐらいまでの日英関係といったことを研究しており、最先端の研究成果を積極的に授業に反映させていこうと思っています。

このように書く、「高校で日本史を取っていないから無理だ」「語学が苦手だからやめておこう」などと思われるかもしれませんが、ご心配は無用です。この授業は、学問の最先端を極めるというよりは、その雰囲気味わってもらうことに主眼を置いています。そのため、人間＝「政治家」という、歴史を理解するのに比較的取っつきやすい素材を取り上げ、彼らの政治指導を検討するということを通して、近現代日本の政治・外交とはどのようなものだったのかを考えていきます。具体的には、受講者に興味のある政治家を一人取り上げて自由に発表してもらい、それに基づいて全員でディスカッションをしていきます。近現代の日本を駆け抜けた様々な政治家たちについて考察することで、高校までの勉強では味わえなかった歴史の醍醐味を感じて欲しいと思っています。2009年度に取り上げたのは、以下のような政治家たちです。

徳川慶喜、井伊直弼、山県有朋、陸奥宗光、西園寺公望、加藤高明、後藤新平、高橋是清、広田弘毅、近衛文麿、鳩山一郎、吉田茂、田中角栄

なお、2009年度の授業の最終回には、京大のそばにある西園寺公望の別荘跡（清風荘）を皆で見学しました。



経済学部

「戦後世界経済史」

経済学研究科

岩本 武和 教授

専門分野：国際経済学

ポケットゼミの受講登録を行う際の注意書きに、①「できるだけ自分の学部以外の教員と接することによって視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成するようにしてください」とあり、そのことによって、②「フェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、わからないことなどを直接教員に聞き、アドバイスをもらうこともできるでしょう」と書かれている。

本ポケットゼミの場合、①について言えば、登録者15名のうち8名が経済学部生、7名が他学部生（法・文・農学部生）であり、ほぼ要請を満たしているだろう。②については、最終的には授業評価アンケートで確認するしかないが、開講後2ヶ月時点での教員の感触では、「フェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係」は、ほぼ築かれたのではないかと考えている。ただ、「わからないことなどを直接教員に聞きアドバイスをもらう」という点に関しては、「学生がわからないはずだと思われることを教員が懇切丁寧に教えている」という一方通行に止まっているはずである。これは、学生側の問題というより、私がお節介でおしゃべりであることが主要な要因である。

本ゼミは、猪木武徳『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』（中公新書、2009年）という「テキストを読む」ことを主眼に置いている。著者は、京大経済（学部）⇒東大経済（修士）⇒MIT（博士）⇒阪大経済（教授）⇒日文研（所長）という華々しい経歴と数々の受賞歴を持ち、同著は406頁という新書としては破格の大著である。私が今年度ポケットゼミを担当しようとしたきっかけは、昨年この著作が公表されたことにあると言って過言ではない。

体系的な知識の習得は、通常講義で得られるはずだから、私は上記のように、「学生がわからないはずだと思われることを、教員が懇切丁寧に教える」こと、しかも難解な経済用語や細かな歴史的事実を解説するのではなく、むしろ何気なく読み飛ばしてしまうであろうことに対して、学生にツッコミを入れている。

例えば、「政府が財政政策や金融政策を発動して、インフレを抑制し失業をなくすことは政府の当然の任務と考えているが、1940年代まではこれは決して理の当然ではなかった」という一文。これに対して「何で失業をなくすことが政府の任務ではなかったの？」というツッコミ。学生沈黙ないしはポツポツと独り言。「救貧法など貧乏をなくすことは政府の仕事だったが、失業をなくすことは政府の仕事とは考えられていなかったのだよ」と言って、マクロ経済学の考え方を使って延々と解説、という感じである。

これはこれで、最初はやむを得ないやり方かもしれないが、最終的には、学生が自分で問題提起を行い（ツッコミを入れ）、それらを彼らの間で議論をし、彼らの問題解決に一定のアドバイスをを行う、というようなゼミにしたいと思っている。これがポケットゼミの本来のインストラクター役割であると思っている。



理学部

「活動する宇宙」

理学研究科宇宙物理学教室

嶺重 慎 教授

専門分野：宇宙物理学

理学研究科附属天文台

柴田 一成 教授

専門分野：太陽宇宙プラズマ物理学

ポケゼミのあらし

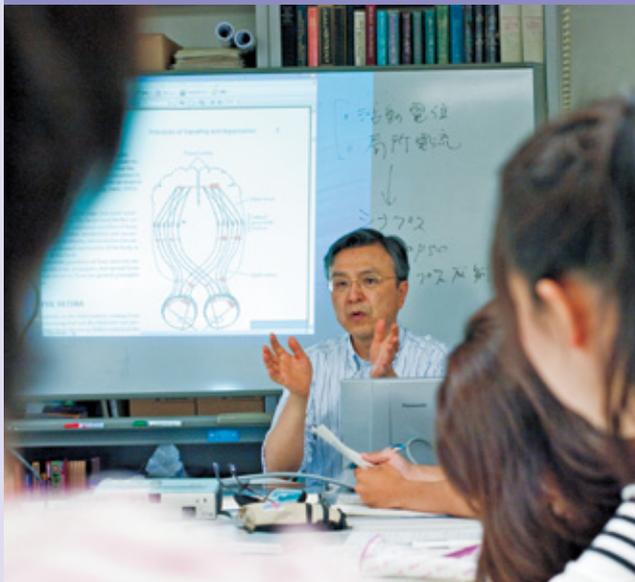
本ポケットゼミでは、テキスト「活動する宇宙」（裳華房、1997年）および「宇宙生物学入門」（シュブリンガー、2008年）を半年かけて輪講し、夏休みに飛騨天文台で2泊3日の合宿ゼミを行なっている。テキスト「活動する宇宙」は、20世紀後半に明らかになった宇宙・天体の激しい活動現象を身近な太陽から100億光年先のクェーサーや宇宙ジェットに至るまで、丁寧に解説した本であり、基礎から始めて学問の最先端まで触れることができる。また、テキスト「宇宙生物学入門」は、天文学、地球物理学、生物学の基礎から、惑星、生命、文明の起源を論じた好著であり、今年からゼミのテキストに追加した。ゼミには、毎年さまざまな学部から8名前後が参加する。毎週、1人の学生が1つの章を担当し、内容をレジュメにまとめ、1時間ほどかけて自分の理解を述べる。その後、教員が詳しい解説をする。

テキストは難しい

元々これらのテキストは学部の3、4年生や大学院生向けに書かれているので、大学に入りたての1回生には、かなり難しい。しかし、それを承知でテキストに採用したのはには理由がある。京大に入る学生がいかに優秀といえども、高校までは手取り足取りの教育しか受けていない。答えのわかっていない問題や予備知識が十分与えられていない教科書や授業は受けたことがない。しかし、大学とはそもそも答えがわかっていない問題を研究するところなのだ。講義や実習も予備知識が親切に与えられるとは限らない。そのような状況でいかに答えを見出し、問題を解決するか、それを学ぶのが大学である。高校や予備校のように教材もヒントもすべて与えられた上での学習ではなしに、右も左もわからない状況の中で、手探りで教材やヒントを自分で探しながら勉強することが要求される。それを大学に入りたての1回生から学んでもらいたい。そういう思いから、1回生には難しいテキストを選んだ。もちろん、担当教員がいくらでも解説や補足ができるゼミ形式ならではの選択である。そして、確かに難しいのだが、毎年、学生は必死にくらいついてくる。文系（文学部や経済学部など）の学生もいるが、和気あいあいと、共に天文学を学んでいる。ゼミでは、途中から担当教員によるスライドショーが始まったり、二人の教員による研究談義が始まったりする。これも学生には楽しみのようだ。テキストは単なる触媒に過ぎない。

夏の飛騨天文台合宿

夏の飛騨天文台合宿は、学生にとって最も楽しい経験だ。飛騨天文台の最先端の望遠鏡や設備を見学し、天気良ければ、太陽や星の観望もできる。運が良ければ、満天の星空に堂々たる天の川を見つけ感動して涙する女子学生もいたりする。合宿ではゼミ発表も重要行事。各人が自分の興味で自由に選んだ宇宙関係の話題の自由研究発表をやる。テキストでは扱わなかった初期宇宙や、宇宙人にまで話が及ぶことがある。食事はすべて自炊。夕食は毎回コンパ状態と化す。半年間同じゼミに出席していたのに、合宿のとき初めて親密に言葉を交わす学生達もいる。合宿とはそういう人と人との交流の場なのかもしれない。



医学部

「脳科学の神話を検証する」

医学研究科

河野 憲二 教授

専門分野：認知行動脳科学

この20年間の神経科学の急速な進歩で、脳に関して様々なことがわかってきました。しかし、マスコミによってその一部が取り上げられ、脚色され、科学的根拠がない情報が発信されることがよく見かけられます。これは、「Neuromyth」(神経神話)と呼ばれ、OECD(経済協力開発機構)でも取り上げられ、注意が喚起されています。このゼミではそのいくつかを取り上げ、この「神話」のもととなった論文を探して読み、科学的に検証していきます。

まず、「Neuromyth」(神経神話)を知ってもらうため、OECDのウェブページや、OECDからの報告書を輪読し、主な「Neuromyth」(神経神話)について学び、自分たちが「脳」について知っていることについて、どのようにしてその知識を得たか考えてみます。

次に、脳・神経系の働き方や構造、研究手法など、「Neuromyth」(神経神話)の科学的な根拠を検証するために必要な基本知識を学ぶため、神経科学の教科書の相当する章を輪読します。

脳科学の神話には、OECDで取り上げられている「私たちは脳の10%しか使っていない」、「左脳型の人と右脳型の人がある」とか「男女の脳は違う」といったものの他にも、私たちが時々見聞きすることのある「モーツァルトの音楽を聴くと頭がよくなる」といった神話もあります。神経科学の基本知識の学習を進めていく過程で、脳科学の神話(あるいは学説)の中から聴講生自身が興味をもったものについて調べてもらいます。各自が選んだ神話のもととなった論文をPubMed(論文データベース)などで探し、順次その内容について発表、説明します。論文で示された実験結果と神話との関わり方について全員で討論し、検証していきます。

このゼミに参加して学ぶことで、脳の働きが現時点でどこまでわかっていて、何がわかっていないかを知り、実験結果をどこまで一般化してよいか考えてもらい、今後新たに生まれてくるであろう神話にも、科学的根拠に基づいた客観的な評価ができるようになってほしいと思っています。



薬学部

「くすりの化学 Organic Chemistry of Pharmaceuticals」

薬学研究科

竹本 佳司 教授

専門分野：薬品分子化学

京都大学

藤井 信孝 理事

薬学研究科

掛谷 秀昭 教授

専門分野：システムケモセラピー(制御分子学)

伊藤 美千穂 准教授

専門分野：薬品資源学

山田 健一 准教授

専門分野：薬品合成化学

高須 清誠 准教授

専門分野：薬品分子化学

服部 明 准教授

専門分野：システムケモセラピー(制御分子学)

大野 浩章 准教授

専門分野：薬品有機製造学・ケモゲノミクス

大石 真也 講師

専門分野：薬品有機製造学・ケモゲノミクス

山本 康友 助教

専門分野：統合薬学教育開発

塚野 千尋 助教

専門分野：薬品分子化学

西村 慎一 助教

専門分野：システムケモセラピー(制御分子学)

授業のテーマと目的

医薬品が開発されるまでの探索から設計・合成までを眺め、薬の化学の面白さと難しさを探る。

授業計画と内容

現在使用されている医薬品の歴史的な流れを理解しながら、なぜ有機化合物が医薬品として機能するのか、なぜ副作用を抑えるのが難しいのかなどについて調べ、考え、理解する。



工学部

「地盤の科学入門」

工学研究科

岡 二三生 教授

専門分野：地盤力学

木元 小百合 准教授

専門分野：地盤力学

肥後 陽介 助教

専門分野：地盤工学

地球環境学堂

勝見 武 教授

専門分野：地盤環境工学

乾 徹 准教授

専門分野：地盤環境工学

このポケットゼミは1998年以来、地盤力学研究室を中心に地盤系の研究室のスタッフで担当してきました。土の力学の難しさは、工学的応用のみでなく、物性そのものを研究する必要があるわけ、理学的な側面があります。地盤の科学は砂や粘土など土や柔らかい岩を対象としていますが、応用のみでなく、基礎的な地盤の挙動を含んでいます。学生には、地盤の工学的な取り扱いのみでなく、粉体や粒状体の力学など広がりのある問題に接する機会としての地盤の科学に触れてほしいと思います。以下取り上げている話題について紹介しましょう。

(1)地震時の被害の原因の1つである地盤の液化化です。地盤の液化化とは普段は地下水を含んでも固体状態でしっかりした砂地盤が、地震などによって力を受けると、地盤が液体状になる現象で、1995年に起こった兵庫県南部地震では、神戸市の沖合に建設された埋立地（ポートアイランド）で大規模な液化化現象が発生しました。液化化はその結果生じる噴砂、すなわち水と砂が混ざり合って地表に噴き出ること、また出た砂を見ることによって発生したことがわかります。ポートアイランドでは、埋立地の約半分が、水と土砂のまざった泥水でおおわれました。ゼミでは、水槽中の水で飽和した砂の中にフィルムケースをいれておき、振動させることによって浮き上がる簡単な実験などの実験を行い、液化化を学生自身に体験してもらいます。

(2)2つ目のテーマは新しいエネルギー源である地盤中のメタンハイドレート（MH）に関する話です。メタンガスは、温度が低く圧力が高いと、たとえば温度が摂氏5度で5MPaなどではシャーベットのようなハイドレート（水和）状態で存在します。低温・高圧条件下で、水分子がメタン分子を取り込み、籠状構造を形成したもので、主に海底地盤、永久凍土下に存在しており、世界の海底下やカナダやロシアの寒冷地の地下に存在します。バイカル湖の湖底などから引き上げられた試料には、白色のMHの含有が観察されています。日本では南海トラフ、新潟沖やオホーツク海底下などにあります。現在このメタンハイドレートからメタンガスを生産するための研究や、MHの物性や自然分解の研究が行われています。地盤中に存在するMHが分解すると地盤の沈下や海底すべりなどの変形破壊が発生する可能性があるため、MHに関する環境への影響を明らかにする必要があります。ゼミでは最新のデータなどを材料に環境への影響やエネルギーとして使用する場合の問題点を検討しています。その他、トンネルの掘り方、地下水のくみ上げによる地盤沈下問題や地盤の化学的汚染問題も取り上げています。工学研究科の桂キャンパス移転で研究室が桂に移ったので、吉田キャンパスだけでなく桂キャンパスでもゼミを行っています。また、夏休みには現場見学も行っています。



農学部

「植物と微生物の戦い」

農学研究科応用生物科学専攻

高野 義孝 准教授

専門分野：植物病理学

病害による世界の農業生産被害は約15%といわれており、これは8億人の食糧に値すると推定されています。そして、植物病害の80%以上は、糸状菌（カビ・菌類）によって引き起こされており、病原糸状菌の感染脅威から、有用植物を保護する技術は、人類生存の生命線といっても過言ではありません。本ゼミでは、この農業被害の背景において、日夜、繰り広げられている、植物と病原微生物（特に糸状菌）の熾烈な攻防戦に焦点をあてます。

ボケゼミは、少人数の学生を対象としており、そのため、受講生と教員、そして受講生同士の密なコミュニケーションを実現できる利点があります。この点を最大限に活かし、本ボケゼミでは、「植物と微生物の攻防戦」を単に勉強し、その知識を習得するだけでなく、この学問領域をひとつのケーススタディとして、「研究とは何なのか？」について、その具体的イメージを一回生の皆さんに感じ取ってもらうことを目標としています。

植物は、病原微生物との果てのない戦いの中で、驚くほど、巧妙な抵抗性メカニズムを獲得していることが、近年の分子生物学的研究により、徐々に明らかになってきています。本ゼミでは、この植物抵抗性を支える分子メカニズムを対象とした、多面的な学習プログラムを設定しています。まず、最初のステップとして、受講生の皆さんには、植物抵抗性のエッセンス的レクチャーを担当教員より受け、この領域の基礎知識を身につけていただきます。研究活動において、国際的雑誌に発表される科学論文（いわゆる原著論文）を読み、理解することはとても重要なプロセスです。そこで、レクチャーに続いて、関連する科学論文（英語）の輪読に挑戦してもらい、そこから、研究における、データの厳密な解釈、精緻な論理の展開について学習してもらいます。

また、大学院生とのディスカッションの時間を設定し、研究を実際におこなっている先輩との交流から、研究活動の臨場感を感じ取ってもらいます。さらに、研究室見学、および、植物抵抗性に関わるいくつかの実験の実施を計画しており、これらの活動を通じて、研究というものの具体像を受講生に紹介していく予定です。

そして、最後の試みとして、受講生自身が、関連する新たな科学論文を読み、理解し、他の受講生の前でその内容を紹介する、「プレゼンテーション」に挑戦してもらいます。これら一連の植物抵抗性研究に焦点をあてた多面的な学習を通じて、研究とはどのような活動なのか、その具体像を受講生の皆さんにお伝えしたいと考えています。本ゼミは、このように、一回生にとっては、チャレンジ性の高い内容になっていますが、少人数制の強みを生かし、密な相互コミュニケーションをおこなうことで、一段ずつ、着実に階段を上っていきたいと思っています。ぜひ、参加してみてください。

学術情報 メディアセンター

ダイナミックに変化する情報環境において、
実社会で即戦力となる人材の育成と、
情報処理の基礎教育に取り組んでいます。

[写真] CALL 自律学習用端末の利用風景

教育における学術情報 メディアセンターの役割

全学共通科目の語学教育と情報教育をセンターの計算機環境を利用して行っています。

全学共通教育における役割

学術情報メディアセンターでは、京都大学におけるさまざまな教育研究活動を支えるために、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営しています。センターでは、学術情報ネットワーク(KUINS)、スーパーコンピューティングサービス、および学生の皆様に関係の深い語学学習システム(CALL)、教育用コンピュータシステム、そして、遠隔講義支援サービスを情報基盤機構と共に提供しています。

CALL

CALL(コール)とは、Computer-Assisted Language Learning の略で、コンピュー

タを使用した外国語学習を指しています。CALL 授業には、「教室学習型 CALL」と「自律学習型 CALL」があります。「自律学習型 CALL」クラスは、学生が大学の自習室や自宅などコンピュータの使用できる環境で、CALL 用に開発された CD-ROM 教材を使用し、時間や場所に拘束されることなく学習することができます。

現在、自律学習型 CALL を大規模に導入している英語授業では、成績は3回の試験の得点とFDに記録された学習時間に基づいて判定されます。

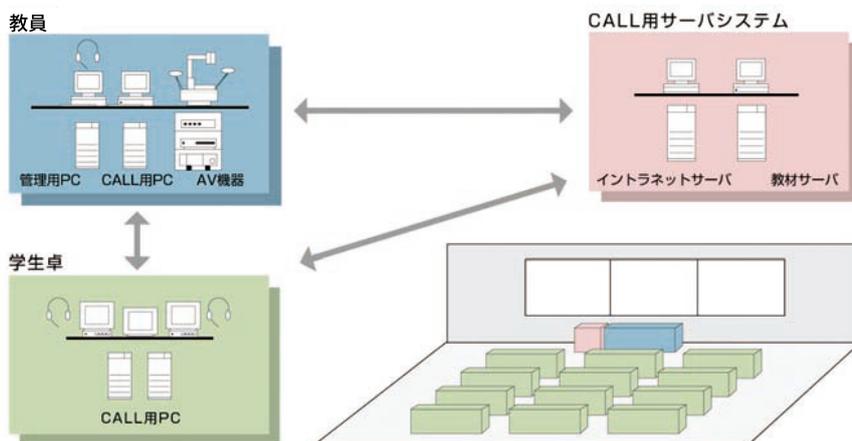
英語における自律学習型 CALL の導入は、再履修者が非常に多くなり、大人数クラスでの授業を余儀なくされたため、高度な英語教育の実施に支障を来すようになったことが契機ですが、「発音、文法、基礎会話」等の外国語基礎運用能力向上のための新しい教育方法として、他大学から高い評価と関心を得ているだけでなく、学生の満足度も高いという結果が出ています。

また、ドイツ語、フランス語等においても CALL 用の教材を独自で開発し、教室学習型 CALL 授業に導入するとともに、CALL 用自習室における学生の自律学習にも活用されています。

情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行われています。

学術情報メディアセンターでは、全学共通科目だけでなく、各学部でのメディアを利用した教育も支援しています。



[図] CALL 教室システム概念図



[写真] 上：CALL 自律学習用端末の利用風景 /
下：CD-ROM 版 CALL 教材

センターの提供するシステムおよびサービス

CALL 自律学習コーナー / CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

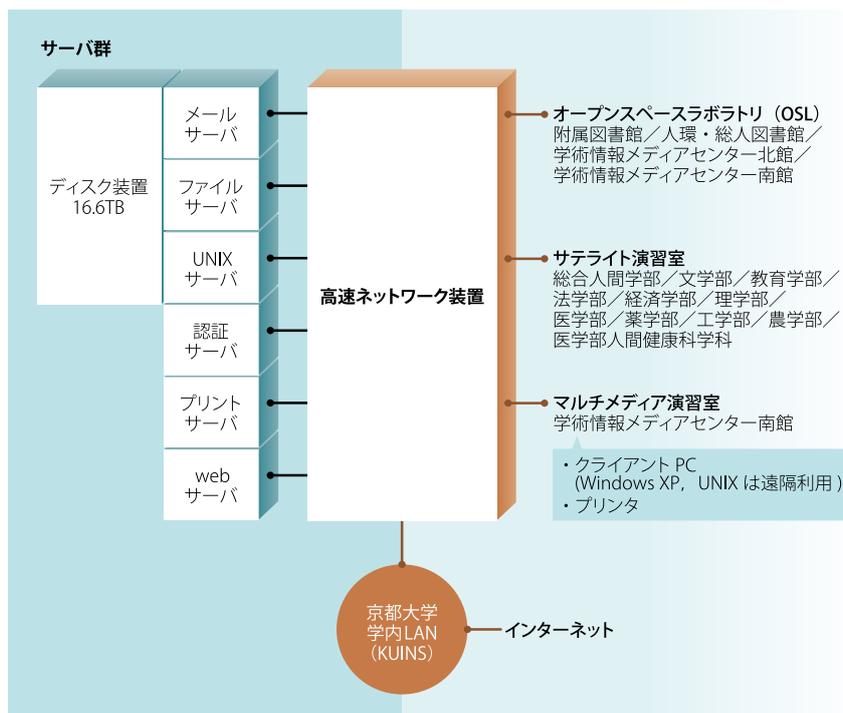
CALL 自律学習用端末では、センターで開発された Introduction to the Beauties of Kyoto を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては、必須の環境となっています。

また、同じく語学の自習室として、吉田南総合館北東2階に設けられた「CALL Learning Space」には、ヘッドセットとCALL 授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を20台設置し、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。

教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムはネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,300台を学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室やCALL教室、サテライト端末室など30カ所に展開しています。その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター北館および南館、附属図書館、人間・環境学研究所総合人間学部図書館内にオープンスペースラボラトリー (OSL) として設置し、運用しています。

これらの端末では、Windows と Linux の2システムのオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWW ブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。



【図】教育用コンピュータシステムシステム構成図

学術情報メディアセンター

- 北館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10:00～17:00
(土日祝日閉館)
- 南館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10:00～20:00
土曜日：10:00～18:00
(日祝日閉館)

担当：情報環境部 情報基盤課
教育システム支援グループ

遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、さまざまな遠隔講義の支援を行っています。国際遠隔講義としては、時差の少ないアジア圏との遠隔講義が定期的に行われています。台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、

吉田、桂、宇治それぞれのキャンパスを結ぶ高精度遠隔講義システムも運用されています。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。

このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システム SCS の運用を行っており、国内の多数の大学・研究期間を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。さらに、このような遠隔講義の設備や技術を用いて、京都市や京都府をはじめとする学外組織の文化・学術活動を支援しています。



【写真】国際遠隔講義風景

担当：情報環境部 情報基盤課
ネットワーク・遠隔講義支援
グループ

図書館

貴重な資料、データベースなど
充実した学術情報と、館内施設・設備による
学習支援・研究支援を行っています。



[写真] 開架図書棚

附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能をもち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約85万冊、全学で約637万冊所蔵しており、創立より110年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、デジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

蔵書数（平成22年3月31日現在）

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	600,752	252,265	853,017	14,042	9,186	23,228
全学	3,292,251	3,086,564	6,378,815	55,677	52,914	108,591

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む全学の所蔵雑誌種類数はのべ数

館内の施設・設備等

3階の情報端末エリアには情報環境機構のオープンスペースラボラトリーとして106台のパソコンおよび情報コンセント22口があります。このパソコンの利用にあたっては情報環境機構への登録が必要です。

また1,2階閲覧室の北側エリアでは、無線LANが利用できますので、情報環境機構へ登録していれば、持参のノートパソコン等でインターネットに接続することもできます。

学習室24

学習室24は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースです。91席の自学自習用のエリアと、41席の飲食・談話ができるエリアがあり、無線LANの設備も用意しています。

学習室24は、利用者の安全を考慮して、入退室する際に必ず学生証あるいは職員証を認証装置に通す必要があります。また、防犯カメラを6か所に設置し、夜間には警備員を配置しています。

研究個室

研究個室は、大学院生と教員向けに、より研究に専念できる環境として用意した一人用の個室です。附属図書館の3階に14室あり、各部屋には有線の情報コンセントを設置しています。

共同研究室

共同研究室は、グループでの共同研究や学習のために利用できる部屋です。4名以下の少人数向け2室、8名程度の中規模向け2室、20名収容可能な1室の合わせて5室を用意しています。これらの部屋全てには、有線の情報コンセントを設置しています。また、ホワイトボードやプロジェクターを使うこともできます。共同研究室は学部学生も利用することができます。

館内の施設・設備等

閲覧室	1,289席
1階	端末コーナー、学習室24、参考図書、雑誌、新聞の各コーナー
2階	開架図書と閲覧室
3階	情報端末エリア、メディア・commons、ライブラリーホール、研究個室、共同研究室
地階	書庫

蔵書検索システム (KULINE)

京都大学の蔵書は、蔵書検索システム KULINE (Kyoto University Libraries Information Network system) で検索できます。KULINE はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。URL <https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac>

KULINE は京都大学の蔵書約 637 万冊のうち約 482 万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館・図書室で所蔵されているかを知ることができます。中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできます。

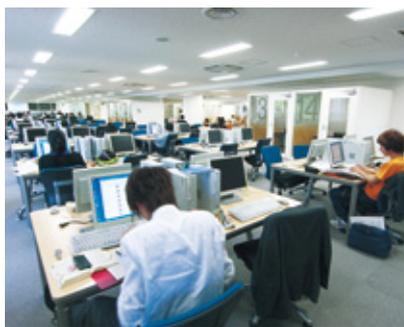
メディア・コモンズ (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモンズ」があります。CD、DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉強や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ 240m² のスペースに、DVD やビデオ・カセットが見られる 1 人用個人ブースが 16 席、窓越しに時計台や吉田山を見ながら CD、カセットを聴くことができる 1 人用ソファが 8 席、50 インチの大型プラズマ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる 4 人用 AV コーナーが 2 カ所等合計 32 席があり、さらに 5.1 チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター (防音設備付/10 席) などがゆったりとした空間に配置されています。京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のコレクションを含む CD6,606 点のほか、DVD889 点 (映画, ドキュメンタリー, 音楽ほか), ビデオ 465 タイトル (ドキュメンタリー, 言語) などを置いています。



[写真] 閲覧室



[写真] オープンスペースラボラトリー



[写真] 端末コーナー



[写真] メディア・コモンズ (Media Commons)



[写真] 外観

京都大学の学習・研究活動を支える図書館・図書室群

附属図書館

附属図書館宇治分館

人間・環境学研究所総合人間学部図書館

文学研究科図書館

教育学研究科・教育学部図書室

法学研究科・法学部図書室

経済学研究科・経済学部図書室

[理学研究科・理学部]

理学部中央図書室

数学教室図書室

物理学教室図書室

宇宙物理学図書室

化学教室図書室

生物科学図書室

地球惑星科学専攻図書室

医学図書館

医学図書館人間健康科学系図書室

薬学研究科・薬学部図書室

[工学研究科・工学部]

地球系図書室 (桂)

建築系図書室 (吉田・桂)

物理系図書室

航空宇宙工学図書室

電気系図書室 (吉田・桂)

化学系図書室 (桂)

工業化学科図書室

地球工学科図書室

農学部図書室

農学研究科生物資源経済学専攻司書室

エネルギー科学研究科図書室

[アジア・アフリカ地域研究研究科]

アジア専攻図書室

アフリカ専攻図書室

情報学研究科図書室

地球環境学堂図書室

国際交流

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。



留学交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材養成に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在100の国・地域から約1,600名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら1年以内の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、学生交流協定を締結している海外の大学から学部学生を半年も

しくは1年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は24科目(平成21年度実績)で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。

授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学(交換留学)について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、1年以内の1学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。学内で年2回募集を行い、書類選考及び必要に応じ面接により候補者を決定します。

京都大学では19カ国・地域の53大学2大学群と学生交流協定を結んでいます。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

派遣留学(交換留学)に関するQ&A

Q1: 学生交流協定とは何ですか?

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めで、1) 在籍する大学に授業料を納めることにより留学先大学での授業料等が免除されることや2) 留学先で修得した単位が在籍する大学で認定される場合があることなどについての取り決めをしています。

Q2: 派遣留学(交換留学)とは何ですか?

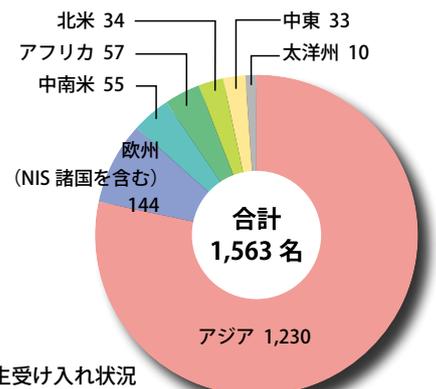
国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1年以内の1学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位取得を目的としない留学をし、教育を受けて単位取得し、又は研究指導を受けるものです。

Q3: 外国語力・学力はどのくらい必要ですか?

多くの協定校では、英語圏ではTOEFL

工学部地球工学科国際コース

工学部地球工学科では、国際的技術者の養成を目的とし、多様な国籍の学生が共に学ぶために、全ての授業を英語で受講できる国際コースを2011年4月より開設します。留学生向けには、一般入試とは別途の選抜試験を行います。一般入試を受験された方も合格後、本コースを選択することが可能です。本人の申し出により適性を判断して国際コースへの配属を決定します。本コースは、「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム K.U.PROFILE (Kyoto University Programs for Future International Leaders)」の一環として開設されます。



外国人留学生受け入れ状況
(平成22年5月1日現在)

iBT 80～100点程度、中国語圏では旧 HSK で6級、新 HSK で5級などのように、講義等で使われる言語の検定試験の成績を受入条件として定めていますので、学習、受験してクリアすることが必要です。また、京都大学での学業成績については、受入条件として基準を定めている協定校はないですが、留学先ごとの定員を超える希望者があった場合、京都大学内での派遣候補者選考において、学業成績のより優れた者に協定校への出願権を与える原則となっています。

Q4：派遣留学（交換留学）の準備にはどのくらいの期間がかかりますか？

派遣留学（交換留学）を希望する学生は、おおむね想定する出発時期の1年ほど前に、所属する学部・研究科を通じて学内選考用の申請書（日本語）を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学（交換留学）は、年度により募集日程及び留学可能な協定校に多少変更がありますが、おおむね春と夏に学内募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留

学希望先の指定する願書、推薦状、留学目的、履修希望科目を記した書類等を提出することになります。

Q5：派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか？

留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める単位認定制度があります。

Q6：一募集期に、複数の大学に応募できますか？

第二希望まで選んで学内応募できますが、実際の出願は学内選考・調整により、一校に絞ってもらいます。

Q7：大学の情報・資料はどこで入手できますか？

協定校から送られてくる資料は、留学生ラウンジ「きずな」に保存してありますので、自由に閲覧できます。「きずな」にない場合は各校のホームページで確認してください。

Q8：派遣留学（交換留学）するための奨学金はありますか？

協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成制度があります。

- 1 独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度（短期派遣）：奨学金 月額 80,000 円

- 2 京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」：渡航費の一部助成

「留学のスズメ」～京大による京大生のための留学説明会～

学生のみなさんに海外留学を身近に感じてもらうため、国際交流センター/留学生課では年間を通して「留学のスズメ」と題し、各種説明会を開催しています。主な内容として、交換留学や大学院留学のほか、語学研修、海外インターンシップ、TOEFL 対策等があります。教職員や生活協同組合、関係団体に加え、学生組織や実際に留学をした学生等による留学情報満載の講演や留学体験談を、また海外協定校から本学に受け入れている交換留学生や、その大学へ留学した経験を持つ京都大学生による協定校紹介を行っています。所属部局の掲示板や京都大学 HP で説明会情報をチェックして、是非気軽に参加してください。

（京都大学 HP 掲載 URL）

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/international/students3/susume/>

大学間学生交流協定校への派遣実績一覧（平成 21 年度）

国・地域	大学名	人数
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
	ペンシルベニア大学	2
英国	シェフィールド大学	1
	マンチェスター大学	2
オーストリア共和国	ウイーン大学	1
オランダ王国	ライデン大学	1
	ユトレヒト大学	1
カナダ	トロント大学	3
	ケベック州大学学長校長協議会	2
	ウォータールー大学	7
シンガポール共和国	シンガポール国立大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	1
スウェーデン王国	ストックホルム大学	2
台湾	国立台湾大学	1
中華人民共和国	清華大学	1
ドイツ連邦共和国	ミュンヘン大学	1
フランス共和国	ストラスブール大学	5
	グルノーブル大学連合	1
計（12カ国・地域）	17大学2大学群	37

その他、学部・研究科独自の学生交流協定に基づく留学、個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした調査等の海外渡航が京都大学生により行われています。

「留学のスズメ」開催実績（平成 21 年度）

月	日	タイトル・内容	
4月	1日(水)～3日(金), 6日(月)	国際交流センター新入生説明会	
5月	25日(月)	International Week	学部生・院生のための交換留学説明会
	26日(火)		大学院留学 ～留学生生活編～
	27日(水)		大学院留学 ～留学準備編～
	28日(木)		夏の語学研修ガイダンス
6月	29日(金)		学生時代に体験する海外インターンシップ
	10日(水)	先輩体験談	交換留学経験者による体験談
	17日(水)		KCJS/SCTI英語講義聴講経験者による体験談
	22日(月)		海外インターンシップ経験者による体験談
	12日(金)	海外協定校紹介	Part 1：タイ・カセサート大学
19日(金)	Part 2：アメリカ・ペンシルベニア大学		
26日(金)	Part 3：オランダ・ユトレヒト大学		
7月	15日(水)		アジア留学説明会
	16日(木)		海外渡航安全説明会
10月	6日(火)		海外インターンシップ説明会
	13日(火)		
11月	19日(木)		(特別編) St. Gallen Symposium説明会
	30日(月)	海外協定校紹介 (第2弾)	Part 4：オーストラリア・メルボルン大学
	7日(月)		Part 5：メキシコ・グアダハラハラ大学
	Part 6：フランス・ストラスブール大学		

大学院進学

学部教育で身につけた知識や技術をより深め、次世代を担う研究者・実務者をめざす。



【写真】湯川記念館 湯川秀樹博士像

京都大学の卒業生には、伝統ある「自由の学風」の中で培われた知性・感性・倫理性といった力を、社会における様々な分野の中でさらに磨きつつ、活かして行くことが期待されています。学部卒業後の進路としては就職か大学院進学が考えられますが、いずれの進路を選ぶにせよ、京都大学は、皆さんが誇りある京都大学卒業生として、社会に貢献できるような道を進めるよう、サポートします。

大学院進学者は、全国的に増加傾向にあります。とりわけ京都大学は、大学院を充実させた研究型大学の特徴として、平成22年(2010)3月に学部を卒業した2,825名のうち、約60%が大学院に進学しました。

各部卒業後に就職の道へ進んだのは、約31%です。その就職先は、後のページに挙げるように、多種多様な職種へと進み、大学で学んできた知識と技能を活かしています。

大学院進学

学部を卒業した後、学部教育で身につけた知識や教養、技術をより深めることを希望するならば、大学院進学を選ぶことになるでしょう。

大学院とは、次世代を担う研究者あるいは高度な知識と技能を持った実務者を養成する課程です。したがって、学部教育よりもさらに専門的な知識を身につけ、自分自身で研究を行う能力や専門的な実務能力を養うことになります。標準修業年限は、博士前期課程(修士課程)の2年間でそれに続く博士後期課程(博士課程)の3年間で、定められた単位を修得し、必要な研究指導を受けて研究論文の審査と最終試験に合格

すれば、修士もしくは博士の学位が授与されます。またいわゆる飛び級制度を認めている大学院もあります。指定の単位を優れた成績で取得した者で学部在籍が3年間以上の者に入学を認めたり、それぞれの標準修業年数に満たなくても学位を授与したりする場合があります。

進学先については、学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる分野の大学院へ進学することも可能です。一般に大学院には学部よりも多種多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、多様性が増すこととなります。

学部を持つ大学院

京都大学の10の学部は、それぞれが大学院を備えています。正確に言えば、大学院重点化が行われた現在は、大学院が主たる組織であり、そこが学部教育も提供しているという形になります。学部とつながる

大学院は、総合人間学部と統合した人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科です。それぞれが、学士課程(学部)の教育と連続した、高度な研究と教育をおこなっています。詳しくは、各学部の紹介のページを参照してください。

独立研究科

京都大学には学部を持たない大学院課程、すなわち独立研究科が5つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、生命科学研究科、地球環境学舎、がそれにあたります。いずれの研究科においても、多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

エネルギー科学研究科では、エネルギー

平成21年度卒業者の進路状況(平成22年5月1日現在)

学部名	進路		卒業生数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	90	39	41	12	39	23			10	4		
文学部	110	96	45	27	46	56			19	13		
教育学部	41	30	17	9	19	16			5	5		
法学部	260	94	88	35	111	37			61	22		
経済学部	210	42	26	5	157	33			27	4		
理学部	251	20	209	17	28	1			14	2		
医学部	129	112	18	28	24	59	76	20	11	5		
薬学部	49	10	47	10	2	0			0	0		
工学部	883	63	765	54	89	9			29	0		
農学部	190	106	164	84	22	21			4	1		
男子計	女子計	2213	612	1420	281	537	255	76	20	180	56	
合計		2825		1701		792		96		236		
百分率		100.0%		60.2%		28.0%		3.4%		8.4%		

進学者数には大学院へ入学した者8名(男6名・女2名)を含む。

持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ学際領域としてエネルギー科学の学理の確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成することをめざしています。

アジア・アフリカ地域研究研究科では、これまでの京都大学での地域研究の伝統をもとに、大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域の現場での生活を通して問題を発見し、生態・社会・文化が複合する地域の実態の調査研究を進めていく地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

情報科学研究科では、自然および人工システムにおける情報に関して、その生成や認識、伝達、制御などの幅広い側面について、人文科学と理工科学との学際的な手法により研究していきます。そこでの成果は、人類知の様々な分野に寄与することが期待されています。

生命科学研究科では、従来の理学、農学、医学、薬学分野の知識と技術を統合し、遺伝子、分子、細胞を探索の単位とする従来の生命科学を超え、より高次の生命現象解明へ取り組む新しい生命科学の研究を創出し、複雑な生物圏を理解し地球環境保全と人類の福祉と幸福に寄与できる人材の養成をめざしています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適応しうる人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

専門職大学院

研究者養成に主眼をおいていた従来の修士課程とは異なり、高度で専門的な職業能力をもった実務家を養成するための、新しい形の大学院です。現場で活躍する各分野のスペシャリスト等も専任教員として招き、現場の複雑な問題を解決するための知識と技能の獲得をめざした教育をおこなっています。京都大学では、医学研究科で平成12(2000)年に専門大学院として開設された社会健康医学系専攻が、平成15(2003)年専門職大学院となりました。また法学研究科では法曹養成専攻(法科大学院)を平成16(2004)年に開設しました。さらに、平成18(2006)年には公共政策大学院および経営管理大学院の2つの専門

職大学院が開設されました。以下に簡単に紹介します。

医学研究科社会健康医学系専攻

この専攻は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職につくことを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な幅広い知識、技術、態度を身に付けることを目的としています。教育の対象となる分野は自然科学から人文社会科学まで多岐にわたります。

わが国は知的創造立国を志向しており、今後は医療分野でも特許を広く認めようとしています。そこで先端医学の研究成果を知的財産として管理・活用する高度専門職を育成するために、平成16年度には知的財産経営学コースが開講されました。

また、ヒトや集団を単位とした臨床研究を推進するため、平成17年度には医師・歯科医師を対象とした1年制のコース臨床研究者養成コースを開設しました。

さらに平成18年度には、先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する遺伝カウンセラー・コーディネータユニット(「遺伝カウンセラーコース」・「臨床研究コーディネータコース」)が開設されました。

法科大学院

法科大学院は、法が精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法律家を養成します。法学部・法学研究科の伝統にならい、自主・独立の精神と批判的討

議を重んじ、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的理解、緻密な論理的思考能力、法律家としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎え、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を提供しています。

公共政策大学院

公共的な仕事に携わる高度専門職業人を養成する専門職大学院として、2006年4月に開学した大学院です。定員40名で、少人数教育をとります。専任の教員は12名ですが、他にも法学研究科、経済学研究科をはじめとした、他研究科の教員、さらには実務家が授業を担当します。

ここでは、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人を育てることを目的にしています。したがって公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識だけではなく、優れた教養と高い倫理的責任感を備えた人材の育成を目指しています。そのため、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目を提供すると同時に、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目も多数用意されています。



[写真] 法科大学院における模擬裁判による授業

経営管理大学院

マネジメントに関する専門的かつ実践的な能力を備えた真のプロフェッショナルを育成するための大学院です。ビジネススクールとして、専門的知見を持つ社会人、多様なバックグラウンドを持つ学生、外国人留学生といった人材を受け入れており、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、現代の複雑なマネジメント諸課題に取り組むことができる実践的知識と論理的思考力の獲得を目指します。

本大学院は、科学的な理論に基づいた専門的な知識と実践的な問題解決能力を修得するために、多様な授業科目を提供します。そして、主に1年生前期に基礎科目、1年生後期から2年生前期に専門科目、そして2年生前期からは実務科目と発展科目という体系的な履修を実現する科目構成をとっています。そして、スーパーバイザーが、それぞれの学生の知識や履修状況、そして将来の希望を踏まえ、履修すべき科目や学修すべき内容についてアドバイスを与え、積極的に学びを支援します。

社会人のための大学院コース

現在、社会状況はますます複雑化し、職業を持つ社会人でも大学で再び学び直すことを希望する人が増えています。あるいは、大学を卒業して就職した後に、現場の具体的な問題に触れてこそ、学習や研究を深めていく必要性を感じるといった場合もあります。このような要請に応えるため、京都大学には社会人の大学院進学のための制度が整備されています。この制度には大きく分けて、研究者養成を主眼にした大学院がおこなっている「社会人特別選抜」と、先述した高度専門職業人養成大学院への入学があります。

京都大学でも多くの大学院が社会人特別選抜をおこなっています。いずれも、社会での実務経験のある人材に対して門戸を開き、リフレッシュ教育の機会を提供するとともに、多様な人材を受け入れることで大学院の活性化をねらっています。

また、専門職大学院では、当該専門と直結する分野以外を卒業した者や在職社会人を積極的に入学者として受け入れており、多様なバックボーンをもつ人々がこれまでの自分のキャリアを活かしつつ、専門的な職業能力を身につけるよう工夫されています。

※ 大学院の詳細な内容や入学選抜方法については、大学院各研究科にお問い合わせ願います。

大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています。）

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻		●	●							
法学研究科 法政理論専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
経済学研究科 経済学専攻					●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
医学研究科 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 人間健康科学系専攻							●			●
薬学研究科 薬科学専攻 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻 医薬創成情報科学								●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●								●	
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻 グローバル地域研究専攻						●				●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●
公共政策大学院				●	●					
経営管理大学院					●	●			●	

就職支援

企業・組織での実務者として、
社会での活躍を目指すために。
豊かな人生をおくるために。



【写真】就職ガイダンス風景

キャリアサポートセンター

就職氷河期の再来が叫ばれ、就職活動に苦戦を強いられる学生が多いのは京都大学でも例外ではありません。しかし、企業でも官公庁でも優秀でかつやる気のある人材を求めていることに変わりはありません。

優秀な人材には複数の内定が出る一方で、全く結果が出ない人もいなど人材の二極化が明らかになっています。一方、学生側の就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るか、学生がいかに自分の能力や経験を活かせるかが大きな課題となってきました。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであると考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧並びにメールマガジンの発行、求人票検索システム



【写真】キャリアサポートセンター

の運用等を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることから、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

キャリアサポートセンターは、時計台のある吉田キャンパスの他に宇治キャンパスおよび桂キャンパスにもサテライト（分室）を開設しています。

ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併せて業界研究を行うことを目的とした「業界研究セミナー（旧、企業ガイダンス）」の実施のほか、少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、個人又は少人数を対象としたエントリーシート添削、模擬面接などを実施しています。「キャリアデザイン講座」として、学部1・2回生を対象とした将来のキャリアを考えるための講座、将来研究者を目指す人たちに向けの講演会、女性のキャリアを考える講演会などを実施しています。また、有料の講座を、外部で受講するより割安で受けられるシステムを導入し、キャリアアップの機会増大を図っています。※昨年度開催のガイダンス等一覧は次ページの表を参照してください。

若手研究者キャリアパス多様化計画

大学院へ進学し博士の学位を取得した人材が、大学等の研究機関以外の多様な方面に進

み、その高度な専門性と能力を活用することが大いに期待されています。キャリアサポートセンターでは、このような人材が主体的に進路を選択し、社会の多様な場において専門性を生かして活躍できる環境を創出するための様々な支援を行っています。

就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています（予約制）。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。

インターンシップ —実社会体験を学びに活かす—

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を、大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生在がインターンシップを体験し、近年は、外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在在学生も増えています。本学では、このような学外でのインターンシップを授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部（学科）や研究科もあります。

インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して、次のような効果が期待できます。

- ・ 責任感や人間関係を学び、人間的に大きく成長することができる。[人間的成長]
- ・ 働くことに対してのイメージがより具体的になり、目的意識を持った就職活動を行える。 [修業意識の高揚]
- ・ 自らの学生生活を振り返る良い機会となり、今、自分が何をすべきかが見えてくる。 [学習意欲の向上]

インターンシップの種類

- ・ 学外実習等の授業科目とする場合。
→単位として認定します。
- ・ 学校行事等、大学等における活動の一環として位置づける場合。
→単位認定しません。
- ・ 企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合。
→単位認定しません。

海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高っています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため、京都大学内においては、以下の2つの委員会が活動しています。

「外国での研修に参加しよう!」

—京都大学イアエステ学内委員会—

イアエステ (<http://www.iaeste.or.jp/>) は、理工農薬系学生のための国際インターンシップを仲介している国際非政治団体です。海外に派遣される学生は主に夏休みを利用し2~3ヶ月間、現地の企業や、大学、研究機関で就業体験します。イアエステ日本支部は1964年の設立以来、2,500人以上の国内の学生を海外へ派遣しています。また、理事役員メンバーの指導の下、事務局職員と学生ボランティア(学生運営委員会)によって運営されています。

私達はその京都大学学内委員会のメンバーで、夏休みに来日する海外の研修生のサポートや、学内での派遣生募集の為に認定試験などの広報、派遣予定の日本の学生と帰国してきた派遣生OBとの交流会の開催など、インターンシップに関するあらゆる援助をしています。

認定試験を受けて、海外で自らの力量を試すのもいいですが、国内での受け入れや派遣の支援という裏方のような活動をする事で見えてくる世界もあります。専門分野を持つ海外の学生と交流できるのも大きな刺激になります。国際的な広い視野を有する研究者を目指す方、理系・文系の垣根無く、英語をツールとして使いたい皆さん、イアエステについてもっと知ってみませんか?

「It's up to you!」

—アイセック京都大学委員会—

アイセックは、100を超える国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の国際学生NPOであり、“Peace and Fulfilment of Humankind's Potential”を理念に、海外インターンシップ事業を行っています。アイセック京都大学委員会は、海外インターンシップの運営を行い、学生に対して異文化環境のもとで社会経験を積む機会と学びを得る機会を提供しています。また企画事業として、着物を通じて日本の伝統文化への理解を促す活動も行っています。

(<http://www.aiesec.jp/kyoto/>)

国内外に幅広いネットワークを持つアイセックには、多種多様なステージで活動できる機会が存在します。インターンのため来日した各国の優秀な学生や、海外へインターンの場を求める意識の高い日本人学生...彼らのサポートをする中で、アイセックメンバーは日々多くの刺激を受けています。JICAや大学教授・企業など外部パートナーとの協働、他大学・他国のアイセックメンバーとのプロジェクトなどを通して、価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。あとはみなさんのやる気次第!あなたの充実した学生生活をお約束します。

(連絡先: kyoto@aiesec.jp)

平成21年度就職関連ガイダンス等の実施実績について

行事名	実施回数等	参加者合計	学部	修士	専門職	博士	ポスドク	研究員	その他
就職ガイダンス	全5回	1926	968	896	26	30			6
就職ガイダンス(学治・桂)		168	2	156		10			
業界研究セミナー	全8回	1884	833	962	52	34			3
キャリアデザイン講座	全4回	220	108	98	3	10		1	
合同企業説明会	全5回8日間	3531	1526	1806	111	71	3	1	13
公務員対策講座	全4回	505	289	177	18	20			1
国・地方上級採用試験説明会		899	427	221	33	32			186
就職セミナー	全57回	2628	1232	1273	70	48	1		4
グループワーク対策講座	全2回	145	88	52	4	1			
インターンシップガイダンス		290	176	103	8	1			2
内定者による相談会	全27回	148	95	49	1	3			
国・公務員試験模擬面接	全4日間	44	18	16	7	2			1
SPI(1回)・職務適性診断	2回	770	400	344	15	11			
マスコミ就職講座(基礎コース)		21	15	6					
弁理士試験対策講座(無料講座含む)		67	27	31		9			
就職相談	全206日	1133	507	470	24	67	27	5	33
キャリアパス多様化推進計画	全14回	259	1	10	3	176	37		32
計		14638	6712	6670	375	525	68	7	281

[資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 21 年度卒業生の産業別就職状況（平成 22 年 5 月 1 日現在）

産業	学部		総合人間		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
農業・林業																				1		1	1	1	2	
漁業																										
鉱業・採石業・砂利採取業																										
建設業									1		2	1	1							4	2		8	3	11	
製造業	食品・飲料・たばこ・飼料				3	1			5		3	3								1		2	4	12	10	22
	繊維工業				1				2	1	2									2		1		8	1	9
	印刷・同関連業		1		1																				2	2
	化学工業・石油・石炭製品		1	1		1			2	1	2	3								3				9	5	14
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	1	1		2		2		3	1	5									4				17	2	19
	はん用・生産用・業務用機械器具				1						1									5				6	1	7
	電子部品・デバイス・電子回路	1			1						8	1								3				13	1	14
	電気・情報通信機械器具	1	1		2				6	1		1	2							2		1		12	5	17
	輸送用機械器具				1				4	1	10									4		1	1	20	2	22
	その他	2			2				1		1	1								2		2		9	2	11
電気・ガス・熱供給・水道業	2	1		1	1			12	2	9	1								3				27	5	32	
情報通信業	10	8		14	7	3		10	8	13	4	2			1				19	1			71	29	100	
運輸業・郵便業	2			3	1		1		5		10	2	1						3		1	2	25	6	31	
卸売業・小売業	1	1		1	1	1		3		11	2	2							2		2		23	4	27	
金融業・保険業		1		3				1				1				1			1		1		3	5	8	
金融業	7			3	7	2	2	18	12	26	3	4	1						5		2	1	68	25	93	
保険業				1		1		5	1	13	3	1	1						5		3	3	28	9	37	
不動産業・物品賃貸業				1				1		3	2								1				6	2	8	
物品賃貸業		1																						1	1	
学術研究・専門・技術				1				2				1								1			3	2	5	
学術・開発研究機関				1				2				1								1			3	2	5	
法務	2																						2		2	
その他の専門・技術サービス業	4	1				1		2	1	23	2			1					4	3			34	8	42	
宿泊業・飲食サービス業	2					1									1	1							4	1	5	
生活関連サービス業・娯楽業	1			1		1		1							2				1		1		3	5	8	
教育・学習支援業	1	2		4	6	4	5					8							1				18	13	31	
学校教育				4	6	4	5					8							1				18	13	31	
その他の教育・学習支援業		1		3	4	3		1		3	1	1							1		2		10	10	20	
医療・福祉		1						1		1					19	54							21	55	76	
医療業・保健衛生		1						1		1					19	54							21	55	76	
社会保険・社会福祉介護事業		1		1															1				2	1	3	
複合サービス事業				3				1	1							1					1	2	2	7	9	
サービス業								1														1	1	1	2	
宗教								1														1	1	1	2	
その他のサービス業								1		1	2								1				4	1	5	
公務	1	1		2	1	3		12	3	1	1			1					5		2	1	23	11	34	
国家公務				2	1	3		12	3	1	1			1					5		2	1	23	11	34	
地方公務				8	8		2	11	3	8	2	1					1		5		4	1	38	16	54	
上記以外	1			1	1					2	1								1	1		1	6	3	9	
総合計	62			102		35		148		190		29		83		2			98		43		537	255	792	
男子計	39	23		46	56		19	16		111	37		157	33		28	1		24	59		2	89	9	22	21
女子計				46	56		19	16		111	37		157	33		28	1		24	59		2	89	9	22	21

ベンチャー起業

自らのアイデアを具現化し、ベンチャー起業を志す人を様々な面からサポートします。



起業を目指すみなさんへ (教育活動について)

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) 主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権 (特許)、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。

また、将来の産業・科学技術の発展の担い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」(後述)を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。



[写真] 竹籠型電気自動車 (Bamgoo)

電気自動車を対象とする 京大発ベンチャー「グリーン ロードモーターズ株式会社」

京都大学経営管理大学院学生を中心としたベンチャー「グリーンロードモーターズ (GLM) 株式会社」の会社設立、事業紹介の記者発表会が2010年4月14日午後、VBL (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) で行なわれました。

これまでのVBLでの研究成果を活用・応用展開するものとして、また「京都議定書」に代表される環境・エネルギー問題に対する具体的活動の一環として、電気自動車の実現に向けた総合的開発研究を行っています。



[写真] ベンチャー「グリーンロードモーターズ株式会社」の記者発表会の様子



世界から注目されるロボットの開発

株式会社ロボ・ガレージ代表取締役
高橋 智隆さん
(2003年工学部物理工学科卒)

工学部在学中よりヒューマノイドロボットの研究開発を行い、その事業化に向けてベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで実施されている特許相談・起業支援などのプログラムを利用してきました。その結果、玩具メーカーからロボット商品が世界中で販売されることとなりました。

そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを拠点にロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。



[写真左] 素早い動作を特徴とするヒューマノイドロボット「ROPID (ロピッド)」 2009年

[写真右] 細身の美しい外観としなやかな動きを特徴とする女性型ロボット「FT (エフティ)」 2006年

京都大学 VBL

京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、また本学の様々な組織とも連携して、大学を核としたイノベーション創出活動を展開しています。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。

京大ベンチャーズ

大学生、大学院生、教員のベンチャー起業に向けての取り組みをサポートしています。具体的には京都市の「知の創出・活用特区」認定を受けて、VBL施設利用事業「京大ベンチャーズ」を実施しており、数十社のベンチャー企業・組織が入居しています。

また、数多くの京大VBLプロジェクトにおいて、先進的・独創的な研究が続けられており、これら研究成果の具体的な社会還元として、学生および教職員による製品の实用化が図られています。



[写真] THE YANCHERS 制作の白色LEDゴーグルライト

テクノ愛

このコンテストは非営利で運営しており、高校生・大学生の発明、創造活動を啓蒙、応援するコンテストです。

ユニークな発想やベンチャー精神を持つ人材の育成の一環として、身近な生活に役立つ技術から最先端技術までの幅広いアイデアを、高校生・大学生などを対象に広く募り、審査により表彰します。優れたアイデアには表彰だけでなく、希望者には起業化へのアドバイス・サポートも行います。

例年、大学の部の入賞アイデアをはじめとし、高校生のアイデアの特許出願もサポートしています。



[写真] 京都大学 VBL 外観

学生生活を支援する 制度や施設

学習・研究に安心して取り組んでもらうために。



身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があるなどの理由により、修学など学生生活をおくる上で、特別な配慮を必要とする方の相談を常時行っています。視覚や聴覚の障害、肢体の不自由、その他病気や怪我などの理由により、特別な配慮を必要とする方は、ご相談ください。

なお、受験上の特別措置を希望する入学志願者は、相談の内容により、特別措置の協議に時間を要することもありますので、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。

(照会については、106ページを参照してください。)

身体障害学生相談室

本学では身体に障害を持つ学生の支援強化と支援の拠点となることを目的とした相談室を「身体障害学生相談室」として開室しています。

相談室では、各学部・研究科から選出された教員が、身体に障害があり、修学上様々な悩みや要望、相談ごとをかかえる学生の相談に応じます。また、交流スペースは、開室時間内で学生に開放し、障害学生と支援学生、さらには教職員も含めた交流の場になればと考えています。

支援は、学生本人からの申し出により所属学部・研究科や関係部局の教職員と連携しながら進めていくこととなります。支援の内容としては、授業を受ける上で必要となる支援（情報保障）や物品の貸出、設備の整備などです。



【写真】フリーアクセスマップ

開室時間：10:00～17:00

月曜日～金曜日（祝日を除く）

※ただし、事前にご連絡をいただければ時間外の利用にも対応します。

◎問い合わせ先：

身体障害学生相談室 Tel.075-753-2317

フリーアクセスマップ

京都大学フリーアクセスマップは、京都大学らしい視点を盛り込んだ新しい形のバリアフリーマップです。本マップは、京都大学の障害学生支援の拠点である身体障害学生相談室が、車椅子利用者の意見などをとりいれ調査・作成したものです。

身体障害学生相談室ではバリアフリーマップの作成にあたり、従来のものとは少し違った目線で情報を表示する方法を考えました。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のバリアフリーマップに多い道筋や設

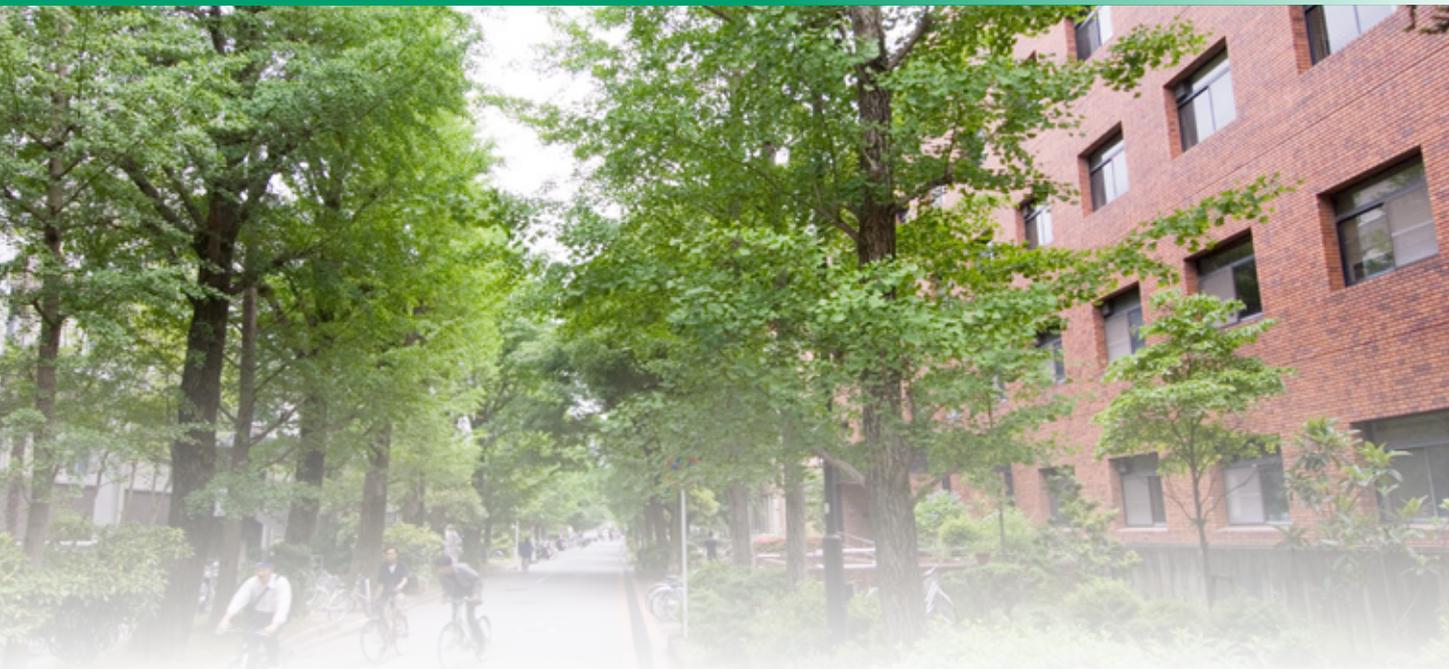
備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア（障壁）を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。

現在は、「吉田キャンパス1（本部・吉田南・北部構内）」、「吉田キャンパス2（医学部・病院・薬学部構内）」、「桂キャンパス」の3種類ですが、今後、宇治キャンパスについても調査・作成する予定です。

※ご利用の方は、身体障害学生相談室までご連絡ください。

履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部に



において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。(全学共通科目については、共通教育推進課教務運営グループ [Tel.075-753-6508 ~ 6511] に照会してください。専門科目については、106 ページの各学部教務掛に照会してください。)

経済的に困難な方たちへのサービス

入学科・授業料免除等

(1) 入学科免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学科の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

(2) 入学科徴収猶予

経済的理由により入学科の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学科の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、入学科の徴収を猶予する制度です。

(3) 授業料の免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期

ごとに全額又は半額を免除する制度です。

◎問い合わせ先：

学生センター経済担当

Tel.075-753-2536・2495

入学時に要する納付金（平成22年度）

入学科	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

※入学時に改定されることがあります。
※納付金は、全学部において同額です。

奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であって、経済的な理由により就学が困難である場合に奨学金を申請することができます。

日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けようと希望する方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年（編入学の入学年次を含む）において希望により、貸与月額の内振込時（又はその翌月）に100,000円～500,000円を増額して貸与する制度があります。

申込できる方は、一定の収入金額以下の方、又は国の教育貸付け（日本政策金融公庫の教育ローン）を申込んで貸付を受けることができなかつた方が申し込めます。

日本学生支援機構奨学金 貸与月額（平成22年度入学者）

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数（注）
第一種奨学金 （無利子貸与）	45,000円	51,000円	303名
第二種奨学金	3・5・8・10・12万円のうちから選択		203名

（注）平成21年度1年次在学採用数

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月～6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与や或いは給付されている在学生は、大学院生を含めて約330名います。

毎年約40団体より募集があり、約100名が新規に採用されています。

小口短期貸付金（学生援助会）

学生センターでは、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間（1～6カ月以内）の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

◎問い合わせ先：

学生センター経済担当

Tel.075-753-2535



学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、下の表の3寮です。いずれも大学の近くにあり、便利です。詳しくは、学生センターへお問い合わせください。

◎問い合わせ先：
学生センター生活担当
Tel.075-753-2539・2540

下宿・アパート等の紹介サービス

学生センター生活担当では、入学手続きの日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生生活協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。

◎問い合わせ先：
学生センター生活担当
Tel.075-753-2533,
京都大学生生活協同組合ルネ南側別館
Tel.075-771-0823
(桂、宇治の物件等の紹介も有)

アルバイトの紹介サービス

学生センターでは、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭（葵祭、祇園祭、時代祭）等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生生活協同組合で紹介しています。

◎問い合わせ先：
学生センター生活担当
Tel.075-753-2533,
京都大学生生活協同組合コンベンション・サービスセンター Tel.075-752-0374

健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごすために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、健康診断や保健指導などの予防医療、

応急措置などの初期診療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォアラ隣りの保健診療所で受け付けます。

保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の病気やけがの診療と健康相談・メンタルヘルス相談を行っています。

- (a) 診療科名
内科、神経科、皮膚科、眼科、スポーツ整形外科、耳鼻咽喉科
- (b) 診療受付時間
10:00～12:30, 14:00～16:30
- (c) 休診日
土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）は全日休診です。

学生寄宿舍一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造2階建（3棟）	鉄筋コンクリート4階建（3棟）	木造モルタル塗2階建（2棟）
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料（月）	400円	700円	400円
光熱水料等	1,500円から2,500円（各寮により異なります）		
通学時間（※）	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間



なお、臨時休診日（定期健康診断実施日等）は、その都度受付の掲示板に掲示しています。

(d) 緊急時対応（事故等）

事故等で緊急に処置を要する傷病が発生した場合は、通常を受診手続きを取らずに、直接医療職が対応いたします。

【緊急時連絡先】

8:30～17:15 内科（内線 2405）

(e) 料金

学生の診察や相談は無料です。ただし検査、投薬、処置、診断書作成は実費となります。正課中の負傷は、初回治療のみ処置や投薬も無料です。

◎各科の診療などの問い合わせ先：

Tel.075-753-2404（受付）又は

Tel.075-753-2405（内科）

学生教育研究災害障害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険の加入も勧めています。さらに教育研究活動中の補償を24時間に拡大し、アルバイトや自主参加のインターンシップも含めた学生生活の幅広いリスクに対応した学生生活総合保険もあります。

◎問い合わせ先：

学生センター生活担当

Tel.075-753-2533

カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のための場ではなく、全人的な成長・発達のための場であるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

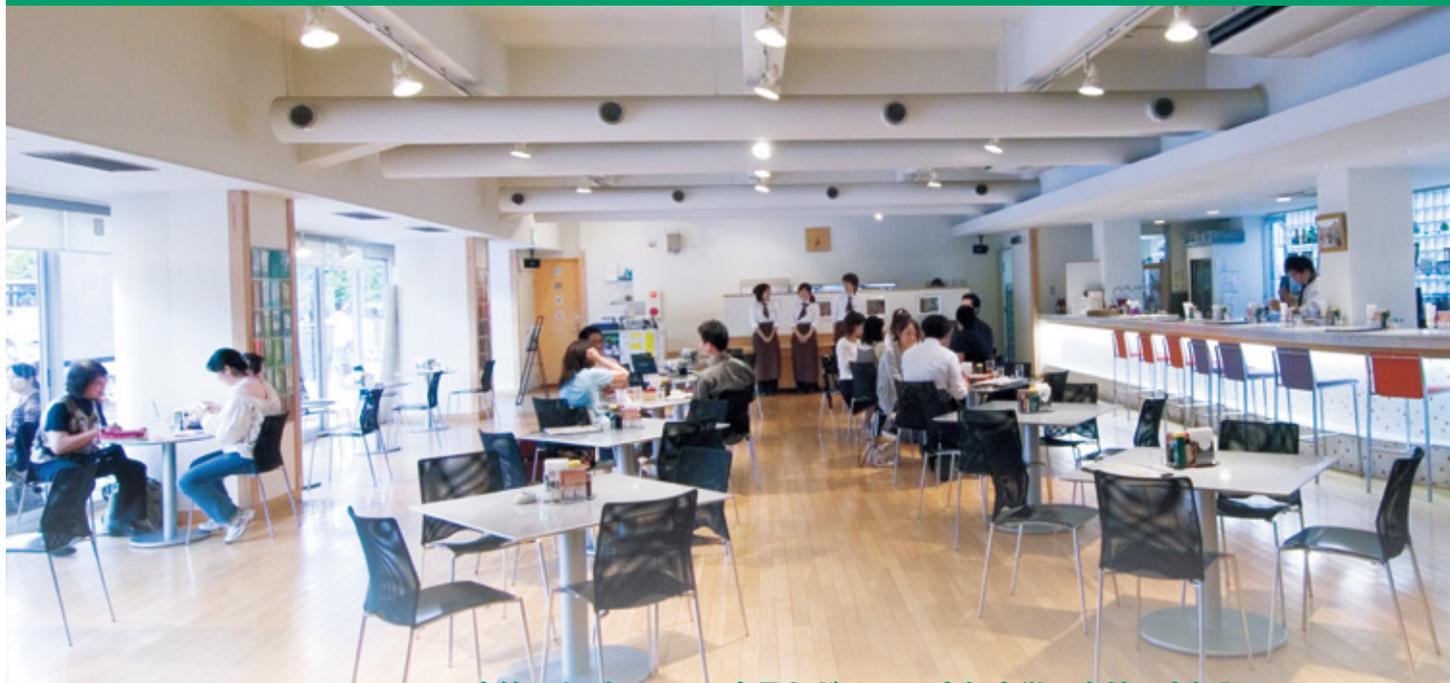
カウンセリングセンターでは、心理学（臨床心理学・相談心理学・青年心理学など）を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ5,000回に上る相談面接がなされています。

（カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>）



【写真】保健診療所



京都大学生協同組合

学内の各キャンパスには、京都大学生協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉強・教育・研究生活を幅広くサポートしています。

朝食から夕食まで、食生活をサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価表示や、食生活や健康に関する情報の提供、食生活相談や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

書籍からパソコン、文具など、勉強・研究生活をサポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉強や研究に必要とされる商品、サービスを提供しています。特に書籍・雑誌は生協組合員の特典として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

安全で安心な大学生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・院生が加入し、給付金額は1年間（09年4月～10年3月）で338人、約2,400万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

京都大学の内外で大好評、「京都大学オリジナルグッズ」

最近人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適のクリスタル用品や時計のほか、「食べられるオリジナルグッズ」として好評な八つ橋、かわらせんべい、飴などに加え、新しくチョコレートが仲間入りしました。また京大教員が考案した元素記号の立体周期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評判です。

【写真上】本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォーラ」



【写真】 時計台旅行センター



【写真】 時計台生協ショップ

京都大学生協同組合各施設の営業時間

キャンパス(学部)	実施回数等		営業時間(平日)	取扱内容等
吉田キャンパス 北部構内(理・農)	北部生協会館	食堂部	8:00 ~ 21:00	1階:カフェテリア食堂, 2階:喫茶(計250席)
		購買部	10:00 ~ 18:00	文具・食品・日用品の販売等
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂		8:00 ~ 21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)
	時計台生協ショップ		10:00 ~ 20:00	文具・食品・日用品の販売等
	京大ショップ		10:00 ~ 17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等
	時計台旅行センター		10:00 ~ 19:00	海外・国内旅行, プレイガイド等
	生協本部	組員センター	10:00 ~ 17:00	生協加入・脱退, 共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」		9:00 ~ 21:30	カフェレストラン(計100席)
吉田キャンパス 吉田南構内(全学共通・総人)	吉田食堂		10:30 ~ 15:30	1階, 2階:カフェテリア食堂(計587席)
	吉田ショップ		8:30 ~ 19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等
吉田キャンパス 医学部構内(医・薬)	南部生協会館	食堂部	11:00 ~ 17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)
		ショップ	10:00 ~ 18:00	文具・食品・書籍などの販売
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」		11:00 ~ 22:00	カフェテリア食堂(計494席)
	ショップルネ	パソコンコーナー	10:00 ~ 19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器・ソフトウェア
		書籍コーナー		教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド
	コンベンション・サービスセンター		10:00 ~ 17:30	イベントサポート, アルバイト紹介
	ルネ南側別館		11:00 ~ 17:00	住まいの斡旋, 自転車・バイク, 家具・家電リサイクル用品
宇治キャンパス (各研究所)	宇治生協会館	食堂部	11:00 ~ 20:00	カフェテリア食堂(計168席)
		購買部	10:30 ~ 18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
桂キャンパス	桂Bクラスター	キャンパスショップ	10:00 ~ 18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
	桂Bクラスター	カフェテリア食堂「セレネ」	11:00 ~ 21:00	カフェテリア食堂(計126席)
	桂Bクラスター	カフェ「アルテ」	11:00 ~ 18:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)
	桂Aクラスター	ショップ	10:00 ~ 20:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
	桂Aクラスター	ベーカリーショップ「リユージュ」	8:00 ~ 19:00	焼きたてパン, 調理パン等
	桂Aクラスター	ハーフムーンガーデン	8:00 ~ 14:00 18:00 ~ 22:00	テイクアウト弁当・軽食

詳しくは京都大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

京大受験生や、新入生も 応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿泊の手配も行い、安心して受験していただけるようお手伝いをしています。受験の不安を和らげようと、受験生のサポートには在校生があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探しや生活用品の購入ができる「新入生センター」を開設し、京都大学での新生活がスムーズに始まるお手伝いをしています。

ほかにも、京都大学オープンキャンパスでのキャンパスツアー開催や各種相談コーナーの運営などを通して、これから京都大学を目指す人々へのサポート活動にも力を入れています。



【写真】百周年時計台記念館内にある「京大ショップ」。
京都大学オリジナルグッズや京都大学の教員が執筆した書籍が購入出来ます。

クラブ・サークル活動

京都大学内外で活動するサークルやクラブは文化系，体育系併せて190団体ほどあり，様々な活動を行っています。

文化系サークル(103団体)

- 音楽・ダンス系
 - 音楽部交響楽団
 - 軽音楽部
 - 音楽研究会
 - 合唱部
 - グリークラブ
 - アカペラサークル・CRAZY CLEF
 - ギタークラブ
 - マンドリンオーケストラ
 - 吹奏楽団
 - リコーダー同好会
 - E.M.B.G
 - 軽音サークル・こんぺいとう
 - 軽音サークル・ZETS
 - 吉田音楽製作所
 - 民族舞踊研究会
 - ALL京大舞踊研究会
 - アマチュアダンスクラブ
 - 韻風会
 - アンブラグド
 - Egoistic Dancers
 - エレクトーンサークルKUES
 - アンサンブルリード
- 芸術・古典系
 - 劇団ケツペキ
 - 劇団ヘルベチカスタンダード
 - 映画部
 - 映画文化研究会
 - シネマ研究会
 - 雪だるまプロ
 - 漫画研究部
 - アニメーション同好会
 - 創作サークル「名称未定」
 - 美術部
 - 美術研究会
 - 陶芸部
 - 写真部
- 書道部
 - 能楽部観世会
 - 能楽部宝生会
 - 能楽部金剛会
 - 能楽部狂言会
 - 心茶会
 - 落語研究会
 - 囲碁部
 - 奇術研究会
 - 将棋部
 - 京都大学かるた会
 - デジタル写真サークルDigi*Photo!
 - 京大短歌
 - ブリッジクラブ
- 宗教系
 - キリスト者学生会
 - 聖書研究会
 - 古典に学ぶ会
 - 原理研究会
- 人文・社会・自然系
 - クイズ研究会
 - RPG研究会
 - SF・幻想文学研究会
 - 唯物論研究会
 - コリアン学生の集い
 - 京都ムスリム協会
 - 歴史研究会
 - 地理同好会
 - 鉄道研究会
 - 天文同好会
 - 粋な科学の会
 - 生物科学の会
 - コロボックル
 - 野生生物研究会
 - 都市公害問題研究会
 - 環境ネットワーク4Rの会
- 環境サークル
 - えこみっと
 - 機械研究会
 - E.S.S
 - エスプラント語研究会
 - 児童文学研究会・紙風船
 - 点訳サークル
 - 手話サークル
 - グッドサマリタンクラブ
 - さいもんめ
 - 放送局・KUBS
 - 現代社会研究会
 - アジア連帯!学生キャンペーン
 - 刑事法研究会
 - 探検部
 - 有機農業研究会
 - MPI(経営・政策勉強会)
 - まのこじき
 - 京都大学自然農法研究会
 - ローバースカウトクラブ
 - 農業交流ネットワーク
 - 国際交流サークル(KIXS)
 - 中国人留學生学生会
 - リサイクル市実行委員会
- その他
 - 学生平和委員会
 - 京大ユネスコ学生クラブ
 - 京大ユニセフクラブ
 - アイセック京都大学委員会
 - 全学学生自治会 同学会
 - 西部講堂連絡協議会
 - 文化サークル連合会
 - 11月祭全学実行委員会
 - 京都大学新聞社
 - 京大生協学生委員会
 - 京都大学院生協議会

体育会所属部(53団体)

- 運動部
 - 合気道部
 - アイスホッケー部
 - アーチェリー部
 - アメリカンフットボール部
 - 居合道部
 - ウインドサーフィン部
 - ウェイトリフティング部
 - カヌー部
 - 空手道部
 - 弓道部
 - グライダー部
 - 剣道部
 - 硬式庭球部
 - 硬式野球部
 - ゴルフ部
 - サイクリング部
 - サッカー部
- 山岳部
 - 自転車競技部
 - 自動車部
 - 柔道部
 - 準硬式野球部
 - 少林寺拳法部
 - 水泳部
 - スキー競技部
 - スピードスケート部
 - 相撲部
 - ソフトテニス部(男子・女子)
 - ソフトボール部
 - 体操部
 - 卓球部
 - 馬術部
 - バスケットボール部(男子・女子)
 - バドミントン部
 - バレー部
- バレーボール部(男子・女子)
- ハンドボール部
- フィールドホッケー部
- フィギュアスケート部
- フェンシング部
- ボウリング部
- ボート部
- ボクシング部
- ヨット部
- ライフル射撃部
- ラクロス部
- ラグビー部
- 陸上競技部
- その他
 - 応援団

体育会に所属していない体育系サークル(38団体)

- 京都を歩く会
- 散策の会
- オリエンテーリングクラブ
- ワンダーフォーゲル部
- フリークライミングクラブ
- 神陵ヨットクラブ
- 硬式庭球同好会
- 硬式庭球同好会・FREAK
- KIDDY KIDS
- フレイムショット
- 京大ソフトテニスサークル
- テニスサークル・JUST OUT
- 京大T.C.T
- スキー同好会・スノーパンサー
- 飛翔会
- 持久走同好会
- メイプル(バスケットボール)
- バスケットボールサークル・フリークラブ
- バスケットボールサークル・L.E.D
- バレーボールサークル・JUSTICE
- 剣道同好会・指薪会
- 天之武産合気同好会
- 空手同好会
- 太極拳同好会
- 圓和道部
- ソフトボール同好会・プレッシャーズ
- 卓球同好会・SMASH×SMASH
- バドミントンサークル・レモンスカッシュ
- アルバトロスゴルフ同好会
- アウトドアサークル・DOWN HILL
- バードマンチーム・シューティングスターズ
- BREEZE
- チアリーディングサークル・TREVIS
- フーメランサークル
- ウッドストック(軟式野球)
- Nekthy(フットサルサークル)
- テコンドーサークル

課外活動施設

- 北部グラウンド
- 北白川スポーツ会館
- 馬場(厩舎)
- 吉田南グラウンド
- テニスコート
- 総合体育館
- 総合体育館附属プール
- バレーコート
- 弓道場
- アーチェリー場
- 相撲場 など
- [学校外の施設]
- 白馬山の家
- 白浜海の家
- 笹ヶ峰ヒュッテ
- 志賀高原ヒュッテ など



バスケットボール部



柔道部



水泳部

陶芸部



アーチェリー部



マンドリンオーケストラ



京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活レポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

学部紹介

京都大学の10の学部についてご紹介します。

学部の特長、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目などについて述べられています。

また、各学部の在学学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。

みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。



P42	総合人間学部	Faculty of Integrated Human Studies
P46	文学部	Faculty of Letters
P50	教育学部	Faculty of Education
P54	法学部	Faculty of Law
P58	経済学部	Faculty of Economics
P62	理学部	Faculty of Science
P66	医学部	Faculty of Medicine
P72	薬学部	Faculty of Pharmaceutical Sciences
P76	工学部	Faculty of Engineering
P80	農学部	Faculty of Agriculture



総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies

総合人間学部のホームページ:

<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

総合人間学部教務掛 tel.075-753-6506

総合人間学部パンフレットもホームページ内でご覧いただけます。

(http://www.h.kyoto-u.ac.jp/publication/soujin_pamphlet.php)



【写真】「分子構造機能論演習 A」授業風景

新たな「人間の学」をめざして

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生、学を究めるうえでその先に見えてくる新たな地平に無上の喜びを感じることでできる学生、本学部はそういう学生が門をたくことを望んでいます。

総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎え入れました。京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここでの研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総合的に捉える学問の確立が、総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供すること、これをわれわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究科（大学院）に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。時代の要請にもなっています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系の主専攻を選択します。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

総合人間学部の教育

5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叡智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的に新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

専攻の決定

「文系」、「理系」という入学試験の形態にかかわらず、自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に所属されます。

4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探索し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探究し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

関連環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探索し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相関論講座の4講座を設置しています。

Message

在学生からのメッセージ

「大海原で、自分だけの航海へ」

国際文明学系4回生

中山 良子さん



総人は、文理問わず何でもでき、単位の制約も少なく自由な学部です。しかし、その自由の誘惑にはまり、ただ何をやるということもなく流されがちにもなります。ですから、怠惰な自分に鞭打って、学問を通して道を切り開いていく強い意志が求められています。いつでもそうですが、自分がどんな人になりたいのか、今どの位置にいて何をしているのか、時々確認してください。そうでなければ、大海原の中で漠然とした不安にとりつかれるばかりです。

かく言う私も偉そうなことはいえず、勉強もサークルもバイトも、多くのことをかじりながら、何度も針路を変更してきました。様々な価値観をもつ人たちに会う中で私が行き着いた先は、「介護職」でした。

全ては自分次第。皆さんがこの学部で、自分だけの航海にうまく漕ぎ出せますよう、応援しています！

「厳しさ」と「優しさ」

人間科学系3回生

朝倉 正弥さん

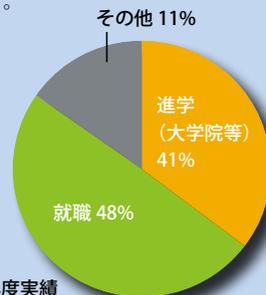


一般に、高校とは違い大学ではより主体的に行動し学ぶ姿勢が求められます。京都大学では殊にその風潮が顕著で、自分から動かない限りは何も与えてくれない厳しさがあります。時にこれは厳しさとして思い知らされることもあります。思えば自分が京都大学を志したのも、高校が自由な校風だったこともあり大学でもその延長を知らずの内に求めていたのかもしれませんが。総合人間学部は京大で最も新しい学部であり、前述のような難しさもありますが、比較的緩やかなカリキュラムや幅広い開講科目など、自ら求めればその熱意に応えてくれる環境がそこにはあります。私も人文系のゼミに所属していますが、その一方で数学の教員免許取得を目指しています。そうした厳しさと優しさの両方をひしひしと感じられるのも、この学部ならではの貴重さと言えるでしょう。

● 卒業後の進路

進学：約4割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。
就職：就職先は官公庁や教育機関、マスコミやIT関係といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活動しています。

就職先の例
外務省／(株)産業経済新聞社／伊藤忠商事(株)／(株)NTTドコモ／(株)京都銀行／ローム(株)／(株)アシックス／大阪大学職員／富士通(株)／同志社中学校教員／(株)TBSテレビ／関西電力(株)／三井住友カード(株)／アステラス製薬(株)／(株)東芝



2009年度実績

● 総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、下記の種類、教科について課程認定を受けています。教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語, 社会, 数学, 理科, 保健体育, 英語, ドイツ語, フランス語
高等学校一種	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 保健体育, 情報, 英語, ドイツ語, フランス語

卒業生からのメッセージ

「知」と「友」の喜びを！

2008年卒業

Sales Executive

HARADA CORPORATION Singapore branch

鈴木 一平さん



みなさん、こんにちは。

今みなさんは「総合人間学部ってどんなところだろう？」と考えていらっしゃるかと思います。自分自身が広い視野を持って学べる事はご想像の通りですが、総合人間学部で学ぶ事にはもう一つ素晴らしい点があります。それは、それぞれの得意分野を持つ多くの友人達と出会える事。自分の専門分野にいながら、ちょっと横を向けば異なる分野で活躍する友人から新しい視点を与えてもらえます。また反対に、自分の考えが友人にインスピレーションを与える事もあるでしょう。

こんな刺激的な毎日を送れるのは総合人間学部だからこそだと感じています。そして更に、私が卒業し社会に出た今強く思える事は、ここで出会えた友人達は一生の宝物であるという事です。

みなさんも是非、この刺激的な学部で「知」と「友」の喜びを感じてみて下さい！

「広く、深く、そして自由に。」

2007年卒業

翻訳業

横井 絵里香さん



「分野に縛られず、好きなことを好きなだけ勉強できる環境に身を置きたい。」これが私の高校時代の願いでした。他の分野に触れることなく、進む分野を決めてしまうのはもったいないことだと思いませんか？私は理系の人間でしたが、語学や歴史にも興味があったので、理系の学問だけでなく、その他の好きな分野も学べる総合人間学部を選びました。望めば文転できる点も大きな魅力でした。最終的には化学を専攻しましたが、化学の道には進まず、現在はフリーランスの翻訳家をしています。化学だけでなく、非常に多くの分野の翻訳に対応できるのは、在学中に興味のあるありとあらゆる分野を学ぶことができたおかげです。総合人間学部で学んだ全ての知識が活かしているのです。広く深く学問に触れられるこの学部で、様々な可能性を探ってみてください。

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に関連し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学の構築を目指します。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理科学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを主専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティー」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知の修得を心がけていただきたい。「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文明構造論、現代社会論、国際社会論、歴史社会論、東アジア文化論、西欧文化論、共生社会環境論

文化環境学系

本学系では近代文明のグローバル化が進展する現代にあつてその基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な人間活動や居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追究します。また各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を種々の記憶にも留意しつつ複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明・文化や環境に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明・文化はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文明・文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

授業は、大学院人間環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物学、地球科学で構成されています。それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



【写真】新歓合宿にて

学部専門科目

学系	科目
人間科学系	<p>【入門科目】 人間科学入門</p> <p>【人間形成論関係】 人間形成論、人間形成論演習 A、人間形成論演習 B、人間形成史論、人間形成史論演習 A、人間形成史論演習 B、関係発達論、関係発達論演習 A、関係発達論演習 B、精神病理学・精神分析学、精神分析学 I、精神分析学 II、精神病理学・精神分析学演習 A、精神病理学・精神分析学演習 B</p> <p>【社会行動論関係】 グループ・ダイナミクス演習 A、グループ・ダイナミクス演習 B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習 A、人間行動論演習 B、社会情報論演習 A、社会情報論演習 B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究法論演習 A、宗教学研究法論演習 B、社会心理学演習 A、社会心理学演習 B</p> <p>【文化社会論関係】 トランス文化社会論、ヒストリー・オブ・アイディアズ IA、ヒストリー・オブ・アイディアズ IB、ヒストリー・オブ・アイディアズ IIA、ヒストリー・オブ・アイディアズ IIB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 B、動態映画文化論 IA、動態映画文化論 IB、動態映画文化論 IIA、動態映画文化論 IIB、動態映画文化論演習 IA、動態映画文化論演習 IB、動態映画文化論演習 IIA、動態映画文化論演習 IIB、制度・生活文化史 IA、制度・生活文化史 IB、制度・生活文化史 IIA、制度・生活文化史 IIB、制度・生活文化史演習 IA、制度・生活文化史演習 IB、制度・生活文化史演習 IIA、制度・生活文化史演習 IIB、メディア・スタディーズ IA、メディア・スタディーズ IB、メディア・スタディーズ IIA、メディア・スタディーズ IIB、メディア・スタディーズ演習 A、メディア・スタディーズ演習 B</p> <p>【人間存在論関係】 自己存在論 A、自己存在論 B、自己存在論演習 A、自己存在論演習 B、認識人間学 A、認識人間学 B、認識人間学演習 A、認識人間学演習 B、哲学・文化史 A、哲学・文化史 B、哲学・文化史演習 A、哲学・文化史演習 B、人間実践論 A、人間実践論 B、人間実践論演習 A、人間実践論演習 B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特別 A、人間存在論特別 B、人間存在論特別演習</p> <p>【創造行為論関係】 創造行為論演習 A、創造行為論演習 B、創造行為論講読演習 A、創造行為論講読演習 B、近代芸術論 A、近代芸術論 B、近代芸術論演習 A、近代芸術論演習 B、舞台芸術論 A、舞台芸術論 B、舞台芸術論演習 A、舞台芸術論演習 B、創造ルネッサンス論 A、創造ルネッサンス論 B、創造ルネッサンス演習 A、創造ルネッサンス演習 B</p> <p>【文芸表象論関係】 英米文芸表象論講義 A、英米文芸表象論講義 B、英米文芸表象論演習 IA、英米文芸表象論演習 IB、英米文芸表象論演習 IIA、英米文芸表象論演習 IIB、英米文芸表象論講読 IA、英米文芸表象論講読 IB、英米文芸表象論講読 IIA、英米文芸表象論講読 IIB、ドイツ文芸表象論講義 A、ドイツ文芸表象論講義 B、ドイツ文芸表象論演習 A、ドイツ文芸表象論演習 B、ドイツ文芸表象論講読 A、ドイツ文芸表象論講読 B</p>

学部専門科目

学系	科目
認知情報学系	<p>【入門科目】 認知・行動科学入門, 言語・数理情報科学入門</p> <p>【認知・行動科学関係】 行動神経機能論, 行動神経機能論演習, 行動神経機能論実験, 行動神経機能論ゼミ1, 行動神経機能論ゼミ2, 行動制御学演習1, 生体情報論, 生体情報論演習, 神経機能論実験A, 生体情報論基礎ゼミ, 神経生理学の基礎, 神経生理学基礎演習, 神経機能論実験B, 生命科学基礎ゼミ, 認知機能論, 認知機能論演習, 認知機能論ゼミA, 認知機能論ゼミB, 視覚認識論, 視覚認識論演習, 視覚科学実験, 細胞生理学, 細胞生理学演習, 細胞生理学実験, 細胞生理学ゼミA, 細胞生理学ゼミB, 運動医学, 運動医学演習, 運動医学実験, 呼吸循環機能論ゼミ, 神経・筋機能論ゼミ, 代謝機能論, 代謝機能論演習, 代謝機能論実験, 代謝機能論ゼミA, 代謝機能論ゼミB, 生活習慣と生体機能障害, 運動療法実験, 応用運動医学ゼミ, 分子運動医学ゼミ, トレーニング科学, 運動制御実験, 運動制御ゼミA, 運動制御ゼミB, 生体生理学実験, 生体生理学演習</p> <p>【数理情報関係】 数理現象論A, 数理現象論B, 数理構造論A, 数理構造論B, 数理科学ゼミナール, 数理科学特論I, 数理科学特論II, 数理科学特論III, 複素解析B, 実解析A, 実解析B, 計算科学の基礎A, 計算科学の基礎B, 計算論, 計算と位相, 情報処理の方法と演習A, 情報処理の方法と演習B, 数理科学論講究, 情報科学のためのプログラミングI, 情報科学のためのプログラミングII</p> <p>【言語科学関係】 言語構造論A, 言語構造論B, 言語構造論演習A, 言語構造論演習B, 言語機能論A, 言語機能論B, 言語機能論演習A, 言語機能論演習B, 言語認知論, 言語認知論演習A, 言語認知論演習B, 言語比較論A, 言語比較論B, 言語比較論演習A, 言語比較論演習B, 言語科学ゼミナールIA, 言語科学ゼミナールIB, 言語科学ゼミナールIIA, 言語科学ゼミナールIIB, 言語科学ゼミナールIIIA, 言語科学ゼミナールIIIB, 言語科学ゼミナールIIIA, 言語科学ゼミナールIIIB, 言語科学ゼミナールIIIA, 言語科学ゼミナールIIIB</p> <p>【外国語教育関係】 英語学習指導論, 英語教育方法論, 英語コミュニケーション論, 言語教育政策論, 言語教育政策論演習</p>
国際文明学系	<p>【入門科目】 国際文明学入門A, 国際文明学入門B</p> <p>【社会相関論関係】 文明構造論A, 文明構造論IB, 文明構造論IIA, 文明構造論IIB, 文明構造論IIIA, 文明構造論IIIB, 文明構造論IVA, 文明構造論IVB, 文明構造論演習IA, 文明構造論演習IB, 文明構造論演習IIA, 文明構造論演習IIB, 文明構造論演習IIIA, 文明構造論演習IIIB, 文明構造論演習IVA, 文明構造論演習IVB, 現代社会論IA, 現代社会論IB, 現代社会論IIA, 現代社会論IIB, 現代社会論演習IA, 現代社会論演習IB, 現代社会論演習IIA, 現代社会論演習IIB, 現代経済文明論IA, 現代経済文明論IB, 現代経済文明論IIA, 現代経済文明論IIB, 多文化社会論IA, 多文化社会論IB, 多文化社会論IIA, 多文化社会論IIB, 多文化社会論演習IA, 多文化社会論演習IB, 多文化社会論演習IIA, 多文化社会論演習IIB, 国際関係論IA, 国際関係論IB, 国際関係論IIA, 国際関係論IIB, 国際関係論IIIA, 国際関係論IIIB, 国際関係論IV, 国際関係論IVB, 地域研究基礎ゼミナールA, 地域研究基礎ゼミナールB, 国際関係論演習IA, 国際関係論演習IB, 国際関係論演習IIA, 国際関係論演習IIB, 公法原理論, 契約関係原理論, 国家・社会法システム論IA, 国家・社会法システム論IB, 国家・社会法システム論IIA, 国家・社会法システム論IIB, 国家・社会法システム論IIIA, 国家・社会法システム論IIIB, 国家・社会法システム論演習IA, 国家・社会法システム論演習IB, 国家・社会法システム論演習IIA, 国家・社会法システム論演習IIB, 国家・社会法システム論演習IIIA, 国家・社会法システム論演習IIIB, 社会経済システム論IA, 社会経済システム論IB, 社会経済システム論IIA, 社会経済システム論IIB, 社会経済システム論IIIA, 社会経済システム論IIIB, 社会統計論A, 社会統計論B, 社会統計論基礎ゼミナールA, 社会統計論基礎ゼミナールB, 社会経済システム論演習IA, 社会経済システム論演習IB, 社会経済システム論演習IIA, 社会経済システム論演習IIB, 社会経済システム論演習IIIA, 社会経済システム論演習IIIB, 社会統計論演習A, 社会統計論演習B, 比較経営組織論A, 比較経営組織論B, 公共政策論IA, 公共政策論IB, 公共政策論IIA, 公共政策論IIB, 公共政策論基礎ゼミナールIA, 公共政策論基礎ゼミナールIIB, 公共政策論演習IA, 公共政策論演習IB, 公共政策論演習IIA, 公共政策論演習IIB, 経済と数学A, 経済と数学B</p> <p>【歴史文化社会論関係】 欧米歴史社会論IA, 欧米歴史社会論IB, 欧米歴史社会論IIA, 欧米歴史社会論IIB, 欧米歴史社会論演習IA, 欧米歴史社会論演習IB, 欧米歴史社会論演習IIA, 欧米歴史社会論演習IIB, 日本歴史文化論IA, 日本歴史文化論IB, 日本歴史文化論IIA, 日本歴史文化論IIB, 日本歴史文化論演習IA, 日本歴史文化論演習IB, 日本歴史文化論演習IIA, 日本歴史文化論演習IIB, 中国社会論IA, 中国社会論IB, 中国社会論IIA, 中国社会論IIB, 中国社会論演習IA, 中国社会論演習IB, 中国社会論演習IIA, 中国社会論演習IIB, 中国文学文化論, 中国書誌論, 中国古典講読論A, 中国古典講読論B, 中国文化論演習IA, 中国文化論演習IB, 日本語学・日本文学IA, 日本語学・日本文学IB, 日本語学・日本文学IIA, 日本語学・日本文学IIB, 日本語学・日本文学IIIA, 日本語学・日本文学IIIB, 日本宗教史論A, 日本宗教史論B, 日本語学・日本文学演習IA, 日本語学・日本文学演習IB, 日本語学・日本文学演習IIA, 日本語学・日本文学演習IIB, 日本語学・日本文学演習IIIA, 日本語学・日本文学演習IIIB, 書論・書写演習A, 書論・書写演習B, 日本古典講読論A, 日本古典講読論B, 日本語学文献講読論A, 日本語学文献講読論B, 西欧近現代表象文化論IA, 西欧近現代表象文化論IB, 西欧近現代表象文化論IIA, 西欧近現代表象文化論IIB, 西欧近現代表象文化論IIIA, 西欧近現代表象文化論IIIB, 西欧近現代表象文化論IV, 西欧近現代表象文化論IVB, 西欧近現代表象文化論演習IA, 西欧近現代表象文化論演習IB, 西欧近現代表象文化論演習IIA, 西欧近現代表象文化論演習IIB, 西欧近現代表象文化論演習IIIA, 西欧近現代表象文化論演習IIIB, 西欧近現代表象文化論演習IVA, 西欧近現代表象文化論演習IVB, 西欧古代・中世表象文化論IA, 西欧古代・中世表象文化論IB, 西欧古代・中世表象文化論IIA, 西欧古代・中世表象文化論IIB, 西欧古代・中世表象文化論IIIA, 西欧古代・中世表象文化論IIIB, 西欧古代・中世表象文化論演習IA, 西欧古代・中世表象文化論演習IB, 西欧古代・中世表象文化論演習IIA, 西欧古代・中世表象文化論演習IIB, 西欧古代・中世表象文化論演習IIIA, 西欧古代・中世表象文化論演習IIIB</p>
文化環境学系	<p>【入門科目】 文化環境学入門A, 文化環境学入門B</p> <p>【比較文明論関係】 ユーラシア文化複合論A, ユーラシア文化複合論B, ユーラシア文化複合論演習A, ユーラシア文化複合論演習B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習B, 文化交渉複合論A, 文化交渉複合論B, 文化交渉複合論演習A, 文化交渉複合論演習B, 東アジア文化・社会論A, 東アジア文化・社会論B, 東アジア文化・社会論演習A, 東アジア文化・社会論演習B, 東ヨーロッパ比較言語論A, 東ヨーロッパ比較言語論B, 東ヨーロッパ比較言語論演習A, 東ヨーロッパ比較言語論演習B, 東アジア比較芸術論A, 東アジア比較芸術論B, 東アジア比較芸術論演習A, 東アジア比較芸術論演習B, 東アジア比較言語・文化論A, 東アジア比較言語・文化論B, 東アジア比較言語・文化論演習A, 東アジア比較言語・文化論演習B, 日欧知識交流史A, 日欧知識交流史B, 日欧知識交流史演習A, 日欧知識交流史演習B, 比較パラダイム文明論A, 比較パラダイム文明論B, 比較パラダイム文明論演習A, 比較パラダイム文明論演習B, 近現代民族移動論A, 近現代民族移動論B, 近現代民族移動論演習A, 近現代民族移動論演習B, 比較動態文化論A, 比較動態文化論B, 比較動態文化論演習A, 比較動態文化論演習B</p> <p>【文化・地域環境論関係】 環境構成論I, 環境構成論II, 環境構成論III, 環境構成論IV, 環境構成論演習I, 環境構成論演習II, 環境構成論演習III, 環境構成論演習IV, 環境構成論演習I, 環境構成論演習II, 環境構成論演習III, 環境構成論演習IV, 社会人類学演習A, 社会人類学演習B, 文化動態論演習A, 文化動態論演習B, 環境人類学演習A, 環境人類学演習B, 文化行為論A, 文化行為論B, 生態人類学演習A, 生態人類学演習B, 文化人類学方法A, 文化人類学方法B, 社会人類学方法A, 社会人類学方法B, 宗教人類学方法A, 宗教人類学方法B, 地域空間論I, 地域空間論II, 地域空間論III, 地域空間論IV, 地域空間論V, 地域空間論演習I, 地域空間論演習II, 地域空間論演習III, 地域空間論演習IV</p>
自然科学系	<p>【入門科目】 自然科学入門</p> <p>量子力学, 物性基礎論I, 物性基礎論II, 物性特論I, 物性特論II, 流体力学, 統計力学, 物質分析論, 物質機能論, 物質構造論, 分子構造論, 分子反応論, フロンティア化学, 生体分子機能論A, 生体分子機能論B, 細胞生物学A, 細胞生物学B, 分子細胞生物学特論, 自然史特論, 生物適応変異論, 生物多様性・生態学, 物理学演習A, 物理学演習B, 物理数学演習, 物質構造機能論演習A, 物質構造機能論演習B, 物質構造機能論演習C, 分子構造機能論演習A, 分子構造機能論演習B, 分子細胞生物学演習, 自然史演習, 地球科学演習, 課題演習:(物理科学) レーザー物理学, 課題演習:(物理科学) 構造と物性, 課題演習:(物理科学) 核磁気共鳴, 課題演習:(物理科学) 高圧・核磁気共鳴, 課題演習:(物理科学) 物理の基礎A, 課題演習:(物理科学) 物理の基礎B, 課題演習:物質の構造と機能, 課題演習:分子の構造と機能, 課題演習:生物, 課題演習:地球科学, 自然科学特別ゼミナールA, 自然科学特別ゼミナールB</p>
学部共通科目	<p>学部特殊講義IA～VA, 学部特殊講義IB～VB, 学部特殊講義IC, 学部特殊講義ID, 総人ゼミ</p>

文学部

Faculty of Letters

文学部のホームページ:

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

文学部第一教務掛 tel.075-753-2709



【写真】 左上:山東京傳似顔 / 左下:演義三国志 / 右:細密画を施した『播磨期本』『ペトルラカ詩集』

根源的な人間理解への多元的なアプローチ

文学部が望む学生像

文学部における教育は、人文学の名のもとに、思想、言語、文学、歴史、行動、さらに現代文化に関わって展開されてきた諸学の成果を学生に教授し、共に学び考えながら、新たな知的価値を創出することをめざしてなされるものです。そこでの活動には、単に文系の範疇に含まれるものだけではなく、高度な数学的方法や実験的手法、また情報処理の技術を必要とするものもあります。文学部は、人文学の諸学問に関して、こうした幅広い能力を具え、かつ深い教養と倫理性にも優れた人材を育成することをめざしています。過去から現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みについて、様々な角度から関心を寄せ、柔軟な思考力によって問題を発見し、その解決のため、論理的に、また歴史的に、創造性豊かな考察を展開することのできる学生を歓迎します。

文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在文学部には、哲学基礎文化学、東洋文化学、西洋文化学、歴史基礎文化学、行動・環境文化学、基礎現代文化学の6つの系と、その中に32(大学院では31)の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねるキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的に日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の系と専修も実に多種多様です。それぞれの専修は、独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年を超える歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。



【写真】 菅丞相

文学部の教育

国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。日本で学んだ研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めねばなりません。文学部では学部生の段階から、留学や外国人研究者との交流、さらには学際的国際シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目です。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にプラスとなるでしょう。また、この時期は所属専修が決まっていなくても、ある程度将来分属する専修を念頭にそれぞれに必要な外国語を勉強しておくことが望まれます。

2回生になるとときには、3回生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。各専修が開講している入門講座や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定するのに備えます。もちろん3回生になる際に、他の系の専修を選ぶこともできます。2回生で履修する文学部英語や各言語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

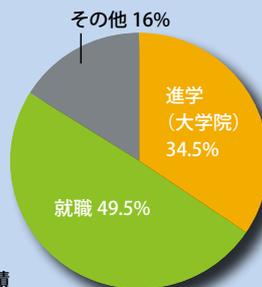
3回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義と言った専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。最初は圧倒されてもどろみかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究が身近に感じられるようになるでしょう。他学部比べて文献講読の形式を取る授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習(フィールドワーク)を課しているところもあります。

学部4	特殊講義・演習等	卒業論文	研究指導	各種資格科目
学部3	A・B・C・D・EX群	各専修の特殊講義・演習等		
学部2	A・B・C・D・EX群	系共通科目 講義・講読・実習等		
学部1	A・B・C・D・EX群	ポケット・ゼミ 系共通科目 講義		
全学共通科目		文学部専門科目		

● 卒業後の進路

ここ数年は、就職者が50%前後、大学院進学者が30%前後、他大学や各種学校への進学者が3%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業、金融業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。

2009 年度実績



就職先の例

JA 共済連 / Z会 / 京都銀行 / 京都大学 / 集英社 / 地方公務員 / 日本郵政グループ / 日本放送協会 / 三菱東京 UFJ 銀行 / 楽天

4 年生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、ときには苦しいかも知れませんが、一つのを完成する重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

Message

在学生からのメッセージ

「自由の学風」を 体現する場として

現代史学専修 4 年生
児玉 和仁 さん



3 年と少し京都大学文学部で学んできた身として、一番に感じるはその寛容さです。凝り固まった画一性をおしつけず、個性や多様性を重んじる風潮は、この大学の「自由の学風」とやらを体現しているように思われます。管理化された教育の下で体系的な知識を得ることを期待するよりは、多角的・批判的な視座を持ち、かつ主体的にそれを磨いていこうという意志を持った人に向いている所ではないかと思えます。授業には講義・講読・演習等がありますが、文学部の特徴として先生方の目下の研究内容を語る特殊講義があります。教育と研究を分離せず研究内容の発表をそのまま教育内容とすることで、学生としては単に知識を受容するだけでなく、一人の研究者の関心の持ち方だったり課題へのアプローチの仕方といったものを学べる楽しさがあります。

文学部で学ぶ

言語学専修 4 年生
真栄城 玄太 さん



特に将来のことなど考えてもいなかった高校時代、英語や国語など「それっぽい」科目が好きだったことから目指すことにした文学部。今ではこの大学、この学部を選んで正解だったと思っています。

文学部と聞いても、何をしているところなのかいまひとつピンとこないかもしれません。哲学、文学、史学、心理学、etc... なんとなく知っているようで、けれども多くの人にとっては未知の学問になるのではないのでしょうか。僕が専攻している言語学では、古今東西の言語がさまざまなアプローチで研究されており、高校までの勉強で得られた知識では想像もできないほど奥深い世界でした。

文学部での研究は、すぐには答えの見つからないものばかりかもしれませんが、その一つひとつが自分の世界を広げてくれるものになるでしょう。京大文学部の自由で刺激的な環境のなかで、是非みなさんも爽やかな大学生活を送ってください。

● 文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後 1 年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる教職免許：

中学校一種（国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教）、
高等学校一種（国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教）

卒業生からのメッセージ

京都で学ぶ幸せ

2005 年フランス語学
フランス文学専修卒業
京都大学大学院文学研究科
博士後期課程フランス語学
フランス文学専修 1 年生



野田 農 さん

私が現在の研究室に在籍することになったきっかけは、直接的には大学での第二外国語でフランス語を選択したことです。しかしさらに遡って考えると、その言語を選んだのは、高校時代に見たフランス映画の中で、フランスという国の懐の深さ、柔軟さに魅了されたからです。こうしたことは、私にとっては、京都大学に進学しようと思ったことにも共通していて、京都という町の懐の深さ、柔軟さに対する一種の憧れから、自分の進路を決めました。そのことは、修士課程を修了した後、一度東京の出版社に就職し、3 年を経てまた博士課程に入り直した現在でも変わりありません。鴨川の流れるような緩やかな時間の中で、多くの魅力的な人々や、世界の様々な文献・資料に囲まれながらじっくり自分自身と向き合える、こんな幸せなことはないのではないのでしょうか。

京都から世界を見る

2009 年西洋史学専修卒業
住友商事株式会社勤務
秋田 道哉 さん



ヨーロッパ（特にフランス）の勉強がしたいという漠然とした気持ちから、文学部に入学した。大学時代は西洋史学を専攻し、ヨーロッパ近世近代史ゼミに入った。大学院生も参加するこのゼミは非常に刺激的であった。「ヨーロッパ」「近世・近代」という空間的にも時間的にも離れた場所で生じた様々な事象に対し、講義時間に捉われずに議論した経験によって、物事に対する視点や考え方を狭めることなく、常に自らを相対化する癖が身についた。この癖は、自分達の立ち位置を把握しながらグローバルに視野を持つことが求められる社会人になった今でも大きな財産になっている。

京都大学の良さは、自由闊達な学風、充実した教育設備もさることながら、教授陣、先輩、同級生、後輩含め多様で尊敬できる人達が溢れている点にあると思う。

社会への直接的な貢献が見えやすい物事がもてはやされる風潮が強くなっている中で、じっくりと学び、遊び、議論する時間を文学部で持てた 4 年間は何事にも代え難い経験だった。

学科紹介

哲学基礎文化学系

哲学基礎文化学系は、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。たとえば、「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。「人間にとって宗教とは何か」、「美とは、芸術とは何か」。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史（古代・中世・近世）、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史学（美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学）

東洋文化学系

東洋文化学系では、日本・中国・インド・チベットの文学・思想・宗教・言語を軸とした研究が行われています。専門分野によっては、もう一步踏み込んで科学や芸術まで足を踏み入れることになるかも知れません。

基礎となるのは、なによりも文献資料の原典をきちんと読むこと。原文でしかわからない意味や美しさを理解するには、しっかりした語学力が不可欠です。研究を発展させるには、英・仏・独を始めとする外国語を、道具として駆使する必要も出てくるでしょう。

「東洋」はほんとうに存在するのか、存在するとしたらその特質はなにか、歴史的伝統と現実とはどのようにつながっているのか、文学や芸術の想像力はどんな世界を作り上げるのか。一正確な専門的知識、分野を超えた広い視界、その両者をあわせもって考えてみてください。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業一たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語などを合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総体的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学の分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査にも力を入れています。地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域事象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。各専修の研究内容を十分理解することができるように、1, 2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

専門科目（学部共通科目）

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
サンスクリット（2時間コース）、ポーランド語初級Ⅰ、現代インド語（ヒンディー語）、哲学基礎文化学系ゼミナール、東洋文化学系ゼミナール、西洋文化学系ゼミナール、歴史基礎文化学系ゼミナール、行動・環境文化学系ゼミナール、基礎現代文化学系ゼミナール	博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、漢文学、フランス語（中級）、ギリシア語（2時間コース）、ギリシア語（4時間コース）、ラテン語（2時間コース）、ラテン語（4時間コース）、スペイン語（初級）、スペイン語（中級）、イタリア語（初級4時間コース）、イタリア語（中級）、朝鮮語（初級）、朝鮮語（中級）、サンスクリット（4時間コース）、チベット語（初級）、アラブ語（初級）、モンゴル語（初級）、オランダ語（初級）、スワヒリ語（初級）、スワヒリ語（中級）、英語、英語論文作成法、書道、東洋文化学系ゼミナール	ヘブライ語、イラン語（初級）、チベット語（中級）、シュメール語（初級）、フランス語（上級）	

専門科目 (系別科目)

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎文化学系		系共通科目(哲学)講義,系共通科目(西洋古代哲学史)講義,系共通科目(西洋中世哲学史)講義,系共通科目(西洋近世哲学史)講義,系共通科目(日本哲学史)講義,系共通科目(倫理学)講義,系共通科目(宗教学)講義,系共通科目(キリスト教学)講義,系共通科目(美学)講義,系共通科目(美術史学)講義,哲学特殊講義,哲学演習,哲学・西洋哲学史講読,西洋哲学史講読,日本哲学史演習,日本哲学史講読,美学美術史学講読	哲学特殊講義,哲学演習,哲学卒論演習,西洋哲学史特殊講義,西洋哲学史演習,日本哲学史特殊講義,日本哲学史演習,倫理学特殊講義,倫理学演習,宗教学特殊講義,宗教学演習,宗教学演習Ⅱ,宗教学講読,キリスト教学特殊講義,キリスト教学演習,美学美術史学特殊講義,美学美術史学演習Ⅰ,美学美術史学演習Ⅱ,美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学),卒業論文(西洋古代哲学史),卒業論文(西洋中世哲学史),卒業論文(西洋近世哲学史),卒業論文(日本哲学史演習),卒業論文(日本哲学史),卒業論文(倫理学),卒業論文(宗教学),卒業論文(キリスト教学),卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義,系共通科目(インド哲学史)講義,系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義,系共通科目(国文学)講義,系共通科目(中国語学)講義,系共通科目(中国文学)講義,系共通科目(中国哲学史)講義,国語学国文学講読,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学講読,中国哲学史演習,中国哲学史講読,インド古典学講読	国語学国文学特殊講義,国語学国文学演習,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学演習,中国語学中国文学外国人実習,中国哲学史特殊講義,中国哲学史演習,インド古典学特殊講義,インド古典学演習,インド古典学講読,仏教学特殊講義,仏教学演習,仏教学講読Ⅰ,仏教学講読Ⅱ	国語学国文学卒論演習,卒業論文(国語学国文学),中国語学中国文学演習,卒業論文(中国語学中国文学),卒業論文(中国哲学史),卒業論文(インド古典学),卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋古典学)講義,系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義,系共通科目(英語学)講義,系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義,系共通科目(英文学)講義,系共通科目(アメリカ文学)講義,系共通科目(フランス語学)講義,西洋古典学講読,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学外国人実習,英語学英文学講読,英語学英文学講読Ⅰ,英語学英文学講読Ⅱ,英語学英文学外国人実習,アメリカ文学講読,アメリカ文学講読Ⅰ,アメリカ文学講読Ⅱ,アメリカ文学外国人実習,フランス語学フランス文学講読,イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義,西洋古典学演習,スラブ語学スラブ文学特殊講義,スラブ語学スラブ文学演習,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学特殊講義,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ,英語学英文学特殊講義,英語学英文学演習Ⅰ,アメリカ文学特殊講義,アメリカ文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学特殊講義,フランス語学フランス文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学外国人実習,イタリア語学イタリア文学特殊講義,イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学),卒業論文(スラブ語学スラブ文学),卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学),英語学英文学演習Ⅱ,卒業論文(英語学英文学),アメリカ文学演習Ⅱ,卒業論文(アメリカ文学),フランス語学フランス文学演習Ⅱ,卒業論文(フランス語学フランス文学),卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学)講義,系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義,系共通科目(東洋史学)講義,系共通科目(西南アジア史学)講義,系共通科目(西洋史学)講義,日本史学基礎演習,日本史学講読,東洋史学講読,西洋史学演習,西洋史学講読,考古学講読,考古学実習	日本史学特殊講義,日本史学演習Ⅰ,日本史学実習,東洋史学特殊講義,東洋史学演習Ⅰ,東洋史学演習Ⅱ,東洋史学演習Ⅲ,東洋史学演習Ⅳ,東洋史学演習Ⅴ,東洋史学演習,東洋史学実習,西南アジア史学特殊講義,西南アジア史学演習Ⅰ,西南アジア史学演習Ⅱ,西南アジア史学講読,西南アジア史学実習,西洋史学特殊講義,西洋史学演習Ⅰ,西洋史学演習Ⅱ,西洋史学演習Ⅲ,西洋史学演習Ⅳ,西洋史学実習,考古学特殊講義,考古学演習Ⅰ,考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ,日本史学実習,卒業論文(日本史学),卒後論文(東洋史学),卒業論文(西南アジア史学),西洋史学演習Ⅴ,卒業論文(西洋史学),考古学演習Ⅲ,卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ,系共通科目(言語学)講義Ⅱ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ,系共通科目(社会学)講義,系共通科目(地理学)講義,心理学講義Ka,心理学講義Kd,心理学講義Ke,心理学特殊講義,心理学実習Ⅰ,心理学実習Ⅱ,言語学基礎演習,社会学特殊講義,地理学講読,地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱa,系共通科目(心理学)講義Ⅱb,系共通科目(心理学)講義Ⅱc,系共通科目(心理学)講義Ⅱd,系共通科目(心理学)講義Ⅱe,心理学特殊講義,心理学演習Ⅰ,心理学講読,心理学実習Ⅲ,言語学特殊講義,言語学演習,社会学特殊講義,社会学演習,社会学講読,社会学実習,地理学特殊講義,地理学演習Ⅰ,地理学講読	心理学演習Ⅱ,卒業論文(心理学),言語学卒論演習,卒業論文(言語学),社会学演習,卒業論文(社会学),地理学演習Ⅱ,卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系	系共通科目(科学史)講義,系共通科目(二十世紀学)講義,系共通科目(日本現代史)講義	系共通科目(科学哲学)講義,系共通科目(情報・史料学)講義,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ,科学哲学科学史演習	科学哲学科学史特殊講義,科学哲学科学史演習,情報・史料学特殊講義,情報・史料学演習,二十世紀学特殊講義,二十世紀学演習Ⅰ,二十世紀学演習Ⅱ,現代史学特殊講義,現代史学演習Ⅰ,現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史卒論演習,卒業論文(科学哲学科学史),情報・史料学卒論演習,卒業論文(情報・史料学),二十世紀学卒論演習,卒業論文(二十世紀学),現代史学卒論演習,卒業論文(現代史学)

教育学部

Faculty of Education

教育学部のホームページ:

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

教育学部教務掛 tel.075-753-3010



[写真]「教育史専門ゼミナール IA」の風景

人間らしさを擁護し促進する態度を養う

教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組みなければなりません。

そのため、教育学部では、心と人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部への誘い

2009年、教育学部は創立60周年を迎えました。それとともに、改修により学舎も一新され、新たな歴史への一步を踏み出しました。教育学部はこの60年、戦後日本の教育にかかわる諸科学と心理学の研究をリードしてきたのです。

教育学部は、教員養成を目的とした学部ではありません。現代の教育にかかわる諸問題を学問的に探究し、よりよき社会実現のための知と技法を開発し、その習得をめざした学部です。現代の教育の諸問題は、複雑な要因が多層に折り重なっています。その諸問題に正面から向き合い、その解明のために、心や社会、人間それ自体に関するさまざまな学問とその方法を学ばなければなりません。人間を深く探究する人文科学、社会の仕組みや動きを解明する社会科学、人間の心に関する諸科学など、教育学部には、多様な学問を学ぶことができるよう、3つの系が用意されています。その意味で、教育学部は「教育」という現実的テーマを共有する「小さな総合学部」にほかなりません。

教育学部では、理論を実践に展開することと、そのためのフィールドを重視しています。学校に限らず、生涯を通した人間の生成と変容を視野にいれ、21世紀に求められる新しい教育学と心理学の創出を目指し実績を上げています。少人数教育の徹底と、学問の多様さと、まとまりのよい一体感、これが教育学部の特徴です。

教育は未来を創る営みです。教育学部は未来にかかわる学問を学ぶ場です。変化の激しい現代は未来が見通しにくい時代。その分、教育にかかわる諸学問への期待と役割は、ますます大きくなっていくのです。

教育学部の教育方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

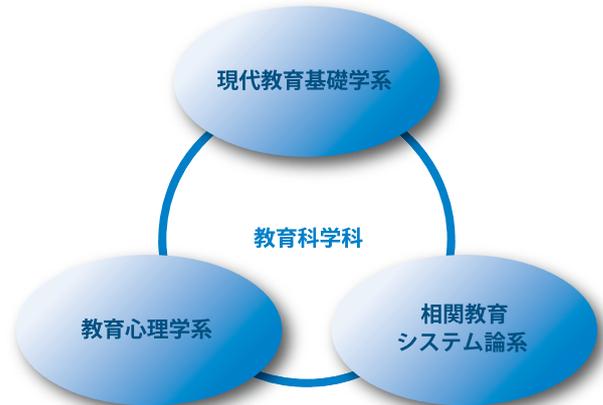
学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」推奨科目として「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っております。これは、教育の総合的理解が必要な学段段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。

教育原論／教育人間学／教育史学／教育方法学／教育課程論／授業論／生徒指導論／発達教育論／生涯発達心理学／障害児教育論



教育心理学／臨床心理学／認知心理学／人格心理学／発達心理学／メディア教育／児童・青年心理学／障害児心理学／社会心理学／教育評価

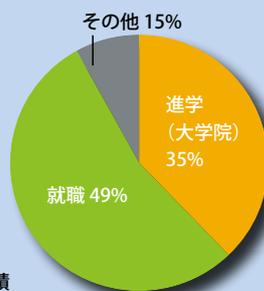
教育社会学／臨床社会学／社会調査／社会教育／メディア文化論／生涯学習論／図書館学／比較教育学／教育行政学／教育制度／教育財政学

教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。

● 卒業後の進路

教育学部の平成21年度卒業生は71名で、そのうち35名（約49%）が就職しています。その中には教育（学校）関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、25名（約35%）が大学院に進学しています。残りの11名（約15%）は聴講生等です。



2009年度実績

就職先の例

法務省／国土交通省／厚生労働省／京都大学／住友商事／住友化学／NTT西日本／ハウス食品／みずほ銀行／京都銀行／東京海上日動火災

入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

平成6年度（1994）から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

Message

在学生からのメッセージ

教育学部とはいったい どのような場所だろうか？

教育科学科2回生
川上 洋平さん



1学年につき3000人以上という京都大学の中のものたったの60人、たったの2%という類を見ない「少人数」学部。一人一人の志望動機も、入ってからの進路も本当に十人十色の中で、どんな人も受け入れてくれる場所、それが教育学部。充実した環境で、優秀な人達と学び、意見を交換し、高めあえる、それが教育学部。学年も年齢も先輩も後輩も超えて「仲間」と呼べる人達に出会える場所、それが教育学部。毎日の生活を通して他の学部にはない「繋がり」を強め、11月中旬には教育学部全体が協力して「教育学部祭」を実現する、それが教育学部。あなたもそんな強い「繋がり」を持った教育学部の一員として、私達と共に充実した大学生活を送ってみませんか？

大学での学びは、 自由で多様で幅広い

教育心理学系4回生
倉屋 香里さん



大学生になって、私が一番変わったなあと思うことは、ものごとを多面的に考えるようになったということです。入学当初、教育学部1回生で名簿を作成した時、その中のアンケートの項目に「あなたにとっての教育とは？」という質問がありました。完成した名簿を見てみると、先の質問の答えは人によって様々で、誰一人として同じ答えはありませんでした。そのことに気がついたとき、ひとつの質問には答える人の数だけ答えが存在することもあるのだと改めて感じたのです。受験勉強ではたいていの問題の答えはひとつに決まっていますが、大学での学びはもっと自由で、多様で、幅広いものです。私が学んでいる心理学も、多くの分野とのつながりを持ち、さまざまな立場から目に見えない人の心の動きを探ろうとする、とても幅の広い、面白い学問です。多様な価値観を持つ人々と関わり、多様なアプローチをする学問を学ぶことによって、私も徐々に多面的なものの見方ができるようになったと思いました。ついこの間入学したと思っていたのに、私も気がつけばもう4回生になっていました。みなさんの大学生活も、自分の中の変化を実感できるような、豊かで実りあるものになることを願っています。

● 教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

卒業生からのメッセージ

私の「軸」を作ってくれた場所

2009年卒業
長崎県立東高等学校教諭
西川 友絵さん



「やりたいことはまだ分からないけれど、人間に興味があるから教育を勉強してみよう！」5年前の私は、特に明確な目的もないまま本学部に入学しました。そんな私にとって、入学してからの日々は刺激の連続でした。最高の環境の中で最高の教授陣の授業を受け、今まで出会ったこともないようなタフでクレバーな人々と出会い、毎日新たな発見がありました。そして、そんなたくさんの方との出会いの中で多様な価値観を学び、自分の視野や興味の対象を広げるとともに、自分の「軸」となる部分を育てることができたように思います。現在は教育の最前線である学校現場に飛び出してきていますが、京都大学教育学部で過ごした4年間は、教師として、そして人間としてのブレない「軸」となって私を支えてくれることでしょうか。ぜひ皆さんも京都大学教育学部へ！

貴重な環境で過ごせた4年間

2010年卒業
航空管制官
中村 麻見さん



私が京大を目指したのは、京大で学べば、より広い視野を持って様々な学問の世界を覗くことが出来るのではないかと考えたからです。私は途上国の教育開発に関心があったので、教育学部で学びました。その中で、教育という枠だけに留まることなく、社会的・経済的又は文化的・宗教的要因など様々な事柄と結びつけて教育について考えられたのはまさに、京大ならではの質の高い多様な学問領域が、私達の知的好奇心を多方面から満たすのに充分だからだと思います。また、勉強以外にも色々な事に挑戦するのに恵まれた環境でした。そんな環境の中で、教授、同級生や先輩、後輩からたくさんの方の良い刺激を受けながら過ごせた4年間は、私にとって大変貴重な時間でした。京大を目指す皆さんもぜひ京大合格を果たされ、実り多い大学生活を過ごしていただきたいと思います。

大学科目 (系) 紹介

現代教育基礎学系

この系では、教育という人間の営みについての原理や方法、その根底にある人間観、人間が文化、歴史、社会的存在として発達するプロセスに関する研究をおこなっている。根本的かつ複雑な人間の営みを問題とするため、この系の研究方法やアプローチは多岐にわたっています。哲学・思想研究、歴史学、人間学、方法学、発達理論など、広い視野での研究・教育が重視されている点が特徴です。

- 具体的には、以下のような問題を扱っています。
- ・人間形成および教育に関する思考の枠組みはいかにあるべきか (哲学)
 - ・今日の教育の特徴は歴史的にどのような変遷のもとでできあがったのか (歴史学)
 - ・人間とは何かという問いのかかわりで大人と子どもとの関係はどのように捉えられるのか (人間学)
 - ・学校教育において、カリキュラムの編成や授業の実践はどのような仕組みと方法で行われるのか (方法学)
 - ・人間の生成や成長発達はどのように捉えられるのか (発達理論)

現代教育基礎学系では、現代の教育や人間に関わる諸問題を学問的に読み解き、教育という営みが実演される日常の舞台においてそれを捉えなおすことのできる幅広い識見、力量の育成を目指しています。そのための、多様で充実したカリキュラム編成がなされています。

教育原理、教育哲学、教育史、教育人間学、教育方法学、教育課程論、授業論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論など

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

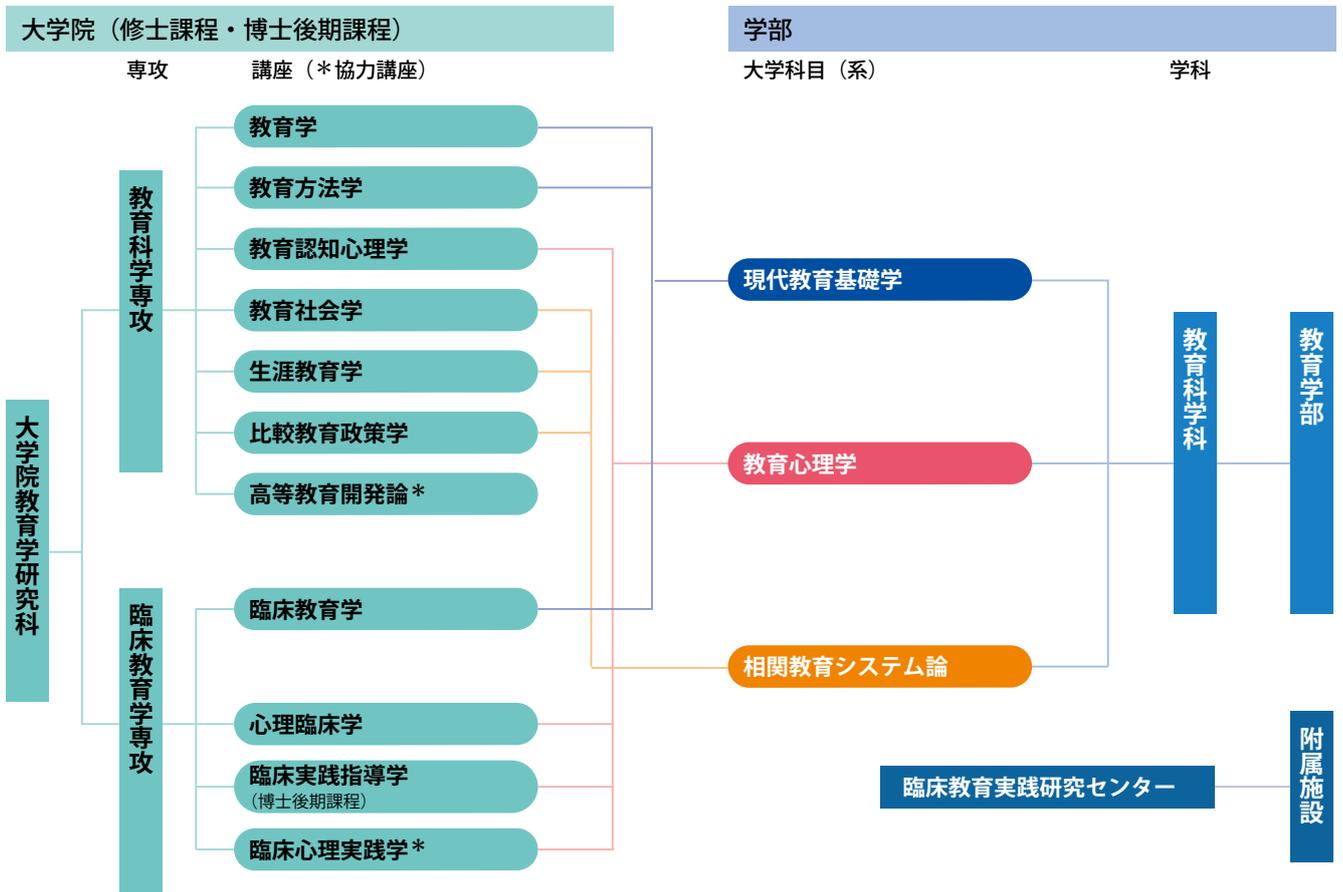
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

相関教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。相関教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的としています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学的手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 生徒指導論, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育方法学基礎演習Ⅱ A・Ⅱ B, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習 A・B, 心理学統計実習 A・B, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠ A・Ⅰ B, 教育史専門ゼミナールⅡ A・Ⅱ B, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 教育人間学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア教育概論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学基礎演習 A・B, 教育心理学実習 A・B, 心理学統計実習 A・B, 学校心理臨床概論, 病院心理臨床概論, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義	教育情報学, 応用認知心理学講義, 発達心理学講義, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 教育心理学コロキウムⅠ A・Ⅰ B, 教育心理尺度開発演習, 教育心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ, 健康心理学講義, 司法・矯正心理臨床概論, 自己と関係性の発達	教育心理学コロキウムⅡ, 臨床心理学研究法実習Ⅰ・Ⅱ
関連教育システム論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義Ⅰ, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部・第二部, 行政学, 財政学, 教育政策学入門, 教育法学, 関連教育システム論基礎演習Ⅰ A・Ⅰ B・Ⅱ A・Ⅱ B・Ⅲ, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用	教育情報学, 社会学講義Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 教育社会学講義, 教育社会史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナールⅠ A・Ⅰ B・Ⅱ A・Ⅱ B, 関連教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学, 比較教育制度論, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道徳教育論, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 同和・人権教育論, フランス語科・ドイツ語科・中国語科・水産科・宗教科の各教科教育法	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	職業指導, 教育実習Ⅱ, 教職教育

特別支援教育に関する科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	障害児教育総論, 知的障害者の心理・生理・病理, 聴覚障害者の心理・生理・病理, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論, 聴覚障害教育総論Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ (発達障害), 障害児教育の教育課程論		特別支援教育実習

法学部

Faculty of Law

法学部のホームページ：
<http://kyodai.jp/>

入学についてのお問い合わせ：
 法学部教務掛 tel.075-753-3107



【写真】「民法第一部」の講義風景

制度・組織の設計・運営を指導できる人材を育成する

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

法学部への誘い

法学部は、明治32年(1899年)に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,000余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、39講座を擁するに至りました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育も担当するとの組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置に伴い、大学院組織全体が、12の大講座に再編されました。学部の教育も、基礎的・基本的なものに重点が置かれるようになりました。なお、平成18年度には、経済学研究科と協力して、新しい専門職大学院として、公共政策大学院が発足しました。

また、平成19年度には、本学部・大学院の「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成—自由と共同性の法システム—」が日本学術振興会の学術創成研究を内容とする科学研究費補助金の対象研究に採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

法学部の教育

卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1回(90分)の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目とがあります。卒業するためには、教養科目を48単位以上、専門科目については、演習2単位を含む80単位以上を取得しなければなりません。

第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から20単位以上、自然科学系科目から8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1年生、2年生のことを2年生と呼びます。

高学年になるほど専門科目の授業が増える

1年生のみが受講・受験することができる専門科目は、半期2単位の、法学入門、政治学入門①・②、家族と法、司法制度論です。

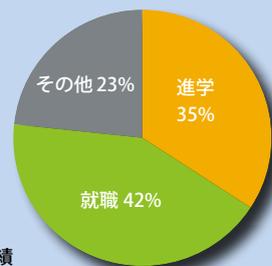
2・3年生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4年生配当科目ですが、2年生も履修できる2・3・4年生配当科目もあります。刑法第二部と民法第二部がこれに当たります。さらに、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2年生も履修ができます。

上記以外の六法系科目や一部の基礎法関連科目は、3・4年生配当科目となっています。経済学部の一部の科目も履修できます。

演習は3・4年生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周回予習に基づいた活発な討論が行われています。

● 卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約85%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の約27%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。



2009年度実績

科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成を通じて、1・2年生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として3年生以上で行うことが期待されています。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる専門科目の単位数に上限を設けています(キャップ制といいます)。

Message

在学生からのメッセージ

自己を高めるに不足のない環境

法学部3年生

奥田 亮輔さん



法学部では、京都大学の『自由』の校風が更に突き進められています。必修科目がなかったり、出席の確認もなく学期末試験だけで単位の合否が決まったりするところなどは、その典型といえるでしょう。そして、それゆえに学生は勉強に限らず自らのやりたいことを追求することができるのです。

もちろん法学部における学問の探求にも、最高の環境が用意されています。何よりも魅力といえるのは、やはり各分野において著名な教授の方々の講義を直接その耳で聞くことができることでしょう。また、友人と互いに刺激を受け合いながらする勉強は、とても質の高いものとなります。

目標を持った学生にとって、これほどに自己の向上に努めることができる環境が他にあるでしょうか。志を持った受験生のみなさん、ぜひ京都大学法学部の門を叩いてみてください。

「無限のフィールド」

法学部4年生

岩崎 司さん



私は高校生の時、修学旅行で訪れた京都という歴史ある地で学びたいと漠然と思っていました。

当時は法書に興味があったので、その時司法試験合格率

1位であった本学を選びました。入学後は縁あって生協学生委員会というサークルでオープンキャンパスや受験生サポート活動等に取り組みながら勉学に励んでいました。本学の個性豊かな先輩・同僚や(特に国際政治学ゼミの)教授との関わり、フィリピンでの語学留学・ボランティアを通じて徐々に途上国の発展に貢献できる仕事に就きたいと思うようになりました。実際、それを実現すべく来春からは商社で途上国のインフラ整備に取り組んでいきます。本学を志望される受験生の皆さんもここで様々な人と語り、授業・ゼミから学び、自分が将来したいことを見つけてください。ここにはそのフィールドがあります。

● 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例:

教育職員免許状(中学1種社会・高校1種公民)

卒業生からのメッセージ

自らの礎を築く経験

2005年卒業

三菱地所株式会社勤務

(ロックフェラーグループ)

インターナショナル社出向中)

福田 涼さん



ビジネスの世界に身を置いて実感したのは、学部時代に学んだ会社法や税法といった法律知識のみならず、人とは異なる視点で物事を考えることの重要性、そして意思決定を支えるのは筋道立った論理であり、どんなに感覚的に正しいと思えることでも相手を納得させることができなければ無に等しいということです。

多様な価値観を尊重し物事の本質から考える京都大学法学部という場合は、他の誰にも真似できない自分なりの価値観とそれを支える法的思考力を培う環境として最適であり、ここでの経験が、ニューヨークという異なる文化の中で働いている今も確固とした基盤として自分を支えています。

経験こそがその後の人生を支える土台です。皆さんも法学部という環境に身を置き、今しかできない、ここでしかできない経験をぜひ積んでみて下さい。

法を生かす力を養う場

2010年卒業

京都大学大学院法学研究科法書養成専攻

(法科大学院)

太田 慎也さん



「法学部」と聞くと、六法を小脇に抱え、六法の無味乾燥な記載を暗記する学部と思われる方が多いかもしれませんが、しかし、六法に記載された文言のままでは「法律」は全く生きません。法律は、社会に生起する様々な具体的な事件を解決するために人間が作った「道具」ですが、実際に法律が生きていくためには、それを解釈・適用する必要があります。これが法学の魅力であり、法学部は、このように法律の解釈適用の方法を身につけ、深く物事を考える力を養う学部だと思っています。

私は、法を用いて社会に貢献する法書を目指し、学部卒業後、京都大学法科大学院へ進学しました。そして、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨しながら、良い環境の中で、自分の将来に向けて日々邁進しております。

皆さんも素晴らしい環境の下で魅力ある勉学に励んでみませんか？

教員紹介

初宿 正典 教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

位田 隆一 教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

岡村 周一 教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

小野 紀明 教授 (政治思想史)

特に 20 世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

林 信夫 教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在態様、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

大石 眞 教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

伊藤 之雄 教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬・吉田茂などの有力政治家を考察しています。

山本 豊 教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

寺田 浩明 教授 (中国法制史)

伝統中国における法（成文法や裁判や契約）のあり方を比較法制的視点から研究しています。

高木 光 教授 (行政法)

行政活動を適正妥当なものにするための法的ルールはいかにあるべきかを研究しています。

木南 敦 教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といろいろ取り上げています。

松岡 久和 教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

真淵 勝 教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

新川 敏光 教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

川濱 昇 教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

村中 孝史 教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

浅田 正彦 教授 (国際法)

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行っています。

潮見 佳男 教授 (民法)

民事責任の基本問題。

亀本 洋 教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

酒巻 匡 教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

山本 克己 教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

岡村 忠生 教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

洲崎 博史 教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

前田 雅弘 教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

鈴木 基史 教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

山本 敬三 教授 (民法)

「法体系における私法の役割」という観点から、憲法と私法の関係、契約規制の法理、不法行為法の再構成を中心に研究しています。

北村 雅史 教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

塩見 淳 教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに充たしうような刑法を求めて研究・教育を行っています。

服部 高宏 教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

伊藤 孝夫 教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

秋月 謙吾 教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

横山 美夏 教授 (民法・フランス法)

所有に関わる法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

中西 寛 教授 (国際政治学)

国際政治の歴史的展開。

佐久間 毅 教授 (民法)

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

笠井 正俊 教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

唐渡 晃弘 教授 (政治史)

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究。

酒井 啓亘 教授 (国際法)

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

土井 眞一 教授 (憲法)

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と司法権・違憲審査制論について、研究を行っています。

毛利 透 教授 (憲法)

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

山田 文 教授 (民事手続法)

民事紛争解決手続（訴訟外手続を含む）について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

高山 佳奈子 教授 (刑法)

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

中西 康 教授 (国際私法)

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。

橋本 佳幸 教授 (民法)

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。

待鳥 聡史 教授 (アメリカ政治)

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制（権力分立制）」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。

安田 拓人 教授 (刑法)

刑事制裁の根拠を探りながら、責任能力論、量刑論、心神喪失者等医療観察法の諸問題等に取り組んでいます。

濱本 正太郎 教授 (国際機構法)

国際法の基礎理論（特に法律行為・解釈）について、領域・海洋・国際機構・経済・人権など様々な分野を題材に研究しています。

堀江 慎司 教授 (刑事訴訟法)

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。

船越 資晶 教授 (法社会学)

批判法学の法・社会理論について研究を行っています。

中田 昭孝 教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から研究・教育を行っています。

大山 隆司 教授 (刑事裁判実務)

刑事手続法などの理論を刑事裁判実務の観点から研究・教育しています。

林 醇 教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から研究・教育を行っています。

松田 一弘 教授 (知的財産法)

特許権侵害訴訟及び特許審決取消訴訟に関する諸問題について研究しています。

天野 佳洋 教授 (企業法務・信託法)

企業の資金調達ニーズと資金の出し手である投資家をリンクさせるファンドと証券化を研究しています。

小弓場 文彦 教授 (刑事訴訟実務)

刑事手続上の実務的な諸問題について、検察官の役割を踏まえた観点から検討する研究と教育を行っています。

島田 幸典 准教授 (比較政治学)

英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。

深澤 龍一郎 准教授 (行政法)

行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。

南 京兌 准教授 (公共政策)

日本・英国・韓国といった国々における公共政策（民営化、官僚制など）の比較研究を行っています。

稲森 公嘉 准教授 (社会保障法)

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。

曾我部 真裕 准教授 (憲法)

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの自由について研究しています。

齊藤 真紀 准教授 (商法)

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を行っています。

奈良岡 聡智 准教授 (日本政治外交史)

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。

増田 史子 准教授 (国際取引法)

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。

愛知 靖之 准教授 (知的財産法)

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。

佐々木 健 准教授 (ローマ法)

日本や西洋の法の源流に位置するローマ法において私人が利益を実現回復する紛争解決手段を研究しています。

高谷 知佳 准教授 (日本法制史)

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究しています。

西内 康人 准教授 (民法)

団体とされる人々の関係について、契約に関する原則の機能変化と、その原因について研究しています。

木村 敦子 准教授 (民法)

家族法（親族法、相続法）、とくに法的親子関係の成立、効果に関する諸問題について研究しています。

エスタ ティナ オットマン 准教授 (国際公共政策)

国際関係、特に中東地域の紛争・紛争解決を研究しています。

専門科目 (平成 22 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、フランス法、憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、社会保障法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門、政治学入門①、政治学入門②、司法制度論、家族と法、外国文献研究（英・独・仏）、特別講義（日本政治思想史、外交史、アセット・マネジメントの実務と法、国際生命倫理法）、特別講義（安全保障論）、演習	ミクロ経済学 1、ミクロ経済学 2、社会経済学 1、社会経済学 2、進化経済学、経済政策論、財政学、租税論、経済史 1、経済史 2、世界経済論、金融論、金融政策、基礎統計学、経済統計学、経営学原理、会計学 1、会計学 2、経済学史、日本経済史、欧米経済史、社会政策論、公共経済学	法理学、法社会学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、憲法、行政法、税法、国際法、国際機構法、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、刑法、政治過程論、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策

経済学部

Faculty of Economics

経済学部のホームページ:

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

経済学部教務掛 tel.075-753-3406



【写真】川北教授のゼミ風景

未来を切り拓く柔軟な思考力と想像力を培う

経済学部が望む学生像

経済学部の教員たちは、経済学・経営学の教育は、すぐに役立つ知識を与えるのではなく、学問的基礎のうえに柔軟な思考力と創造性を備えさせることだと考えています。そのため、大学において意欲をもって学び、社会に出てからの経済活動においても自分を成長させ続けようとする学生を望みます。経済学部は、これまで、産業・経営・学術・行政などの領域で活躍する人材を多数生み出しました。経済学部は、このような良き伝統を継承し、そこに自分なりの発展を付け加えようと意欲する学生諸君が入学してくることを望んでいます。

なお、経済学部は、平成21年度入試から高等学校の文系の教育課程に対応した一般学力検査による選抜（190名）だけでなく、理系の教育課程に対応した学力検査による選抜（25名）、論文を重視した選抜（25名）にも定員の一部を割いています。それは、数学などに現れる理学的才能や読解力と結びついた論文作成に現れる文料的な才能が経済学にむすびつくことを期待しているからです。

経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたが、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

経済学部の教育

4つのコースを設置

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経済経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっています。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱと年次配当によって階層化されています。

第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、全学共通科目によって語学学習や教養学習をおこなうだけでなく、入学したばかりの学生に、不足した知識を補い、自立した学習力をつけさせるための「入門演習」と9つの入門科目（ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、基礎統計学、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、情報処理入門）によって、経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。

第2学年から学ぶこと

第2学年からは「専門基礎科目」及び「専門科目Ⅰ」の授業群、第3学年からは「専門科目Ⅱ」の授業群が取れるようになります。

第3学年以上になると、経済学・経営学の専門科目だけでなく、法学部が提供する法学や政治学の科目もとれるようになります。また、高度な学習を求める学生には、大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

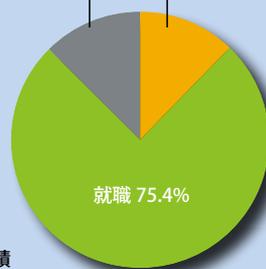
少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強

● 卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに80年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年約1割の学生は大学院へ進学しています。

その他 12.3% 進学（大学院）12.3%



2009 年度実績

就職先の例

みずほフィナンシャルグループ
／東京海上日動火災保険／三菱重工業／三井住友銀行／野村證券／日本生命保険／サントリーホールディングス／住友電気工業／トヨタ自動車／四国電力／西日本旅客鉄道／丸紅／住友生命保険

を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことができるところが京都大学経済学部です。

Message

在学生からのメッセージ

自分らしい「遊び」を探しに・・・

経済学部4回生
八田隼さん



私は京都大学に「遊ぶ」ために入学しました。遊びと言うと語弊があるかもしれませんが、私にとって、遊びとは「自分が熱中して打ち込むことができること」です。高校生までならクラブ活動や受験勉強がそれでした。大学生になっても「遊び」を大切にしていきたいと思い、自由を謳う京都大学なら探ることが出来ると確信し、入学を決意しました。大学ではサークル活動やゼミ活動に積極的に参加することで、主体的にスポーツや学問に打ち込むことが出来、目標に向かって努力する大切さを改めて知りました。また留学生に囲まれながら英語の能力を上げて、台湾の学会にて発表する機会もあり、グローバル化していく社会で活躍していくための足掛かりを作ることも出来ました。こうして私は大学生生活の中で、自分らしく、様々な経験を通して成長を実感しています。

最後になりましたが、学問、スポーツ、様々なことを経験する・・・どんなことでもいいと思います。自分らしい「遊び」を探しに、是非京都大学の門を叩きにきてください。

どんな大学生活を思い描いていますか？

経済学部4回生
原祐里奈さん



私の大学生活のメインは「ゼミ」と「資格取得」です。2回生から所属しているゼミでは、ゼミ生同士の仲が良く、楽しみながら学んでいます。時には夜遅くまで話し合い、自主的に研究を進めてきました。ゼミ活動は大変な時もありましたが、夢であった公認会計士の試験にも3回生の夏に合格することができました。

私がこのように充実した大学生活を送ることができたのは、京都大学経済学部の「自由」を象徴するような柔軟なカリキュラムと意識の高い友人たちのおかげだと思っています。

私の周りには、部活やサークルに打ち込む人、留学に行った人など自分がやりたいことを見つけ、楽しんでいる人ばかりです。京都大学は、やりたい!!と思えばどんなことでも実現できる場です。ぜひ、みなさんにも京都大学で充実した大学生活を送ってほしいと思います。

● 経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理歴史」、「公民」、「商業」

中学校教諭：「社会」

卒業生からのメッセージ

求めるものが見つかる場所

2005 年卒業
公認会計士（新日本有限責任監査法人勤務）
天野 丈さん



私は、京大経済学部の自由で開放的な学風の下、学部時代は島本ゼミで金融論やマクロ経済学を学び、大学院時代は徳賀ゼミで会計学を学びました。そのような学生時代に得た私の財産は、深い学識を基にしたアドバイスして下さる先生方から学んだ無知の知に基づく真摯な態度と知的で自由な議論を戦わせたゼミの先輩や仲間たちから学んだ深い探究心の大切さです。

私は、現在、公認会計士として上場企業などの財務諸表監査の仕事をしています。公認会計士にとって、深い専門知識をもとにした真摯な態度によりお客様から信頼されることや、新しい専門的な問題にキャッチアップしていくことが非常に重要ですが、私は、京大経済学部で学んだ経験を糧に、日々精進しています。

皆さんが京大経済学部で何を学ぶかは自由ですが、求めるものが見つかるでしょう。

帰りたくなる場所

2010 年卒業
サントリー食品株式会社勤務
朝岡 あゆ美さん



私にとっての京都大学は、慣れ親しんだ思い出がたくさんあり、くじけそうになったときには励ましてくれる人がいる場所です。また、ゼミや授業から学ぶ知識、友人や先生と交わす会話など、何気ない日常の中に、たくさんの成長のヒントが詰まった場所でした。今でも帰省のついでにルネ（食堂）に寄ってパフェを食べたり、ゼミの同期と長電話をしています。時折大学生活の続きをしているような気分になるところがあります。私はこの春から飲料メーカーで働いています。黒烏龍茶のマーケティングをする部署に配属となり、キャンペーンの運営や、消費者調査への同席など、新しいことづくめの毎日です。そしていつかは自分が開発した商品が京大生協に並び、今これを読んでくださっているあなたにお届けできる日が来ればいいな、なんて思っています。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基づいて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	准教授	講師	助教	助手
経済学	経済理論	小島 専孝 宇仁 宏幸	遊喜 一洋 若井 克俊	ディミター・ヤルナゾフ		
	統計・情報分析	大西 広	飯山 将晃 矢野 剛		白井 亨	
	歴史・思想分析	田中 秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤 祐文			
	比較制度・政策	今久保 幸生 岡田 知弘 久本 憲夫 岩本 武和 黒澤 隆文	久野 秀二 神事 直人			
	金融・財政	植田 和弘 島本 哲朗				
	市場動態分析	西牟田 祐二 諸富 徹	敦賀 貴之			
	現代経済学	成生 達彦 塩地 洋 根井 雅弘 依田 高典	渡邊 純子 稲葉 久子	櫻田 忠衛		
	国際経営・経済分析	劉 徳強	菊谷 達弥 宇高 淳郎			
	経営管理・戦略	武石 彰 若林 靖永	曳野 孝			
	市場・会計分析	藤井 秀樹 文 世一 末松 千尋 若林 直樹 澤邊 紀生	草野 真樹			
	事業創成	日置 弘一郎 徳賀 芳弘 梶山 泰生				
	ファイナンス工学	岩城 秀樹	江上 雅彦			
	ビジネス科学	吉田 和男	松井 啓之			
	プロジェクトセンター		佐々木 啓明			

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<ul style="list-style-type: none"> ●入門演習 ●入門科目 ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門	<ul style="list-style-type: none"> ●専門基礎科目 ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2 <ul style="list-style-type: none"> ●専門科目 I 社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 農業経済論, 国際経営史, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, 行動経済学, 開発経済論	<ul style="list-style-type: none"> ●専門科目 II 社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 流通論, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 世界経済論, 国際経済学, 国際金融論, 労働経済論, 国際農政論, 金融政策, イノベーション・マネジメント概論, 市場構造と企業戦略, 環境経済論, 事業創成

特殊講義 (*は大学院共通科目)	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
アカデミック・ライティング入門, 実践簿記 I, 実践簿記 II, 実践簿記 III, 実践簿記 IV, *応用計量経済学, *思想史の方法と対象, *国際財政論, *金融システム論, *数理経済学, *国際マーケティング, *応用ミクロ分析とゲーム論, *経営と起業会計, *経済情報調査論 1, *経済情報調査論 2, 進化経済学, *社会経済学・理論 A, *社会経済学・理論 B, *社会経済学・理論 C, *労使関係論, *経済学のための数学, *現代マーケティング, *企業金融のフロンティア, *財務戦略論, 京都経済論, *社会経済学・古典研究 A, *社会経済学・古典研究 B, 税務会計論, 国際税務論, *先端バンキング論, 啓蒙と現代の社会思想史, アセットメントマネジメントの実務と法, *国際貿易論, 関西経済論, *最近の経済哲学の論点	外国経済書講読, 演習, 卒業論文	基礎経済比較論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎的資源論, 基礎組織行動論

理学部

Faculty of Science

理学部のホームページ:

<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

理学部第二教務掛 tel.075-753-3637



[写真] 生物学研究室の実験風景

自然への疑問。自然からの声。そして自然の理に学ぶ。

理学部が望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

理学部への誘い

自然はどのようにになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、グローバルCOE拠点として、4つの教育研究計画が評価され、プロジェクト遂行のため活動しています。

理学部の教育

理学部の教育理念

教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と専門基礎科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと、学部科目のうち専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究所及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

全学共通科目に関しては、以下のように大まかに言ってA～Dの4群とそれらの組み合わせほかから成っています。

- A 群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B 群科目 自然科学系科目
- C 群科目 外国語科目
- D 群科目 保健体育科目
- A・B 群科目 科学論など
- A・C 群科目 芸術交流論など
- B・D 群科目 健康科学など

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス(10数名)が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系: 数学
- 物理科学系: 物理学, 宇宙物理学
- 地球惑星科学系: 地球物理学, 地質学鉱物学
- 化学系: 化学
- 生物科学系: 動物学, 植物学, 生物物理学

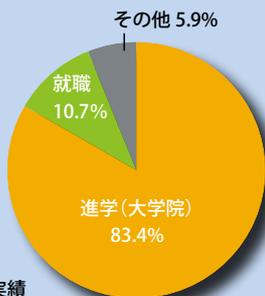
系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては卒業研究(講究(数理科学系)または課題研究)を履修します。

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

● 卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。

2009年度実績



就職先の例

みずほフィナンシャルグループ／中央三井アセット信託銀行／農林中央金庫／エース損害保険／全日本空輸／中外炉工業／日立システムアンドサービス／富士通／TDI 情報技術開発／日本無線／アビームコンサルティング／ディー・エヌ・エー／TOKAI／日本原子力研究開発機構／クボタ／三井物産／名古屋市役所／高知工科大学／浪速高等学校／洛北高等学校／洛星中学校・高等学校／広島女学院高等学校／STEP 学習舎／島崎金物店

4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では、数理学系では講義と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必修科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次から大学院への入学について。

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、全ての専攻の修士課程または博士後期課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士の学位が、または修士課程と合計して3年の在学で博士の学位が授与されることがあります。

Message

在学生からのメッセージ

「何に興味を持てるか、じっくり探そう」

理学部数理学系4年生 酒井 浩平さん

私は数学の力学系、その中でも分岐現象について学んでいます。現在は週一回のゼミの傍ら、自主的に行うゼミをやっていて、毎日を数学に費やしています。大変ですが、興味の方が大きいので非常に充実した生活を送っています。今こそ数学を専攻していますが、入学当初は物理をやるとつもりでした。しかし、当時大学院生の数学の方のお話を聞いているうち、数学も面白そうだと思い始め、本格的に勉強し始めると興味が数学にシフトしていったという感じでした。

大学生活は自由な時間が非常に多いです。勉強も自分のペースでできますし、サークル活動などもできます。入学してから考える時間は十分にあります。理学部で自由な時間の一部を使って、自分の興味がどこにあるのか探してみませんか？そして、研究の世界に入ってみませんか？



「自由の学風」を享受しよう

理学部化学系4年生 三井 拓也さん

京大理学部の特長は何と言っても履修科目の幅広さでしょう。本学部では卒業研究以外に必修科目が無く、どの分野の科目でも自由に履修できます。各分野の講義を受け、その分野で必要となる知識や研究内容を知った上で専攻を決めることができるため、幅広い分野に興味があった私には最適でした。

3年生になると、各専攻に分かれ、より専門的なことを学ぶようになります。私が選んだ化学系では、3年生の学生実験の後、4年生で研究室に配属されます。専門の研究でも他分野の知識が必要となることが多く、1・2年生で学んだことが活かれます。

自由ゆえに漫然とただ4年を過ごしてしまう可能性もありますが、自立して考え判断する力と積極的に学ぶ姿勢があれば、素晴らしい4年間となることでしょう。本学部はそのための最高の環境が提供されていると思います。



● 理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状（数学・理科）と中学校教諭一種免許状（数学・理科）の課程認定を受けています。

数理学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業者については、測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を履修することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

卒業生からのメッセージ

「自由な選択肢の中で最高の環境を」

2010年卒業 生物科学専攻修士1年 堤 璃水さん



京大理学部はよく、多くの学生を高い水準に教育するというより、少数の突出した学生を輩出するといわれます。これは、大学側が強制的に何かを要求することは少ないかわりに、興味を持てることを見つけた学生が求めれば、最高の環境を与えるという雰囲気があるためであるように感じます。自分の場合は、一回生のときに講義を受けて、面白と思った先生のところに春休みに訪ねたことがきっかけとなり、二回生のときから早めに研究室に入りにさせていただけようになっています。また、柔道部に所属し、海外に行くことができたり、プロの格闘家にも指導をもらう機会がもらえました。大学の楽しみ方は人それぞれです。自分が興味のあることを見つけ、積極的に求めれば、それをサポートしてくれる人や、環境を十二分に手に入れることができると思います。

「学問に制限なし」

1995年卒業 京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 素粒子論研究室 吉岡 興一さん



京都大学には「学問の垣根」がありません。用意された幅広い分野の学問にふれながら、私が物理学を志したのは、3年生半ばの遅い時期でした。大学院に進んだ後は、ノーベル賞を受賞された益川さんのもとで、素粒子論を学びました。物理学専攻では「学生と先生は対等」に扱われます。自分の意見を率直にぶつけることができる反面、先生も学生を一人の研究者とみなすため、そこに丁々発止のやりとりが生まれます。このような縦横に制限のない自由なシステムは、学問的・精神的な向上心を育み、私の研究者としての人生の礎を築いてくれました。

京大理学部には、あなたの豊かな独創性を受け入れる制度や環境が整っています。一最良の学術環境を備えた自由な空間—自分をしっかりと持てば、最高のモノが手に入ります。頑張ってください。待っています。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いて来ましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数解析学、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

有機物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光化学、光物理化学、分子構造化学、電子スピン化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、遺伝子動態学

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、時空間・生命物理、ソフトマター物理、非線形動力学、凝縮系理論、相転移動力学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、素粒子物理学、宇宙線物理学、素粒子論、原子核論、天体核物理学、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育しています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、相関地球惑星学

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、動物行動学、動物生態学、発生ゲノム科学、環境応答遺伝子科学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、ゲノム情報発現学、理論生物物理学、分子生体情報学、神経生物学、構造生理学、分子発生学



【写真】地質学鉱物学分野の地質調査実習風景

全学共通科目（専門基礎科目）

科目

微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、非線形数学、非線形数学セミナー、関数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理A、対称性の数理B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学A、低温科学B、ビーム科学入門、レーザー科学、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、基礎化学実験、現代化学入門A、現代化学入門B、基礎理論化学A、基礎理論化学B、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎地球科学IA、基礎地球科学IB、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、地球科学実験A、地球科学実験B、Field地球科学A、Field地球科学B、Material地球科学A、Material地球科学B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、地球生物圏史セミナー、地質科学セミナー、地球の物理、地球の誕生と進化、地球変動学基礎セミナー、自然災害科学I、自然災害科学II、環境地図科学セミナーII、生物学実習I、生物学実習II、生物学実習III、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の生物物理学、基礎生物学A、基礎生物学B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のおすすめ、生態科学、コンピュータグラフィクス実習A、コンピュータグラフィクス実習B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、グラフ・ネットワーク、科学英語A、科学英語B

専門科目

1 年次	2 年次	3 年次
<p>線型代数学演習 A, 線型代数学演習 B, 現代化学セミナー A, 現代化学セミナー B, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学 A, 自然人類学 B, 物理学の英語</p>	<p>集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 基礎数学からの展開 A, 基礎数学からの展開 B, 数学基礎演習 I, 数学基礎演習 II, 解析力学 1, 解析力学 2, 波動と量子論, 熱・統計力学 1, 物理のための数学 1, 物理のための数学 2, 物理学情報処理論 1, 解析力学 1 理論演習, 解析力学 2 理論演習, 熱・統計力学 1 理論演習, 天文学概論, 観測天文学, 地球惑星科学入門 II, 地球惑星科学入門 III, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習 A, 観測地球物理学演習 B, 地質科学通論 I, 地質科学通論 II, グローバルテクトニクス, 基礎地質科学実習, 生物圏進化史, 有機化学 IA, 有機化学 IB, 物理化学 I (量子化学), 無機化学 I, 物理化学 II, 生物化学 IA, 生物化学 IB, 入門化学実験, 物理化学演習 I, 分子生物学 I, 分子生物学 II, 分子遺伝学 I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 生体分子科学, 基礎生物学実験 I, 基礎生物学実験 II, 基礎生物学実験 III, 臨海実習第 1 部</p>	<p>代数学 I, 代数学 II, 幾何学 I, 幾何学 II, 解析学 I, 解析学 II, 微分方程式論, 関数解析学, 複素関数論, 代数学演義 I, 代数学演義 II, 幾何学演義 I, 幾何学演義 II, 解析学演義 I, 解析学演義 II, 数値解析, 計算機科学, 量子力学 I, 量子力学 2, 量子力学特論 1, 熱・統計力学 2, 物理実験学 1, エレクトロニクス, 物性物理学 1, 物性物理学 2, 物理実験学 2, 物理数学特論 1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学 3, 電磁気学 4, 物理学情報処理論 2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理学の英語, 熱・統計力学 2 理論演習, 量子力学 1 理論演習, 量子力学 2 理論演習, 電磁気学 3 理論演習, 電磁気学 4 理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習 (原子核物理: 素粒子の基本相互作用 - 量子電磁力学, 素粒子で観る量子力学, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の 4 つの力, 宇宙 X 線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習 (物性物理: 相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス, ソフトマター), 基礎宇宙物理学 I, 輻射, 基礎宇宙物理学 II, 電磁流体力学, 太陽物理学, 恒星物理学, 物理科学課題演習 (宇宙物理: 数値計算・シミュレーション, 観測機器, 星・銀河の世界, 活動する太陽), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学 I, 地震学 I, 海洋物理学 I, 気象学 I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学 I, 地形学, 地球惑星科学課題演習 (地球物理: 固体地球系, 流体地球系), 岩石学 I, 岩石学 II, 鉱物学 I, 鉱物学 II, 地質調査法, 地史学, 古生物学 I, 古生物学 II, 地球テクトニクス I, 地層学, 地球テクトニクス II, 地質学機器分析法, 岩石学実験 I, 岩石学実験 II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検 I, 地球テクトニクス実習 I, 古生物学実験, 地層学実験, 宇宙地球化学実習, 地球惑星科学課題演習 (地質鉱物: 地質科学研究法 1, 地質科学研究法 2), 生物化学 II, 生物化学 III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法 I, 化学実験法 II, 無機化学 IIA, 無機化学 IIB, 物性化学 I, 物性化学 II, 化学統計学, 有機化学 II, 有機化学 III, 化学数学, 物理化学 IIIA, 物理化学 IIIB, 量子化学 I, 量子化学 II, 分析化学 I, 分析化学 II, 環境化学, 物理化学演習 II, 物理化学演習 III, 計算機化学演習, 無機・物性化学演習, 生物化学演習, 化学実験 A, 化学実験 B, 植物系統分類学, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学 I, 生態学 II, 人類学第 1 部, 人類学第 2 部, 陸水生生態学, 遺伝情報維持機構論, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学 I, 発生生物学 II, 植物生理学, 植物分子生物学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学 II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報伝達学, 数理生物学, 植物分子遺伝学 I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学 II, 分子生物物理学, 生物学セミナー A, 生物学セミナー B, 生物学実習 A, 生物学実習 B, 生物学実習 C, 生物学実習 D, 生物学実習 E, 臨海実習第 2 部, 臨海実習第 3 部, 臨海実習第 4 部, 野外実習第 1 部, 野外実習第 2 部, 陸水生生態学実習 I, 陸水生生態学実習 II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御</p>

4 年次	卒業研究科目	特別講義
<p>代数幾何学 I, 代数幾何学 II, 整数論 I, 整数論 II, 位相幾何学 I, 位相幾何学 II, 微分幾何学 I, 微分幾何学 II, 確率論, 偏微分方程式, 関数解析特論, 解析学特論 I, 解析学特論 II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学 I, 保険数学 II, 保険数学演習 I, 保険数学演習 II, 原子核物理学 1, 原子核物理学 2, 素粒子物理学 1, 素粒子物理学 2, 重力, 重力特論, ソフトマター, 量子力学特論 2, 量子力学特論 3, 量子光学・光物性, 物理数学特論 2, 非平衡統計, 物性物理学 3, 物性物理学 4, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学 II, 地震学 II, 海洋物理学 II, 気象学 II, 太陽地球系物理学, 陸水学, 火山物理学 II, 活構造学, 鉱物学特論, 変成岩岩石学, 鉱物学実習, 地質科学野外巡検 II, 地球テクトニクス実習 II, 理論テクトニクス, 無機化学 III, 物理化学 IV, 有機化学 IV, 有機化学演習, 基礎化学物理</p>	<p>[数学講究] [物理科学課題研究] (原子核科学) 自然における相互作用 I, 自然における相互作用 II, 素粒子と原子核, 原子核とハドロン物理学, 天体核現象, 高エネルギー天体物理 (物性科学) 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 時空間秩序・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝縮系の理論 (宇宙科学) 機器開発, 太陽, 恒星とブラックホール, 銀河, 理論宇宙物理学 [地球惑星科学課題研究] (地球物理学) 電磁気圏, 大気圏・水圏, 固体圏 (地質学・鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学, 地球化学 [化学課題研究] 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学 [生物科学課題研究] 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 時間生物学, 植物分子遺伝学, 植物分子細胞生物学, 分子細胞生物学, 遺伝情報維持機構, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学, 理論生物物理学</p>	<p>数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義</p>

医学部 医学科

Faculty of Medicine

医学部医学科・医学研究科のホームページ：
<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：
 医学研究科 教務・学生支援室 tel.075-753-4325



[写真] 肉眼解剖学講義実習の風景

新医学領域の開拓と革新的医療の創成

アドミッションポリシー（医学部が望む学生像）

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが重要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の特門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療に

あたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

学科紹介（医学科）

カリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

専門科目（医学科）

1回生	基礎医学生物学、基礎医学生物学(実習)、医学情報リテラシー、外来患者支援実習、病棟体験実習
2回生	組織学、組織学実習・組織標本作製実習、肉眼解剖学講義実習、発生学、生理学、生理学実習、実験動物学、分子細胞生物学、分子細胞生物学実習、神経科学、脳実習、免疫学、微生物学講義、微生物学実習、寄生虫学、病理学総論、病理学各論・実習、法医学、法医学実習、薬理学・薬理学実習、放射線生物学、遺伝医学、薬物動態学・毒性学、医療情報学
3回生	
3回生	社会・環境・予防医学、診断治療学総論、循環器病学・心臓血管外科学、血液病学、内分泌・代謝病学/糖尿病・栄養内科学、呼吸器病学、消化器病学、泌尿器科学・腎臓病学、臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学)、特殊感染病学、免疫病学、整形外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、眼科学、婦人科学・産科学、皮膚科学、小児科学、加齢医学(老年医学)、精神医学、麻酔科学・集中治療医学、救急医学、臨床腫瘍学、画像診断学、口腔外科学、形成外科学、医の倫理、臨床検査医学、リハビリテーション医学、医療安全学
4回生	
4回生	マイコース・プログラム
5回生	臨床実習(血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、老年内科、糖尿病・栄養内科、神経内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、乳腺外科、小児外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科・人工腎臓部、腎臓内科、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科神経科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、集中治療部、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、口腔外科、薬学部、検査部、感染制御部、輸血、細胞治療部、病理診断部、外来化学療法部、初期診療・救急医学)
6回生	
6回生	卒業試験

医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを目指す医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけて、「全学共通科目」の履修が主体となります。しかし、これと並行して、医療人の素養をはぐむ取組や研究マインドを育成するチャレンジも始めます。たとえば、生命科学に関する英語の教材に関して、少人数で教員と議論します。人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修も開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくことになります。京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各々が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが役割をはたしています。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークが機能しています。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。施設も多額の寄付により、新しく構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

Message

在学生からのメッセージ

最高の自由を享受する 幸福と責任

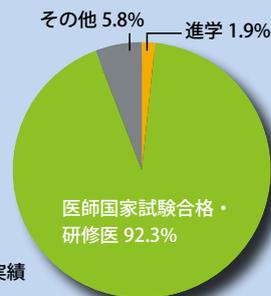
医学部医学科4年生 前田 紘奈さん



本学に入学した3年前の春、巨大な燦爛たる屏風を思わせる、医学部構内に咲き誇る荘厳な桜の姿に、京都大学医学部の偉大な歴史と伝統を感じたのを覚えています。そして、自分次第でどんな可能性も開ける素晴らしい環境を手に入れた今、それを十分に活かせるかプレッシャーを感じつつ、

● 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もいますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



2019年度実績

● 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

卒業生からのメッセージ

分野にとらわれず、知を愛し、 学問を楽しむ

2010年医学科卒業
京都大学大学院医学研究科医学専攻
分子細胞情報学

中根 崇智さん



卒業後、臨床には進まず大学院で研究者への道を歩んでいる。目標は生命現象を化学の言葉で理解することだ。

本学の強みは、最高級の規模と水準を誇る総合大学であること。低学年のうちから各分野の最新の話題に接することができた。図書館には古今東西の書籍が溢れ、生物学や化学などを学ぶのはもちろん、古典文学を原語で読むなど教養を深めることもできた。こうして学問の豊かさと楽しさを知った。学際的な研究を目指す私にとって多分野に触れて視野を広げたことは大きな財産だ。

無論一つの学部でできることには限界もある。そこで英国に留学して海外の研究文化に触れたり、農学部や学外機関で化学の研究に従事したりもした。

所与の課程に漫然と従うのではなく、自らの知的欲求に忠実に、学部や大学の垣根を超えて邁進してほしい。

「自由の学風」- 自学自習の尊重

2010年医学科卒業
京都大学医学部附属病院研修医

小西 義延さん



私は現在、京大病院において臨床研修に従事しています。研修医として忙しい日々を過ごす中でも大切にしていること、それは大学で学んだ「自学自習の精神」、常に課題を探る姿勢です。

京大の代名詞たる「自由の学風」、これは単に拘束の無いことを意味するのではなく、主体的に取り組みが必ずや何らかの機会が与えられるということの意味します。僕自身を例にとれば、海外臨床実習に憧れ、その実現に向け努力した結果、本学では前例が無かったにも拘らず、平出教授、富樫教授のご支援の下 UW Medicine, Seattle での実習が実現しました。夢や理想を叶えるべく課題を見つけ努力する学生を力強く支える「自由の学風」こそ、京大の魅力です。

皆さんも、自由で知的刺激にあふれ、"Ask, and it shall be given you." が具現化された京都大学のもと有意義な学生生活を是非送ってください。

自分なりに充実した日々を送っています。

部活動などに打ち込みつつ、常に優秀であらんとする志を持った、自分を磨くことに貪欲な仲間たち。著名な先生方がズラリと名を連ねる講義には、授業終了直後に皆が口々に「すごい」と声を上げることも。研究室の門を叩けば、温かく迎え入れて、一から丁寧に指導して下さいます。海外に短期で学びに行く学生も少なくありません。これ以上ない医学の学び舎で、あなたの桜を咲かせてみませんか。

人間健康科学科

医学部人間健康科学科のホームページ：
<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：医学研究科 教務・学生支援室
 (人間健康科学科教務担当) tel.075-751-3906



【写真】心肺運動負荷試験による運動機能測定

語らいから学びあい ... 創りあげる

人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育課程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療に積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

授業科目の区分

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目(全専攻共通)				<ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻 			

人間健康科学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通科目は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通じて豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部人間健康科学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに人間健康科学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

専門基礎科目

専門基礎科目は、「専門基礎」と「臨床基礎」で構成され、医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、多専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と並行して第Iセメスターより第IVセメスターまでに、人間健康科学科の学生は多専攻共通で履修することとなります。

専門基礎は、人体構造、人体機能、健康科学、専門基礎I、専門基礎II、専門基礎IIIから、臨床基礎は、内科系臨床概論、外科系臨床概論、臨床各論から構成されています。全学共通科目として開講される人体構造学(理学・作業対象)、臨床コミュニケーション論(看護・理学・作業対象)、リハビリテーション概論(理学・作業対象)は、該当専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

専門科目(看護学専攻)

看護学専攻では入学時から専門科目を開講します。第Iセメスターでは「基礎看護学」「看護カウンセリング」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第IIセメスターでは「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。第III・IVセメスターは「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第IIIセメスター以降は、成人、精神、母性、小児、在宅、地域保健の各専門領域の科目と選択コースとして助産学を開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第VII～VIIIセメスターでは「統合」と「統合看護(卒業論文)」を開講します。第VIセメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、4年間の学習を統合し看護学を深めていくことができるようにしています。

専門科目（検査技術科学専攻）

第Ⅰ・Ⅱセメスター（1年次）は、全学共通科目にて幅広い教養と見識を培う時期です。専門科目としては、医用イメージング概論（第Ⅱセメスター）のみが配当されています。

第Ⅲ・Ⅳセメスター（2年次）においては、基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に把握する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。

第Ⅴ・Ⅵセメスター（3年次）では、臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

第Ⅶ・Ⅷセメスター（4年次）には、指導教員のもと各自が卒業研究を行います。また、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、臨床実習として京都大学医学部附属病院の検査部、病理部、輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策はもちろん、チーム医療教育、地域医療、医療の国際化など幅広い医療に関する問題、医工連携等に直結する学習を行います（臨床実習、先端医療技術セミナーなど）。

専門科目（理学療法学専攻）

第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めます。

第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実践を経験します。第Ⅷセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

専門科目（作業療法学専攻）

作業療法学専攻では、第Ⅰ・Ⅱセメスターで共通科目、専門基礎科目と平行し、作業療法適応学原理、作業学や臨床実習Ⅰ（早期臨床体験）により、作業療法への興味を深めます。第Ⅲセメスターでは作業分析学、作業療法評価学総論など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の3領域の見学実習（臨床実習Ⅱ）など、専門課程を学ぶための基盤づくりを行います。

第Ⅳから第Ⅵセメスターにかけては、作業療法評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第Ⅵセメスターで、講義や実習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習（臨床実習Ⅲ）を行います。第Ⅶ・Ⅷセメスターでは、より高度な臨床応用力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨床実習Ⅳを通して学び、卒業研究で将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

● 卒業後の進路

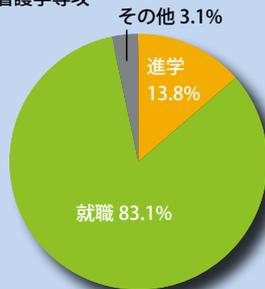
【看護学専攻】医療系（病院、保健所、市町村、企業内健康管理部門など）、官公庁、一般企業、教育研究機関、大学院進学など

【検査技術科学専攻】医療系（病院、診療所、保健所等）、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

【理学療法学専攻】リハビリテーションセンター、国立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

【作業療法学専攻】医療系（病院、診療所、保健所、保健センターなど）、福祉系（児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会性支援施設、老人福祉施設など）、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

看護学専攻



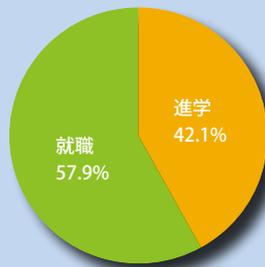
進学 (9)	大学院	8
	その他	1
就職 (54)	病院	40
	企業	7
	官公庁	7
その他		2

検査技術科学専攻



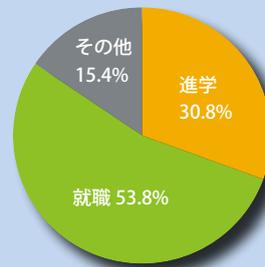
進学 (24)	大学院	22
	大学	1
	専門学校	1
就職 (11)	病院	5
	企業	5
	官公庁	1
その他		5

理学療法学専攻



進学 (8)	大学院	8
就職 (11)	病院	10
	企業	1

作業療法学専攻



進学 (4)	大学院	3
	その他	1
就職 (7)	病院	6
	企業	1
その他		2

2019年度実績

● 人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

【看護学専攻】看護師、保健師、助産師

【検査技術科学専攻】臨床検査技師

【理学療法学専攻】理学療法士

【作業療法学専攻】作業療法士

Message

在学生からのメッセージ

「健康を科学する医療人を目指す」

医学部人間健康科学科作業療法学専攻 3 回生

伊藤 左弥子 さん



桜色の風が吹く四月に入学したあの頃と、今の私との大きな違いは医療の捉え方です。現在の医療に求められていることは、もはや「病を治す」ことだけではありません。人がその人らしく健康に生きるために、さまざまな専門性をもつ医療職がチームとなって「人を癒す」ことが求められて

います。この人間健康科学科は、そのための知識と技術を学べる場所です。学生と教員、学生同士の関わりがとて強いこの学科で、あなたも医療を「多職種共同作業」と捉える姿勢を学んでいくでしょう。

大学時代のさまざまな経験、友人や先生との交流の中で学んでいく全てが、医療人になるための糧となります。どこまでも知識を深めるのも、医療の現場でボランティアをするのも、学外や異国で人間力を伸ばすのも自由。人間の健康を科学する医療人を目指して、無駄にできる時間は一秒もありません。学びたいという意志がある限り、京大の自由の風はあなたを学問の深みへと誘うでしょう。

講座紹介 (人間健康科学科)

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気のただけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生み育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工医学の 3 講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しうる研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる生理的および病理学的基礎情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育・研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

高度先進医療を支える生体医療情報解析において画像診断機器とそれを用いた画像診断技術が必要不可欠です。これらの診断機器や技術を開発・導入するうえでは、医学・医療分野の知識に加えて機器開発の基礎となる医用工学技術や情報科学の理論をも習得した人材が必要です。このような人材を育てるため、情報理工医学講座では、医工融合分野における最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したもの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されるところです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

作業療法学専攻

ひとの日々の生活は、身辺処理や生活管理など生活を維持する活動、職業や家事・育児・学業などの仕事に関する活動、遊びや余暇とさまざまな活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来し、生活に障害をもたらします。

作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、臨床教育と研究を行います。

生活を科学する作業療法

作業療法は「適応の科学」と言われ、病や障害により日々の暮らしに支障を来している人々に対し、自律して生活に適応する能力の発達・回復・開発・維持を援助します。生活への適応困難は、生理機能、運動機能、認知機能、社会的機能などのいずれかの要因により、もしくは複数の要因が重なって生じます。生活に生じた問題を分析し対策をたてるためには、人の心や身体の仕組み、モノの捉え方・判断の仕方、学習・記憶の仕方、社会規範の理解・対応の仕方、行為・動作として表現する仕組みなどに関する知識が必要となります。

作業療法学専攻では、適応機能の改善・回復を効果的に実践するための作業活動の特性を学び、対象者個々のニーズに合わせ作業を適応・段階づける知識・技術を獲得する作業分析、評価、援助法などを体系的に学ぶことができる教育プログラムを提供します。

作業療法に限らず、リハビリテーションに関連する専門領域は、他の医療領域に比べて歴史が新しい領域であり、今後さらなる発展が要望されており、高度先進医療と相補する治療・援助技法として最も脚光を浴びています。その要望に応えるために、研究を遂行し絶えず精錬していく、研究を臨床の場に具体的に反映することができる人材を育成します。

明日を拓く作業療法

2007 年度より大学院 (医学研究科人間健康科学系専攻) が開設され、臨床研究と共に、近赤外線分光法、脳波、自律神経機能測定、神経心理学的検査、脳磁図などによる客観的指標の研究にも取り組み、京都大病院と連携し、高度な臨床専門職、教育・研究職を育成しています。

全学共通科目 (人間健康科学科)

専攻	科目
看護学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 基礎化学実験, 情報科学概論, 生体制御機構概論
検査技術科学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 数学基礎 IA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IIB, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 健康管理論, 物理学実験, 基礎化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法学専攻	人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論
作業療法学専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論

専門基礎科目 (人間健康科学科)

人体構造学, 解剖学, 運動機能解剖学, 人体構造学実習, 解剖学演習, 人体機能学, 生理学, 人体機能学実習, 運動学, 臨床コミュニケーション論, リハビリテーション概論, 精神保健, 医療管理学, 病理学概論, 薬剤・薬理学概論, 生体防御学, 生化学概論, 公衆衛生学, 医療情報学, 医療統計学, 臨床内科疾病論 I, 臨床内科疾病論 II, 臨床内科疾病論 III, 臨床外科疾病論 I, 臨床外科疾病論 II, 臨床外科疾病論 III, 精神医学各論, 整形外科各論, 成育医療学各論

専門科目 (人間健康科学科)

専攻	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	基礎看護学, 看護カウンセリング論 I, 基礎看護学技術論, 基礎看護学技術演習 I, 基礎看護学技術演習 II, 基礎看護学実習	臨床基礎看護学 I, 臨床基礎看護学 II, 臨床基礎看護学技術演習, 臨床基礎看護学実習, 成人看護学概論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学 III, 成人看護学演習, 精神看護学, 小児看護学, 母性看護学, 在宅ケア論, 地域看護学概論, 地域看護学診断学, 地域看護学活動論 I, 地域看護学活動論 II, 保健行動学演習論, 保健看護政策論, 保健福祉行政論	成人看護学実習 I, 成人看護学実習 II, 成人看護学実習 III, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 家族看護学, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 地域看護学演習 I, 看護研究法	看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論 II, 緩和ケア論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ベアレンティング論, 助産診断技術学 I, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 地域看護学演習 II, 地域看護学実習, 総合実習, 統合看護 (卒業論文)
検査技術科学専攻	医用イメージング概論	分子生物・遺伝子検査解析学, 細胞生物学, 臨床検査総論, 医用電子工学, 生化学, 微生物学, 生化学実習, 分子生物・遺伝子検査解析学実習, 細胞生物学実習, 医動物学, 微生物感染症学実習, 細胞組織検査学, 血液学, 情報解析学基礎, 医用電子工学実習, 検査情報統計学, 臨床生理・超音波診断学	病理学各論 I, 細胞組織検査学実習, 臨床検査精度管理学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 画像情報システム学, 情報解析学, 臨床化学, 生体応答解析学, 病理学各論 2, 放射性同位元素検査技術学, 臨床生理・超音波診断学実習, 臨床化学実習, 生体応答解析学実習, 非侵襲画像検査学, 画像情報システム学実習	臨床実習, 卒業研究, 臨床検査病態学, 先端医療技術セミナー, 臨床病態情報解析学演習
理学療法学専攻	理学療法総論, 理学療法見学実習	理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 筋・骨格系理学療法学, 義肢学, 日常生活援助法 I	理学療法評価学演習, 臨床運動機能学, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 物理療法学, 生活動作学実習, 装具学, 高齢者理学療法学, 地域理学療法学概論, 日常生活援助法 II, 理学療法評価学実習, 臨床運動機能学実習, 神経系理学療法学実習, 呼吸理学療法学, 循環代謝系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 臨床評価実習 II	運動機能解剖セミナー, 身体運動解析セミナー, 臨床実習 II, 卒業研究, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 画像診断・整形外科セミナー
作業療法学専攻	作業療法適応学原理, 作業学, 臨床実習 I	作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 運動機能評価学実習, 日常生活援助法 I, 身体障害作業療法治療学総論, 高齢期作業治療学, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 臨床実習 II	作業学演習 II, 発達評価法実習, 心理社会機能評価学, 生活機能評価学実習, 日常生活援助法 II, 作業療法技術論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業治療学, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 地域作業治療学, 作業療法管理運営論, 研究方法論, 臨床実習 III	作業療法演習, 卒業研究, 臨床実習 IV

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

薬学部のホームページ:

<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

薬学部教務掛 tel.075-753-4514



[写真] 核酸サンプルを電気泳動装置で分析している様子

総合科学としての薬学研究の発展を通じて社会貢献へ

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科: 薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科: 薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創製し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、物理系、生物系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学部では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、薬科学専攻と医薬創成情報科学専攻の2つの専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省21世紀COEプログラムをはじめ、創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部には皆様を招待します。

薬学部の教育

創薬科学研究者と高度な医療を支える薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を進展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を支える薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

1~2回生(薬科学科,薬学科共通): 全学共通科目を中心にした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

3~4回生(薬科学科):専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

3~6回生(薬学科):専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4 回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学ワークショップを行い、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4 回生後期から特別実習が行われます。特別実習は 6 回生まで行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5 回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で 5 ヶ月間の実務実習を行います。



模擬薬局でのロールプレイの状況

Message

在学生からのメッセージ

京都で薬学を学ぶ

薬科学科 4 回生 黒田 悠介 さん



小学生のときに祖父を病気で亡くしてから、私は医療に関わりたと思うようになりました。数ある選択肢の中で最も多くの人を救うことができるのが薬だと考え、そんな薬を創りたいと思い薬学部を志望しました。入学して驚いたのが薬学という学問がカバーする範囲の広さ。シラバスを見ればお分かりになるかと思いますが、これらの学問すべてをモノにするのは少々大変かもしれませんが、逆に言うところほど広範な知識を根底に持つ我々薬学人は最強だと言えるのではないのでしょうか。様々な学問を勉強する中で私は有機化学に興味を持つようになり、現在薬品分子化学分野に属し、研究に明け暮れる生活を送っています。勉強に疲れたら、農 G で球を蹴るもよし、鴨川で昼寝するもよし、大文字山に登るもよし。京都はほんとにいいところです。みなさんもこんな素晴らしい環境で薬学を学びませんか。

憧れのキャンパスで

薬科学科 4 回生 大西 絵理香 さん



高校 2 年生の時に初めて京都大学を訪れ、あの時計台の下で興味のあることを思う存分学んでみたい！と強い憧れを抱いて京都大学に入学しました。6 年制の薬科学科では入学当初から医療人としての薬剤師を意識し、症例を用いた少人数でのディスカッションや、患者さんとの模擬対話、病院や医薬品承認機構の見学など、講義以外にも様々な経験をすることが出来ます。また、研究については、薬科学科と合同の実験演習を行った上で 4 回生からは研究室に配属され、現在は以前から興味があった脳神経についての研究を行っています。初めはもちろん先輩に教わりながらですが、少しずつ工夫を加え、じっくり自分のペースで好きな研究に取り組める環境に、とても満足しています。お天気の良い日には鴨川散策も気軽に出来るこのキャンパスで、一緒に充実した大学生活を送りましょう！

● 卒業後の進路

9 割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の 3 割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国公立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では 7 割が製薬会社に就職しています。



2009年度実績
[4年制 薬科学科]

就職先の例（修士課程修了者）

塩野義製薬／武田薬品工業／大塚製薬／アステラス製薬／大日本住友製薬／イオンリテール／大正製薬／医薬品医療機器総合機構／厚生省／京都市など

● 薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6 年制の薬科学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、4 年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状、衛生検査技師（薬科学科）などの資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ

創業の最先端で学ぶことの幸せ

2003 年総合薬科学科卒業
自治医科大学医学研究科助教

土屋 裕義 さん



目に見えないくらい小さなクスリが病気の体を治療する。そんな魔法のような技に“いったいどんなことが起きているんだろう”と興味を持ったのが薬学の道を選んだきっかけでした。“柔よく剛を制す”というか、“山椒は小粒でもピリリと辛い”というか、知れば知るほどクスリの力強さに魅せられます。京都大学薬学部の良さは有機化学、生命科学、コンピューターによる計算科学などの各分野の専門家が集まり、共同しながら新たな知識の発見を目指している点にあります。何よりもやりたいことができる環境、施設、知識がそろっているので、これを活用しない手はありません。自分の可能性を最大限に発揮し、将来への専門知識・技術を習得したあかつきには、どのような分野に進むにつけても大いなる飛躍が期待されると思います。

「考える力」

2008 年総合薬科学科卒業
武田薬品工業株式会社
CMC 研究センター製剤技術研究所

末原 徹也 さん



私は、生命を救う薬にかかわる仕事がしたいと思い、薬学部を志望しました。大学院の研究では、最先端の研究が行われており、非常に魅力的な研究が日々行われています。私自身もそうした研究を自由にさせていただきました。こうした大学院生活を通じて、自分自身で考え、その考えを実現していくことの難しさ、困難を少しでも解決できた時の喜びを学ばせていただきました。大学修士課程を経て、製薬企業で就職し研究を行っていますが、京都大学薬学部で学んだことを生かして活躍してまいりたいと考えています。これからの医療や創業の発展を担っていくのはみなさんであると思います。皆さんが充実した大学生活を過ごすことを応援しているとともに、皆さんと一緒に活躍できることを目指し、共に頑張っていきたいと思います。

学科紹介

薬科学科

医薬品の創成，生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うために，大学院に進学します。

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習，病院実習，調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが，さらに広い視野にたった専門知識を深め，研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

研究室紹介 (大学院の基幹分野，協力講座，寄附講座，統合薬学フロンティア教育センター)

薬科学専攻

薬品有機製造学：大野 浩章 准教授

- 1) ゲノム / プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤，抗ウイルス剤，抗痴呆剤の分子設計・合成研究

薬品合成化学：山田 健一 准教授

- 1) 触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2) 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3) 活性種の特性を活かした高官能基選択的返還反応の開拓
- 4) 生物活性天然物の全合成

薬品分子化学：竹本 佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学：伊藤 美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究，特にテルペノイドの生合成機構の解明
- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 吸入投与による精油の生薬薬理学的研究

薬品機能解析学：松崎 勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

構造生物化学：加藤 博章 教授

- 1) X線結晶構造に基づいたABCトランスポーターの構造生物学
- 2) ベルオキシソーム膜タンパク質の膜局在化メカニズムの構造生物学
- 3) 精密立体構造に基づく酵素の触媒作用の構造的起源の解明
- 4) X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

ゲノム創薬科学：辻本 豪三 教授 (兼任)

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 体内内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物，病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

製剤機能解析学：中野 実 准教授

- 1) リポ蛋白質粒子とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- 2) テイク状HDLの新生に関する生物物理化学的研究
- 3) 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- 4) レムナント粒子の細胞毒性に関する研究

精密有機合成化学：川端 猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体 Ca2+ シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の機能制御と情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

分子微生物学：渡部 好彦 准教授

- 1) インターフェロン産生と作用機構 (抗ウイルス機構) の解析
- 2) インターフェロンに対する多面的な細胞応答機構の解析
- 3) インターフェロンと各種疾患との相関の探索
- 4) インターフェロン遺伝子治療の基礎的研究

生体機能解析学：金子 周司 教授

- 1) イオンチャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬，機能解析，薬効解析，安全性評価，病因論，ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機構に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

遺伝子薬学：伊藤 信行 教授

- 1) 細胞増殖因子 (FGF) の脂肪組織，骨・軟骨，脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成，組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

生理活性制御学：小堀 保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学：中山 和久 教授

- 1) 低分子量GTPaseによる細胞内タンパク質輸送の調節に関する研究
- 2) 多様なエンドサイトーシス経路の調節に関する研究
- 3) メンブレントラフィックによる細胞分裂の調節に関する研究
- 4) メンブレントラフィックとタンパク質分解の共役に関する研究

神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成，神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体G蛋白質及び低分子量G蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学：二木 史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガertype転写因子のDNA認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング (核・ミトコンドリアなど) の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法，製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器，細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池 昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 3) 胎仔血清に由来する神経保護セロフェンド酸の作用機構の解析
- 4) 生体および天然物に由来する神経保護活性物質の探索研究
- 5) ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能解析学：佐治 英郎 教授

- 1) 脳疾患，心疾患，がん，糖尿病などでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれによる病態及び薬物作用の解明に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的選択的移行，選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学：高倉 喜信 教授

- 1) 遺伝子治療・DNAワクチン療法の最適化を目指した核酸医薬品の設計と体内動態制御
- 2) 免疫応答制御を目指したタンパク質・DNAワクチンの開発
- 3) RNA干渉を利用した疾患治療システムの開発
- 4) 核酸医薬品による免疫活性化機構の解明と疾患治療への応用
- 5) 高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法の開発

医療薬理学：桂 敏也 准教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポーター分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

医薬創成情報科学専攻

薬理ゲノミクス：辻本 豪三 教授

- 1) 最先端質量分析に基づくがんのバイオマーカー探索
- 2) 最先端質量分析に基づくがんのゲノム創薬
- 3) 体内内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物，病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

ケモゲノミクス：大野 浩章 准教授 (兼)

- 1) ゲノム / プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) 新規フラグメント合成法の開発と長鎖ペプチド合成への応用
- 4) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 5) 抗癌剤，抗ウイルス剤，抗痴呆剤の分子設計・合成研究

システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを，細胞，組織，生体という多層レベルで解明する。
- 2) 生体リズム異常による疾病の研究

- 3) 哺乳類時計遺伝子の同定とリズムの分子機構の研究
- 4) リガント，受容体の解明による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー (制御分子学)：掛谷 秀昭 教授

- 1) 多因子疾患 (癌，神経変性疾患，免疫疾患，糖尿病等) に対する次世代化学療法の開発を指向した先端ケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス，バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究 (コンビナトリアル合成研究等)

システムケモセラピー (創薬計算化学)：北浦 和夫 教授

- 1) 生体高分子のための量子化学計算法の開発
- 2) 生体高分子の構造と機能の理論的研究
- 3) 蛋白質と低分子の分子間相互作用の理論解析
- 4) 計算化学手法によるドラッグデザイン

統合ゲノミクス：金久 實 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) すべての医薬品を化学構造で一元管理したKEGG DRUGデータベースの開発
- 3) ゲノムと生体内化学反応の知識に基づく合成可能な天然物の予測
- 4) 医薬品開発に伴う化学構造変換の知識に基づく薬らしさの予測発
- 5) 薬物間相互作用，薬物・標的間相互作用のネットワーク解析

分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

寄附講座

ナノバイオ医薬創成科学：清水 一治 寄附講座教授

- 1) 最先端工学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究
- 2) 先端ナノバイオ工学技術 DNA チップによるがん等の臨床検体の分析
- 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用したテーラーメイド医療
- 4) 分子標的薬のターゲット探索、薬理ゲノミクス研究

システム創薬科学：奥野 恭史 寄附講座教授

- 1) 分子標的を指向したネットワーク創薬の開拓的研究
- 2) 遺伝子ネットワーク解析法を用いたうつ病の病態解明と創薬応用
- 3) システムズバイオロジーに基づく薬物作用メカニズムの解明
- 4) ケミカルゲノミクス情報に基づく新規医薬品開発探索理論の研究開発

統合薬学フロンティア教育センター

本センターは、新概念に基づくe-ラーニングを実践する統合型教育支援薬学情報ナビゲーションシステムを始め、薬学の全学問領域を体系的に統合した薬学フロンティア教育プログラムを開発し、革新的医薬品開発、高度先進医療を担う薬学人を育成すると共に、連携ネットワークによる展開を図る。

統合薬学教育開発分野：宋田 敏之 教授
 先端薬学教育開発分野：板倉 匡文 准教授
 臨床薬学教育開発分野：

統合薬学教育開発センター

本センターは、各学科の枠を超えて、医薬品研究現場への参加・体験型学習及びモデル医薬品開発・医療応用事業への参加を想定した問題解決型の演習・実習を中心とした新たな教育カリキュラム「創薬・育薬力育成プログラム」を実施するために、2010年4月に設置された。医薬品開発教育分野、創薬科学教育分野、実践臨床薬学分野、実践臨床薬学分野の4分野が設置され、横断的統合型教育により創薬・育薬力を持った創薬・育薬研究リーダーを育成するため活動している。

全学共通科目（専門基礎科目）

科目

薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学A、基礎有機化学B、数学基礎A、数学基礎B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、物理学実験、基礎化学実験、生物学実習Ⅲ、薬用植物学、基礎情報処理1、基礎情報処理2

学部カリキュラム

薬学共用試験

薬剤師国家試験

薬学科 (6年制)	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	学部5年	学部6年	博士1年	博士2年	博士3年	博士4年
	全学共通科目 早期体験学習	専門科目 全学共通科目	専門科目	特別実習 専門科目 事前学習	特別実習 事前学習 病院・薬局実務実習	特別実習 アドバンスト医療 系講義・演習				
薬科学科 (4年制)	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	修士1年	修士2年				
全学共通科目	専門科目 全学共通科目	専門科目	特別実習 専門科目							

専門科目（予定）

	1回生～	2回生～	3回生～	4回生～	5回生～	6回生～
化学系 講義科目		有機化学1（有機合成化学） 有機化学2（生物有機化学） 天然物薬学1（天然物化学） 天然物薬学2（薬用資源学） 創薬有機化学エクササイズ	有機化学3（創薬化学） 有機化学4（精密合成化学） 有機化学5（生体機能化学） 天然物薬学3（生薬学） 医薬品化学・新薬論			
物理系 講義科目		物理化学1（量子化学） 物理化学2（電気化学・界面化学） 物理化学3（構造化学） 分析化学1（薬品分析化学） 分析化学2（放射化学） 分析化学3（分光学） 創薬物理化学エクササイズ1 創薬物理化学エクササイズ2	分析学4（臨床化学） 物理化学4（生物物理化学）			
生物系 講義科目		生物化学1（物質生化学） 生物化学2（代謝生化学） 生物化学3（基礎遺伝子学） 衛生薬学1（健康化学）	微生物学1（細菌学） 微生物学2（ウイルス学） 生物化学4（応用遺伝子学） 生物化学5（細胞生物学） 生物化学6（生理化学） 生物化学7（生体防御学） 衛生薬学2（環境衛生学）			
医療系 講義科目	生理学1（解剖生理学） 先端医療 SGD 演習	生理学2（分子生理学） 生理学3（病態生理学） 薬理学1（総論・未梢薬理） 薬剤学1（溶液製剤論）	薬理学2（循環器薬理） 薬理学3（中枢神経薬理） 薬剤学2（固形製剤論） 薬剤学3（薬物動態学） 生理学4（病態ゲノム学）	医療薬剤学1 医療薬剤学2 薬局方・薬事関連法規 薬物治療学1 薬物治療学2		
情報系 講義科目		バイオサイエンス統計基礎 地域医療薬学		基礎バイオインフォマ ティクス 医薬品開発学		
専門実習			薬学専門実習1 薬学専門実習2 薬学専門実習3 薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 医療実務事前学習 特別実習	医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 医療実務事前学習 病院実務実習 薬局実務実習 特別実習	医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 臨床薬学総論 特別実習

工学部

Faculty of Engineering

工学部のホームページ:

<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

工学部教務掛 tel.075-753-5039



[写真]「計算機演習」授業風景

自由な発想と独創性に基づく社会貢献

工学部が望む学生像

- 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の永続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成22年4月現在で工学研究科の地球系専攻、建築学専攻、電気系専攻、化学系専攻が移転を終え、今後も順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、移転した専攻と関係の深い学科では、第4学年の特別研究(卒業研究)を主に桂キャンパスで行います。

工学部の教育

「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念

にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

第4学年では特別研究(卒業研究)に取り組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

Message

在学生からのメッセージ

「自分の可能性が見つかる大学」

地球工学科 4 回生

佐倉 影昭さん



私の所属する地球工学科には土木コース、環境コース、資源コースと3つのコースがあり、様々なことを広く学べます。選択肢に幅があって、その中であなたはきっとやりたいと思うことを見つけられるはず。私も自分の将来についての展望は何もない状態で、まさしく「何となく」地球工学科を受験しましたが、今では「国際機関で働きたい」という夢に向かって研究に励んでいます。

重要なのは、あなた自身が考え、行動しなければならないという事です。京都大学は自由な大学です。何もしなければ、何も得られずに卒業が訪れます。あなたが充実した大学生活を送りたいのであれば、積極的に行動することです。勉強はもちろん、遊びやバイト、サークル等でも、大学生活でしか得られないものが必ず得られます。

あなた自身も持っている可能性を最大に引き出せる機会を与えてくれる場所、それが京都大学です。

「仲間と共に」

建築学科 4 回生

太田 詞子さん



大学に入ると、時間をどのように使うか、何に重点を置くのかを自分で決めなければなりません。特に京都大学の場合、自由な学風が特徴であり、授業など勉強に関することも自由度が高くなります。そのため、一つのことに囚われず、幅広い価値観に触れることができます。私のいる建築学科の中だけでも、様々な分野で頑張っている人達があります。その中で大学生活を送ることは、非常に刺激になり、視野を広げてくれると思います。こういったことに力を注ぐにしても、一緒に頑張れる仲間がいるということは、何にも勝る活力になるのではないのでしょうか。京都大学では、高い志を持った人が多く、互いに切磋琢磨できると思います。ぜひこういった環境で色々なことに挑戦し、自分の道を切り開いて下さい。

「大きく羽ばたけるチャンス」

工業化学科 4 回生

頓部 李歩子さん



京大の世界への発信力と京都の町並みに憧れ、入学してから早4年。化学や趣味である書道、旅行に励んでいたらあつという間でした。

京大はその名のごとく、よい環境の中で、勉強・研究に限らず、サークル活動や国際交流など、さまざまなことを学べるということを実感しています。また、自分に投資できる時間が多く、大きく成長できる期間ではないかと思えます。

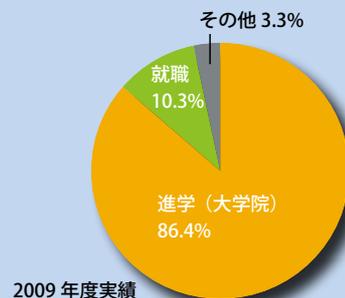
私は京大で素晴らしい先生・先輩・友人に出会い、有機化学という面白い学問に出会い、今は研究に打ち込んでいます。大学生活の中には“素晴らしいもの”がたくさん潜んでいます。あなたにもぜひ京大で“素晴らしいもの”に出会って、輝いてほしいです。



【写真】実験施設

● 卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上（平成21年度86%）の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。



● 工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。（また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。）

卒業生からのメッセージ

「自由が育てる可能性」

2007 年物理工学科卒業

2009 年工学研究科修士課程修了

パナソニック株式会社エナジー社勤務

佐藤 大樹さん



京都大学を選んだのは、キャンパスの持つ独特の空気を気に入ってしまったから。今思えば、それは「自由の学風」が生む雰囲気でした。京都大学では本当に多くを学びました。原子の視点で事象を眺める事の楽しさを知りました。バイトもしました。資格も取りました。遊びました。現在は、電機メーカーでリチウムイオン電池を開発しています。学生時代に学んだ金属・半導体と直接のつながりはなくとも、ものの考え方、材料工学の基礎知識、プレゼン力、英語力等、上記の経験全てが役に立っていることを日々実感します。幅広い経験をさせてくれた京都大学の素晴らしい研究土壌と、自由の学風には心から感謝しています。京都大学はあなたの好奇心を刺激し、様々な面で成長を促してくれます。是非、自由の学風の下で誰より充実した大学生活を送って下さい。

「たくさんの出会いで世界が広がりました」

2009 年電気電子工学科卒業

株式会社東芝電力流通・産業システム社
交通システム事業部勤務

山田 裕輝さん



「大学生活は？」と聞かれれば、「楽しかったです。」と胸を張って答えられます。

私は先輩方がのびのびと学生生活を楽しんでいる様子にあこがれて、京都大学に入りたいと思いました。京大ではやりたいことが出来る環境、知りたいことを学べる環境が整っているため、勉強に限らず方向決まった人は突き進んでいる感じがします。

現在電機メーカーにいるからかもしれませんが、電気の知識が役立つ場面は多いと感じます。また一方で在学中は部員の多い部活に入っていたこともあり、専攻の異なる人と関わる機会が多くありました。いろいろな考え方を知ることができたことで視野が広がり、仕事をしていく上でとても役立っています。

京都大学にはおもしろい人がたくさんいるので、皆さんもふれあってみて楽しい大学生活をすごして下さい。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

2011年度より、国際的技術者の養成を目的とし、全授業を英語で受講できる国際コースを開設します。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も、建築設計及び施工に従事する建築家、建築構造技術者及び設備環境技術者、行政的な指導・監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組み新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の5つのコース・サブコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる“情報”の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では“数理的思考”によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各コースの研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子 2011」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子 2011」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科指定科目)

学科	科目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、図学 A、図学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生物自然史基礎論 A、生化学入門 101、生化学入門 102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)、Japanese I、Japanese II、Scientific English I、Advanced Japanese、Scientific English II、Advanced Scientific English
建築学科	自然現象と数学、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学 A、微分積分学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学 A、図学 B、コンピュータグラフィクス実習 A 又は B、物理学実験、生活と数学 A、生活と数学 B、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、図学 A、図学 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、自然現象と数学、物理学基礎論 A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、関数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、神経科学総論 A、神経科学総論 B
情報学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、情報と社会、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
地球工学科	地球工学総論、基礎情報処理演習、基礎情報処理、情報処理及び演習、Exercises in Infrastructure Design I	確率統計解析及び演習、地球工学基礎数理、一般力学、社会基盤デザイン、基礎環境工学Ⅰ、資源エネルギー論、工業数学B1、構造力学Ⅰ及び演習、水理学及び演習、土質力学Ⅰ及び演習、計画システム分析及び演習、環境衛生学、物理探査学	測量学及び実習、連続体の力学、工業数学B2、構造力学Ⅱ及び演習、材料学、波動・振動学、水文学基礎、水理水工学、海岸環境工学、土質力学Ⅱ及び演習、土質実験及び演習、社会システム計画論、基礎環境工学Ⅱ、大気・地球環境工学、水質学、環境装置工学、放射線衛生工学、環境工学実験Ⅰ、地質工学及び演習、弾性体の力学解析、流体力学、物理化学、資源工学基礎実験、資源工学フィールド実習、先端資源エネルギー工学、学外実習、空間情報学、構造実験・解析演習、コンクリート工学、耐震・耐風・設計論、河川工学、水資源工学、水理実験、地盤環境工学、岩盤工学、都市・地域計画、公共経済学、交通マネジメント工学、交通政策論、都市景観デザイン、上水道工学、下水道工学、廃棄物工学、環境工学実験Ⅱ、固体の力学物性と破壊、波動工学、数値計算法及び演習、熱流体工学、分離工学、工業計測、資源工学材料実験、材料と塑性、International Internship、Exercises in Infrastructure Design II	地球工学デザインA、地球工学デザインB、地球工学デザインC、土木法規、地球防災工学、材料実験、地殻海洋資源論、地殻開発工学、時系列解析、工学倫理、建築工学概論、特別研究、International Construction Management
建築学科	基礎情報処理、基礎情報処理演習、建築工学概論、日本都市史、世界建築史、設計演習基礎、建築造形実習	建築計画学Ⅰ、住居計画学、建築設計論、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築構造力学Ⅰ、建築構造力学Ⅱ、建築生産Ⅰ、建築材料、建築・都市行政、景観デザイン論、建築情報処理演習、工業数学C	都市設計学、行動・建築デザイン論、日本建築史、建築設備システム、鉄筋コンクリート構造Ⅰ、鉄骨構造Ⅰ、建築構造力学Ⅲ、建築生産Ⅱ、建築論、都市・地域論、都市環境工学、建築光・音環境学、建築温熱環境設計、建築構造解析、耐震構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鉄骨構造Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、建築応用数学、建築情報システム学	建築計画学Ⅱ、建築基礎構造、耐風構造、地球工学総論、設計演習Ⅴ、構造設計演習、構造・材料実験、建築安全設計、建築設備計画論、建築環境工学演習、工学倫理、専門英語、特別研究
物理工学科	物理学総論A、物理学総論B、基礎情報処理、基礎情報処理演習	計測学、計算機数学、材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、熱力学Ⅱ、機械設計製作、工業数学F1、工業数学A1、材料基礎学Ⅰ、固体物理学、原子物理学、流体力学Ⅰ、物質科学基礎、材料統計物理学、材料科学基礎Ⅰ、材料科学基礎Ⅱ、化学熱力学基礎、原子核工学序論Ⅰ、原子核工学序論Ⅱ、機械製作実習、電気回路と微分方程式、エレクトロニクス入門	エレクトロニクス入門、応用電磁気学、工業数学F2、工業数学A2、工業数学F3、工業数学A3、数値解析、材料基礎学Ⅱ、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、連続体力学、流体熱工学、工業力学A、エネルギー変換工学、振動工学、制御工学Ⅰ、制御工学Ⅱ、システム工学、生産工学、薄膜材料学、精密加工学、設計工学、材料組織学、結晶物理学、材料物理化学、量子物性基礎論、構造物性学、熱及び物質移動、統計力学、エネルギー・材料熱化学Ⅰ、エネルギー・材料熱化学Ⅱ、固体物性論、プラズマ物理学、量子反応基礎論、中性子理工学、エネルギー化学Ⅰ、エネルギー化学Ⅱ、流体力学Ⅱ、統計熱力学、量子線計測学、気体力学、熱統計力学、空気力学、推進基礎論、航空宇宙機力学、固体力学、量子無機材料学、固体電子論、材料機能学、材料プロセス工学、高分子材料概論、物理学演習Ⅰ、物理学演習Ⅱ、機械システム学演習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、機械システム工学実験Ⅲ、機械設計演習Ⅰ、機械設計演習Ⅱ、材料科学実験および演習Ⅰ、材料科学実験および演習Ⅱ、エネルギー理工学設計演習・実験Ⅰ、エネルギー理工学設計演習・実験Ⅱ、航空宇宙工学実験Ⅰ、航空宇宙工学実験Ⅱ、インターンシップ、金属材料学、材料強度物性、材料量子化学、材料電気化学、材料分析化学、加速器工学、放射化学、流体熱工学、結晶分析学、原子炉物理学	量子物理学Ⅱ、人工知能基礎、システム工学、マイクロ加工学、物理学英語、固体物性学、信頼性工学、品質管理、機械要素学、核物理基礎論、生物物理学、原子炉基礎演習・実験、数理解析、有限要素法の基礎と演習、航空宇宙工学演義、工学倫理、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
電気電子工学科	電気電子工学概論、電気回路基礎論、電気電子回路、基礎情報処理、基礎情報処理演習	電子回路、電気電子工学実験A、電気電子工学実験B、電気電子プログラミング及び演習、電気電子数学Ⅰ、電磁気学Ⅰ、論理回路、計算機工学、情報理論、物性・デバイス基礎論、半導体工学、電気電子計測	電気電子工学実習A、電気電子工学実習B、電気電子計算工学及び演習、グラフ理論、電気回路、電磁気学Ⅱ、電気機器基礎論、電気電子数学Ⅱ、デジタル回路、自動制御工学、ディジタル制御、システム最適化、応用電気機器、パワーエレクトロニクス、電力工学Ⅰ、放電工学、通信基礎論、情報伝送工学、通信ネットワーク、電波工学、計算機ソフトウェア、組み込み計算機システム、ディジタル信号処理、固体電子工学、電気電子工学のための量子論、プラズマ工学、真空電子工学Ⅰ、電気電子材料学、光工学Ⅰ、生体工学の基礎、メカトロニクス入門	マイクロ波工学、生体医療工学、アンテナ・伝搬工学、知能型システム論、光通信工学、電力工学Ⅱ、真空電子工学Ⅱ、光電子デバイス工学、光工学Ⅱ、電気伝導、集積回路工学、電気電子英語、工学倫理、電気法規、電波法規、特別研究
情報学科	計算機科学概論、数理工学概論、アルゴリズムとデータ構造入門、線形計画、電気回路と微分方程式、基礎情報処理演習	エレクトロニクス入門、工業数学A1、数理工学実験、基礎数理演習、プログラミング演習、計算機科学実験及び演習Ⅰ、計算機科学実験及び演習Ⅱ、システム解析入門、論理システム、システムと微分方程式、解析力学、論理回路、言語・オートマトン、計算機アーキテクチャⅠ、プログラミング言語、コンパイラ、情報理論、コンピュータネットワーク、グラフ理論、数値解析	コンピュータネットワーク、数値解析、工業数学A2、工業数学A3、線形制御理論、確率と統計、確率離散事象論、応用代数学、人工知能、ヒューマンインタフェース、数値計算演習、数理工学セミナー、システム工学実験、計算機科学実験及び演習Ⅲ、計算機科学実験及び演習Ⅳ、物理統計学、連続体力学、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、現代制御論、最適化、非平衡系の数理、情報システム理論、計算機アーキテクチャⅡ、オペレーティングシステム、パターン認識と機械学習、データベース、集積システム入門、技術英語、情報システム、アルゴリズム論、画像処理論、ソフトウェア工学、マルチメディア、計算と論理、生命情報学、情報と通信の数理	電子回路、信号とシステム、数理解析、非線形系の力学、情報と職業、通信基礎論、工学倫理、ビジネス数理、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
工業化学科	工業化学概論Ⅰ、工業化学概論Ⅱ、基礎情報処理、基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習、有機化学基礎及び演習、基礎無機化学、化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学Ⅰ（創成化学）、物理化学Ⅰ（創成化学）、無機化学（創成化学）、分析化学（創成化学）、高分子化学基礎Ⅰ（創成化学）、化学数学（創成化学）、化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学Ⅰ（工業基礎化学）、無機化学Ⅰ（工業基礎化学）、分析化学Ⅰ（工業基礎化学）、有機化学Ⅰ（工業基礎化学）、化学プロセス工学、化学数学Ⅰ（工業基礎化学）、最先端の化学入門（工業基礎化学） 【化学プロセス工学コース】物理化学Ⅰ（化学工学）、無機化学Ⅰ（化学工学）、基礎流体力学、化学工学数学Ⅰ（化学工学）、化学工学計算機演習、反応工学Ⅰ	【創成化学コース】創成化学実験（創成化学）、有機化学Ⅱ（創成化学）、生体関連物質化学（創成化学）、物理化学Ⅱ（創成化学）、高分子化学基礎Ⅱ（創成化学）、統計熱力学入門（創成化学）、機器分析化学（創成化学）、環境保全概論、有機化学Ⅲ（創成化学）、物理化学Ⅲ（創成化学）、錯体化学（創成化学）、最先端機器分析（創成化学）、高分子化学Ⅰ、化学生物学、材料有機合成化学、環境安全化学、高分子化学Ⅱ 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験（工業基礎化学）、物理化学Ⅱ（工業基礎化学）、有機化学Ⅱ（工業基礎化学）、無機化学Ⅱ（工業基礎化学）、分析化学Ⅱ（工業基礎化学）、グリーンケミストリー概論、生化学Ⅰ（工業基礎化学）、高分子化学概論Ⅰ（工業基礎化学）、化学数学Ⅱ、環境保全概論、有機化学Ⅲ（工業基礎化学）、物理化学Ⅲ（工業基礎化学）、無機化学Ⅲ（工業基礎化学）、生化学Ⅱ、生物化学工学、有機工業化学、高分子化学概論Ⅱ（工業基礎化学）、量子化学概論、環境安全化学、界面基礎化学 【化学プロセス工学コース】移動現象、流体系分離工学、プロセス制御工学、物理化学Ⅱ（化学工学）、化学工学数学Ⅱ、計算化学工学、化学工学実験（化学工学）、環境保全概論、反応工学Ⅱ、固相系分離工学、微粒子工学、プロセスシステム工学、化学工学シミュレーション、生物化学工学、環境安全化学、物理化学Ⅲ（化学工学）、有機工業化学	【創成化学コース】電気化学、有機分光学、高分子化学Ⅱ、化学のフロンティア（創成化学）、産業科学特論、有機金属化学、工学倫理、化学実験の安全指針、特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針、触媒化学、化学統計力学（工業基礎化学）、有機分光学、電気化学、有機金属化学、先端機器分析科学（工業基礎化学）、工学倫理、特別研究、有機化学Ⅳ（工業基礎化学） 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針、プロセス設計、工学倫理、特別研究

注) 青文字の科目：地球工学科国際コースにおいて、英語による授業も提供する科目

農学部

Faculty of Agriculture

農学部のホームページ:

<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

農学部第一教務掛 tel.075-753-6012

生命・食料・環境

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々なかつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

農学部への誘い

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれません。しかし今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら品種改良や、食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきかも、農学の重要な課題です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科(農学科)、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万7千名に及ぶ卒業生を社会に送り出し、食料の生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動にはなおいっそうの自然との調和が求められます。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をか



[写真] 左上：培養細胞 / 右上：イネ / 左下：顕微鏡像 / 右下：無菌操作

けない方法や技術を見つけていかなければならないのです。この大きな課題に皆さんもぜひチャレンジしてください。

農学部の教育

専門知識の習得と広い視野の育成

農学部は、農学とそれに関連する学識とともに高い倫理性を身につけた社会人を育てることを目的としています。さらにそのような人材に(1)人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想する能力(2)農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与する能力(3)生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究を理解する能力を備えさせることをめざしています。

この目的を実現するため、農学部では、資源生物科学科(生物系)、応用生命科学科(化学系)、地域環境工学科(物理系)、食料・環境経済学科(社会科学系)の基礎系4学科と森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重し、学生の自主的判断を活かしつつ、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成をめざしています。

人間社会は、地球上の動植物や微生物と共存しながらそれらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、生物が食物連鎖や物質循環をとおしてどのような生態系を形成しているのかについての深い理解が欠かせません。また人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げていくことが求められます。

どのように学ぶか

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわれます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられます。学科にとらわれない幅広い学識を養うことを目的にまず1~2年生では主に、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。これと並行して専門基礎科目も開講され、3年生からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では講義に加え、実験、実習、ゼミナールが重視され、各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。さらに4年生では研究分野(研究室)に分かれて課題研究(卒業研究)に取り組みます。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

農学部の教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館北の農学・生命科学研究棟、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(大阪府高槻市)・牧場(京都府京丹波町)でも行われます。

生産現場に根ざした教育・研究

実際の生産・農産物流通の現場に出かけ、そこにある問題点を分析し、解決策を導く手法を学ぶというフィールド実習もおこなわれます。附属の農場と牧場もあり、教育・研究の場として利用されています。附属農場では、農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした研究が行われています。附属牧場は、総面積約15haを有し、肉用牛を用いて、産肉生理学的な面からの研究を行うとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。



【写真】酵素化学実験風景

Message

在学生からのメッセージ

多様性と自由

農学部応用生命科学科4回生

篠原 昌宏さん



京大農学部にあるもの、それは多様性と自由です。扱う学問分野も「農」という1文字からは想像できないほど多様ですし、先生方や学生も個性的な人ばかりで、毎日何らかの学びや気づきを得ることができます。「これがやりたい!」というものが入学時点で特になくても、そういった多様な学問や人々に触れる過程で自分に合うものを見つけられるのではないかと思います。私自身は、大学生の特権である豊富な自由時間を使って様々な人と交流することを通じて農業や植物に興味を持ち、今は植物細胞のタンパク質についての研究を行っています。

自由であればあるほど自主性と積極性がなければ何も得られないといえますが、自分から行動する人にとっては知的好奇心を満たし続けることのできる最高の環境が、ここ京大農学部には揃っているとと言えるでしょう。

知の海への誘い

農学部食料・環境経済学科3回生

坪川 由里奈さん

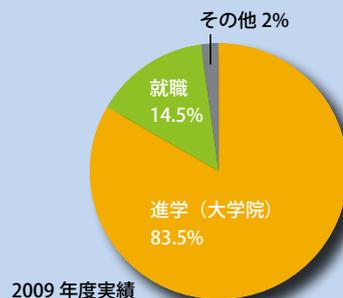


食や農は、長い歴史の中で常に私たちのそばに存在し、私たちの身体を創り、生活を築き、人間の社会を形成してきた。私たち自身の生命や生活そのもの、ともいえるだろう。その食と農に、農学は様々な面から切り込んでいく。食料・環境経済学科では、人文・社会科学をベースに、自然科学の知識を加えて分析し、研究している。京都大学に入ってみて驚くのは、その圧倒的な知の蓄積、知の海の広さであり、深さである。先輩の研究者達が築いてきた知の体系を吸収し、継承し、時に反駁しながら、私たち自身が新しい知の形成に関わっていく。始めは戸惑うことも多く、溺れないようじっと浮いているので精一杯かもしれない。しかし、周りに助けられながら泳ぎつづけることで、初めて、私たちは食と農に関する知の営みに参加していくことができる。大学生活を、広く深い知の海に身を預けて過ごしてみることも、きっと楽しい。

● 卒業後の進路

卒業生の8割程度が大学院に進学しています。

就職先については、公務員、公的研究機関の研究員、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・コンピュータ関係など、幅広い分野で活躍しています。



就職先の例

林野庁/京都市/京都市/全国農業協同組合連合会/旭化成(株)/アサヒビール(株)/ (株) 林原/理研ビタミン(株)/豊通食料(株)/三井物産(株)/三井住友銀行(株)/ (株) 三菱東京UFJ銀行/野村證券(株)/第一生命保険(株)/アメリカンファミリー生命保険(株)/TIS(株)

● 農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程、樹木医補の資格認定のための教育課程を設けているなど、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ

開拓と選択—自由への挑戦—

2001年農学部生物生産科学科卒業

京都大学大学院農学研究科助教

大石 風人さん



思えば私の学生生活は、心の赴くままに将来の無限の可能性を見つめ、決断する日々でした。そんな私に京都大学は、視野を狭めず関心のある物事に主体的に取り組んでいくことの面白さを教え、またその機会を存分に提供してくれました。

学部時代には京都の地で自学自習を楽しむ傍ら、アルバイト資金で農業国フランスへ留学し、大学院時代にも奨学生として再度フランスへ行き経営学を学んだりしました。一方で、モンゴルの大草原で研究活動を行い、自然の中での遊牧民と家畜との繋がりに感動し、家畜生産への関心が自身の軸となりました。そして現在は、出身研究室でもある畜産資源学分野の教員となり、卓越した能力と可能性を秘めた学生達とともに、世界の畜産に関わる諸問題解決に向けて、研究活動を自由に楽しむ日々です。

生物多様性だけでなく

人の多様性も大事

2001年農学部生産環境科学科卒業

秋田県立大学生物資源科学部助教

井上 みずきさん



関東出身であり、関西という異なる文化圏に触れたくて入学しました。京都が気に入って、学部4年、修士2年、博士3年、ポスドク2年と計11年間もキャンパスをうろうろしてしまいました。友人・先輩・後輩・先生のいずれであれ、生意気に(無礼ではなかったと信じたい)対等に忌憚のない議論ができたのは京大の持つ「人の多様性を許容」する文化に根ざしていたように思います。また、京大は農・理・総合人間と「生態学」が勉強できる学部が多くあり、この分野を志す人にとっては刺激にみちた環境だと思えます。現在、私は、関東・関西でもない文化圏東北・秋田にて学生とともに野山を駆け回り森林生態学に関する研究を行っています。数年後、みなさんと森林学会や生態学会で会うかもしれません。その際は研究について忌憚のない議論をしましょう!

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、有用物質・遺伝子の有効利用やこれまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性統御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント（農業水利施設の効率的な維持管理と更新）による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、精密農業による資源循環型社会の構築、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、農畜水産物と食品生産に関わる計測と制御など、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活にも関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食糧不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目（学科指定科目）

学科	科目
資源生物科学科	数学基礎 IA, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIB, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 基礎生物学 A, 農学の新戦略 - 増収と環境の調和をめざして -, 生物圏の科学 - 生命・食糧・環境 -, 基礎化学実験, 環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎 IA, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIB, 確率論基礎, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 農学の新戦略 - 増収と環境の調和をめざして -, 基礎化学実験, 基礎生物学 A
地域環境工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 数理統計, 確率論基礎, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 IA, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIB, 確率論基礎, 数理統計, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 環境学, 生命科学概論 A, 生命科学概論 B, 農学の新戦略 - 増収と環境の調和をめざして -, 生物圏の科学 - 生命・食糧・環境 -, 人間と数学 A, 人間と数学 B, 環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 IA, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIB, 基礎情報処理, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 生命科学概論 A, 生命科学概論 B, 物理学実験, 基礎生物学 A, 基礎生物学 B, 基礎化学実験, 地球科学序論, 生存圏の科学 - 環境計測・地球再生
食品生物科学科	数学基礎 IA, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIB, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 基礎化学実験, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B

専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 資源生物学基礎, 細胞生物学Ⅰ, 遺伝学	資源生物学概論Ⅰ, 資源生物学概論Ⅱ, 資源生物学概論Ⅲ, 資源生物学概論Ⅳ, 細胞生物学Ⅱ, 細胞生物学Ⅲ, 生態学, 動物生理学, 微生物学, 植物生理学Ⅰ, 大気環境学, 生物統計学, 資源生物学基礎実験, 土壌学Ⅰ, 海洋動物学, 栽培技術論と実習Ⅰ, 畜産技術論と実習Ⅰ, 海洋生物学技術論と実習Ⅰ, 海洋生物学技術論と実習Ⅱ, 海洋生物学技術論と実習Ⅲ, 植物調査法と実習, 応用数学, 食品安全学Ⅰ	栽培植物起源学, 植物生理学Ⅱ, 作物学Ⅰ, 育種学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 植物生産管理学, 栽培システム学Ⅰ, 品質科学, 動物遺伝育種学, 動物生殖学, 動物栄養学, 動物生体機構学, 資源動物生産学, 海洋環境学, 海洋生物生態学, 海洋微生物学Ⅰ, 海洋生物資源学, 海洋環境微生物学, 雑草学Ⅰ, 植物病理学Ⅰ, 昆虫生態学Ⅰ, 昆虫生理学, 熱帯農業生態学, 微生物生態学, 生態情報開発学, 生物圏情報学Ⅰ, 資源生物学専門外書講義Ⅰ, 資源生物学専門外書講義Ⅱ, 資源生物学実験及び実験法Ⅰ, 資源生物学実験及び実験法Ⅱ, 栽培技術論と実習Ⅱ, 作物学Ⅱ, 育種学Ⅱ, 花卉園芸学, 果樹園芸学Ⅱ, 栽培システム学Ⅱ, 家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー, 動物機能開発学, 海洋生物学Ⅱ, 海洋微生物学Ⅱ, 魚類学, 海洋生物細胞工学, 雑草学Ⅱ, 昆虫生態学Ⅱ, 生態制御学, バイオインフォマティクス, 環境毒性学, 遺伝学Ⅱ, 品質設計開発学, 品質評価学, 応用動物遺伝学, 動物栄養機能学, 動物環境生理学, 海洋生態系学, 海洋生体システム利用学, 植物病理学Ⅱ, 植物環境ストレス学, 土壌学Ⅱ, 農薬科学, 生物圏情報学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅱ, 植物栄養学, 食品微生物学, 酵素化学	畜産技術論と実習Ⅱ, 食品安全学Ⅱ, 資源生物学特別科目Ⅰ, 資源生物学特別科目Ⅱ, 資源生物学特別科目Ⅲ, 資源生物学特別科目Ⅳ, 作物科学演習, 園芸科学演習, 耕地生態学演習, 品質科学演習, 生産管理科学演習, 応用動物科学演習Ⅰ, 応用動物科学演習Ⅱ, 海洋生物資源学演習, 海洋微生物学演習, 海洋生物生産学演習, 資源植物科学演習, 植物保護科学演習, 生産生態学演習, 課題研究
応用生命科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅰ, 応用生命科学入門Ⅱ, 応用生命科学入門Ⅲ, 応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論, 生化学Ⅰ, 生化学Ⅱ, 有機構造解析学, 生物物理学Ⅰ, 有機反応機構論Ⅰ, 有機反応機構論Ⅱ, 応用微生物学Ⅰ, 食品安全学Ⅰ	生物物理学Ⅱ, 分析化学, 生物有機化学Ⅰ, 生物有機化学Ⅱ, 生物有機化学Ⅲ, 一般生体高分子化学, 生体高分子構造論, 構造生物学, 応用微生物学Ⅱ, 応用微生物学Ⅲ, 植物栄養学, 植物生化学Ⅰ, 分子生物学Ⅰ, 分子生物学Ⅱ, 分子細胞生物学Ⅰ, 分子細胞生物学Ⅱ, 基礎生理学, 専門外国書講義, 植物生化学Ⅱ, 産業微生物学, 分析化学実験, 生化学実験, 分子生物学実験, 植物生化学実験, 応用微生物学実験, 有機化学実験, 生物物理学実験	応用微生物学Ⅳ, 栄養化学, 食品工学, 醸造食品学概論, 食品工業論, 食品安全学Ⅱ, 土壌学Ⅰ, 応用生命科学演習Ⅰ, 応用生命科学演習Ⅱ, 課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 地域環境工学概論Ⅰ, 地域環境工学概論Ⅱ, 地域環境工学演習	大気環境学, 応用数学, 応用力学, 材料力学, 水理学, 工業数学 C, 土木材料学, 土壌物理学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 数値計画法, 情報処理学及び演習Ⅰ, 情報処理学及び演習Ⅱ, 栽培技術論と実習Ⅰ	環境動態学, 測量学, 構造解析学, 環境水文学, 地域整備開発施設学, 灌漑排水学, 農村計画学, 農地整備学, 水資源利用学, 利水システム工学, 生物機械計測学, 農用エネルギー・動力学, フィールドロボティクス, 農産加工機械学, 制御工学, 機械設計, 電気・電子工学, 農業機械学専門外書講義, 作物学Ⅰ, 蔬菜園芸学, 果樹園芸学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 農学原論, 食料・環境政策学, 資源環境経済学, 食品工学, 砂防学Ⅰ, 森林水文学, 森林生態学, 土木材料・環境地盤工学実験, 水理学実験, 土壌物理学・水環境工学実験, 測量法及び実習, 施設機能工学演習, 計算水理学演習, 農業機械学実験Ⅰ, 農業機械学実験Ⅱ, 製図 (CAD) 演習	国土・地域計画, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 地域環境工学実習, 灌漑排水学演習, 農村整備計画演習, 農業機械学演習, 課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食料・環境経済学概論Ⅰ, 食料・環境経済学概論Ⅱ, 食料環境基礎社会・経済論, 国際農林業概論, 食料・環境経済学実習	経済原論Ⅰ (ミクロ経済学), 経済原論Ⅱ (社会経済学), 経済原論Ⅲ (マクロ経済学), 経済思想史, 社会経済史, 農林統計利用実習, 農業発展論, 農業会計学基礎実習, 資源生物学基礎, アグリビジネス論, 調査研究方法実習Ⅰ, 調査研究方法実習Ⅱ	農業組織経営学, 農業経営情報会計学, 資源環境経済学, 食料・環境政策学, 林業政策学, 国際農村発展論, 農業・農村史, 農学原論, 農企業問題特論, 農業資金会計論, 資源環境分析学, 農林統計学, 農産物価格論, 林業経済学, 農村社会学, 専門外国書講義Ⅰ (英語), 専門外国書講義Ⅱ (ドイツ語), 地域農業・農業経営管理特論, 作物学Ⅰ, 土壌学Ⅰ, 植物栄養学, 農村計画学, 水資源利用学, 国際森林資源論, 熱帯林環境学, 花卉園芸学, 栄養化学, 農地整備学, 野生動物保全学, 熱帯森林資源学, 食品安全学Ⅰ, 食品化学, リスク管理論, 食料・農業経済情報論, 食・農学倫理, 農業組織経営学演習Ⅰ, 農業経営情報会計学演習Ⅰ, 資源環境経済学演習Ⅰ, 食料・環境政策学演習Ⅰ, 林業政策学演習Ⅰ, 国際農村発展論演習Ⅰ, 農業・農村史演習Ⅰ, 農学原論演習Ⅰ, 農林経営経済調査実習	国土・地域計画, 食料・環境経済学特別講義Ⅰ, 食料・環境経済学特別講義Ⅱ, 食料・環境経済学特別講義Ⅲ, 食料・環境経済学特別講義Ⅳ, 食料・環境経済学特別講義Ⅴ, 食品安全学Ⅱ, 森林法律論, 農業組織経営学演習Ⅱ, 農業組織経営学演習Ⅲ, 農業経営情報会計学演習Ⅱ, 農業経営情報会計学演習Ⅲ, 資源環境経済学演習Ⅱ, 資源環境経済学演習Ⅲ, 食料・環境政策学演習Ⅱ, 食料・環境政策学演習Ⅲ, 林業政策学演習Ⅱ, 林業政策学演習Ⅲ, 国際農村発展論演習Ⅱ, 国際農村発展論演習Ⅲ, 農業・農村史演習Ⅱ, 農業・農村史演習Ⅲ, 農学原論演習Ⅱ, 農学原論演習Ⅲ, 課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 森林基礎科学Ⅰ, 森林基礎科学Ⅱ, 森林基礎科学Ⅲ, 森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ, 森林科学Ⅱ, 森林科学Ⅲ, 森林科学Ⅳ, 大気環境学, 森林科学実習Ⅰ, 森林科学実習Ⅱ, 森林科学実習Ⅲ, 森林科学実習Ⅳ, 研究林実習Ⅰ	国際森林資源論, 森林計画学, 造園学Ⅰ, 造園学Ⅱ, 森林利用学, 樹木生理学, 森林育成学, 森林植物学, 森林資源管理学, 森林環境学, 森林生態学, 群集生態学, 森林植物繁殖学, 野生動物保全学, 熱帯林環境学, 熱帯森林資源学, 樹木細胞生理学, 細胞壁形成論, 砂防学Ⅰ, 砂防学Ⅱ, 森林水文学, 森林影響論, 生物材料物性学, 木構造学, 木材加工学Ⅰ, 木材加工学Ⅱ, セルロース化学, バイオマス化学, 森林生化学Ⅰ, 森林生化学Ⅱ, 高分子合成化学, バイオマス複合材料化学, 生物材料物理学, 生物材料構造学, 専門外国書講義Ⅰ, コンピュータ利用と森林科学, 森林総合実習及び実習法, 森林生物学実験及び実験法, 森林物理学実験及び実験法, 森林基礎化学実験及び実験法, 森林利用学実習及び実習法, 基礎生態学実験及び実験法, 応用生態学実験及び実験法, 樹木の超微形態観察及び観察法, 森林水文・砂防学実験及び実験法, 木材工学実験及び実験法, 木材加工学実験及び実験法, バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ, バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ, 造園学実習Ⅰ, 研究林実習Ⅱ, 研究林実習Ⅲ, 研究林実習Ⅳ	緑地植物学, 専門外国書講義Ⅱ, 森林法律論, 緑地計画論, 森林有機化学, 高分子物性学, バイオマスエネルギー, 生物圏情報学Ⅰ, 生物圏情報学Ⅱ, 木材保存学, 木質材料学, 住環境学, きのご学, 森林科学特別科目, 林業政策学, 林業経済学, 測量学, 水理学, 土壌学Ⅰ, 土壌学Ⅱ, 材料力学, 構造解析学, 振動学, 熱力学及び伝熱工学, 応用数学, 森林分析化学, 造園学実習Ⅱ, 建築設計・製図実習, 森林科学演習, 生物圏情報学演習Ⅰ, 生物圏情報学演習Ⅱ, 課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ, 農学概論Ⅱ, 食品基礎生物学Ⅰ, 食品基礎生化学Ⅰ, 食品基礎生化学Ⅱ, 食品有機化学Ⅰ, 食品安全学Ⅰ	食品有機化学Ⅱ, 食品有機化学Ⅲ, 食品物理化学Ⅰ, 食品物理化学Ⅱ, 食品生化学Ⅰ, 食品生化学Ⅱ, 酵素の作用と応用, 応用数学, 生物統計学, 食品生物学入門及び実習	食品安全学Ⅱ, 食品生化学Ⅲ, 食品微生物学, 食品生理学, 酵素化学, 生命有機化学, 栄養化学, 食品工学, 食品分子機能学, 食品生理機能学, 生物機能変換学, 生体情報応答学, 微生物生産学, 食品化学Ⅰ, 専門外国書講義Ⅱ, 食品生物科学基礎実験及び実験法, 有機化学実験及び実験法, 食品・栄養化学実験及び実験法, 化学工学実験及び実験法, 酵素化学・生化学実験及び実験法, 微生物学実験及び実験法, 生命科学実験及び実験法	食品工業論, 醸造食品学概論, 食品生物科学演習, 課題研究

教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。



総合人間学部

赤松 紀彦 教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
中国古典演劇

浅野 耕太 教授

環境経済学, 応用計量経済学

阿辻 哲次 教授

漢字の歴史

石川 尚人 教授

古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表面層部での地学現象(超大陸の形成史, 古環境変遷など)の解明

石田 明文 教授

ドイツ近代の知の構造

石原 昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

稲垣 直樹 教授

◎ヴィクトル・ユゴー研究
◎近現代フランス小説とその日本での受容
◎科学技術と擬似科学の文化表象

伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究, 歴史民俗世界の祭儀空間研究

宇敷 重広 教授

力学系の分岐理論, カオス・フラクタル, 複素力学系

内田 賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のことばの研究

内本 喜晴 教授

電気化学エネルギー変換, 次世代電池, 燃料電池

江田 憲治 教授

1920-30年代の中国政治史・思想史

大川 勇 教授

ドイツ・オーストリア文学, 中欧精神史, 教養論

大木 充 教授

外国語教授法, 動機づけ, 自律学習, CALL

岡 真理 教授

◎現代アラブ文学
◎第三世界のフェミニズム思想
◎パレスチナ問題

岡田 温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史, 芸術理論

岡田 敬司 教授

教育において自律, かかわり, 共同体を問う

小方 登 教授

(地球環境学堂)
コンピュータを利用した地理情報処理, 宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原

奥田 敏広 教授

20世紀ドイツの長編小説・トーマス・マンを中心に-

小田 伸午 教授

(高等教育研究開発推進センター)
スポーツ科学, 身体運動の制御機構

尾野 照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

加藤 真 教授

(地球環境学堂兼務)
植物や動物の生態と進化, 生物の多様性と生態系の保全

加藤 幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論(アイルランド亡命文学研究等)

金坂 清則 教授

◎都市の地域的存在様式と地域整備に関する歴史地理学的研究

◎イザベラ・バードを主とする19世紀英国の女性旅行家とその活動に関する研究

鎌田 浩毅 教授

火山学, 地質学, 地球科学, 科学教育法, コミュニケーション論

河崎 靖 教授

言語学・文献学

川島 昭夫 教授

近代イギリスの文化史, 社会生活史および科学の制度史

小林 茂夫 教授

(情報学研究科)
感覚を生むしくみ, 記憶素子の探索

小山 静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

齋木 潤 教授

視覚認識の認知神経科学的研究

齋藤 治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

佐伯 啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

酒井 敏 教授

大気・海洋の流体としての力学

阪上 雅昭 教授

実験室でブラックホールを造る, 惑星形成, 群れの科学

佐藤 義之 教授

メルロ＝ポンティ, レヴィナスを手がかりとした, 現象学ならびに倫理学の研究

篠原 資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

新宮 一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

菅原 和孝 教授

身体性の人類的考究, 相互行為とコミュニケーションの人類学的分析, 狩猟採集民の社会と生態

杉万 俊夫 教授

グループ・ダイナミクス, 社会心理学

杉山 雅人 教授

(地球環境学堂兼務)
水圏における化学物質の分布・循環機構・動態に関する研究。環境化学物質の高感度検出法に関する研究

須田 千里 教授

日本近代文学の研究

多賀 茂 教授

十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想

高崎 金久 教授

代数解析, 数理論理, 可積分系

高橋 由典 教授

感情を基点とする社会学理論の研究

竹安 邦夫 教授

(生命科学研究科)
細胞のナノバイオロジー, バイオインフォマティクス

田地野 彰 教授

(高等教育研究開発推進センター)
教育言語学, 教育文法, 外国語の教授と学習, 第二言語習得論

田部 勢津久 教授

光機能性ガラスの設計・無機材料科学, 光ファイバ通信デバイス, フォトニクス材料

田邊 玲子 教授

近代西欧, 特にドイツの文学現象における人間, ジェンダー, セクシュアリティ観

田村 類 教授

◎分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究
◎キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

壇辻 正剛 教授

(学術情報メディアセンター)
言語音の分析と記述, 言語学の実用研究

津田 謹輔 教授

糖尿病・栄養学

東郷 雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

富田 恭彦 教授

◎粒子仮説を基盤とした17世紀観念説の論理空間とその変貌
◎現代言語哲学・科学哲学

中西 輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

西垣 安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究/住居観の史的考察

西村 稔 教授

18～19世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

西山 良平 教授

日本古代中世の都市・王権・文化

服部 文昭 教授

スラヴ諸語の研究

ブライアン・マサル・ハヤシ 教授

アメリカ20世紀の移民史

廣野 由美子 教授

19世紀イギリス小説, 小説技法, 物語論

藤田 耕司 教授

生成文法, 生物言語学による言語能力の起源・進化研究

船橋 新太郎 教授

(こころの未来研究センター)
前頭連合野の機能に関する神経科学的研究

カール・ベッカー 教授

(こころの未来研究センター)
生命倫理・医療倫理の教育と東西比較

前川 寛 教授

物性物理学。極低温における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

前川 玲子 教授

20世紀のアメリカ思想・文化史研究

松井 正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

松浦 茂 教授

17・18世紀のアムール川流域史, 18世紀東アジア地理学史, 清初史

松下 和夫 教授

(地球環境学堂)
公共政策としての環境政策論の研究, 特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGOなどの多様な主体の役割の分析

松田 清 教授

日本洋学史, 日欧文化交流史

松田 英男 教授

イギリスおよびアメリカ映画論

松村 道一 教授

運動制御の神経機構

間宮 陽介 教授

公共的空間(コモンズ, 都市空間, 政治空間)に関する研究

丸橋 良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

水野 尚之 教授

◎アメリカ19・20世紀の小説
◎アメリカの都市の成立と文化

水野 真理 教授

◎英国ルネサンス期の物語文学
◎イングランド人による自己と他者・異文化の表象

三谷 恵子 教授

中・東欧の言語と文化, 言語接触と言語変化, 言語と社会

道旗 泰三 教授

W.ベンヤミン, S.フロイト等19, 20世紀のドイツ語圏文学・思想の研究

三宅 守 教授

光合成の酸素発生系とエネルギー移動過程の解析。光合成生物の進化。

宮本 嘉久 教授

ソフトマターの構造形成, 緩和現象, 破壊

元木 泰雄 教授

日本中世成立期の政治史, 院政・武士・内乱について

森谷 敏夫 教授

生体信号処理・応用生理学

森本 芳則 教授

偏微分方程式に対する超局所解析

山口 良平 教授

有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求, ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究

山田 孝子 教授

東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究

山梨 正明 教授

言語学(意味論・語用論)・記号論

山本 行男 教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
酵素や生体関連物質の機能解明研究

吉田 純 教授

(高等教育研究開発推進センター)
ドイツの社会思想・社会理論, 情報ネットワーク社会の理論的・経験的研究

依田 義丸 教授

創造行為としての演劇(特にシェイクスピアを中心とした英米演劇)

エンゲルベルト ヨリッセン 教授

日欧交渉史, 西南ヨーロッパのルネサンス・バロック時代, ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題, 比較文化・比較文学, インド英文学

安部 浩 准教授

M.ハイデガーを中心とする存在論・実存哲学, H.ユナスを中心とする環境思想。

市岡 孝朗 准教授

(地球環境学堂兼務)
生態学, 昆虫学, 熱帯雨林における群集生態学

上木 直昌 准教授

確率解析学

大倉 得史 准教授

人間の自己性・主体性の形成過程についての研究

小倉 紀蔵 准教授

東アジア思想に基づき、特に韓国・朝鮮を主なフィールドとする文化およびメディア概念の研究

小畑 史子 准教授

(地球環境学堂)
労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究

勝又 直也 准教授

◎中世へブライ文学
◎ユダヤ学
◎地中海・中東における3つの一神教文明の交流史

桂山 康司 准教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
英国宗教詩人の研究 - ミルトン、ホプキンスを中心に -

木坂 正史 准教授

力学系理論、特に複素力学系

木下 俊哉 准教授

レーザー冷却、トラッピング、冷却原子を用いた物性物理学

桑山 智成 准教授

英国ルネサンス期における演劇と詩

神崎 素樹 准教授

◎協働筋の機能的意義の解明
◎立位姿勢制御則の解明

小木曾 哲 准教授

火成岩岩石学、実験岩石学、地球化学

櫻川 貴司 准教授

計算機科学

島崎 健 准教授

平安朝文学の研究

瀬戸口 浩彰 准教授

植物系統進化学・植物地理学

大黒 弘慈 准教授

貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史

高谷 修 准教授

18世紀英文学及び比較文学

立木 秀樹 准教授

プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性、及びフラクタル立体図形の研究

津江 広人 准教授

構造有機化学および合成有機化学を基盤とした、窒素架橋かご形分子の合成と物性に関する研究

辻 正博 准教授

中国中世（六朝隋唐時代）の政治制度、中国法制史、敦煌・トルファン出土文書研究

戸崎 充男 准教授

(放射同位元素総合センター)
原子・原子核物理学と放射線計測学、核共鳴反応を伴うイオン衝突過程に関する研究

戸田 剛文 准教授

認識論・近代イギリス経験論・知覚

中嶋 節子 准教授

近代都市史、都市景観史、建築史。自然景観や建築から都市の歴史を読む

永田 素彦 准教授

◎環境変化をめぐる対話システムの構築
◎科学技術（ハイオテクノロジー）の社会的受容

中森 誉之 准教授

言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築

西山 教行 准教授

外国語教育ならびに言語政策、フランコフォニー、植民地主義などの研究

林 達也 准教授

運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明

日置 尋久 准教授

データハイディング（ステガノグラフィ）

マーク・ピーターソン 准教授

コンピューターを利用した英語教育

藤田 健一 准教授

(地球環境学堂兼務)
新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

藤原 直樹 准教授

高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の研究

道坂 昭廣 准教授

中国古典文学、特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学

宮下 英明 准教授

微生物の多様性と多機能性に関する研究。藻類学、系統進化学、微生物生態学、生物工学

吉村 成弘 准教授

(生命科学研究所)
1分子イメージング・計測・操作技術を用いて、細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。

細川 浩 講師

(情報学研究所)
神経生物学、細胞生物学、行動をうみだす神経ネットワークの研究

見平 典 講師

憲法秩序形成の在り方に関する規範的分析と経験的分析

李 長波 講師

日本語と中国語の歴史的研究、東アジア言語思想史の研究

文学部

伊藤 邦武 教授

言語分析による認識論

出口 康夫 准教授

統計学・シミュレーションなど現代科学の方法論を視野に入れた認識論・存在論。進化生物学的人間観を批判的に検討する「新・人間本性論」。

中畑 正志 教授

西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究

川添 信介 教授

◎西洋13・14世紀のアヴェロエス主義の問題
◎スコラ哲学における身心問題

福谷 茂 准教授

カントを中心とする近世哲学史

藤田 正勝 教授

西田哲学をはじめとする日本近代哲学の研究

水谷 雅彦 教授

◎現代倫理学の理論的研究
◎コミュニケーション及び情報の倫理学的研究

氣多 雅子 教授

近代のニヒリズムの本質と思想的系講について

杉村 靖彦 准教授

現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追求する。

芦名 定道 教授

近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について

中村 俊春 教授

17世紀フランドル絵画史

根立 研介 教授

日本仏教美術史、特に仏師論、美術の対外受容、肖像彫刻論など。

吉岡 洋 教授

現代のメディア、テクノロジー環境を見据えた美学・芸術理論

平川 佳世 准教授

ドイツを中心とする北方ルネサンス美術、および北方美術とイタリア美術の交流について

木田 章義 教授

日本語の歴史

大谷 雅夫 教授

国文学中国文学の比較研究

大槻 信 准教授

古代日本語の研究

金光 桂子 准教授

中古・中世の物語文学

川合 康三 教授

六朝・唐宋の文学

平田 昌司 教授

中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について

木津 祐子 准教授

中国近世口語史の研究、対話型テキストの文献論的研究

緑川 英樹 准教授

唐宋変革期における詩文および文学理論の研究

池田 秀三 教授

漢魏六朝の学術と思想

宇佐美 文理 准教授

中国宋代思想史、特に存在論と藝術論についての研究

赤松 明彦 教授

インドにおける言語哲学の展開についての思想的な研究

横地 優子 准教授

インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程

ディヴァカル・ナート・アーチャールヤ 外国人教師

写本に基づくインド哲学研究

宮崎 泉 准教授

後期インド仏教とそのチベットへの伝播について

高橋 宏幸 教授

ローマ文学におけるペルソナの研究

マルティン・チエシュコ 准教授

ギリシア・ローマ演劇、叙情詩

佐藤 昭裕 教授

スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法

西村 雅樹 教授

19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究

松村 朋彦 准教授

18・19世紀ドイツ文学・文化史

宮内 弘 教授

英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究

若島 正 教授

Vladimir Nabokovを中心としたアメリカ小説の研究

佐々木 徹 教授

ディケンズを中心としたイギリス小説研究

廣田 篤彦 准教授

ルネサンス期のイギリス演劇（特にシェイクスピア）

家入 葉子 准教授

英語史・歴史社会言語学・現代英米語法研究・コーパス言語学

森 慎一郎 准教授

アメリカ小説研究（F・スコット・フィッツジェラルドなど）

吉川 一義 教授

近現代フランス文学。ブルースト小説の生成および絵画との関連。

田口 紀子 教授

フランス語学・ナラトロジー。文学テキストの言語学的解析により、形式面から作品の意味を明らかにする。

増田 眞 准教授

ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

永盛 克也 准教授

フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

エリック・アヴォカ 外国人教師

18-19世紀のフランス文学と政治、フランス革命の演説家たち、悲劇と悲劇的なるもの、演劇性、歴史記述、創作中の政治

天野 恵 准教授

ルネサンス期のイタリア文学、特に騎士物語詩

ダニエーラ・シャローム・ヴァーガータ 外国人教師

ダンテおよびイタリア近現代文学と60年代のイタリア映画

藤井 譲治 教授

日本近世政治史研究

勝山 清次 教授

これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近では権門勢力の形成に関心をもっている。

吉川 真司 教授

日本古代史

谷川 穰 准教授

近代日本の教育/宗教/社会史研究

夫馬 進 教授

中国明清社会研究

杉山 正明 教授

モンゴル時代史

吉本 道雅 教授

中国古史史（西周～前漢）・中国古史中世民族史（10世紀以前）

中砂 明徳 准教授

17世紀の世界史とイエズス会

高嶋 航 准教授

中国近代の社会と文化の諸相

井谷 鋼造 教授

西南アジア史、アラビア文字資料研究

久保 一之 准教授

前近代中央アジア・イラン史

服部 良久 教授

ドイツを中心とするヨーロッパ中世の政治・社会・文化の研究

南川 高志 教授

ローマ帝国政治史・社会史の研究、古代末期の研究

小山 哲 教授

ポーランド近世史、とくに貴族の政治文化の研究

金澤 周作 准教授

近代イギリスにおける国制、チャリティ、海軍の歴史的研究

上原 真人 教授

日本における瓦生産体制の変遷について

泉 拓良 教授

西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

吉井 秀夫 准教授

考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

藤田 和生 教授

動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究

櫻井 芳雄 教授

心の実体である脳内の情報表現を神経細胞の活動から解明する認知神経科学的研究

板倉 昭二 准教授

ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究

蘆田 宏 准教授

視覚を中心とする感覚・知覚とその脳内機構に関する心理物理学・認知神経科学的研究

田窪 行則 教授

理論言語学（生成文法、語用論、談話理論）、調査言語学（琉球語宮古方言）、日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

吉田 和彦 教授

インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

吉田 豊 教授

中央アジア出土中世イラン語文献の言語学的・文献学的研究

松田 素二 教授

アフリカ都市社会の研究

落合 恵美子 教授

家族と親密性の比較社会学

伊藤 公雄 教授

ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

田中 紀行 准教授

ヴェーバー社会学の再構成と継承に関する研究

太郎丸 博 准教授

社会階層論、数理社会学、社会学の方法論

森本 一彦 特定准教授

民族・歴史社会学による家族・親族論、地縁社会論、民俗宗教学論

安里 和晃 特定准教授

移民政策論、特にアジアにおける看護・介護・家事労働をめぐる人の国際移動

石川 義孝 教授

人の空間的流動をはじめとする人口地理学研究、およびエスニック地理学研究

杉浦 和子 教授

都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

小林 到広 教授

中南米の先住民社会ならびに先住民運動の研究

米家 泰作 准教授

近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

伊藤 和行 教授

力学を中心とした西欧近代初期科学史、ルネサンスの科学思想史

伊勢田 哲治 准教授

科学者共同体の哲学、科学的実在論、ベイズ主義、功利主義、科学技術倫理

林 晋 教授

情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析

杉本 淑彦 教授

フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

永井 和 教授

戦前日本における政軍関係の研究

小野澤 透 准教授

アメリカ外交史および冷戦史の研究

教育学部**辻本 雅史 教授**

教育史学：日本教育史・近世思想史

鈴木 晶子 教授

教育学：教育哲学・思想史

駒込 武 准教授

教育史学・植民地教育史

山名 淳 准教授

教育学：教育哲学・思想史

山田 洋子 教授

発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

田中 耕治 教授

教育方法学：学力論、授業論、評価論

西岡 加名恵 准教授

教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

明和 政子 准教授

発達教育論：比較認知発達科学、乳幼児期の心の発達・模倣

子安 増生 教授

発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

楠見 孝 教授

認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

齊藤 智 准教授

認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

岩井 八郎 教授

教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

稲垣 恭子 教授

教育社会学：学校社会学・青年文化史

川崎 良孝 教授

図書館情報学

前平 泰志 教授

生涯教育学

渡邊 洋子 准教授

生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

佐藤 卓己 准教授

広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

高見 茂 教授

教育政策学：教育資源分配と公共政策

杉本 均 教授

比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）

金子 勉 准教授

教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

南部 広孝 准教授

比較教育学：高等教育改革の国際比較研究

矢野 智司 教授

教育人間学：生成と発達の教育人間学、贈与と交換の教育人間学

西平 直 教授

臨床教育学：人間形成と東洋哲学

齋藤 直子 准教授

教育人間学：アメリカの教育哲学

桑原 知子 教授

心理臨床学・人格心理学：心理臨床及び人格のダイナミズムに関する研究

田中 康裕 准教授

心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治療とその限界

大山 泰宏 准教授

心理臨床学：心理療法論、臨床心理学の言説研究

皆藤 章 教授

臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

高橋 靖恵 准教授

臨床実践指導学：心理臨床学・心理アセスメント・心理療法における家族コミュニケーション

角野 善宏 教授

臨床教育実践研究センター

臨床心理実践学：心理療法・精神医学

松木 邦裕 教授

臨床教育実践研究センター

臨床心理実践学：精神分析・心理療法

法学部

法学部の研究テーマ紹介については、法学部の学部紹介（56、57ページ）に掲載されています。

経済学部**経済経営学科****依田 高典 教授**

「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究、特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

今久保 幸生 教授

ドイツ経済政策史、現代日本の経済政策、東アジア経済統合

岩城 秀樹 教授

数理工学的アプローチによる将来の不確実な資産価値及びキャッシュ・フロー（現金流列）の価値評価とその制御

岩本 武和 教授

国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

植田 和弘 教授

財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

宇仁 宏幸 教授

経済制度の多様性と補完性、日本と米国の成長体制の分析、輸出主導型成長と為替体制の国際比較

大西 広 教授

「レーニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス＝新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も行っている。

岡田 知弘 教授

日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

黒澤 隆文 教授

近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史、工業経済論

小島 専孝 教授

ケンブリッジ学派の経済理論に関する学説史研究。とくにホトリ、ビグの貨幣・景気・雇用理論を研究。

澤邊 紀生 教授

会計学、管理会計学、会計制度形成過程の研究

塩地 洋 教授

自動車産業に関して、その史的形成過程及び現在の構造的特徴、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

島本 哲朗 教授

マスメディアの経済学、金融政策の有効性

末松 千尋 教授

事業創成、ITビジネス論、IT戦略論

嶋山 泰生 教授

企業のグローバル戦略、企業内研究のマネジメント、イノベーションにおける協働とビジネス・エコシステムのマネジメント

武石 彰 教授

技術経営、競争戦略

田中 秀夫 教授

17～18世紀の英国（スコットランドを含む）の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

徳賀 芳弘 教授

会計基準の国際的調和化現象の分析、研究開発投資の効果発現に関する会計学的考察

成生 達彦 教授

ミクロ経済学の応用という観点から、企業組織、企業間関係、マーケティング、流通について研究しています。

西牟田 祐二 教授

経営史、国際経営史、投資銀行史。

根井 雅弘 教授

マーシャル以後の現代イギリス経済学

日置 弘一郎 教授

組織論、経営人類学、共生経営、事業創成。

久本 憲夫 教授

一国の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

藤井 秀樹 教授

会計の比較制度分析、国際会計論、会計、非営利組織（NPO）会計

堀 和生 教授

日本、中国、朝鮮の近代経済史を比較検討し、東アジアの発展理論を構築することをめざしている

文 世一 教授

都市の空間構造に関する理論的、実証的分析、交通政策の分析

諸富 徹 教授

環境税、排出権取引制度をはじめとする、環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史的変動と租税思想史の研究。地域の接続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

吉田 和男 教授

日本経済・財政の数理分析

劉 徳強 教授

中国の経済改革と経済発展における諸問題を研究している。

若林 直樹 教授

企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

若林 靖永 教授

マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング(組織), リレーションシップ・マーケティング, 非営利・協同組織のマーケティング。

飯山 将晃 准教授

情報処理論, メディア工学

稲葉 久子 准教授

異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に、何を学習し、どのように多文化共存の途に活用できるか、探求すること。

宇高 淳郎 准教授

応用ミクロ経済学, 特にマーケティング戦略の経済分析

江上 雅彦 准教授

ファイナンス工学

菊谷 達弥 准教授

広い意味での企業組織の経済学的研究。企業の分社化行動の国際比較。自動車産業における部品調達・製品販売における企業間関係の分析など。

草野 真樹 准教授

財務会計, 国際会計

坂出 健 准教授

20 世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争, 協同関係の特質の検討をつうじて, 欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

佐々木 啓明 准教授

有効需要が産出や雇用を決めるとするポスト・ケインズ派の立場から, 経済成長, 景気循環, 経済発展といった分野を理論的に分析している。

神事 直人 准教授

研究テーマ: 国際貿易に関する研究。特に, 貿易と環境/貿易と再生可能資源, 等。

竹澤 祐丈 准教授

近代社会形成期の英国(イングランドとスコットランド)での議論, 特に, 共和主義思想を, 同時代のヨーロッパの動向と関連付けながら, 思想的に研究しております。

敦賀 貴之 准教授

マクロ経済学, 特に物価に関する研究

曳野 孝 准教授

経済環境と社会組織が異なる条件のもとで, 現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを, 国際比較によって明らかにすること。

久野 秀二 准教授

グローバル資本主義における農業・食料システムの構造と動態, 主要アクターである各国政府, 国際機関, 多国籍アグリビジネス, 農民・市民社会組織等の諸関係に関する政治経済学的・農業社会学的な分析。

松井 啓之 准教授

行政の情報化, 計画支援情報システムの開発, マルチエージェントシミュレーション

矢野 剛 准教授

途上国経済における企業金融, 企業家の生成

遊喜 一洋 准教授

マクロ経済学, 特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

若井 克俊 准教授

ミクロ経済学, 金融経済学, 行動経済学・行動ファイナンス

渡辺 純子 准教授

近現代日本経済史
停滞・衰退産業の産業調整に関する研究(繊維・石炭・造船・化学・金属等)

ディミター・ヤルナツフ 講師

◎ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス
◎ブルガリアにおける市場経済移行
◎EU 経済統合と EU の東方拡大

理学部

数理科学系

池田 保 教授

(整数の性質に関する研究)
数論

泉 正己 教授

(解析学)
作用素環

磯 祐介 教授

(応用数学)
微分方程式論の数値解析, 逆問題解析, 応用解析学

上 正明 教授

(3, 4 次元空間)
低次元トポロジー

上田 哲生 教授

(複素数とその関数)
多変数複素関数論および複素力学系

加藤 信一 教授

(対称性)
代数群の表現論

加藤 毅 教授

(幾何学)
空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

木上 淳 教授

(解析学)
フラクタル上の解析, フラクタル幾何学

熊谷 隆 教授

(確率論)
確率論

河野 明 教授

(図形)(空間)
位相幾何学 リー群やそれに関連する空間をトポロジーの手法, とくにホモトピー論的手法を用いて研究

國府 寛司 教授

(ダイナミクス(時間と共に変化するシステムの解構造))
力学系とその分岐, 力学系理論の応用

齋藤 裕 教授

代数群の許容表現, 保型表現の研究

重川 一郎 教授

(確率論)
確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

穴倉 光広 教授

(力学系, 複素解析)
力学系, 特に複素力学系の変換集合や分岐集合の研究

堤 誉志雄 教授

(微分方程式)
非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

並河 良典 教授

(代数幾何)
代数幾何学 特に複素シンプレクティック多様体やカラビヤウ多様体の研究

西和田 公正 教授

(微分方程式, 数理ファイナンス)
偏微分方程式の解の構造

深谷 賢治 教授

(図形)(空間)
幾何学, 特に シンプレクティック幾何学, 位相的場の理論

松木 敏彦 教授

(群と幾何学)
リー群論

三輪 哲二 教授

(代数解析学, 数理物理)
代数解析学, 数理物理

森脇 淳 教授

(代数幾何)
代数幾何学, 特にモディライ空間と数論的多様体の研究

吉川 謙一 教授

(解析的振率, モジュライ空間, 保型形式)
複素幾何学

吉田 敬之 教授

(保型形式, L 関数)
数論 保型形式から得られる L 関数について, その特殊値と零点の研究

浅岡 正幸 准教授

(空間の対称性)
力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

伊藤 哲史 准教授

(整数, 素数, 幾何学, 楕円曲線)
数論幾何学

入谷 寛 准教授

(数理物理と関係する幾何)
数理物理のミラー対称性に基づいた幾何学的現象の観察をしています

梅田 亨 准教授

(表現論, 不変式論)
関数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

大鍛冶 隆司 准教授

(微分方程式論)
微分方程式論

太田 慎一 准教授

(空間の曲がり方)
微分幾何学, 特にリーマン幾何学

加藤 周 准教授

(対称性)
幾何学的表現論

加藤 文元 准教授

(代数幾何学)
代数幾何学, 特に非アルキメデス解析学やその代数幾何学への応用

岸本 大祐 准教授

(ホモトピー, ホモロジー)
代数的位相幾何学

小西 由紀子 准教授

(数理物理)
数理物理 特にミラー対称性などの弦理論に由来するテーマを研究

塩田 隆比呂 准教授

(古典積分系)
微分方程式論

高村 茂 准教授

(複素幾何学)
複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

中西 賢次 准教授

(微分方程式)
偏微分方程式論

西村 進 准教授

(プログラム変換)
計算機科学 特にプログラミング言語の理論

畑 政義 准教授

(無理数論)
超越数論

日野 正訓 准教授

(確率論)
無限次元空間やフラクタルなどの複雑な構造を持つ空間の解析を確率論の立場から研究

藤井 道彦 准教授

(双曲幾何学, 多様体論)
微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

藤野 修 准教授

(代数幾何学)
代数幾何学, 特に高次元代数多様体の双有理幾何学

山崎 愛一 准教授

(整数論)
多元環の整数論

吉田 伸生 准教授

(統計物理学に関連した確率論)
確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移(例えば液体の気化や凝固)の確率的な仕組みについて

稲場 道明 講師

(代数方程式で定義される図形の研究)
代数幾何学におけるモジュライ理論

稲生 啓行 講師

(マンデルブロ集合, ジュリア集合)
複素力学系, 特に一次元複素力学系のくりこみとパラメータ空間の研究

久保 雅義 講師

応用解析, 数値解析

平賀 郁 講師

(L-関数)
数論 特に保型表現

若野 功 講師

(破壊現象, 偏微分方程式)
応用解析, 数値解析

物理科学系

前野 悦輝 教授

固体物理学
◎スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発
◎熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究
◎低温での測定技術の開発

石田 憲二 教授

(ミクロな物性, 物質が低温で示す性質の研究)
固体物理学 新奇超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定(核磁気共鳴(NMR) 実験を用いた研究)

松田 祐司 教授

固体物理学 新奇超伝導状態の研究 強く相関し合った電子系の示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

芝内 孝禎 准教授

(超伝導, 固体中の電子が示す量子現象)
固体物性・低温物理学 超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

高橋 義朗 教授

(レーザー冷却)
量子光学 中性原子のレーザー冷却及びその精密測定への基礎物理への応用

北井 礼三郎 准教授

(太陽黒点, 粒状斑, コロナ, フレア爆発)
太陽の対流現象の観測的研究, 太陽大気加熱機構の観測的研究

地球惑星科学系

福田 洋一 教授

(地球の重力変化に関連した研究)
測地学
◎絶対重力計, 超伝導重力計による精密重力測定
◎衛星重力・衛星高度計データ解析
◎ジオイドの精密決定, 重力異常と地下構造

宮崎 真一 准教授

(GPSによる地殻変動)
測地学及び地殻変動論・地震学
◎測地データを利用した地殻変動解析
◎地殻活動予測シミュレーション
—観測データと数値モデルの統合解析—

淡路 敏之 教授

(海と気候の予測)
海洋物理学 海洋循環・変動のシミュレーションと輸送力学, 観測とモデルを融合するデータ同化

秋友 和典 准教授

(流れの物理, 深層循環)
◎対流・乱流・境界層と地球規模循環
◎湖沼の循環

余田 成男 教授

(気象学)
◎成層圏変動と気候
◎非線型力学とカオス
◎実験的数値天気予報

石岡 圭一 准教授

(気象学)
地球流体力学 地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

堤 浩之 准教授

(活断層, 地震の予測, 地殻変動)
変動地形学及び活構造学
◎活断層の地震危険度評価に関する研究
◎東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

町田 忍 教授

(磁気圏, オーロラ, プラズマ)
地球電磁気学及び太陽地球系物理学
◎地球・惑星磁気圏物理学
◎磁気圏における粒子加速

中西 一郎 教授

(地球内部の構造, 地震発生の仕組み)
地震学及び地球内部物理学
◎計測地震学(地震波記録, 地球内部の探査, 地震発生の統計解析)
◎史料地震学(古文書, 古記録, 歴史地震)

平原 和朗 教授

(計算機の中に日本列島を作り地震を起こす)
地震学及び地球内部物理学
◎地震発生サイクルシミュレーション
◎地球内部の構造と運動のモデリング

久家 慶子 准教授

(地震の起こり方, 地球内部の構造)
地震学及び地球内部物理学
◎地震の破壊過程と物理
◎地球内部の構造

里村 雄彦 教授

(計算機の中に雨を再現)
物理気候学
◎数値モデル開発, 数値実験
◎領域気候と局地気候の形成, 維持, 変動メカニズム
◎熱帯擾乱と降水

重 尚一 准教授

(宇宙からの降水観測)
物理気候学
◎雲降水システムに関する研究
◎衛星物理量推定アルゴリズム開発に関する研究

國廣 悌二 教授

(超高温・高密度の物質の理論的研究)
クォーク・ハドロン多体系の物理学, 超高温・高密度での量子色力学, 「くりこみ群法」による数理論

菅沼 秀夫 准教授

(クォーク, グルオン, ハドロン, 量子色力学, 核子, 中間子)
強い相互作用の基礎理論である量子色力学に基づき, 「クォークの閉じ込め問題」や, クォーク多体系であるハドロン(核子・中間子), 約2兆度の超高温の新物質相「クォーク・グルオン・プラズマ」(ビッグバン直後の宇宙)等に関する理論研究を行っている。

延與 佳子 准教授

(原子核)
原子核構造の理論的研究。特に不安定原子核構造とクォーク・ハドロン現象に関する理論研究を行っている。

藤原 義和 講師

(原子核)
クォーク模型によるバリオン間相互作用の理論的研究。及び, それらを用いた少数バリオン系や, 軽い原子核, ハイパー核等の多クラスター問題

中村 卓史 教授

相対論的天体物理学: ブラックホール, 重力波, 中性子星, ガンマ線バースト, ダークマター, ダークエネルギー等の形成, 起源の研究

白水 徹也 准教授

一般相対論, 宇宙論; 高次元ブラックホール, 高次元宇宙模型, 初期宇宙, 宇宙検閲仮説等の研究

大向 一行 准教授

宇宙物理学, 宇宙論; 宇宙初期の星やブラックホールをはじめとする天体の形成・進化の研究

早田 次郎 准教授

弦理論的宇宙論, およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究

長田 哲也 教授

(素粒子論)
(銀河系中心部)
赤外線天文学, 銀河中心領域, 星間現象, 観測装置開発

太田 耕司 教授

(銀河形成・進化, ガンマ線バースト, 活動銀河核進化)
銀河の形成と進化, QSO/AGNの探査の研究

嶺重 慎 教授

(ブラックホール)
ブラックホールへのガス降着とガス噴出, バイナリーブラックホールなど

岩室 史英 准教授

(銀河天文学, 高赤方偏移天体, 観測装置開発)
銀河天文学, 高赤方偏移天体, 観測装置開発

戸谷 友則 准教授

(ビッグバン宇宙論, 銀河形成, 超新星, ガンマ線バースト)
宇宙物理学, 宇宙論, 高エネルギー天体物理学

上田 佳宏 准教授

(X線天文学, ブラックホール, 活動銀河核の進化)
X線天文学, ブラックホール, 活動銀河核の進化

柴田 一成 教授

(太陽宇宙プラズマ物理学)
太陽・宇宙プラズマ物理学, 天体電磁流体力学, 太陽フレア, 宇宙ジェット, 宇宙天気

一本 潔 教授

(太陽, 天体観測)
太陽磁気活動現象の観測的研究, 太陽プラズマの偏光分光による診断学

小貫 明 教授

統計物理学
◎相転移ダイナミクス
◎非平衡現象の統計物理学

荒木 武昭 准教授

(やわらかな物質の新しい振る舞いを探る)
統計物理学・計算物理学 ソフトマター, 相転移ダイナミクス

武末 真二 准教授

(マイクロとマクロを結ぶ)
統計力学・非線形動力学 ミクロな粒子の力学からマクロな物理を導く方法論である統計力学を非平衡系へ拡張することを目指した理論的研究を行っている。

永江 知文 教授

(クォーク, 原子核, 加速器)
原子核物理学 高エネルギー加速器を用いて, クォーク・ハドロン・原子核の新しい様相を実験的に研究している。

川畑 貴裕 准教授

原子核物理学 量子多体系である原子核において現れる様々な現象, 特に, クラスターリング現象に関心をもち, 加速器を用いた実験的研究を行っている。

川合 光 教授

物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが, 通常は素粒子論を中心とし, 場の理論, 量子重力, 超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常におもしろい段階にさしかかっており, 力をいれている。

畑 浩之 教授

(素粒子論, 超弦理論, 場の理論)
素粒子基礎論
◎ゲージ場・重力場理論のダイナミクス
◎弦理論の基本原則とダイナミクスの解明

福岡 将文 准教授

(素粒子間の相互作用の統一的理解)
素粒子基礎論
◎場の量子論のダイナミクス
◎弦理論・量子重力理論の基本原則の解明と, 理論の定式化

小林 達夫 准教授

(素粒子論)
弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

植松 恒夫 教授

(量子色力学, 構造関数, 超対称性)
素粒子論。特に, 量子色力学と深非弾性過程, 核子や光子の構造関数, 超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究

青山 秀明 教授

(理論物理を使って物理以外の現象を解明する, 経済物理学)
理論物理学・素粒子論。研究の対象を広く求め, 経済, 社会, 言語の分野で, 理論物理学の見方を生かした研究を行っている。

中家 剛 准教授

(素粒子, ニュートリノ)
素粒子実験物理学を専門としており, 現在は加速器(J-PARC)を使ったニュートリノ実験T2Kやスーパーカミオカンデ実験を行っている。研究テーマは, ニュートリノ振動とその質量の起源, 粒子と反粒子の対称性, 大統一理論, 新物理探索を行っている。

市川 温子 准教授

素粒子実験物理学, 特にニュートリノ振動現象の観測を通じた素粒子の質量の起源の解明

谷森 達 教授

(宇宙の始まり, ブラックホール, 暗黒物質, 宇宙線)
高エネルギー宇宙物理学, 特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線, 粒子線, イメージング技術開発

鶴 剛 准教授

(X線ガンマ線天文学・宇宙観測用人工衛星)
高エネルギー宇宙物理学 特に天文衛星など飛行体を用いた宇宙X線, ガンマ線の観測的研究と, それに必要な観測機器の開発

田中 耕一郎 教授

光物性
◎超高速レーザー分光法をもちいた非平衡系のダイナミクスの研究
◎光誘起構造変化の素過程の解明
◎新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

中 暢子 准教授

(半導体, レーザー)
光物性物理学 レーザー分光による固体中の量子多体系の実験的研究, 光を用いた量子物質相の相制御。

八尾 誠 教授

(無秩序の中に秩序を見出す)
不規則系物理学 液体, アモルファス, マイクロクラスター等の構造, 量子物性, ダイナミクスに関する実験的研究

松田 和博 准教授

(液体金属の物性)
不規則系物理学 超臨界金属流体の構造, 量子物性, ダイナミクスに関する実験的研究

吉川 研一 教授

(生命原理を探る)
時空間秩序・生命物理 生命現象などの非平衡開放系に潜む基本原理の解明をめざす。

市川 正敏 講師

(うごめく物性)
生命現象などの, ソフトマテリアル系における非平衡現象の実験的研究

山本 潤 教授

ソフトマター物理学 液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

高西 陽一 准教授

(液晶の構造と物理的性質に関する研究)
液晶を中心にソフトマターの相構造と物性に関する発現機構解明をめざす。

前川 孝 教授

プラズマ物理学
◎プラズマ波動物理
◎トラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

田中 仁 准教授

(プラズマ, 電磁・静電波動, 核融合)
プラズマ物理学 特に, 電子サイクロトロン波・電子パーンスタイン波を用いた球状トカマクの生成, 純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

川上 則雄 教授

(量子物理, 物性物理の理論)
凝縮系理論 強相関電子系, 低次元量子多体系, ナノ量子系, 冷却原子系などの理論研究

池田 隆介 准教授

(超伝導, 超流動)
凝縮系理論 磁場下の超伝導の基礎理論, 新奇な超伝導・超流動状態の理論など, 低温で実現する量子凝縮系の理論的研究

藤本 聡 准教授

(超伝導, 磁性, 量子現象)
凝縮系理論 強相関電子系における新奇超伝導, 新奇な磁性, 新しい量子凝縮相, および量子輸送現象の理論研究

太田 隆夫 教授

(生体を含む柔らかい物質の理論的研究)
非線形散逸系, 非平衡ソフトマターを主たる研究対象としてミクロ非平衡系の基本原則・法則の解明

篠本 滋 准教授

(脳科学, 信号推定, 神経細胞モデル)
非線形動力学, 統計物理学, 脳の情報処理の理論的研究
「時間・空間の脳内表現」について医学部の研究室と共同研究を行っている。

藤 定義 准教授

(でたらめな流れに潜む秩序やその強い混合能力の研究)
流体物理学 乱流ダイナミクス, 乱流輸送現象の理論的研究

家森 俊彦 教授

(太陽風, 磁気嵐, 宇宙空間を流れる電流, 地球の磁場)
 ◎太陽地球系物理学および地球電磁気学
 ◎磁気圏および電離層における電磁気的現象の研究
 ◎地球磁場の観測とデータ処理に関する研究

藤 浩明 准教授

(電気伝導度構造, 地球磁気モデル, 海底観測) 地球電磁気学
 ◎磁気圏及び電離層の磁場変化が地球内部に引き起こす電磁誘導に関する研究
 ◎海底/地上/衛星の地球磁気データを用いた地球磁場モデルに関する研究
 ◎海底長期電磁場観測データを用いた海洋のダイナモ作用に関する研究

竹村 恵二 教授

(第四紀の環境変動と地殻変動)
 ◎第四紀層序学
 ◎火山地域の地熱テクトニクスと活構造研究
 ◎湖沼内湾堆積物による古気候変動解析

大沢 信二 教授

(地球の水の動きや化学的振る舞いに関する研究)
 地球熱流体論, 同位体水文学, 地球環境化学

鍵山 恒臣 教授

(火山・地熱活動の観測と研究)
 火山活動の物理学的研究, 火山活動の予測, 火山活動とテクトニクスの関係

大倉 敬宏 准教授

(日本列島や活火山の下の構造)
 地震学, 火山物理学, 測地学, プレーートの構造

古川 善紹 准教授

(プレート・テクトニクス, 惑星内部の活動)
 地球惑星科学 惑星の構造形成, 進化, 沈み込み帯のダイナミクス

小畑 正明 教授

(岩石学, マグマ学)
 上部マントル・地殻下部の岩石学, マグマの発生と移動, 結晶分化作用, 岩石組織と構造形成のダイナミクスの研究

平島 崇男 教授

(岩石学, 造山帯)
 世界各地の変動帯に分布する地殻深部岩石と地下深部流体の研究

田上 高広 教授

(地球史, マントル対流, 断層運動, 気候変動)
 放射性核種の壊変を利用した年代測定と同位体を用いた地球変動, 特に断層運動, 火山活動及び気候変動の研究

酒井 治孝 教授

(造山帯, ヒマラヤ, 大陸衝突, モンスーン, 古環境)
 アジアの造山帯の形成・上昇プロセス及びそのモンスーン気候とのリンクに関する研究

平田 岳史 教授

(宇宙地球化学, 分析化学)
 ◎太陽系惑星・地球形成の年代学
 ◎生体金属支援機能科学 (メタロミクス)
 ◎超微量元素分析技術の開発

山路 敦 教授

(地殻変動)
 地質学的手法を用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

前田 晴良 准教授

(古生物学, 化石化のメカニズム)
 層序学および古生物学, 白亜紀アンモナイトの分類, 進化, 古生態, タフォノミー

下林 典正 准教授

(造岩鉱物, 稀産鉱物, 結晶)
 天然の鉱物に見られる微細組織や集合様式を解析することによって, その形成過程を解明しようとしている。

三宅 亮 准教授

(鉱物)
 天然の鉱物の微細組織に関する研究・造岩鉱物のコンピュータシミュレーション

化学系

北川 宏 教授

(無機化学, 錯体化学)
 プロトン伝導体, 分子性半導体, 水素吸蔵体, 表面多孔体の研究

三木 邦夫 教授

(タンパク質, 立体構造, X線結晶解析, 構造 (かたち) と機能 (はたらき) の関係)
 タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究 (タンパク質の構造と機能の解明)

竹田 一旗 講師

(生物物理学, 結晶学)
 物質輸送を担うタンパク質の構造と作用原理の研究

谷村 吉隆 教授

(理論化学)
 凝縮系の化学物理理論, 統計力学理論, 分光理論の研究

安藤 耕司 准教授

(化学反応量子論)
 化学反応量子論, 分子多体系における量子移動過程の理論的研究

林 重彦 准教授

(理論化学)
 生体機能の分子機構に関する理論的研究

鈴木 俊法 教授

(反応する分子内の電子や原子の運動をみる) 気相および液相反応の超高速分光と散乱実験

松本 吉泰 教授

(分子分光, 表面科学)
 固体表面での光誘起過程と反応ダイナミクスの研究

渡邊 一也 准教授

(表面時間分解分光)
 固体表面での超高速現象の研究と界面選択的分光法の開発

寺嶋 正秀 教授

(生体分子のレーザー分光)
 新規時間分解レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミクスの研究

熊崎 茂一 准教授

(光合成, 葉緑体, 分子分光, 光学顕微鏡, シアノバクテリア)
 レーザー顕微分光学による酸素発生型光合成膜の構造と光化学の関係の研究

木村 佳文 准教授

(化学反応ダイナミクス・レーザー分光・溶液化学)
 レーザー分光法をもちいた超臨界流体, イオン液体などの特殊環境下での化学反応と分子ダイナミクスの研究

竹腰 清乃理 教授

(分子の構造, 分子の測定法, 超強力磁石)
 固体 NMR 法の開発と応用研究

武田 和行 講師

(原子核の磁性, 核磁気共鳴, MRI)
 これまで不可能だった分析を可能にする磁気共鳴分光法の研究

吉村 洋介 講師

(液体・流体の物理化学)
 流体中の化学反応と流体の物性の研究

馬場 正昭 准教授

(光励起分子, 分子構造, 紫外スペクトル, 高分解能レーザー)
 レーザー分子分光学 励起分子の構造とダイナミクス

有賀 哲也 教授

(固体表面の物性化学)
 固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索

奥山 弘 准教授

(水素, 触媒反応, 顕微鏡)
 固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究

吉村 一良 教授

(磁性と超伝導)
 ◎遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究
 ◎核磁気共鳴を用いたミクロな固体物性研究

中西 和樹 准教授

(セラミックス, 重合反応, シリカゲル, 多孔質, 非晶質, 液体クロマトグラフィー)
 液相合成による多孔性物質の構造制御

林 民生 教授

(新しい有機合成)
 遷移金属錯体を用いた高選択的な新規有機合成反応の開発

白川 英二 准教授

(新しい反応の開発)
 遷移金属触媒を用いる新規炭素-炭素結合形成反応の開発

西村 貴洋 講師

(遷移金属, 有機合成, 触媒)
 遷移金属を触媒とする立体選択的な炭素結合形成反応の開発

丸岡 啓二 教授

(環境調和, 有機触媒, アミノ酸, 医薬)
 環境調和型の金属フリー触媒の研究

加納 太一 講師

(有機合成化学, 有機触媒, 不斉反応)
 有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発

大須賀 篤弘 教授

(世界で一番長い合成分子, メビウスの帯に沿って共役した有機分子)
 新規な構造と機能を持つポリフィリン系化合物の開拓

杉山 弘 教授

(ゲノム化学, ケミカルバイオロジー, DNA)
 核酸を中心としたケミカルバイオロジー, 遺伝子発現制御化学

板東 俊和 准教授

(DNA 化学)
 有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー

井上 丹 教授

(RNA, タンパク質, 分子デザイン)
 シンセティックバイオロジー: RNA-タンパク質複合体の分子デザイン, 構築と細胞への応用の研究

白石 英秋 准教授

(植物プランクトン, 光合成細菌)
 微細藻の生物学とバイオテクノロジー

依光 英樹 准教授

(有機化学)
 新規有機合成反応の開発とそれに基づく新規π共役系分子創出

生物科学系

堀 道雄 教授

(魚類の食物網, ハンミョウの来た道, 動物の右利きと左利き)
 ◎アフリカのタンガニカ湖の魚類群集の研究
 ◎甲虫の個体群および生物地理学についての研究
 ◎水生動物の左右性についての研究

山極 壽一 教授

(人間性, 霊長類, 進化, 社会)
 ◎ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学
 ◎人間の社会性の起源

正田 努 教授

(分類, 系統, 生物地理, 種分化)
 爬虫類の系統分類学と生物地理学

曾田 貞滋 教授

(生態, 進化, 昆虫)
 ◎節足動物の適応進化と種分化および近縁種の共存機構
 ◎生物種間の共進化
 ◎昆虫を主とした動物の系統地理学

沼田 英治 教授

(光周性, 生物時計, 昆虫)
 動物の季節適応および時間設定機構の研究

中務 真人 教授

(化石, アフリカ, 進化, 霊長類, 解剖学)
 ◎類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学
 ◎霊長類の運動分析と運動器の形態学

久保田 洋 准教授

(細胞運動のメカニズム, モリアオガエル)
 アオガエル科精子の運動メカニズム

秋山 秋梅 准教授

(活性酸素, 突然変異, DNA 修復, ストレス応答)
 ◎酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構
 ◎酸化ストレスと癌化, 老化の関係
 ◎放射線, 活性酸素に対する細胞応答

渡辺 勝敏 准教授

(生態, 保全, 淡水魚)
 淡水魚類を中心とした進化生態学・系統地理学・保全生物学

森 哲 准教授

(防御行動, 捕食行動, ヘビ, 食性)
 爬虫類の行動および生態に関する研究

佐藤 ゆたか 准教授

(発生生物学, ホヤ, 進化)
 尾索動物ホヤを対象とした発生生物学とそれを通じた脊椎動物の進化の研究

中川 尚史 准教授

(行動と社会の種内変異, 人類進化)
 霊長類の採食生態, および社会生態学的研究

稲葉 カヨ 教授

(免疫応答, 制御, マウス)
 異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究

高原 和彦 講師

(感染, レクチン, マウス疾患モデル)
 免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答

長谷 あきら 教授

(植物の光感覚, フィトクロム)
 植物の光応答に関する, 分子遺伝学的, 生化学的, 生理学的及び細胞学的研究

小山 時隆 准教授

(地質時計, 光周性花成, 植物, シアノバクテリア)
 光合成生物の時間生物学

井上 敬 講師

(社会性アメーバ, 多細胞生物の進化)
 細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究

戸部 博 教授

(植物分類学, 植物系統学, 植物形態学, 進化, 被子植物)
 高等植物の形態学と系統分類学

田村 実 教授

(植物の進化, 植物の多様性, 植物の系統, 植物の分類)
 高等植物の系統分類学と種生物学

西村 いくこ 教授

(植物細胞, 細胞小器官, 環境応答, 感染応答)
 高等植物の細胞と細胞小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究

医学部

医学科

嶋田 知生 講師
(植物, 細胞, 遺伝子)
植物の高次機能の制御に関する分子細胞生物学

鹿内 利治 教授
(光合成, 葉緑体)
光合成・葉緑体機能に関する分子遺伝学・生理学的研究

藤吉 好則 教授
(神経細胞)
膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生理学的研究

西田 栄介 教授
(シグナル伝達)
細胞増殖・分化, 発生及び寿命(老化)を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

平野 丈夫 教授
(脳, シナプス, 学習)
脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究

七田 芳則 教授
(視覚の研究)
生体における情報変換機構の分子レベルでの研究

石川 冬木 教授
(遺伝子, がん, 老化)
遺伝子の振る舞いが, どのように老化やがん化を引き起こすかを明らかにする。

森 和俊 教授
(細胞, タンパク質, 品質管理)
小胞体の恒常性を維持する応答機構の解析

上村 匡 教授
(発生, 細胞極性, 神経系, 上皮)
動物発生における神経細胞と上皮細胞の構築とリモデリング, そして神経細胞の長寿に関する研究

阿形 清和 教授
(幹細胞, 再生, 発生, 進化, 脳, プラナリア, イモリ)
幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究

千坂 修 准教授
(マウス, ニワトリ, 器官形成)
動物の分子発生生物学
(胎児が辿る進化の歴史)

中世古 幸信 准教授
(細胞周期)
細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析

土井 知子 准教授
(受容体, 情報伝達, 可塑性)
シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究

船山 典子 准教授
(幹細胞, 体のパターン形成, 多細胞動物の進化)
カワカイメンを用いた, 進化的に最も古い多細胞動物での幹細胞分化制御機構, 細胞間相互作用

今元 泰 准教授
(タンパク質, 反応, 分子のかたち)
センサータンパク質の応答に関する物理化学的・構造生物学的研究

高田 彰二 准教授
(タンパク質, 生体分子シミュレーション)
生体分子システムの構造・機能についての, 理論およびシミュレーション研究

国際交流室

鈴木 在乃 講師
(環境デザイン, 比較伝統建築論, 日本庭園)
世界各地の建築・地域計画に関する知識と経験を活かし, 現在は主に留学生の居住環境および多様性包括デザイン理論に関する研究をしています。

渡邊 大 教授
生体情報科学

萩原 正敏 教授
形態形成機構学

斎藤 通紀 教授
機能微細形態学

武藤 誠 教授
遺伝薬理学

松田 道行 教授
病態生物医学

羽賀 博典 教授
発生病態学

光山 正雄 教授
微生物感染症学

湊 長博 教授
免疫細胞生物学

玉木 敬二 教授
法医学

長田 重一 教授
医化学

岩田 想 教授
分子細胞情報学

野田 亮 教授
分子腫瘍学

篠原 隆司 教授
分子遺伝学

武田 俊一 教授
放射線遺伝学

金子 武嗣 教授
高次脳形態学

河野 憲二 教授
認知行動脳科学

大森 治紀 教授
神経生物学

成宮 周 教授
神経・細胞薬理学

芹川 忠夫 教授
実験動物学

松田 文彦 教授
疾患ゲノム疫学解析

山田 亮 教授
統計遺伝学

福山 秀直 教授
脳機能イメージング

中尾 一和 教授
内分泌・代謝内科学

木村 剛 教授
循環器内科学

千葉 勉 教授
消化器内科学

三嶋 理晃 教授
呼吸器内科学

三森 経世 教授
臨床免疫学

稲垣 暢也 教授
糖尿病・栄養内科学

小池 薫 教授
初期診療・救急医学

宮地 良樹 教授
皮膚科学

平家 俊男 教授
発達小児科学

平岡 真実 教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学

富樫 かおり 教授
画像診断学・核医学

一山 智 教授
臨床病態検査学

坂井 義治 教授
消化器外科学

上本 伸二 教授
肝臓腫瘍・移植外科学

戸井 雅和 教授
乳腺外科学

福田 和彦 教授
麻酔科学

小西 郁生 教授
婦人科学・産科学

小川 修 教授
泌尿器科学

坂田 隆造 教授
心臓血管外科学

伊達 洋至 教授
呼吸器外科学

鈴木 茂彦 教授
形成外科学

吉村 長久 教授
眼科学

伊藤 壽一 教授
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中村 孝志 教授
整形外科

別所 和久 教授
口腔外科学

藤田 潤 教授
分子病診療学

高橋 良輔 教授
臨床神経学

宮本 享 教授
脳神経外科学

村井 俊哉 教授
精神医学

佐藤 俊哉 教授
医療統計学

福原 俊一 教授
医療疫学

川上 浩司 教授
薬剤疫学

今中 雄一 教授
医療経済学

小杉 真司 教授
医療倫理学

中山 健夫 教授
健康情報学

小泉 昭夫 教授
環境衛生学

古川 壽亮 教授
健康増進・行動学

木原 正博 教授
社会疫学

中原 俊隆 教授
健康政策・国際保健学

前川 平 教授
輸血医学, 血液学

清水 章 教授
分子生物学, 遺伝子医学

横出 正之 教授
先端医療構築学, 高齢医学

吉原 博幸 教授
病院情報システム学, 医療情報交換規格

中嶋 善明 准教授
生体情報科学

三浦 岳 准教授
形態形成機構学

光家 保 准教授
細胞機能制御学

青木 正博 准教授
遺伝薬理学

河村 伊久雄 准教授
微生物感染症学

縣 保年 准教授
免疫細胞生物学

鶴山 竜昭 准教授
法医学

福永 理己郎 准教授
医化学

廣田 耕志 准教授
放射線遺伝学

藤山 文乃 准教授
高次脳形態学

小川 正 准教授
認知行動脳科学

久場 博司 准教授
神経生物学

石崎 敏理 准教授
神経・細胞薬理学

庫本 高志 准教授
実験動物学

山田 重人 准教授
先天異常学

角谷 寛 准教授
疾患ゲノム疫学

須山 幹太 准教授
ゲノム情報科学

美馬 達哉 准教授
臨床脳生理学

山内 浩 准教授
脳機能イメージング

向山 政志 准教授
内分泌・代謝内科学

武藤 学 准教授
消化器内科学

新實 彰男 准教授
呼吸器内科学

藤井 隆夫 准教授
臨床免疫学

藤本 新平 准教授
糖尿病・栄養内科学

梶島 健治 准教授
皮膚科学

西小森 隆太 准教授
発達小児科学

河井 昌彦 准教授
発達小児科学

光森 通英 准教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学

磯田 裕義 准教授
画像診断学・核医学

高倉 俊二 准教授
臨床病態検査学

岡部 寛 准教授
消化管外科学

杉江 知治 准教授
乳腺外科学

藤原 浩 准教授
婦人科学・産科学

西山 博之 准教授
泌尿器科学

池田 義 准教授
心臓血管外科学

黄 政龍 准教授
呼吸器外科学

根尾 昌志 准教授
整形外科

藤村 和磨 准教授
口腔外科学

伊藤 克彦 准教授
分子病診療学

池田 昭夫 准教授
臨床神経学

三國 信啓 准教授
脳神経外科学

寒水 孝司 准教授
医療統計学

山崎 新 准教授
医療疫学

樋之津 史郎 准教授
薬剤疫学

沼部 博直 准教授
医療倫理学

石崎 達郎 准教授
健康情報学

岩隈 美穂 准教授
医学コミュニケーション学

原田 浩二 准教授
環境衛生学

木原 雅子 准教授
社会疫学

里村 一成 准教授
健康政策・国際保健学

長尾 能雅 准教授
医療安全管理学

荒井 俊之 准教授
虚血再灌流傷害の研究

柴田 登志也 准教授
画像診断学

柿木 良介 准教授
末梢神経損傷・上肢損傷に対する手術とリハビリ

三上 芳喜 准教授
診断病理学, 婦人科腫瘍学, 泌尿器腫瘍学

海道 利実 准教授
肝移植, 肝臓外科, 外科栄養, EBM

手良向 聡 准教授
臨床統計学

丸井 晃 准教授
再生医療, 心臓血管外科

海老原 健 准教授
内分泌学, 代謝学

桂 敏也 准教授
医療薬理学, 生物薬剤学

黒田 知宏 准教授
情報工学, 特にVR, コピキタスコンピューティング技術の医療・福祉分野への応用

岸本 寛史 准教授
地域医療学・緩和医療学・心身医学

林 克彦 講師
機能微細形態学

清川 悦子 講師
病態生物医学

小林 拓也 講師
分子細胞情報学

森本 剛 講師
医学教育学, 総合内科学, 医療安全学, 臨床疫学

石川 隆之 講師
血液・腫瘍内科学

門脇 則光 講師
血液・腫瘍内科学

高折 晃史 講師
血液・腫瘍内科学

田村 尚久 講師
内分泌・代謝内科学

桑原 宏一郎 講師
内分泌・代謝内科学

久米 典昭 講師
循環器内科学

塩井 哲雄 講師
循環器内科学

尾野 亘 講師
循環器内科学

丸澤 宏之 講師
消化器内科学

平井 豊博 講師
呼吸器内科学

松村 由美 講師
皮膚科学

谷岡 末樹 講師
皮膚科学

渡邊 健一郎 講師
発達小児科学

溝脇 尚志 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学

澁谷 景子 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学

中本 裕士 講師
画像診断学・核医学

岡田 知久 講師
画像診断学・核医学

久保 肇 講師
消化管外科学

長谷川 傑 講師
消化管外科学

波多野 悦朗 講師
肝胆膵・移植外科学

高折 恭一 講師
肝胆膵・移植外科学

川口 義弥 講師
肝胆膵・移植外科学

廣田 喜一 講師
麻酔科学

倉田 二郎 講師
麻酔科学

巽 啓司 講師
婦人科学・産科学

万代 昌紀 講師
婦人科学・産科学

兼松 明弘 講師
泌尿器科学

吉村 耕治 講師
泌尿器科学

三和 千里 講師
心臓血管外科学

宮原 亮 講師
呼吸器外科学

河合 勝也 講師
形成外科学

宮本 和明 講師
眼科学

辻川 明孝 講師
眼科学

大谷 篤史 講師
眼科学

平野 滋 講師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中川 隆之 講師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中山 富貴 講師
整形外科

小林 雅彦 講師
整形外科

高橋 克 講師
口腔外科学

大久保 康則 講師
口腔外科学

伊東 秀文 講師
臨床神経学

高橋 淳 講師
脳神経外科学

波多野 武人 講師
脳神経外科学

野間 俊一 講師
精神医学

岡田 俊 講師
精神医学

高橋 英彦 講師
精神医学

林田 賢史 講師
医療経済学

鈴木 崇生 講師
初期診療・救急医学

深津 敦司 講師
腎臓内科学

伊藤 順子 講師
臨床神経生理学

小阪 謙三 講師
婦人科手術学 (腹腔鏡下手術)

瀬川 一 講師
集中治療医学, 麻酔科学

仲瀬 裕志 講師
炎症性腸疾患の新規治療法開発

菅井 学 講師
分子生物学, 遺伝子医学

村山 敏典 講師
先端医療システム構築学, 被験者擁護論

増田 智先 講師
薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明

竹村 匡正 講師
医療言語処理学, 過去症例に基づく医学知識抽出

医学部人間健康科学科

足立 壯一 教授
小児医学科, 血液内科学, 病態医学科

荒井 秀典 教授
地域医療学及び在宅医療学, 新たな地域医療システムを構築するための研究, 老年医学, 肥満・動脈硬化の予防に関する研究

石橋 誠 教授
中枢神経系, 骨格系の発生・再生の分子機構の解明 (遺伝子工学的手法, 発生工学的手法, 数理生物学的手法による)

市橋 則明 教授
骨・関節系理学療法に関する臨床のおよびバイオメカニクスの研究

岡 昌吾 教授
生化学・神経糖鎖生物学

桂 敏樹 教授
老人・成人保健, 健康な街づくり

我部山 キヨ子 教授
母性・父性のメンタルヘルスと育児支援システム構築に関する研究, 助産ケアの質向上のためのシステム構築に関する研究, 女性の生涯に渡るリプロダクティブヘルスに関する研究

木下 彩栄 教授
認知症の病態に関する分子生物学的研究および認知症のケアに関する研究

黒木 裕士 教授
超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究, 遠心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究, 空気圧を利用した歩行補助装置の研究

齋藤 邦明 教授
アミノ酸代謝と免疫および疾患メタボロームプロテオーム解析

齋藤 ゆみ 教授
基礎看護学 (感染・生体防御看護学)

櫻庭 繁 教授
精神看護学, リエゾン精神看護学, 自殺, 失感情症, 病跡学, 精神障害者援助論, 精神保健福祉活動

椎名 毅 教授
生体工学, 医用超音波技術, 次世代医用イメージングと診断・治療支援技術開発

杉本 直三 教授
医用画像情報学

菅 佐和子 教授
臨床心理学, 看護カウンセリング

菅沼 信彦 教授
不妊症学, 産婦人科内分泌学

鈴木 真知子 教授
小児在宅療養支援に関する研究, 超重症児の自律に向けた育児支援に関する研究, 学校看護師の専門的機能と役割に関する研究, 訪問看護ステーションにおける重心児 (者) の専門特化すべきサービスのあり方に関する研究

三宅 歩 講師
ゼブラフィッシュを用いた FGF の機能解析

川上 茂 講師
◎機能性 DDS キャリアの開発
◎細胞選択的遺伝子ターゲティングシステムの開発

大石 真也 講師
生体分子からの医薬品リード化合物の創製と応用

土居 雅夫 講師
脳内中枢時計における分子振動システムの解明、生体リズム調製剤の開発

工学部

地球工学科

田村 武教授
社会基盤工学専攻 応用力学、数値解析、粒体の力学、トンネル工学

宮川 豊章 教授
社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

杉浦 邦征 教授
社会基盤工学専攻 鋼構造・複合構造の力学的特性評価およびその設計法

白土 博通 教授
社会基盤工学専攻 構造物の耐風設計、強風災害低減、腐食環境物理モデル

小池 武 教授
社会基盤工学専攻 都市ライフラインシステムの災害軽減と安全設計法に関する研究

福澤 家久 教授
社会基盤工学専攻 各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究、世界最先端の流体計測による乱流科学の解明

椎葉 充晴 教授
社会基盤工学専攻 水文学、水資源工学、河川防災

岡 二三生 教授
社会基盤工学専攻 計算地盤力学、砂地盤の液状化解析、地盤の変形局所化

田村 正行 教授
社会基盤工学専攻 衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

川崎 雅史 教授
社会基盤工学専攻 公共空間における景観デザイン

後藤 仁志 教授
社会基盤工学専攻 海岸工学、流砂・漂砂水理学、数値流体力学

河野 広隆 教授
都市社会工学専攻 構造物の維持管理、コンクリート工学

清野 純史 教授
都市社会工学専攻 地盤震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

細田 尚 教授
都市社会工学専攻 河川工学、開水路水理学、環境流体力学

大津 宏康 教授
都市社会工学専攻 ジオリスクエンジニアリング、海外建設プロジェクトリスクマネジメント

小林 潔司 教授
都市社会工学専攻 国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

掛谷 秀昭 教授
次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究および天然物薬学研究

北浦 和夫 教授
計算化学による生体高分子の構造・機能の研究と創薬のための新規手法の開発

大野 浩章 准教授
創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究

山田 健一 准教授
有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用

高須 清誠 准教授
機能性低分子の迅速製造を可能とする分子変換法の開拓と創薬への展開

伊藤 美千穂 准教授
◎植物二次代謝酵素の構造—機能相関研究
◎フィールドワークを軸とする薬用植物の調査・開発研究

星野 大 准教授
高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析

中津 亨 准教授
◎光生体タンパク質の構造生物学的研究
◎ヒト赤血球アノオントランスポーターの構造生物学的研究

平澤 明 准教授
◎オーフファン受容体のリガンド探索と機能解析
◎DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析

中野 実 准教授
◎脂質膜の静的・動的構造評価とタンパク質との相互作用評価
◎脂質ナノ粒子の創製と薬学的応用

柿澤 昌 准教授
◎活動依存的な中枢神経系機能制御とシナプス構造
◎新規カルシウムシグナル制御系の分子機構と機能的役割

渡部 好彦 准教授
サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学

中川 貴之 准教授
◎薬物依存形成機構の神経薬理学的解析
◎痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析

山下 富義 准教授
◎薬物体内動態シミュレーターの開発研究
◎微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

久米 利明 准教授
神経変性疾患における中枢ニューロン死制御を指向した神経薬理学的研究

矢野 育子 准教授
薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

小野 正博 准教授
病態機能分析を指向した分子イメージング技術の開発とその創薬研究への応用

山岡 清 准教授
◎動物体内動態試験での一点 Sampling データに基づく Bootstrap 法による動態パラメータの分散の評価
◎RNA 干渉の速度論的定量化およびその制御
◎非線形臓器動態と全身動態の関連解析 (in loci)

西川 元也 准教授
◎核酸を基盤とする治療・デリバリーシステムの開発
◎生体防御関連因子の時空間制御技術の開発とその創薬への応用

服部 明 准教授
哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明、リズム障害の分子基盤に関する研究

星野 明子 准教授
地域看護学 大都市の人口空洞化地域における高齢者の自律支援のためのサテライトシステムの構築

本田 育美 准教授
糖尿病患者の足病変予防に関する研究、高齢者へのフットケアに関する研究

柳吉 桂子 准教授
助産ケアモデルの構築、助産学教育、助産管理

若村 智子 准教授
生体リズムからみた生活環境調整に関する研究、睡眠に関する研究

大畑 光司 講師
運動発達とその障害に関する研究、脳損傷とリハビリテーション

前田 祐子 講師
高齢者医療の心理・態度研究と医療コミュニケーションの研究

薬学部

竹本 佳司 教授
◎金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発
◎生物活性天然有機化合物の不斉合成研究

松崎 勝巳 教授
生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開

加藤 博章 教授
酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかに機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。

辻本 豪三 教授
ゲノム包括的解析、バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテララーメイド医療

竹島 浩 教授
細胞内 Ca²⁺ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明

金子 周司 教授
神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究

伊藤 信行 教授
遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義

中山 和久 教授
◎細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構
◎細胞内タンパク質分解の調節機構

橋田 充 教授
◎薬物の体内動態の機構解明に関する研究
◎薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発

赤池 昭紀 教授
◎神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索
◎虚血性網膜障害の予防・治療薬の研究

佐治 英郎 教授
◎画像診断薬、放射線治療薬の創製
◎病態解明、創薬のための分子イメージング法の開発
◎金属化合物の生体作用の解明

高倉 喜信 教授
◎遺伝子治療薬品の生物薬剤学的研究
◎培養細胞を利用した薬物動態研究

岡村 均 教授
哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明、リズム障害の分子基盤に関する研究

精山 明敏 教授
生体が営む複雑な生命現象を、磁気共鳴・光学計測法などの物理的手法を用いて可視化し、その機能発現を解明する

高桑 徹也 教授
慢性炎症から発症するリンパ腫の研究

坪山 直生 教授
整形外科学、運動器リハビリテーション学

十一 元三 教授
精神医学認知神経科学、発達障害学、児童司法精神医学

中泉 明彦 教授
肝癌の早期診断を目指した臨床

野本 慎一 教授
災害医学、看護学、医療安全学、心臓血管外科学

藤田 正俊 教授
内科学、循環器内科学

二木 淑子 教授
障害学、作業療法学に関する研究（主に身体障害、高次脳機能障害、認知機能障害のリハビリテーションに関する研究）

細田 公則 教授
内分泌代謝内科学 肥満 糖尿病

三谷 章 教授
リハビリテーションの神経機構

宮島 朝子 教授
「人間—環境系」の視点からみた療養者の生活環境と健康現象の関係性ほか

山根 寛 教授
障害構造およびトータルリハビリテーションシステム、作業活動を介したコミュニケーション、場の機能とグループダイナミクス

青山 朋樹 准教授
間葉系幹細胞移植及び内因性幹細胞活性化による運動器の再生

赤澤 千春 准教授
臓器移植に関するクリティカル看護ケアに関する研究、リンパ浮腫に関する研究、アクティブ・ラーニングに関する研究

池本 正生 准教授
臨床生化学：急性炎症抑制蛋白に関する研究

石津 浩一 准教授
画像診断学、核医学、医用画像工学、CT、MRI

伊吹 謙太郎 准教授
微生物学・ウイルス感染症学

大塚 研一 准教授
偏微分方程式論

加藤 寿弘 准教授
発達障害の作業療法（特に高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学修障害児に対する臨床研究）

笹山 哲 准教授
医療情報処理

作田 裕美 准教授
がん看護学（がん術後リンパ浮腫の発症予測に関する生理学的研究、がん術後リンパ浮腫患者への治療的介入研究、がん患者のQOL 向上に向けた教育・指導の方法論に関する研究）

谷口 初美 准教授
性と生殖に関する Transition の看護概念をテーマに各 transition の女性達の成長や健康への影響に関する研究

玉木 彰 准教授
運動と呼吸のリズムに関する研究、呼吸理学療法に関する研究

中川 大教授

都市社会工学専攻 都市計画, 都市交通対策, 公共交通政策

谷口 栄一教授

都市社会工学専攻 交通計画, シティロジスティクス, ITS (高度道路交通システム) に関する研究

藤井 聡教授

都市社会工学専攻 土木計画, 交通計画ならびに社会心理学等の社会科学を基本とした公共政策研究

藤田 正治教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 山地流域の土砂動態に関する研究, 水・土砂・生物系に関する研究

中川 一教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

井合 進教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 地震時の地盤災害, 地盤防災に関する研究

中北 英一教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 降雨予測を含むレーダー水文学, 世界の異常降雨災害

間瀬 肇教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 沿岸海岸災害解析の基礎となる波動理論, 数値モデル, 耐波設計法

寶 馨教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 洪水予報と治水計画, 極値統計理論, 防災の新技术・政策論

平石 哲也教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 津波・高潮・高波による海岸侵食の防止技術, 砂丘環境のモニタリングと形成過程の解明, 港湾構造物の耐波安定性・洗掘対策

木村 亮教授

社会基盤工学専攻 / 産官学連携本部 新たな構造物基礎やトンネル構造物の開発, 世界の貧困削減に向けた研究の実施

牛島 省教授

社会基盤工学専攻 / 学術情報メディアセンタ 数値流体力学と水工学分野への応用

澤田 純男教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 震源モデルと地盤振動解析に基づく設計入地地震動評価

小尻 利治教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 水資源工学, 総合流域管理, 流域環境評価, 人工知能システム

堀 智晴教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 水資源システムの計画と管理, 洪水・渇水災害の防止と軽減

岡田 憲夫教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 災害リスクマネジメント, 特に, 計画的な手法やシステム科学的アプローチに関する研究

角 哲也教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 ダム工学, 水工水理学, ダム貯水地の土砂管理に関する研究

戸田 圭一教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 地下浸水を含む都市水害の予測と対策

勝見 武教授

地球環境学 社会基盤親和技術の開発, 環境地盤工学

多々納 裕一教授

防災研究所 防災の経済分析, 災害リスクガバナンス

矢守 克也教授

防災研究所 防災心理学に関する研究, 防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

林 春男教授

防災研究所 防災心理学, 組織の危機管理論, 災害情報システム, 災害過程論

西藤 潤准教授

社会基盤工学専攻 数値計算力学, トンネル工学, 最適設計

山本 貴土准教授

社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の力学性能および耐久性, 補修・補強, 新材料・新工法

宇都宮 智昭准教授

社会基盤工学専攻 海洋構造物の動的応答に関する研究

八木 知己准教授

社会基盤工学専攻 構造物の空気力学, 強風防災, 風工学に関する研究

五十嵐 晃准教授

社会基盤工学専攻 地震荷重下における社会基盤構造物の安全性および動的応答の制御

山上 路生准教授

社会基盤工学専攻 水・空気界面の乱流ダイナミクス, 乱流輸送に基づく環境水理学

立川 康人准教授

社会基盤工学専攻 水文学, 水資源工学, 水災害軽減に関する研究

木元 小百合准教授

社会基盤工学専攻 地盤材料の構成式, 地盤数値解析

須崎 純一准教授

社会基盤工学専攻 衛星・地上リモートセンシングによる都市環境のモニタリングとモデリング

久保田 善明准教授

社会基盤工学専攻 景観工学, 橋梁デザイン, 構造・材料・施工を踏まえた土木構造物の空間デザイン

原田 英治准教授

社会基盤工学専攻 流砂・漂砂水理学, 固液混相流の計算力学

服部 篤史准教授

都市社会工学専攻 コンクリート構造物のマネジメント, 耐久性, 維持管理, 補修・補強, 新材料・新工法

岸田 潔准教授

都市社会工学専攻 地盤の力学・水理学特性の評価, トンネルと地下空間の創出, 地下構造物の可視化

塩谷 智基准教授

都市社会工学専攻 土木構造物の維持管理に資する先端計測技術・評価手法の研究

西山 哲准教授

都市社会工学専攻 地下空間の創造・保全・維持管理のための力学, 水理学的特性を解明する解析および計測手法の研究

松島 格也准教授

都市社会工学専攻 国土・地域のマネジメント手法論の開発, 交通市場構造分析

松中 亮治准教授

都市社会工学専攻 都市地域計画, 交通計画, 都市環境評価, 交通政策・制度

山田 忠史准教授

都市社会工学専攻 輸送システム, サプライチェーンマネジメント, ロジスティクス, 最適化

宇野 伸宏准教授

都市社会工学専攻 道路交通システムの計画とITSを用いた管理運用の方法論に関する研究

堀 大三准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 山岳域における土砂生産や流砂の観測および土砂災害防止に関する研究

竹林 洋史准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 土砂水理学, 河川工学

川池 健司准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 都市水害の氾濫数値解析, 防災水工学

三村 衛准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 粘土地盤の変形解析, 地盤情報データベース, 土木遺跡の保存

城戸 由能准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 水環境の動態解析と予測・評価

森 信人准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 沿岸災害メカニズムの基礎理論および数値モデリング

山敷 庸亮准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 地球規模水・物質循環, 閉鎖性水域モデル, 陸域 / 海域の融合シミュレーション

武藤 裕則准教授

社会基盤工学専攻 / 防災研究所 河川流および沿岸流の構造観測, 河川構造と生態系成立の関連に関する研究

高橋 良和准教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 地震時における土木構造物システムの安全性評価, オブジェクト指向地震工学

田中 賢治准教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 陸面過程スキームの開発, 全球規模から領域規模までの水・熱循環の予測

横松 宗太准教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 防災投資による災害リスクの軽減便益の経済評価に関する研究

竹門 康弘准教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 河川や湖沼の生態系管理のための応用生態工学的, 生態工学的研究

米山 望准教授

都市社会工学専攻 / 防災研究所 数値シミュレーションによる流体関連災害メカニズムの解明

乾 徹准教授

地球環境学 地盤中の環境影響質の挙動と対策, 環境地盤工学

畑山 満則准教授

防災研究所 時空間地理情報システム, 災害リスク・コミュニケーション, 情報システムを用いた災害対応

牧 紀男准教授

防災研究所 ステークホルダー参加型防災戦略計画, 災害復興計画, すまいる災害誌 (アジア地域を中心に)

金 善珍講師

社会基盤工学専攻 水文学, 水資源工学, 水災害軽減, 気候変動と水工計画

三ヶ田 均教授

社会基盤工学専攻 統合型マルチスケール構造探査技術の確立と応用

石田 毅教授

社会基盤工学専攻 地下深部の利用・開発に関わる地圧状態の研究や破壊音の測定による岩盤破壊の研究

朝倉 俊弘教授

社会基盤工学専攻 岩盤構造物設計と保守に関する研究

松岡 俊文教授

都市社会工学専攻 エネルギー資源開発と地球環境保全へのナノ / ジオサイエンスの適用研究

馬淵 守教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

宅田 裕彦教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

後藤 忠徳准教授

社会基盤工学専攻 電磁探査を用いた海底資源・活断層調査技術の開発と適用

村田 澄彦准教授

社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の創生

塚田 和彦准教授

社会基盤工学専攻 非破壊検査による材料劣化の評価に関する研究

山田 泰広准教授

都市社会工学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

水戸 義忠准教授

都市社会工学専攻 岩盤構造物の情報化設計・施工と地盤環境評価技術の開発

浜 孝之准教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源を目的とした金属材料の塑性加工プロセスに関する研究

藤本 仁准教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

楠田 啓准教授

エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 炭素循環と資源・エネルギー開発

津野 洋教授

都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

米田 稔教授

都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

松岡 譲教授

都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

伊藤 禎彦教授

都市環境工学専攻 都市衛生工学, 水道水質の安全性評価とその制御

清水 芳久教授

都市環境工学専攻 統合的湖沼流域管理, 水環境中天然有機物質の科学的解明, 地下水・土壌浄化, 環境微量汚染物質の分析方法の開発と挙動の解明

田中 宏明教授

都市環境工学専攻 健全な水循環・水環境をめざす研究

酒井 伸一教授

都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

馬原 保典教授

都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

小山 昭夫教授

都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

藤井 滋穂教授

地球環境学 水質・水質・生態系の保全と制御に関する研究

北村 隆行 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

牧野 俊郎 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
熱・ふく射輸送現象の解明と熱・ふく射応用計測

松久 寛 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎機械構造物の振動解析
◎振動および騒音の制御

松野 文俊 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
ロボティクス、機械システムの制御、レスキュー工学、ヒューマンインターフェイス、生物の運動知能の理解と機械システムによる実現

中部 主敬 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

蓮尾 昌裕 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
プラズマ中の原子・イオン・光のダイナミクス解明とそのための手法開発

富田 直秀 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
荷重支持組織の再生、再建とその生体環境設計

井手 亜里 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
粒子ビームによる超微細加工・分析

安達 泰治 教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
生体組織・細胞の機能的適応のバイオメカニクスとその工学的応用

池田 徹 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
界面の破壊力学、電子実装における信頼性評価

花崎 秀史 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体中の熱・物質輸送現象の解明

松本 充弘 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
分子熱流体現象の解明

宇津野 秀夫 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎機械構造物の振動、騒音制御
◎連続体を伝わる波動現象の解析

小森 雅晴 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎メカニクス・機構・機械要素
◎超精密形状計測

黒瀬 良一 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置内および環境に見られる乱流輸送現象の解明

巽 和也 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
微小管路内の複雑流体流れの現象解明

水山 元 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎生産システム工学
◎品質管理・品質工学

中西 弘明 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
学習・適応システムとシステム制御、自律型ロボットの設計とその安全・防災活動への応用

澄川 貴志 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
微小構造体の変形と破壊特性に関する実験及び力学解析

荒木 慶一 准教授

構造解析・構造材料・構造力学に関する研究

古阪 秀三 准教授

建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

上谷 芳昭 准教授

環境共生建築照明に関する研究

神吉 紀世子 准教授

都市・農村計画、環境共生の地域づくり

伊勢 史郎 准教授

音場再現、空間共有、アクティブ騒音制御に関する研究

辻 聖晃 准教授

粘性系のダンパーを用いた既存建築物の耐震補強

李 有震 講師

建築物の最適設計法に関する研究

中島 正愛 教授

建物の地震時挙動の解明と震害の防御・軽減技術

川瀬 博 教授

都市居住空間の地震災害低減のための構造物の被害予測と耐震性向上策の提案

河井 宏允 教授

自然風の特徴を考慮した新しい建築構造物の耐風設計

田中 仁史 教授

鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法

田中 喆義 教授

地震火災被害のリスク評価と防災対策

小林 正美 教授

自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

松島 信一 准教授

震源と地盤の不均質性を考慮した地震時の揺れの評価とその都市防災への応用

丸山 敬 准教授

市街地における風環境の解明

田村 修次 准教授

杭基礎および直接基礎の耐震性

金多 隆 准教授

建築生産システムとマネジメントに関する研究

小林 広英 准教授

人間環境設計学に関する実践的研究

物理工学科**榎木 哲夫 教授**

機械理工学専攻・機械システム学コース
人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

西脇 眞二 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎最適設計法・構造最適化
◎設計・生産システムに関する研究

北條 正樹 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
先進複合材料の破壊における巨視微視相関メカニクス、ソフトアクティブマテリアル

宮崎 則幸 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
電子材料/電子デバイスの強度評価、計算固体力学

小森 悟 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置および環境に見られる乱流輸送現象の流体工学的解明

PUAY How Tion 講師

都市社会学専攻 水工学, 数値流体力学

FLORES Giancarlo 講師

都市社会学専攻 環境地盤工学, 地盤中の化学物質挙動

QURESHI Ali Gul 講師

都市社会学専攻 数値計画, 地域ロジスティクスに関する研究

嶋本 寛 講師

都市社会学専攻 交通計画, 交通ネットワーク解析, 公共交通乗客配分モデル, 交通行動パターン解析

建築学科**林 康裕 教授**

地域と建築物の保全再生, 建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント, 建築地震防災

西山 峰広 教授

コンクリート系建築構造物の耐震設計

門内 輝行 教授

建築環境計画学及び建築・都市設計の方法に関する研究

銚井 修一 教授

エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

高松 伸 教授

建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

岸 和郎 教授

建築設計および都市・建築空間の形態分析的方法に関する研究

上谷 宏二 教授

弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

加藤 直樹 教授

建築計画, 構造, 環境の全般にわたる情報工学的, システム工学的技術に関する研究

吹田 啓一郎 教授

鋼構造建築物の設計と接合システム, 耐震補強に関する研究

原田 和典 教授

都市と建築空間の熱環境と火災安全

高田 光雄 教授

建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

金子 佳生 教授

新素材を用いた次世代構造システムの機能創生と環境共生への適用

高橋 大式 教授

居住・行動空間の音環境設計に関する研究

竹脇 出 教授

建築構造物・地盤連成系の逆問題型設計法, 制振構造・極限地震動に関する研究

石田 泰一郎 准教授

人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

山岸 常人 准教授

日本建築史及び歴史的建造物保存

河野 進 准教授

コンクリート系構造物の耐震設計

吉田 哲 准教授

都市空間, 居住空間における人の心理と行動の研究

竹山 聖 准教授

建築空間論及び居住形態論

田路 貴浩 准教授

建築・都市デザインに関する建築論的研究

東野 達 教授

エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷評価に関する研究

高岡 昌輝 准教授

都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

松井 利仁 准教授

都市環境工学専攻 サウンドスケープおよび騒音の健康影響に関する研究

西村 文武 准教授

都市環境工学専攻 水環境の保全と廃水処理に関する研究

八十島 誠 准教授

都市環境工学専攻 健全な水環境の創造に関する研究

倉田 学児 准教授

都市環境工学専攻 広域大気汚染シミュレーションとその将来影響予測に関する研究

越後 信哉 准教授

都市環境工学専攻 浄水処理の化学, 高度水処理技術の開発

平山 修久 准教授

都市環境工学専攻 水道事業の戦略計画に関する研究

松田 知成 准教授

都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

平井 康宏 准教授

都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究, 廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

藤川 陽子 准教授

都市環境工学専攻 放射性廃棄物地中処分の環境安全評価に係わる実験的研究

田中 周平 准教授

地球環境学 化学物質の挙動調査と処理技術の開発, 沿岸生態系の修復保全

松井 康人 講師

都市環境工学専攻 ナノマテリアルのリスク評価, 室内環境中化学物質の曝露評価

山下 尚之 講師

都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

金 哲佑 教授

社会基盤工学専攻 振動モニタリングによる橋梁の異常診断および損傷推定, 橋梁振動の周辺環境への影響とその対策

安 琳 准教授

社会基盤工学専攻 道路橋 PC 桁の耐久性について

TAMRAKAR Surendra Bahadur 准教授

社会基盤工学専攻 土の引張り強度の測定方法と圧縮強度との比較, セメント改良土の初期強度測定に関する研究, 土質実験

DURAN Cardenas Freddy Remigio 准教授

都市社会学専攻 地下構造物および RC 橋脚の非線形地震解析と耐震設計

金 広文 准教授

都市社会学専攻 開発途上国の地域計量分析, 都市交通システム分析, 越境経済・交通プロジェクトに関する研究

SCHMÖCKER Jan-Dirk 准教授

都市社会学専攻 ネットワークとリスク: 不確実性に対する行動分析, 公共交通乗客配分モデル, 高齢者に対するモビリティ分析, 土地利用と交通パターン分析

KHAYYER Abbas 講師

社会基盤工学専攻 数値流体力学, 粒子法, 海岸工学, 乱流モデル

山本 彦彦 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
 枚数多様体の高さのアラケロフ幾何的視点による研究とその応用

小寺 秀俊 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 マイクロシステムの加工と特性に関する研究

田畑 修 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 マイクロマシン、マイクロシステム、微小電気機械システム (MEMS) に関する研究

木村 健二 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 高速荷電粒子と固体表面の相互作用の解明とそれを用いた表面の新しい評価・分析法の開発

立花 明知 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 量子力学に基づく物性理論とシミュレーションに基づきそのエレクトロニクス材料設計への応用

松原 厚 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 ◎高速・高精度位置決め技術
 ◎加工プロセスのモニタリングと制御

楠見 明弘 教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
 1分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

神野 伊策 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

土屋 智由 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 マイクロシステム、マイクロマシン用材料の機械的物性評価

鈴木 基史 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 ◎ナノ構造薄膜の電気的、光学的物性に関する研究
 ◎イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

茨木 創一 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
 ◎加工機の制御と運動精度計測
 ◎加工プロセスの制御

玄 丞依 准教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
 ◎有機高分子医療用材料の合成と物性
 ◎人工関節軟骨・人口関節のバイオメカニクス
 ◎細胞増殖制御と生体組織の保存

吉田 英生 教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
 熱エネルギーを主体とするシステムの開発

杉江 俊治 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
 ◎アドバンス制御理論とその応用
 ◎メカトロニクス系の設計と制御

川上 浩司 准教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
 ◎人工工学による設計支援
 ◎機械学習

西原 修 准教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
 ◎人間中心システム
 ◎動力学解析によるパーチャル・プロトタイプング

岩井 裕 准教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
 熱機器における熱移動現象の解明とその予測および制御

稲室 隆二 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 複雑混相流体力学の基礎理論とその応用

泉田 啓 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 力学的理解と生体の運動知能理解に基づく航空宇宙システムの知能化制御とシステム設計

永田 雅人 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 流れの非線形安定性に関する研究と非線形システムにおける解の分岐

斧 高一 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

琵琶 志朗 教授

マイクロエンジニアリング専攻・宇宙基礎工学コース
 材料・構造における弾性波伝搬挙動解析と機能・健全性評価

大和田 拓 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 分子気体力学の理論的研究

幸田 武久 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 システムの信頼性および安全性

江利口 浩二 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究と航空宇宙工学への応用

杉元 宏 講師

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
 微視的流体力学の理論的研究

青木 一生 教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
 希薄気体力学の理論的研究とその航空宇宙工学への応用

高田 滋 准教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
 非平衡気体力学の理論的研究

福山 淳 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎プラズマ物理学
 ◎核融合プラズマ工学
 ◎プラズマ応用

伊藤 秋男 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学
 ◎クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究
 ◎研究型医学物理士養成に係る粒子線研究

山本 克治 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎物理学の基礎理論
 ◎光と原子の量子状態操作と量子情報通信
 ◎素粒子物理学

功刀 資彰 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎数値熱流体力学
 ◎ナノ・マイクロ熱流体工学
 ◎核融合炉熱工学

神野 郁夫 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎放射線物理学
 ◎放射線検出器の開発とその医療・産業応用

高木 郁二 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎核融合炉材料
 ◎軽水炉材料
 ◎水素エネルギー材料

村上 定義 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎量子ビーム照射環境下で起こる物理過程の解明
 ◎核融合プラズマ工学

土田 秀次 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎量子ビーム照射環境下で起こる物理過程の解明
 ◎高速イオンと物質との衝突反応素過程の解明

松尾 二郎 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎量子ビームと物質との相互作用
 ◎量子ビームによる新材料創製技術
 ◎反応ダイナミクス

田崎 誠司 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎低速中性子光学
 ◎中性子スピン干渉現象の研究と応用

佐々木 隆之 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎アクチノイドの分離分析化学
 ◎放射性廃棄物の処理処分

柴田 裕実 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎高速クラスターイオンと物質との相互作用
 ◎超高速微粒子生成と宇宙塵計測
 ◎マイクロイオンビームに依る微量分析

河原 全作 講師

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎エネルギー機器の熱流体工学
 ◎伝熱工学
 ◎混相流の物理と工学

瀬木 利夫 講師

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
 ◎量子ビームの生成と制御
 ◎量子ビームによる高精度ナノ加工・ナノ材料創成

松原 英一郎 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 構造解析に基づく金属ガラス転移解明、金属ナノ粒子製造、鉛フリーはんだ設計、磁性薄膜自己組織化等を研究

辻 伸泰 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 構造用金属材料のナノ・マイクロ組織の形成と力学特性の発現のメカニズム

乾 晴行 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 金属間化合物の格子欠陥と物性

河合 潤 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 材料の構造、物性、電子状態、化学状態、濃度等に関する物質情報を計測したり、環境物性を分析するための新手法の開発

杉村 博之 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 物質の集積化と機能構築

田中 功 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 セラミックス材料の量子材料設計

酒井 明 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 ナノテクノロジー、特にナノワイヤー、ナノ接点の電子伝導の研究

落合 庄治郎 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 複合材料の機能発現メカニズムと最適構造デザイン

中村 裕之 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 金属・化合物の磁性、強相関電子系の低温量子物性

白井 泰治 教授

材料工学専攻・材料科学コース
 陽電子 (ポジトロン) ビームを用いた物質内部の局所原子配列の解明、高機能材料開発、新しい陽電子分析機器の開発

田中 克志 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 単結晶弾性率測定法の開発と新材料の弾性率測定、外部応力・磁場による組織制御とそのデバイスへの応用

伊藤 和博 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 薄膜材料の作製と物性

邑瀬 邦明 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 電気化学的もしくは化学的手法による金属、合金、および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

松永 克志 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 パイオセラミックスの計算材料設計

奥田 浩司 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

黒川 修 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 走査プローブ顕微鏡、メゾスコピック電子現象の研究

市坪 哲 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 金属ガラスのガラス転移・緩和挙動、ナノ粒子垂直磁化膜の作成、超音波物性測定

宇田 哲也 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 新しいタイプの燃料電池の研究、レアメタルの製造プロセス

岸田 恭輔 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 結晶性材料の格子欠陥設計による物性制御

田畑 吉計 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 中性子散乱実験による物性研究。金属間化合物の磁気的性質に対する基礎的研究

大場 史康 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 半導体および電子セラミックスの電気的機能の設計

井上 耕治 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
 陽電子をプローブとした高機能材料における格子欠陥研究

石原 慶一 教授

エネルギー科学研究科
 エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
 エネルギー・環境材料、エネルギー・環境教育、エネルギー環境負荷評価

奥村 英之 准教授

エネルギー科学研究科
 エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
 環境材料、機能性材料、環境教育、エネルギー環境負荷評価

萩原 理加 教授

エネルギー科学研究科
 エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
 無機合成化学、物理化学、電気化学

野澤 博教授
強誘電体機能メモリ, 断熱型 CMOS 論理回路, SPICE シミュレーション

白井 康之教授
先進エネルギーシステム, 超伝導現象のエネルギー応用, 極低温液体の熱流体力学

小山田 耕二教授
大規模・複雑データ向け可視化, 粒子ボリュウムレンダリング, ボリュームコミュニケーション, シミュレーション

中村 裕一教授
ネットワークを介したコミュニケーションシステム, 画像・映像メディアの撮影・認識・編集

山川 宏教授
宇宙環境探査工学, 太陽エネルギーを用いた宇宙システム工学, 宇宙機の軌道ダイナミクス

小嶋 浩嗣准教授
科学衛星による宇宙プラズマ中でのプラズマ波動の探査

篠原 真毅教授
マイクロ波エネルギー伝送, 宇宙太陽発電所

山本 衛教授
電離圏イリギュラリティの研究, レーダーによる大気観測方式に関する研究

橋口 浩之准教授
各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

津田 敏隆教授
電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

大村 善治教授
宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

水内 亨教授
高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

南 貴司准教授
高温プラズマのレーザー計測と輸送物理の研究

佐野 史道教授
複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

花谷 清准教授
トラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

岡田 浩之准教授
高温プラズマの生成および閉じ込め

長崎 百伸教授
高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究, ミリ波伝送システムの開発

増田 開准教授
荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源, 自由電子レーザー, ビーム集束核融合の研究

情報学科

佐藤 雅彦教授
構成的プログラミング, コンピュータソフトウェア

山本 章博教授
人工知能基礎論, 帰納論理, 機械学習, 知識発見

西田 豊明教授
会話情報学, 社会知のデザイン, 人工知能

奥乃 博教授
人工知能, 音環境理解, 音楽情景分析, ロボット聴覚

杉山 和彦准教授
量子エレクトロニクス, レーザー原子時計, 光周波数シンセサイザ, 量子計算機

青木 学聡講師
ナノスケール材料の創製, 評価に関するシミュレーション技術

高岡 義寛教授
クラスターイオン, ナノプロセス, 表面反応, 高機能材料創製の研究

藤田 静雄教授
量子機能薄膜材料の育成と物性探索, 有機エレクトロニクスの材料

中村 敏浩講師
電子材料プロセスの分光診断と反応解析

黒橋 禎夫教授
自然言語処理, 知識情報処理

松山 隆司教授
デジタル画像・映像の処理, ヒューマン・コミュニケーション, エネルギーの情報化

川嶋 宏彰講師
パターン認識, ヒューマンコミュニケーション, ハイブリッドダイナミカルシステム

延原 章平講師
コンピュータビジョン, 多視点画像からの3次元形状・運動復元, 3次元ビデオ

吉田 進教授
高信頼度デジタル通信技術, 無線情報ネットワーク

村田 英一准教授
デジタル無線通信技術, 無線通信システムの研究

守倉 正博教授
伝送信号処理技術を用いた無線 LAN, 無線アクセスシステム構成技術の研究

田野 哲准教授
適応信号処理, 伝送路符号化, ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

高橋 達郎教授
マルチメディアネットワークアーキテクチャ, プロトコル, システム構成技術

佐藤 高史教授
大規模集積回路の設計技術, 設計自動化技術

越智 裕之准教授
再構成アーキテクチャ, マルチメディア機器向け VLSI 技術

小野寺 秀俊教授
VLSI の設計手法と CAD 技術

佐藤 亨教授
高分解能レーザーイメージング技術

乗松 誠司准教授
光通信, 特に光ファイバ通信に関する研究

石井 信教授
生命システム, 計算論的神経科学, システム神経生物学, 強化学習

大羽 成征講師
多変量データの確率的モデリング, システム要素の統計学, パイオニアフォマティクス

松田 哲也教授
医用画像診断法および生体物理計測法の開発

下田 宏准教授
エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

中村 祐司教授
核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

中村 武恒准教授
高温超伝導パワー応用, 新磁界応用, 先進電気機器

小林 哲生教授
脳機能イメージング, 複合医工学, マンマシンインタフェース, 量子生体計測, 生体信号処理

濱田 昌司准教授
生体の関与する電界・磁界・電磁界の解析, 脳磁計測用逆計算手法

引原 隆士教授
非線形力学の工学的応用, MEMS, 電気エネルギーネットワーク, パワーエレクトロニクス

和田 修己教授
電気回路モデリング, デジタル EMC 実装工学, 電磁波工学

久門 尚史准教授
非線形回路システム, 分布定数回路システム, アルゴリズムのハードウェア化

萩原 朋道教授
デジタル/サンプル値制御理論, 2 自由度最適制御系の理論と応用, 動的システム理論

蛸原 義雄准教授
数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

山本 修講師
高電圧絶縁, 放電現象の研究

鈴木 実教授
高温超伝導物質とジョセフソン効果の研究, 巨大磁気抵抗材料, 複合酸化物の電子応用

掛谷 一弘准教授
超伝導・磁性などの量子論的創発現象を用いた革新的電子材料の研究

後藤 康仁准教授
電界放出現象の解析とその応用, PVD 法による薄膜形成技術開発, イオンビーム分析

酒井 道准教授
マイクロプラズマの生成法の研究, マイクロプラズマによる電磁波制御の研究

木本 恒暢教授
ワイドギャップ半導体の結晶成長, 物性制御とデバイス応用

須田 淳准教授
ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

松重 和美教授
分子ナノエレクトロニクス, 有機電子材料の構造制御と電子物性, ナノテクノロジー, 電気自動車

山田 啓文准教授
ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

川上 養一教授
原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

船戸 充准教授
光材料の育成と物性探索

野田 進教授
光量子電子工学, フォトニック結晶・光半導体, およびエネルギー・情報・通信への応用

浅野 卓准教授
半導体光デバイスの研究

富士田 誠之講師
光ナノ構造, 光物性, 発光現象, 光電子デバイス, 光電子材料, 微細加工

北野 正雄教授
量子エレクトロニクス, 量子光学, 電磁メタマテリアル

岸本 泰明教授
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

核融合プラズマ乱流輸送・高強度レーザーと物質相互作用に関する理論・シミュレーション, 相対論プラズマ, 高エネルギー密度科学

野平 俊之准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

電気化学的エネルギー変換および材料創製

塩路 昌宏教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

熱機関における燃焼現象の解明とその制御

石山 拓二教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

内燃機関の燃焼と排気

川那 辺洋准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

乱流燃焼の光学計測および数値解析

松本 英治教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

星出 敏彦教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

セラミクス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション, セラミック薄膜の創製とその機械的特性の評価

今谷 勝次准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

平藤 哲司教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

電気化学を基礎とする機能素材プロセスング

岩瀬 正則教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

材料生産プロセスの熟化学

長谷川 将克准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース

リサイクルプロセスの熟化学

電気電子工学科

土居 伸二教授
非線形システム, 生命システム, 脳神経系・心臓の電気生理学・医工学, システム論的予測医学

古谷 栄光准教授
システム・制御理論の医療への応用, 患者の生体状態推定法, むた時間制御系の理論

松尾 哲司准教授
計算電磁気学, 磁性材料モデリング

雨宮 尚之教授
超伝導体の電磁現象, 超伝導のエネルギー・環境応用, 超伝導の医療応用

吉川 正俊 教授
データベース, 情報検索, 社会情報学

田中 克己 教授
Web 情報検索, マルチメディア情報システム, データベース

石田 亨 教授
人工知能, コミュニケーション, 社会情報システム

船越 満明 教授
非線形力学, 流体力学, 力学システムの力学

西村 直志 教授
計算力学, 応用力学, 計算工学

山本 裕 教授
システム・制御理論, デジタルシステムと信号処理, システムモデリング

中村 佳正 教授
可積分系, 計算数学, アルゴリズム, 組合せ論

永持 仁 教授
離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

福嶋 雅夫 教授
計画工学, システム最適化の理論とアルゴリズム

太田 快人 教授
システム制御理論, 関数解析手法に基づく制御系設計解析, 通信路を介した制御

岩井 敏洋 教授
力学系の微分幾何学的研究

田中 利幸 教授
確率モデルに基づく情報処理, 情報通信理論, 情報統計力学, 機械学習

酒井 英昭 教授
適応信号処理と通信, 雑音制御への応用

高橋 豊 教授
システムのモデル化と性能解析, 情報システム, 待ち行列理論

岩間 一雄 教授
アルゴリズムと計算複雑さの理論

高木 直史 教授
ハードウェアアルゴリズム, 演算回路, 論理設計支援

湯淺 太一 教授
プログラミング言語と処理系

美濃 導彦 教授
マルチメディア情報処理, 3次元モデル中心処理, 知的映像メディア処理, 環境メディア, スマートクラスルーム, e-Learning

稲垣 耕作 准教授
基礎情報学・情報物理学・情報文明学の研究

五十嵐 淳 准教授
プログラミング言語の基礎理論

角 康之 准教授
実世界インタラクションの計測・分析・支援, 体験メディア

尾形 哲也 准教授
ヒューマンロボットインタラクション, ロボット認知学習モデル

田島 敬史 准教授
データベースシステム, 情報検索

松原 繁夫 准教授
情報経済学, 人工知能

田中 泰明 准教授
確率力学系の理論とそのリスク解析への応用, 効率化シミュレーション

青柳 富誌生 准教授
脳の情報処理のモデルの構成と解析, 非線形力学, 統計物理学

藤岡 久也 准教授
サンプリング制御, ロバスト制御, 数値最適化に基づく制御系設計解析

辻本 諭 准教授
離散可積分系の理論とその応用

山下 信雄 准教授
数値計画, 非線形最適化に対するアルゴリズムの開発とその応用

鷹羽 浄嗣 准教授
ロバスト制御, 最適制御およびフィルタリング

五十嵐 顕人 准教授
複雑ネットワークと情報通信, 情報物理学

谷村 省吾 准教授
量子論, 量子情報科学, 力学系とゲージ理論

林 和則 准教授
通信システムのための信号処理

笠原 正治 准教授
情報システム理論, ネットワークシステム, 待ち行列理論とその応用

伊藤 大雄 准教授
グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム, 離散幾何学, 組合せゲーム・パズル

八杉 昌宏 准教授
プログラミング言語, 並列処理

椋木 雅之 准教授
映像メディア処理, コンピュータビジョン

宮崎 修次 講師
複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

吉川 仁 講師
計算力学, 応用力学, 非破壊評価

趙 亮 講師
ネットワークの最適化および応用

大久保 潤 講師
確率過程, 統計物理学, 情報科学や生命科学に関連した数理的研究

工業化学科

松原 誠二郎 教授
材料化学専攻 有機反応化学, 立体化学, 有機合成化学, 有機金属化学, 有機材料化学

平尾 一之 教授
材料化学専攻 無機材料化学, 非晶質ガラス科学, 無機構造化学, セラミックス工学

三浦 清貴 准教授
材料化学専攻 無機材料化学, 無機材料光物性, レーザー反応科学, 微細構造制御

田中 勝久 教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料科学, 非線形光学, 酸化物磁性体

藤田 晃司 准教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料化学, 光機能性材料

清水 正毅 准教授
材料化学専攻 有機合成化学, 有機金属化学, 有機ケイ素化学, 有機フッ素化学, 有機材料化学

大塚 浩二 教授
材料化学専攻 材料解析化学, 分離分析化学, マイクロ/ナノ分析, μ -TAS

北川 文彦 講師
材料化学専攻 材料解析化学, 分離分析化学, マイクロ/ナノ分析, μ -TAS

瀧川 敏算 教授
材料化学専攻 高分子ダイナミクス, 高分子ゲルの物理化学, 不均質系のレオロジー

浦山 健治 准教授
材料化学専攻 高分子ゲルの物理化学, 高分子薄膜の電気力学物性, エラストマーの力学

木村 俊作 教授
材料化学専攻 機能材料, 高分子超分子化学, ペプチド工学

小山 宗孝 准教授
材料化学専攻 ナノ材料化学, 電子移動化学, 電気分析化学, 分光電気化学

西本 清一 教授
物質エネルギー化学専攻 励起状態の物理化学, 分子イメージング, ケミカルバイオロジー

垣内 隆 教授
物質エネルギー化学専攻 界面の物理化学, 溶液系の界面物性, 電気分析化学, 機能性材料化学

井上 正志 教授
物質エネルギー化学専攻 無機材料の新規合成法とその触媒機能

江口 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

大江 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 有機活性種化学, 遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

辻 康之 教授
物質エネルギー化学専攻 新規分子触媒の開発とその応用, 触媒反応機構の解明

安部 武志 教授
物質エネルギー化学専攻 新規蓄電デバイスの開発, 電極材料のインターカレーションケミストリー

陰山 洋 教授
物質エネルギー化学専攻 低温合成による酸化物の設計, 革新的な超伝導材料・磁性体などの開発

柴田 誠一 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

年光 昭夫 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

小澤 文幸 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

近藤 輝幸 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 有機金属化学を基盤とする新規分子プローブの設計・合成・機能評価

中村 正治 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 元素科学を基盤とした資源活用型有機合成反応の開発

村田 靖次郎 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 機能性 π 共役系化合物の合成ならびにフラーレン化学

田邊 一仁 准教授
物質エネルギー化学専攻 ゲノム化学・分子イメージング・機能性ナノ材料

寺尾 潤 准教授
物質エネルギー化学専攻 新規 π 共役系分子の合成とその電子デバイスへの応用

西 直哉 准教授
物質エネルギー化学専攻 イオン液体の電気分析化学・界面分光学

塚塚 友和 准教授
物質エネルギー化学専攻 炭素材料化学, 電気化学デバイス

沖 雄一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射線エアロゾルの生成機構と性質の解明

高谷 光 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 金属結合型人工ペプチドの開発と機能開拓

高宮 幸一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体を用いた分析手法の開発

若宮 淳志 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 機能性 π 電子系化合物群の開発と有機太陽電池への応用

和田 健司 講師
物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

松井 敏明 講師
物質エネルギー化学専攻 固体イオニクス, 固体電気化学, 無機固体化学

三木 康嗣 講師
物質エネルギー化学専攻 生体イメージング, 機能性 π 共役系分子合成

白川 昌宏 教授
分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

田中 一義 教授
分子工学専攻 分子ナノ工学, 量子機能材料の設計と電子物性解析

田中 庸裕 教授
分子工学専攻 固体表面に関わる反応化学, 触媒材料の構造・機能・設計

今堀 博 教授
分子工学専攻 人工光合成系の構築, 有機太陽電池の開発

横尾 俊信 教授
分子工学専攻 協力講座 機能性無機材料の創製, 有機-無機ハイブリッドガラス

渡辺 宏 教授
分子工学専攻 協力講座 高分子ダイナミクス, 不均質物質の変形, 流動とダイナミクス

梶 弘典 教授
分子工学専攻 協力講座 有機デバイスの創製と基礎科学の構築, 固体NMRによる構造-有機デバイス機能相関の解明

柄尾 豪人 准教授
分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性・細胞内機能の研究

佐藤 啓文 准教授
分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

伊藤 彰浩 准教授
分子工学専攻 量子機能材料, 分子磁性, 物理有機化学

穴戸 哲也 准教授
分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学, 選択酸化触媒, 固体触媒の構造・機能・設計

保野 善博 准教授
分子工学専攻 ヘテロ原子を含む機能性材料の設計と開発

川崎 三津夫 准教授
分子工学専攻 金属ナノ材料・デバイスの物理化学と表面化学

増淵 雄一 准教授
分子工学専攻 協力講座 高分子計算科学, 高分子ダイナミクス

荒木 崇教授

花成を調節する遺伝子の機能やフロリゲンの作用機構を解明する

今井 裕教授

細胞から個体へーリプログラミング、多能性幹細胞そして個体形成

稲村 達也教授

環境と調和した安定的で持続可能な農業のための生産技術研究

祝前 博明教授

DNA 情報を利用した新たな選抜法や交配方法を開発する

裏出 令子教授

食品タンパク質分子の小胞体における品質管理及び生理機能特性

遠藤 隆教授

ムギ（コムギ、オオムギ、ライムギ）の染色体を細切れにして研究する

奥野 哲郎教授

植物ウイルスの感染・増殖の分子メカニズムの研究

北島 宣教授

食糧やエネルギー問題を解決するための環境と調和した植物生産

久米 新一教授

地球温暖化などの環境要因と家畜生産の関係を研究する

佐久間 正幸教授

昆虫の嗅覚と資源探索システムの解明

左子 芳彦教授

海洋性超好熱菌の分子生態と極限酵素の開発

澤山 茂樹教授

遺伝子操作によるバイオ燃料等有用物質生産の研究

白岩 立彦教授

ダイズ・イネなどの収量形成の生理・生態的機構と増収技術

富永 達教授

雑草の分布拡大にかかわる生活史特性の進化、適応様式の解明

土井 元章教授

植物の生理・生態的特性に基づく収獲物の高付加価値化技術の開発

中坊 徹次教授

海産魚類の進化系統を基礎にして分類学的研究を行っている

縄田 栄治教授

環境ストレス耐性の解明、農業生態系劣悪化の評価と修復

平田 孝教授

未利用海洋生物資源の有効利用と機能解析

舟川 晋也教授

自然および農耕地生態系における物質動態の解明と利用

廣岡 博之教授

家畜生産に関する品種特性や栄養飼養情報の統合と総合的評価

藤崎 憲治教授

地球温暖化の昆虫に対するインパクトの解析

藤原 建紀教授

沿岸海洋の環境変動の解明

二井 一禎教授

森林流行病に見られる生物相互関係を微生物の視点から研究

松井 徹教授

ビタミンとミネラルの代謝と新規機能の解明

松村 康生教授

食品の品質を決定する成分や組織構造の解明。食品の品質制御

三浦 孝一教授

化学工学専攻 エネルギープロセス工学、石炭転換工学、炭素材料工学

田門 肇教授

化学工学専攻 分離工学、吸着工学、乾燥工学

大嶋 正裕教授

化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子成形加工、プロセス制御

長谷部 伸治教授

化学工学専攻 化学プロセスの最適合成・設計・操作、生産管理

前 一廣教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発、バイオマス転換工学

山本 量一教授

化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究、計算機シミュレーションを用いた物性研究

松坂 修二教授

化学工学専攻 協力講座 粉体工学、エアロゾル工学、静電気工学

河瀬 元明准教授

化学工学専攻 反応工学、材料反応工学、電気化学反応工学

佐野 紀彰准教授

化学工学専攻 分離工学、ナノ材料の合成およびその応用開発、プラズマ応用、環境浄化技術

加納 学准教授

化学工学専攻 プロセスデータ解析、プロセス・品質管理、プロセス制御、QbD/PAT

牧 泰輔准教授

化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発

谷口 貴志准教授

化学工学専攻 ソフトマターの变形流動現象の研究、ソフトマター数値計算科学

中川 浩行准教授

化学工学専攻 協力講座 環境安全学、難処理有害物の効率的処理方法の開発

新戸 浩幸講師

化学工学専攻 ソフト界面、生細胞・微粒子間の相互作用、計算機シミュレーション

長嶺 信輔講師

化学工学専攻 液相内秩序構造、界面を鏡型にしたナノ材料、微粒子合成

八尾 健教授

エネルギー基礎科学専攻 結晶化学、材料電気化学、リチウム電池・燃料電池の材料開発、生命適材材料、医用セラミックスの開発、無機材料化学

日比野 光宏准教授

エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学、固体電気化学、種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

尾形 幸生教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体電気化学、表面処理工学

作花 哲夫准教授

エネルギー理工学研究所・協力講座 界面分光化学、レーザー分光、レーザープロセス

農学部**資源生物科学科****天野 洋教授**

天敵の種類と生き方を解明し、農業に利用して作物を害虫類から守る研究

田畑 泰彦教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料、再生医学工学、ドラッグデリバリーシステム (DDS)、幹細胞工学

辻井 敬亘教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計、高分子超薄膜、高分子ブラシの合成と物性

辻 正樹准教授

高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

西田 幸次准教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造、高分子の結晶化

加藤 功一准教授

高分子化学専攻 高分子講座 生体材料、バイオエンジニアリング

大野 工司准教授

高分子化学専攻 高分子講座 高分子精密合成、高分子表面設計、高分子付与微粒子の精密設計

青木 裕之准教授

高分子物性、近接場光学、単一分子分光、生体イメージング

吉田 潤一教授

合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発、機能性物質および生物活性物質の合成

北川 進教授

合成・生物化学専攻 錯体化学、多重機能化学、ナノポーラス錯体材料

村上 正浩教授

合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

森 泰生教授

合成・生物化学専攻 細胞生理科学、遺伝子工学、分子神経生物学、タンパク質科学、生体分子機能測定

杉野目 道紀教授

合成・生物化学専攻 精密有機合成を旨とした新反応開拓、新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

浜地 格教授

合成・生物化学専攻 生命分子化学、生物有機・無機化学、細胞内有機化学、超分子バイオマテリアル

松田 建児教授

合成・生物化学専攻 物理有機化学、有機機能材料化学、有機ナノテクノロジー

跡見 晴幸教授

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生物化学・生物工学・ゲノム科学

梅田 真郷教授

合成・生物化学専攻 分子生物学、細胞生物学、温度生物学、統合生物学

世良 貴史准教授

合成・生物化学専攻 生体分子のデザイン、バイオテクノロジーの開発、生命現象の人為的操作および解明

長谷川 淳也講師

合成・生物化学専攻 量子化学理論の開発、光合成・視覚・生物発光の理論解析

三浦 智也講師

合成・生物化学専攻 有機金属化学、有機合成化学

大村 智通講師

合成・生物化学専攻 精密分子変換手法の開拓、機能性有機分子の創出

金井 保講師

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

宮原 稔教授

化学工学専攻 界面制御工学、ナノ空間工学、ナノ秩序構造形成

後藤 淳准教授

分子工学専攻・協力講座 精密高分子合成、有機非晶質デバイス

佐藤 徹准教授

分子工学専攻・協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

橋本 訓講師

分子工学専攻 光化学反応、ラジカル反応、大気化学

澤本 光男教授

高分子化学専攻 高分子精密合成、カチオン重合、ラジカル重合

中條 善樹教授

高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓、インテリジェント高分子の創成、高分子ナノハイブリッド材料

吉崎 武尚教授

高分子化学専攻 高分子溶液学、高分子ダイナミクス、高分子統計力学

田中 文彦教授

高分子化学専攻 高分子基礎物理化学、高分子理論物性学、高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

伊藤 紳三郎教授

高分子化学専攻 高分子光物理・光化学、機能性高分子、高分子構造、高分子超薄膜、有機薄膜太陽電池、生体イメージング

赤木 和夫教授

高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質、不斉液晶場での階層構造盛業、キラル転写・反転による円偏光性発現

長谷川 博一教授

高分子化学専攻 高分子集合体構造の解析と制御、ブロックコポリマー、ポリマーブレンド、ナノリソグラフィ、電子線トモグラフィ

松岡 秀樹准教授

高分子化学専攻 高分子界面化学、両親媒性高分子の自己組織化、高分子微粒子

三田 文雄准教授

高分子化学専攻 高分子合成、アミノ酸ポリマー

中村 洋准教授

高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

大北 英生准教授

高分子化学専攻 高分子系の光物理・光化学、高分子の光・電子物性、高分子太陽電池

古賀 毅准教授

高分子化学専攻 高分子基礎物理化学、高分子の構造形成とレオロジーに関する理論・シミュレーション

竹中 幹人講師

高分子化学専攻 高分子アロイの物理化学、ソフトマター、自己秩序化によるボトムアップ型ナノ材料の構築

森崎 泰弘講師

高分子化学専攻 高分子合成化学、構造有機化学、有機金属化学

長 昌史講師

高分子化学専攻 高分子溶液学、水溶性高分子の溶液物性

金谷 利治教授

高分子化学専攻 協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

山子 茂教授

高分子化学専攻 協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

岩田 博夫教授

高分子化学専攻 協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

守屋 和幸 教授

高度情報技術を活用した家畜生産システムの構築

米森 敬三 教授

果実発育生理の究明と果樹遺伝資源を利用した育種の効率化

荒井 修亮 准教授

情報技術を駆使した目に見えない水圏生物の生態解明

大崎 直太 准教授

植食性昆虫の寄主植物選択機構の解明

奥本 裕 准教授

突然変異を利用したイネの開花制御機構の解析

刑部 正博 准教授

植物に住むダニ類の生物間相互作用と環境適応の進化機構

笠井 亮秀 准教授

海洋生態系の解明

河原 太八 准教授

コムギとその近縁種の遺伝的多様性を明らかにし保全・利用する

北川 政幸 准教授

環境調和型肉用牛飼養に関する研究

熊谷 元 准教授

未利用資源の飼料化・熱帯地域における畜産技術開発

菅原 達也 准教授

機能性脂質成分の探索と作用機構の解明

田尾 龍太郎 准教授

果樹の組織細胞培養法の開発および花芽形成や受粉受精機構の解明

高野 義孝 准教授

植物と病原菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの解明

田川 正朋 准教授

卵～稚魚に起こる形や能力の変化をホルモンから研究している

田中 千尋 准教授

カビ・きのこの遺伝・生理から分類・生態まで

田中 朋之 准教授

イネやソバなどの穀物の品質に関する研究

豊原 治彦 准教授

海洋生物がもつ不思議な機能の解明とその応用

中崎 鉄也 准教授

作物の効率的な品種改良に必要な有用遺伝子の探索と機能解析

林 由佳子 准教授

味の受容機構と外因性要因による味調節メカニズムの解明

樋口 浩和 准教授

熱帯作物の生理機構の解明と熱帯農業における生態環境の評価

舟場 正幸 准教授

動物細胞の機能が調節される仕組みを探索

細川 宗孝 准教授

微生物・病原体の感染が植物に引き起こす多様な生理・生態反応の解明

丸山 伸之 准教授

食糧問題を解決する作物の開発のための基盤および応用研究

三瀬 和之 准教授

植物とウイルス間における宿主特異性の分子機構の解明

南 直治郎 准教授

胚性ゲノムの活性化に関わる母性因子とそのメカニズム

宮下 直彦 准教授

コムギ、シロイヌナズナ、野生イネなどの遺伝子領域の塩基配列を解析

山田 雅保 准教授

哺乳類生殖細胞の形成と発生を細胞の増殖と死から捉える

吉田 天士 准教授

水圏ウイルスの分子生態とその有用遺伝子の機能解析

三浦 励一 講師

在来農業にみられる雑草の生態と進化/侵略的外来種の生態

汪 光照 講師

雑草の進化、種分化にかかわる繁殖特性に関する研究

応用生命科学科

植田 和光 教授

人の健康をまもる細胞膜タンパク質のはたらきを分子レベルで研究

植田 充美 教授

生命の謎解き・真理のトレジャーを発掘

小川 順 教授

ユニークな微生物機能の探索とその産業利用

喜多 恵子 教授

制限修飾系の分子進化をゲノムとタンパク質構造から解明する

加納 健司 教授

酸化還元酵素の機能とバイオセンサ・バイオ電池への応用

河内 孝之 教授

モデル光合成生物で植物の光環境応答の原理を調べる

阪井 康能 教授

有用微生物の分子細胞生物学・生化学と応用機能開発

佐藤 文彦 教授

植物の機能を細胞レベルから再構築する

西田 律夫 教授

生物同士の“化学交信”を探索

間藤 徹 教授

植物の肥料元素、有害元素を極める

三上 文三 教授

タンパク質・酵素の結晶構造解析と構造生物学

宮川 恒 教授

植物ホルモンオーキシンの代謝分解経路の解明

三芳 秀人 教授

ミトコンドリアの機能を制御する生理活性化合物の分子設計と合成

井上 善晴 准教授

モデル生物酵母を利用した代謝ストレス応答機構の解明

遠藤 剛 准教授

光化学系IIでのエネルギーの分配と循環的電子伝達系

木岡 紀幸 准教授

動物細胞を取り巻く環境が細胞の生存、移動、がん化を制御する仕組み

黒田 浩一 准教授

地球環境は、バイオで守る

小林 優 准教授

細胞壁ペクチンの機能を解明する

白井 理 准教授

細胞膜でのイオンや電子の動きの理解とその応用

中川 好秋 准教授

昆虫だけが持つ成長の仕組みを攪乱する害虫制御剤の探索

福澤 秀哉 准教授

緑藻が二酸化炭素を有効利用する仕組みをゲノムから調べる

森 直樹 准教授

化学の目で見えた昆虫と植物、昆虫と動物の攻防

由里本 博也 准教授

微生物の代謝生理・遺伝子発現制御機構の解明と応用機能開発

地球環境工学科

川島 茂人 教授

大気と生物圏の相互作用に関する研究

河地 利彦 教授

流域水資源管理のための水環境のモデリングとコントロール

小林 慎太郎 教授

土地利用計画・地域分析および国内外の持続的・自立的な地域発展研究

近藤 直 教授

食料生産作業の自動化・ロボット化および生産物への情報付加

清水 浩 教授

環境調節による植物の成長制御およびそのモデリング

星野 敏 教授

ナレッジマネジメントを応用した農村計画手法の開発

村上 章 教授

土構造物・地盤挙動のデータ同化、逆解析

飯田 訓久 准教授

可変制御で安全に美味しく、ロボット作業で簡単に!

宇波 耕一 准教授

利水システムのコントロールと半乾燥地域における水開発

小川 雄一 准教授

テラヘルツ波を中心とした電磁波利用による生体・農産物計測

小林 晃 准教授

貯水施設・水路等の挙動予測、環境影響評価、資産管理手法の開発

中嶋 洋 准教授

土と機械(車両)のテラメカニクス、計算力学、農業物理モデリング

中村 公人 講師

流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御と管理

橋本 禪 講師

多主体の参加と協調にもとづく農村の計画・管理システムの開発

前田 滋哉 講師

河川・湖沼・用水システムのモデリングと水量・水質の管理最適化

食料・環境経済学科

小田 滋晃 教授

地域農業の活性化に資する農商工連携のあり方と農業経営の役割

加賀爪 優 教授

食料農産物の貿易自由化が経済発展と環境資源に及ぼす影響の分析

栗山 浩一 教授

森林や自然環境の価値評価と環境政策に関する研究

末原 達郎 教授

地球規模における食料・農業・地域社会の存続に関する比較農学的研究

武部 隆 教授

農業・農村における社会的課題の解決に向け経済学的立場から究明する

新山 陽子 教授

食品安全と市民のリスク認知、農業再生と食品価格判断メカニズムの研究

野田 公夫 教授

人・自然関係および農業・農村の日本の・アジアの個性に関する研究

福井 清一 教授

発展途上国の社会経済発展を推進するための政策に関する研究

秋津 元輝 准教授

日本における農村村社会の存続および農業をめぐめる倫理的研究

浅見 淳之 准教授

途上国農村を支える伝統的・近代的な経済システムに関する研究

仙田 徹志 准教授

食料・農業における統計情報の体系的保存と高度利用に関する研究

足立 芳宏 准教授

20世紀世界農業の成立に関する比較史的研究

香川 文庸 准教授

農業会計の計算構造・評価方式と情報開示のあり方に関する研究

川村 誠 准教授

森林資源・環境・木材貿易・林業イノベーションの調査・政策研究

沈 金虎 准教授

農業政策、農産物貿易の国際比較と中国の3農問題を研究

辻村 英之 准教授

アフリカを事例としたフードシステム、農業経済経営、農村発展の研究

森林科学科

東 順一 教授

資源循環型社会をめざしたバイオマスの有効利用と森林の生化学

井鷲 裕司 教授

繁殖プロセス、系統、遺伝特性等の情報に基づく森林生物の保全

大澤 晃 教授

成長に伴う森林のつくりの変化にどんな規則があるか調べています

太田 誠一 教授

熱帯大規模産業植林の持続的 management と温暖化防止機能の最大化方策

奥村 正悟 教授

木材を削る。乾かす。調べるための科学と技術

北山 兼弘 教授

森林生態系を生物地球化学と生物多様性科学から解き明かす

木村 恒久 教授

強い磁場を用いてバイオマスを解析する、バイオマスから新しい材料を作る

坂 志朗 教授

超臨界流体によるバイオ燃料・バイオケミカルの先駆的研究

酒井 徹朗 教授

自然と人間が共生する循環型社会を支える情報技術について

高野 俊幸 教授

木材成分の化学分析、化学合成&機能性化

谷 誠 教授

川の流れや気候を安定させるために森林をどのように扱うかを探る

中野 隆人 教授

木材の基礎的物理解析の解明と理論解析

西尾 嘉之 教授

生物由来素材を対象とした環境調和型・先進機能マテリアルの創製

水山 高久 教授

崩壊、土石流、流砂、鉄砲水、河床変動などの機構と災害対策の研究

森本 幸裕 教授

ランドスケープエコロジーを手掛かりに生物親和都市をデザイン

岡田 直紀 准教授

光、水、養分をめぐる樹木の競争を人間社会と比べながら考えています

河本 晴雄 准教授

分子レベルでの木質バイオマス熱分解機構解明

神崎 護 准教授

熱帯季節林や熱帯山地林の生物多様性ならびにその攪乱に対する応答

小杉 賢一朗 准教授

森林の土が雨水を蓄える仕組みの解明、豪雨による山崩れの予測

小山 里奈 准教授

植物が森林生態系を維持していくために果たしている役割について

高部 圭司 准教授

樹木の細胞壁形成とその微細構造

深町 加津枝 准教授

地域固有の景観の保全および活用を目指した環境デザイン

藤井 義久 准教授

伝統工芸木材の劣化診断と保存技術の開発、伝まいと木材

松下 幸司 准教授

森林計画に関する制度、統計、調査法、法規等に関する研究

大澤 直哉 講師

生物種間の相互関係を通じ、森林の構造や機能を明らかにする研究

坂本 正弘 講師

タケ・ササ類を中心とした単子葉植物の資源植物への転換

高柳 敦 講師

野生動物による被害発生機構の解明と共存のための総合的システムの構築

仲村 匡司 講師

木材の生理・感性的特性とその定量的評価

吉岡 まり子 講師

植物バイオマスを高効率的に活用したナノ複合材料の調製と機能発現

食品生物科学科

安達 修二 教授

食品製造および保存過程で起こる諸反応の速度解析と工学的応用

井上 國世 教授

酵素の構造と機能を解析し、応用面での新規機能を酵素に与える

入江 一浩 教授

がん、アルツハイマー病に係る蛋白質の構造機能解析と薬剤開発

河田 照雄 教授

肥満・生活習慣病と“食品の機能”についての基礎・応用研究

北島 直文 教授

食品タンパク質の機能特性解析、特異な生理機能を有する食品タンパク質

永尾 雅哉 教授

亜鉛の体内変動と、健康に良い天然物研究

伏木 亨 教授

おいしさの科学。特に油脂とダシのおいしさのメカニズム解明

村田 幸作 教授

微生物の生態・構造・機能・進化の解析

芦田 久 准教授

糖鎖を介した微生物とヒトとの関わりについて研究

井上 和生 准教授

運動による疲労や代謝変化について、脳や神経の働きを探る

大日向 耕作 准教授

食欲調節、ストレス緩和、学習促進作用を示す機能性食品の創生

神戸 大朋 准教授

亜鉛など必須微量元素の生理機能の解明

谷 史人 准教授

粘膜防御系の機能形成に及ぼす腸環境内の役割

橋本 渉 准教授

細胞表層多糖の構造と細菌感染症の解析

増田 誠司 准教授

RNAの代謝を制御する因子と細胞増殖の関わり

保川 清 准教授

RNAからDNAを合成する酵素（逆転写酵素）を改良する



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



高橋 誠司 教授



Voices

京大生に聞いてみよう！

Q. 京都大学の魅力って？

知識と言えば、やっぱり図書館！
知らないうちに雑学王！？
もしくはクイズ王に！！



文学部
北野サン



文学部と起えん
知識や雑学が
めっちゃ増える
文学部1回 北野彰子

工学部
三木クン



時計台は
夜のライトアップ
がきれい!!
工学部3回 三木



フムフム。
やっぱり男の子も
ロマンチックなのね☆
京都夜の隠れた名所です！

京大の学食は普段のごはんも
もちろん、スイーツも豊富！
女子の心も掴んでおります。



薬学部
篠塚サン



京大の学食は♡
パフェが豊富♡
薬学部1回 篠塚春香

法学部
大瀬戸サン



法曹界に行くなら
著名な教授のぞった
京大法学部
法学部3年 大瀬戸光子



ここが、法学部校舎。
京大には有名な教授って
いっぱいいるよね～。
これってスゴイこと！

※このアンケートは2009年の秋に
行われたものです。

将来、京都大学の構内にこんな感じで同級生の銅像が建っちゃうかも！？
ちなみにこちらの銅像は湯川秀樹博士。



教育学部
増井クン



2010年4月時点で京都大学からは、関係者含めて7名の方が受賞されています。目指せ！ノーベル賞！

農学部
加藤サン



京大の不夜城とは自習室のこと。灯りが付いたら誰かが勉強に励んでるんです！

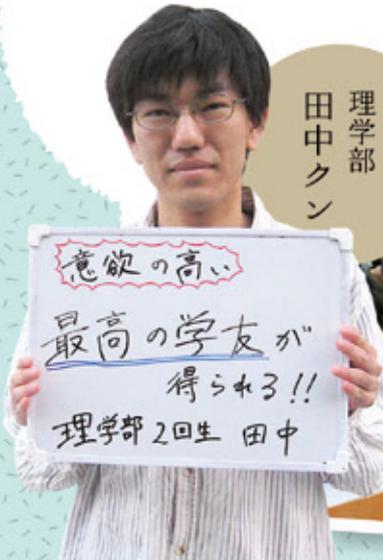


経済学部
出崎サン



苦楽を共にする4年間を一緒に過ごす仲間が、一生の友人になることってすごく多いんです。

理学部
田中クン



入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法

入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月中旬から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封し、学生部入試企画課あてに「選抜要項請求」と朱書して郵送により申し込んでください。

送付先住所：〒606-8501 京都市左京区吉田本町

学生募集要項等の請求方法

本学の学生募集要項等の請求方法には、以下の4つの方法があります。

①大学のホームページから請求する方法

京都大学ホームページ (<http://www.kyoto-u.ac.jp/>) よりテレメールを利用して募集要項等の資料が請求できます。

トップ>刊行物・資料請求>「学生募集要項(願書)・入手方法」よりテレメールの資料請求画面へアクセスできます。

総合人間学部案内、工学部案内、農学部案内につきましては、各学部のホームページにて、電子媒体での公開を行っています。

②インターネット(パソコン・携帯電話)または、自動音声応答電話で請求する方法

下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスし、請求する資料請求番号を入力またはプッシュしてください。

インターネットの場合		自動音声応答電話の場合	
携帯電話・パソコンとも共通アドレス	http://telemail.jp	IP 電話 [一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約11円です。]	050-8601-0101 (24時間受付)
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。			

資料名	資料請求番号	送料	
学生募集要項	584620	210円	送料は、お届けする資料に同封されている支払方法に従い表示料金をお支払いください。 (支払いに際して手数料が別途必要になります。)
学生募集要項 + 大学案内	544610	290円	
大学案内	564600	290円	
総合人間学部案内	564620	140円	
工学部案内	544620	210円	
農学部案内	564730	210円	

③郵便局から請求する方法(10月より案内開始:12月上旬から送付)

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「国公私立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項(願書)請求申込書」(郵便局用願書請求カタログ)に必要な事項を記入し、送料と払込手数料120円を添えて申し込んでください。

①②③の請求方法についての問い合わせ先: テレメールカスタマーセンター 050-8601-0102 (9:30~18:00)

④大学の窓口等でも配布します

学生部入試企画課 9:00~17:00(月~金曜日[祝休日・年末年始を除く])

京都大学インフォメーションセンター(本部構内正面横) 土・日・祝休日を含む24時間

東京オフィス(品川インターシティA棟27階) 10:00~20:00(月~土曜日[祝休日・年末年始を除く])



京都大学オープンキャンパス



本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知っていただくための広報活動として、平成14（2002）年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成21（2009）年度には約10,200名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

【問い合わせ先】 学生部入試企画課 Tel.075-753-2524



多様な入学制度 / お問い合わせ先一覧

京都大学では、一般入試のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部人間健康科学科、工学部（高等専門学校卒業（見込）者対象）で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、理学部、工学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

参考：平成22年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	10名以内	29	19	10	6	6
経済学部	10名以内	28	15	11	7	7

参考：平成22年度3年次編入学試験の実施結果

学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	18	18	6	5
法学部	10名	102	75	8	8
経済学部	20名以内	142	124	12	12
医学部 人間健康科学科	17名	15	14	0	0
工学部	20名程度	38	36	15	14

学部	担当掛	電話番号	所在地	URL	
総合人間学部	教務掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp/	
文学部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/	
教育学部	教務掛	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/	
法学部	教務掛	075-753-3107		http://kyodai.jp/	
経済学部	教務掛	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/	
理学部	第二教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/	
医学部	医学科	教務・学生支援室 (学部教務担当)	075-753-4325	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
	人間健康科学科	教務・学生支援室 (人間健康科学科教務担当)	075-751-3906	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
薬学部	教務掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46-29	http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/	
工学部	教務掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.t.kyoto-u.ac.jp/	
農学部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/	

入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担当部課	電話番号	所在地	URL
学生部入試企画課	075-753-2521~2524	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kyoto-u.ac.jp/

【資料】入学者選抜実施状況について

平成22年度 入学者選抜実施状況（単位：人）

学部	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	65	340	266	265	67			123
	前期理系	55	239	220	218	56			
文学部	前期	220	738	738	722	227			227
教育学部	前期文系	50	191	191	187	52			62
	前期理系	10	41	41	40	10			
法学部	前期	320	876	876	857	330			330
経済学部	前期一般	180	575	575	567	190			241
	前期論文	25	117	88	87	25			
	前期理系	25	110	110	105	26			
理学部	前期	311	892	871	867	319	3		316
医学部	前期	250	605	584	572	264	5		259
薬学部	前期	80	213	213	209	83			83
工学部	前期	955	2507	2506	2475	975	1		974
農学部	前期	300	876	876	871	316			316
合計		2846	8320	8155	8042	2,940	9		2931

医学部学科・専攻別／薬学部学科別内訳（単位：人）

学部 (学科・専攻)	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学部	前期	250	605	584	572	264	5		259
医学科	前期	107	303	282	279	109			109
人間健康科学科	前期	143	302	302	293	155	5		150
看護学専攻	前期	70	143	143	139	75	4		71
検査技術科学専攻	前期	37	81	81	78	39			39
理学療法学専攻	前期	18	37	37	35	20	1		19
作業療法学専攻	前期	18	41	41	41	21			21
薬学部	前期	80	213	213	209	83			83
薬科学科	前期	50	124	124	121	53			53
薬学科	前期	30	89	89	88	30			30

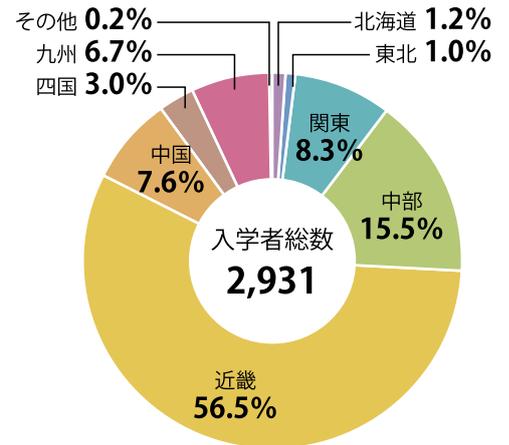
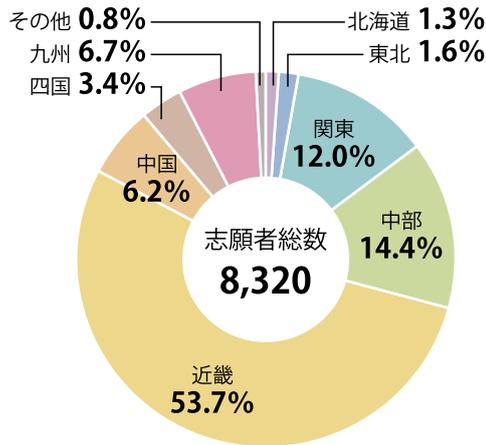
工学部・農学部学科別内訳（単位：人）

学部 (学科)	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
工学部	前期	955	2507	2506	2475	975	1		974
地球工学科	前期	185	485	485	480	190			190
建築学科	前期	80	229	228	226	82			82
物理工学科	前期	235	572	572	561	238			238
電気電子工学科	前期	130	381	381	376	133	1		132
情報学科	前期	90	221	221	219	92			92
工業化学科	前期	235	619	619	613	240			240
農学部	前期	300	876	876	871	316			316
資源生物科学科	前期	94				97			97
応用生命科学科	前期	47				49			49
地域環境工学科	前期	37				40			40
食料・環境経済学科	前期	32				34			34
森林科学科	前期	57				60			60
食品生物科学科	前期	33				36			36

[資料] 平成22年度出身高校等所在地別志願者・入学者数（単位：人）

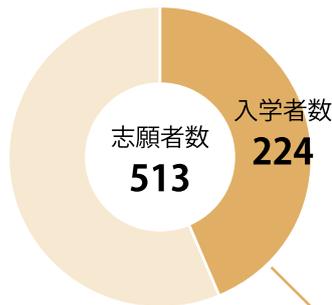
全体

	志願者	入学者
北海道	110	34
東北地区	131	30
関東地区	997	243
中部地区	1,196	453
近畿地区	4,469	1,657
中国地区	513	224
四国地区	279	88
九州地区	559	196
その他	66	6
計	8,320	2,931



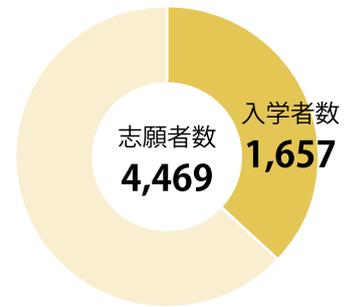
中国地区

	志願者	入学者
鳥取	36	16
島根	40	21
岡山	125	50
広島	243	109
山口	69	28
計	513	224



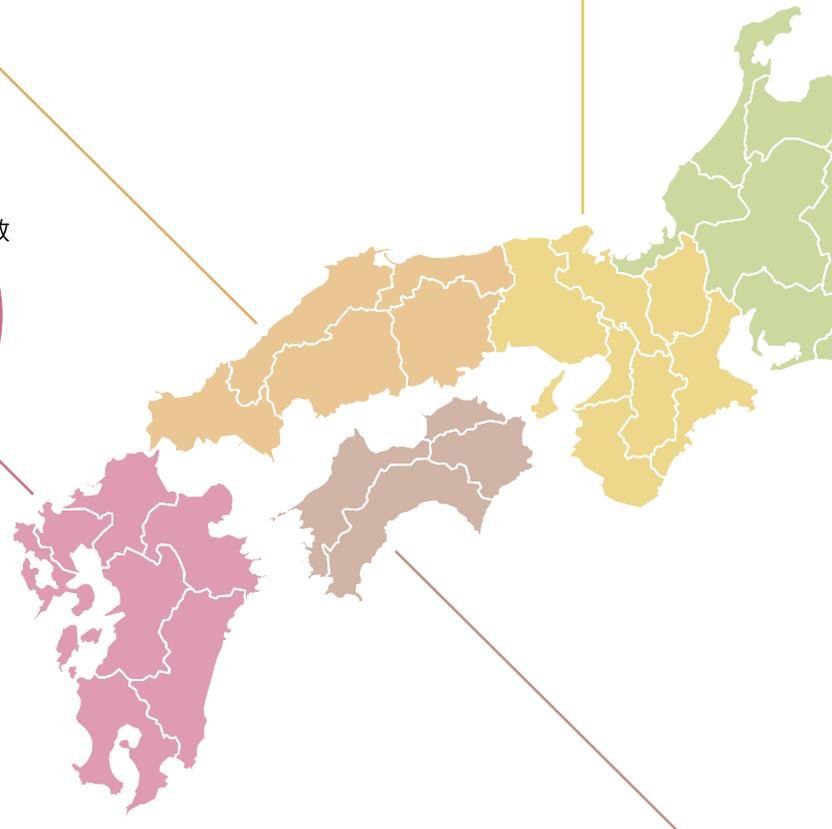
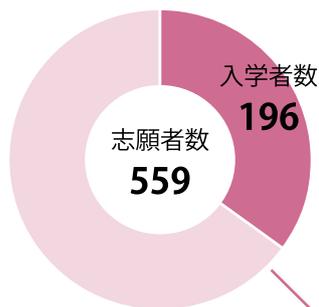
近畿地区

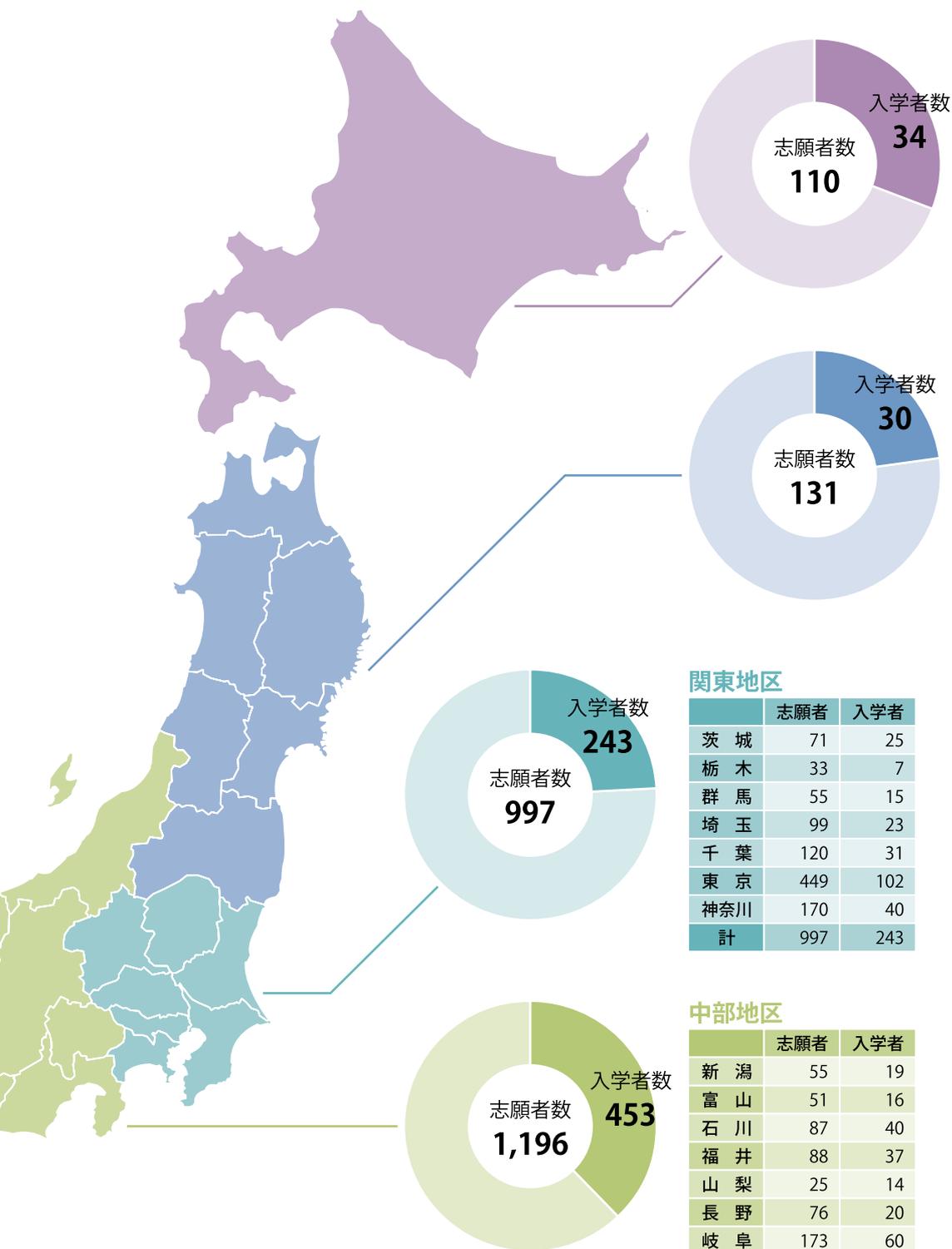
	志願者	入学者
三重	152	65
滋賀	201	67
京都	887	302
大阪	1,554	517
兵庫	897	385
奈良	626	262
和歌山	152	59
計	4,469	1,657



九州地区

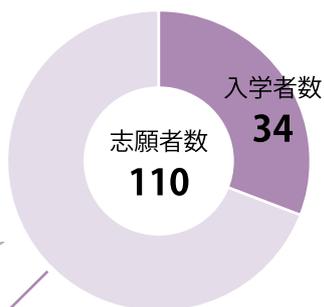
	志願者	入学者
福岡	272	103
佐賀	37	13
長崎	37	16
熊本	58	19
大分	34	10
宮崎	21	9
鹿児島	72	17
沖縄	28	9
計	559	196





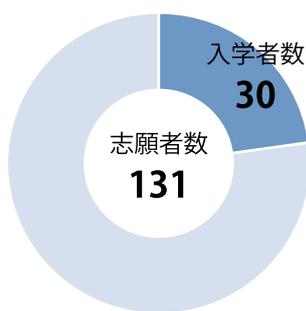
北海道

	志願者	入学者
北海道	110	34



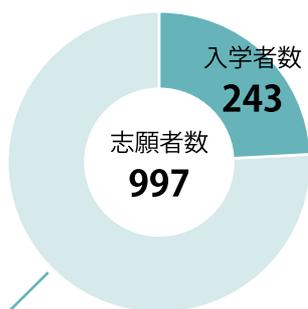
東北地区

	志願者	入学者
青森	17	3
岩手	16	3
宮城	54	12
秋田	7	4
山形	11	3
福島	26	5
計	131	30



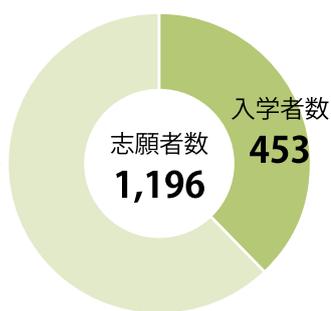
関東地区

	志願者	入学者
茨城	71	25
栃木	33	7
群馬	55	15
埼玉	99	23
千葉	120	31
東京	449	102
神奈川	170	40
計	997	243



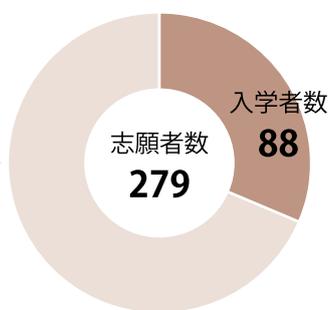
中部地区

	志願者	入学者
新潟	55	19
富山	51	16
石川	87	40
福井	88	37
山梨	25	14
長野	76	20
岐阜	173	60
静岡	143	53
愛知	498	194
計	1,196	453



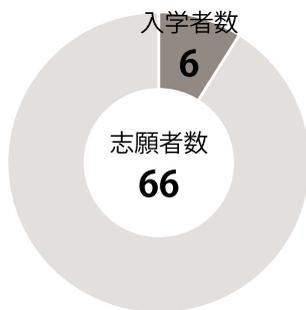
四国地区

	志願者	入学者
徳島	46	16
香川	95	26
愛媛	94	31
高知	44	15
計	279	88



その他 (高校卒業程度認定等)

	志願者	入学者
その他	66	6



[資料] 平成 22 年度合格者 最高点・最低点 (総点)

学部	日程		満点	総点			
				最高点	最低点	平均点	
総合人間学部	前期	(文系)	750	572.00	475.00	497.04	
		(理系)	800	556.75	401.00	449.42	
文学部	前期		750	584.53	488.45	515.86	
教育学部	前期	(文系)	900	682.01	583.06	612.13	
		(理系)	900	658.78	591.66	608.23	
法学部	前期		750	606.85	492.40	523.50	
経済学部	前期	(一般)	800	621.30	526.40	555.24	
		(論文)	600	391.66	334.66	354.82	
		(理系)	950	714.00	584.60	640.22	
理学部	前期	注 1	650	535.00	361.00	403.51	
		(数理 30 位) 注 2	(400)	(358.00)	(296.00)	—	
医学部	学部合計		前期	—	—	—	
	医学科		前期	1,300	1,080.98	900.86	964.01
	人間健康科学科	看護学専攻	前期	1,200	867.86	648.16	711.02
		検査技術科学専攻		1,200	891.06	723.03	776.81
		理学療法学専攻		1,200	867.76	751.43	795.75
作業療法学専攻		1,200		870.33	687.60	731.95	
薬学部	学部合計		前期	950	737.85	560.11	619.92
	薬科学科		前期	950	737.85	574.28	626.80
	薬学科			950	686.90	560.11	607.76
工学部	学部合計		前期	—	—	—	
	地球工学科		前期	1,000	723.08	523.40	581.50
	建築学科		前期	1,000	775.90	551.80	604.57
	物理工学科	前期	(配点 A)	1,000	704.11	559.70	610.41
			(配点 B)	1,000	825.33	698.66	729.30
	電気電子工学科		前期	1,000	814.00	547.53	603.44
	情報学科		前期	1,000	728.55	526.40	594.74
工業化学科		前期	1,000	743.08	540.58	595.32	
農学部	前期		1,050	837.58	620.23	673.36	

注 1：最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点です。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点です。

平均点は合格者の総点の平均点です。

注 2：合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる 30 位までの者の「数学」と「理科」の得点合計です。

(備考) 1. 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

2. 総点については、前期合格発表時のものです。

京都大学のすがた

[京都大学小史]

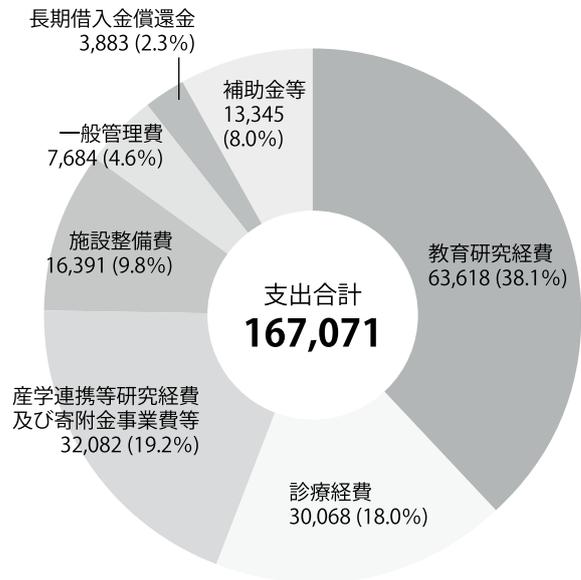
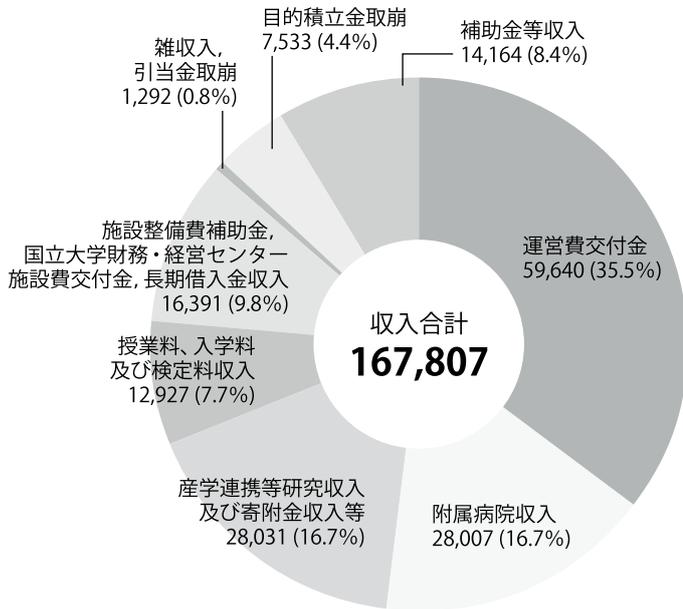
明治 明治 30 年 (1897) に京都帝国大学として設置される。理工学 (1897), 法科大学, 医科大学 (1899), 文科大学 (1906) が設置される。

大正 大正 8 年 (1919) に, 分科大学を学部と改称する。経済学部 (1919), 農学部 (1923) が設置される。

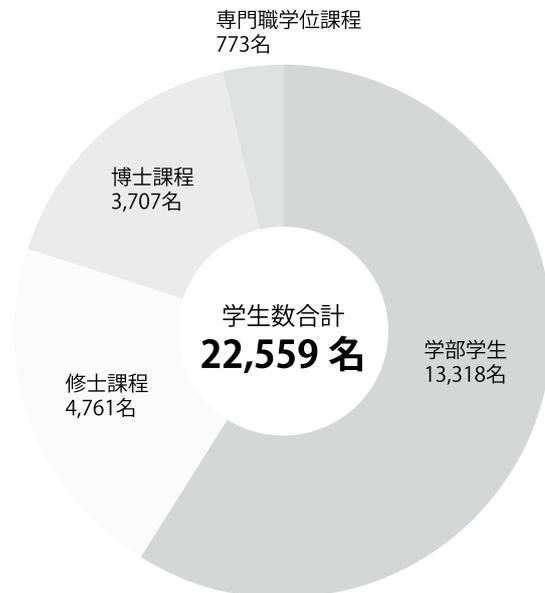
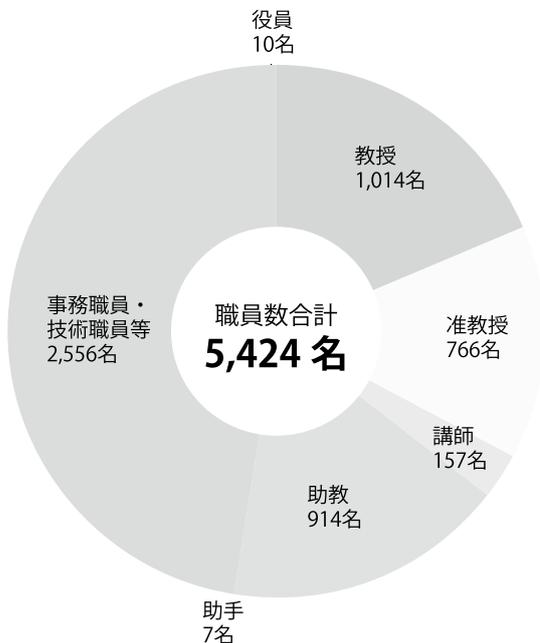
昭和 昭和 22 年 (1947) 京都帝国大学を京都大学と改称する。昭和 24 年 (1949), 新制大学として発足する。教育学部 (1949), 教養部 (1954), 薬学部 (1960), 総合人間学部 (1992) が設置される。独立研究科。大学院重点化。

平成 平成 16 年 (2004) 国立大学法人京都大学によって京都大学が設置される。

[京都大学の財務状況] 平成 21 年度 (単位: 百万円)



[京都大学の職員数・学生数] 平成 22 年 5 月 1 日現在



キャンパスマップ・交通案内

吉田キャンパス



吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通 期間等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの 所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約35分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約25分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約25分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203系統	「今出川通 銀閣寺道・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201系統	「百万遍・みづ」行	約15分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206系統	「高野 北大路バスターミナル」行	約20分	
			201系統	「河原町通 銀閣寺道・錦林車庫」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
出町柳駅 (京阪)	市バス	出町柳駅前	31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			201系統	「祇園・みづ」行	約10分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
	徒歩	(東へ)			約20分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約15分, 総人・理・農は徒歩約20分
神宮丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約10分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約10分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

宇治キャンパス



宇治地区研究所本館

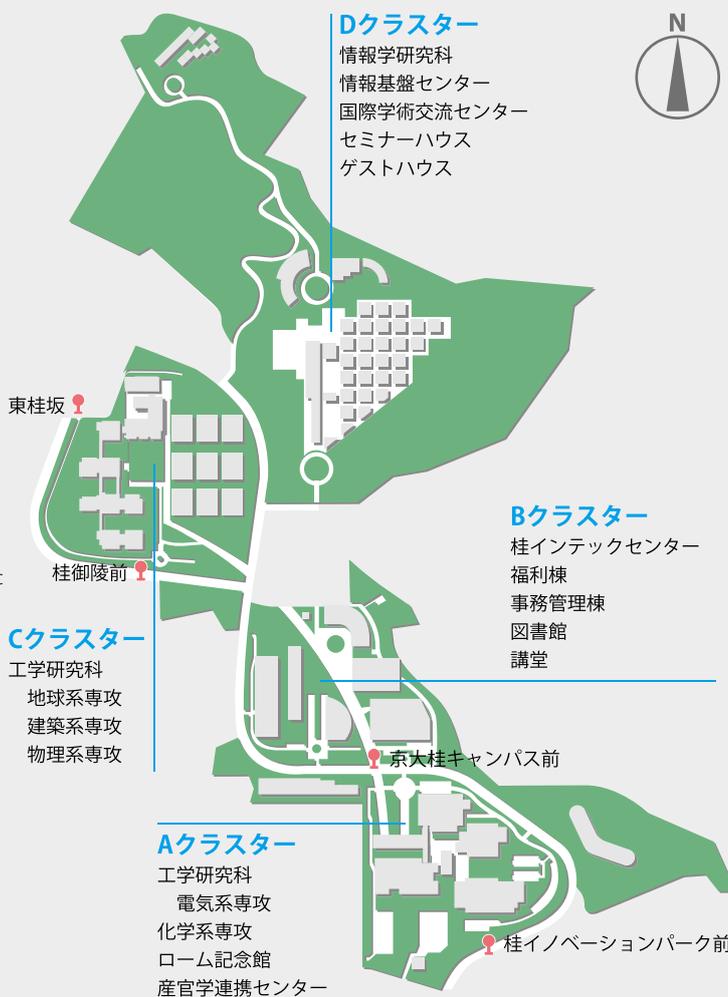
- 化学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所

宇治キャンパスへの交通

主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅 (JR / 近鉄)	当駅下車西へ徒歩約 10 分

桂キャンパス

*一部計画中の施設を含む



Dクラスター

- 情報学研究科
- 情報基盤センター
- 国際学術交流センター
- セミナーハウス
- ゲストハウス

Bクラスター

- 桂インテックセンター
- 福利棟
- 事務管理棟
- 図書館
- 講堂

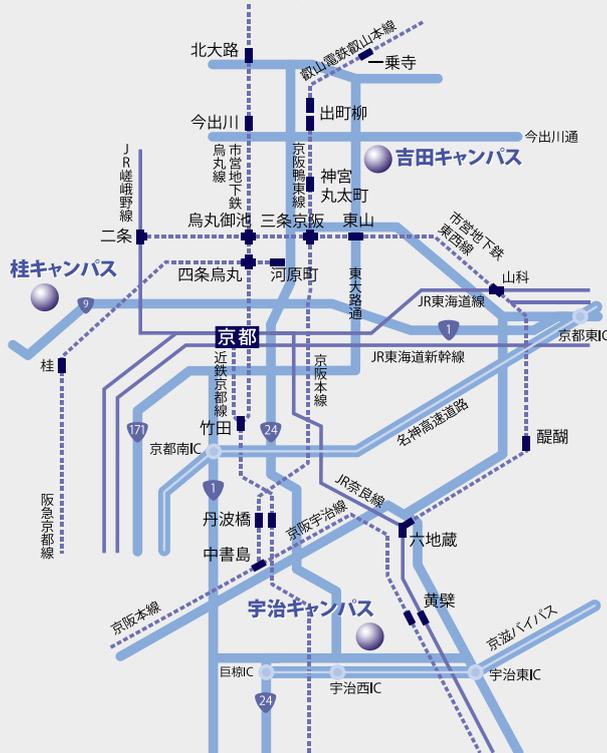
Cクラスター

- 工学研究科
- 地球系専攻
- 建築系専攻
- 物理系専攻

Aクラスター

- 工学研究科
- 電気系専攻
- 化学系専攻
- ローム記念館
- 産官学連携センター

京都大学キャンパス配置図



桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス西 6 系統 京阪京都交通	「桂坂中央」行 「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 20 分)
向日町駅 (JR)	JR 向日町	京阪京都交通	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 20 分)

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

京都大学ホームページ

<http://www.kyoto-u.ac.jp>

京都大学携帯電話サイト

<http://daigakuic.jp/kyoto-u/>



発行 平成 22 年 7 月

京都大学 学生部入試企画課

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL. 075-753-2521~2524